

林中原 I 遺跡 IX

長野原町埋蔵文化財調査報告  
第48集

# 林中原 I 遺跡 IX

—水源地域整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第10集—

一〇二二年

2022

群馬県吾妻郡長野原町教育委員会

群馬県吾妻郡長野原町教育委員会

はやし なか はら いち  
**林中原 I 遺跡 IX**

－水源地域整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第10集－

2022

群馬県吾妻郡長野原町教育委員会



## 序 文

長野原町内には、縄文時代中期後半の拠点集落である長野原一本松遺跡・横壁中村遺跡や天明3年の浅間山の大爆発により発生した泥流被災状況を伝える東宮遺跡・小林家屋敷跡に代表されるように、多数の貴重な遺跡の存在が知られています。

教育委員会では、文化財保護事業の一環として、町の貴重な文化遺産である遺跡を保護するとともに、失われていく遺跡の記録保存に努めています。

今回報告する林中原I遺跡の第9次調査は、園芸施設整備事業に伴う調査であります。調査面積は狭小な調査でしたが、縄文時代後期前半の住居跡と配石遺構群が発見され、遺構内からは長野県との交流を示す貴重な資料を得ることができました。本書が町民の皆様をはじめより多くの方々に活用され、郷土長野原の歩んできた道のりを知る一助となれば幸いです。

最後に、調査にあたって各方面から多大なるご指導・ご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

令和4年3月

長野原町教育委員会

教育長 小林 敦子

## 例　　言

1. 本書は、群馬県吾妻郡長野原町大字林に所在する林中原1遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は林地区園芸施設整備事業に伴う事前調査として、長野原町の委託を受けた長野原町教育委員会が実施した。
3. 発掘調査から調査報告書作成に至るまでの調査事業費は、水源地域対策特別措置法第12条による負担金並びに道路橋梁費補助金が充てられた。
4. 調査は発掘調査を平成18年9月19日から平成18年10月25日迄、整理調査及び報告書作成を平成22年3月23日から令和4年3月29日迄の期間実施した。
5. 本遺跡の出土遺物ならびに図面・写真は全て長野原町教育委員会が保管している。
6. 本書は富田孝彦が編集・執筆した。各作業分担は以下の通りである。

　　編集・執筆：富田・向出　　遺構・遺物写真撮影：富田・坂井　　遺物実測・トレース：柿本・坂井  
　　図版および写真図版作成：富田・向出

7. 本書中の遺跡名は調査が数次にわたっている場合はそれぞれを識別するために遺跡名の最後にローマ数字を表記してある。同一遺跡内の別地点と解釈していただきたい。

　　例　林中原1遺跡 IX　（遺跡名）（第9次）

8. 調査において以下の項目の一部を委託した。  
　　表土掘削・埋め戻し：東光建設株式会社  
　　測量・空中写真撮影：（株）測研
9. 本書における縄文土器は鈴木徳雄氏（本庄市教育委員会）に御教示いただいた。
10. 発掘調査、整理調査及び報告書作成にあたり、次の方々、団体から御指導・御協力を賜った。

（五十音順・敬称略）

　　相京史・麻生敏隆・飯島静男・飯田陽一・飯森康広・石田　真・井上慎也・小野和之・小川卓也・  
　　神谷佳明・川田　強・黒澤照弘・齋藤利昭・桜岡正信・佐々木由香・篠原正洋・神道正広・鈴木徳雄・  
　　関　俊明・中沢　悟・藤巻幸男・松田　哲・向出博之・山口逸弘・吉田智哉

　　群馬県教育委員会・（公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団・（株）測研・（株）歴史の杜

11. 調査組織は次の通りである。

　　調査主体　長野原町教育委員会

　　平成18年9月～平成26年3月

　　調査組織　教育長　　黒岩　文夫

　　教育課長　　中島　　寛（～平成19年3月）・樋口　　正（平成19年4月～平成21年3月）

　　　　　　　　山口　伸行（平成21年4月～平成22年3月）・市村　　敏（平成22年4月～）

　　参　事　　山口　伸行（～平成19年3月）

　　社会教育 GL　樋口　正（～平成19年3月）・白石　光男（平成19年4月～）

　　　　　　　　〃　副 GL　白石　光男（～平成19年3月）・中村　剛（平成19年4月～平成22年3月）

　　　　　　　　富田　孝彦（平成22年4月～）

　　主　任　　富田　孝彦（～平成22年3月）

　　調査参加者　柿本　六美・佐々木　忍・佐藤久美子・坂井　春栄・向出　治恵

　　平成26年4月～5月

　　調査組織　教育長　　黒岩　文夫（～平成26年4月29日）

　　教育課長　　市村　敏（平成26年4月30日～平成26年5月31日　教育長職務代行者兼務）

　　教育課補佐　白石　光男（平成26年4月1日から組織改編で教育課補佐）

文化財係長 富田 孝彦（平成26年4月1日から組織改編で文化財係長）

調査参加者 植本 六美・坂井 春栄・向出 治恵

平成26年6月～平成27年3月

調査組織 教育課長 矢野今朝治（平成26年6月1日～平成27年3月31日 教育長職務代行者兼務）

教育課補佐 白石 光男

文化財係長 富田 孝彦

調査参加者 植本 六美・坂井 春栄・向出 治恵

平成27年4月～

調査組織 教育長 市村 隆宏（～令和3年3月31日）

小林 敦子（令和3年4月1日～）

教育課長 矢野今朝治（～平成30年3月31日）

佐藤 忍（平成30年4月1日～）

教育課補佐 富田 孝彦（文化財係長兼務 平成30年4月1日～ 文化財保護対策室長）

文化財係 市川 勇氣（社会教育係兼務 ～平成30年12月31日）

細川 剛史（地域おこし協力隊 平成29年4月1日～令和元年6月30日）

高田 靖之（子ども子育て支援係兼務 令和2年4月1日～令和3年3月31日）

古澤 勝幸（文化財専門員 令和2年4月1日～令和3年3月31日）

（やんば天明泥流ミュージアム館長 令和3年4月1日～）

田中 秀行（学校給食係兼務 令和2年4月1日～）

高橋 人夢（令和2年4月1日～）

調査参加者 植本 六美（～令和3年3月31日）

坂井 春栄・向出 治恵・藤野 麻子（令和元年8月1日～）

## 凡　例

1. 本書で使用した地形図は1:2500「長野原都市計画図」(長野原町1994、2007更新)、1:25000「長野原」(国土地理院 1997)である。
2. 本書で使用する測量図の座標は、全て世界測地系（日本測地系2000平面直角座標IX系）を用いている。また挿図中に使用した方位は座標北を表している。
3. 挿図の縮尺については下記の通りであり、各挿図中に示してある。

遺構：住居跡	………1/60	炉跡・土坑・配石遺構	………1/30	
遺物：	復元土器	………1/4	土器片・陶磁器片・礫石器類・打製石斧類・磨製石斧類	………1/3
	土製品・剥片石器類（削器・石匙）	………1/2	剥片石器類（石鑿・石錐）	………1/1
4. 遺構の略号については以下の通りである。SI：住居跡 SK：土坑 SS：配石遺構 p：柱穴・ピット
5. 挿図に図示した遺物は、観察表にその内容を記してある。観察表における復元土器の法量は左側から器高、中央が口径、右側が底径を表し、計測数値は推定値を含む。（　）内の数値は現存値、<　>内の数値は復元値を表す。
6. 土器の色調に関しては、「新版標準土色帖1995年後期版」(編・著小山正忠・竹原秀雄、監修農林水産省農林水産技術会議事務局、色票監修財団法人日本色彩研究所)の色名を参考にした。観察表において外面／内面の順で記した。
7. 挿図中のスクリーントーン・記号は以下の通りである。

遺構・土層図



遺物



\*土器における欠損部に関しては点描で表現している。

断面塗りつぶしは陶磁器を示している。

# 目 次

## 序 文

## 例 言

## 凡 例

## 目 次

第1章 調査概要 .....	1
第1節 調査に至る経緯 .....	1
第2節 試掘確認調査・立会調査 .....	1
第3節 調査の方法と経過 .....	12
第2章 遺跡の立地と環境 .....	15
第1節 遺跡の位置 .....	15
第2節 周辺の遺跡 .....	15
第3節 既往の調査 .....	27
第4節 基本層序 .....	29
第3章 検出された遺構と遺物 .....	35
第1節 概要 .....	35
第2節 穴式住居跡 .....	35
第3節 土坑 .....	45
第4節 配石遺構 .....	51
第5節 遺構外出土遺物 .....	86

## 写真図版

## 報告書抄録

# 挿 図 目 次

第1図 林地区園芸施設調査地点 位置図 (1/3,000) .....	2	第6図 東原Ⅲ道路Ⅱトレンチ配置図 (1/200) · 土刷図 (1/20) .....	4
第2図 長野原地区園芸施設調査地点 位置図 (1/2,500) .....	3	第7図 上原Ⅰ道路トレンチ配置図 (1/200) · 土刷図 (1/20) .....	5
第3図 林中原Ⅰ道路区上刷図 (1/20) .....	3	第8図 林中原Ⅱ道路Ⅲトレンチ配置図 (1/200) · 土刷図 (1/10) .....	6
第4図 林中原Ⅰ道路Ⅸトレンチ配置図 (1/250) .....	4		
第5図 林字宮原トレンチ配置図 (1/200) ·			7

第 9 図 林字中原トレンチ配図 (1/200) ·	
土層図 (1/20) ······	8
第 10 図 林中原 I 道跡Xトレンチ配図 (1/200) ·	
土層図 (1/20) ······	8
第 11 図 林中原 I 道跡X出土遺物実測図 (1/4・1/3) ······	9
第 12 図 林宮原遺跡トレンチ配図 (1/400) ·	
土層図 (1/20) ······	9
第 13 図 幸神遺跡 I 区トレンチ配図 (1/150) ······	10
第 14 図 幸神遺跡 I 区土層図 (1/20) ······	11
第 15 図 幸神遺跡 2 区トレンチ配図 (1/150) ·	
土層図 (1/20) ······	11
第 16 図 幸神遺跡出土遺物実測図 (1/4・1/3) ······	12
第 17 図 道跡周辺の岸段丘分布図 (1/25,000) ······	16
第 18 図 道跡の位置と周辺の道路 (1/25,000) ······	17
第 19 図 林中原 I 道跡既往調査地点位置図 (1/2,500) ······	25
第 20 図 基本土層図 (1/20) ······	29
第 21 図 林中原 I 道跡区全体図 (1/160) ······	34
第 22 図 SI01 実測図 (1/60) ······	36
第 23 図 SI01 仰跡実測図 (1/30) ······	36
第 24 図 SI01 遺物出土状況図 (1/60) ······	37
第 25 図 SI01 出土遺物実測図 1 (1/4) ······	37
第 26 図 SI01 出土遺物実測図 2 (1/4) ······	38
第 27 図 SI01 出土遺物実測図 3 (1/4・1/3) ······	39
第 28 図 SI01 出土遺物実測図 4 (1/3) ······	40
第 29 図 SI01 出土遺物実測図 5 (1/3・1/2) ······	41
第 30 図 SI01 出土遺物実測図 6 (1/2・1/3) ······	42
第 31 図 SI01 出土遺物実測図 7 (1/3) ······	43
第 32 図 SI02 実測図 (1/60) ······	44
第 33 図 SI02 出土遺物実測図 (1/3) ······	44
第 34 図 SK01 ~ SK07 実測図 (1/30) ······	47
第 35 図 SK08 ~ SK10 実測図 (1/30) ······	49
第 36 図 土坑出土遺物実測図 1 (1/3) ······	49
第 37 図 土坑出土遺物実測図 2 (1/3・1/2・1/4) ······	50
第 38 図 SS01 実測図 (1/30) ······	51
第 39 図 SS01 出土遺物実測図 1 (1/4・1/3) ······	51
第 40 図 SS01 出土遺物実測図 2 (1/3・1/4) ······	52
第 41 図 SS01 出土遺物実測図 3 (1/3) ······	53
第 42 図 SS02 実測図 (1/30) ······	54
第 43 図 SS02 出土遺物実測図 1 (1/4・1/3・1/2) ······	54
第 44 国 SS02 出土遺物実測図 2 (1/3) ······	55
第 45 国 SS03 実測図 (1/30) ······	55
第 46 国 SS03 出土遺物実測図 1 (1/4・1/3) ······	56
第 47 国 SS03 出土遺物実測図 2 (1/3・1/2・1/6) ······	57
第 48 国 SS04 実測図 (1/30) ······	58
第 49 国 SS04 出土遺物実測図 1 (1/4・1/3) ······	58
第 50 国 SS04 出土遺物実測図 2 (1/1・1/2・1/3) ······	59
第 51 国 SS04 出土遺物実測図 3 (1/6) ······	60
第 52 国 SS05 実測図 (1/30) ······	60
第 53 国 SS05 出土遺物実測図 (1/3) ······	61
第 54 国 SS06 実測図 (1/30) ······	62
第 55 国 SS06 出土遺物実測図 (1/3) ······	62
第 56 国 SS07 実測図 (1/30) ······	63
第 57 国 SS07 出土遺物実測図 (1/3・1/4) ······	63
第 58 国 SS08 実測図 (1/30) ······	64
第 59 国 SS08 出土遺物実測図 1 (1/4) ······	64
第 60 国 SS08 出土遺物実測図 2 (1/4・1/3・1/1) ······	65
第 61 国 SS09 実測図 (1/30) ·	
出土遺物実測図 (1/3・1/2) ······	66
第 62 国 SS10 実測図 (1/30) ······	67
第 63 国 SS11 実測図 (1/30) ·出上遺物実測図 (1/3) ······	67
第 64 国 SS12 実測図 (1/30) ·	
出土遺物実測図 (1/4・1/3・1/2) ······	68
第 65 国 SS13 実測図 (1/30) ·出上遺物実測図 (1/3) ······	69
第 66 国 SS14 実測図 1 (1/30) ······	69
第 67 国 SS14 実測図 2 (1/30) ······	70
第 68 国 SS14 出土遺物実測図 (1/3・1/1) ······	70
第 69 国 SS15 実測図 (1/30) ······	71
第 70 国 SS15 出土遺物実測図 1 (1/3) ······	71
第 71 国 SS15 出土遺物実測図 2 (1/3・1/2・1/1) ······	72
第 72 国 SS16 実測図 (1/30) ······	72
第 73 国 SS16 出土遺物実測図 (1/4・1/3・1/2) ······	73
第 74 国 SS17 実測図 (1/30) ······	74
第 75 国 SS17 出土遺物実測図 (1/3・1/2) ······	74
第 76 国 SS18 実測図 (1/30) ······	75
第 77 国 SS18 出土遺物実測図 (1/4・1/3) ······	76
第 78 国 SS19 実測図 (1/30) ······	77
第 79 国 SS19 出土遺物実測図 (1/3・1/6) ······	77
第 80 国 SS20 実測図 1 (1/30) ······	78
第 81 国 SS20 実測図 2 (1/30) ······	79
第 82 国 SS20 出土遺物実測図 (1/3・1/4) ······	79
第 83 国 SS21 実測図 (1/30) ·	
出土遺物実測図 (1/4・1/3) ······	80
第 84 国 SS22 実測図 (1/30) ······	81
第 85 国 SS22 出土遺物実測図 (1/3・1/6) ······	82
第 86 国 SS23 実測図 1 (1/30) ······	82
第 87 国 SS23 実測図 2 (1/30) ······	83
第 88 国 SS23 出土遺物実測図 (1/3・1/4) ······	83
第 89 国 SS24 実測図 1 (1/30) ······	84
第 90 国 SS24 実測図 2 (1/30) ······	85
第 91 国 SS24 出土遺物実測図 (1/4・1/3) ······	85
第 92 国 道構外出土遺物実測図 1 (1/4・1/3) ······	87
第 93 国 道構外出土遺物実測図 2 (1/4・1/3) ······	88
第 94 国 道構外出土遺物実測図 3 (1/4・1/3) ······	89
第 95 国 道構外出土遺物実測図 4 (1/3・1/4) ······	90
第 96 国 道構外出土遺物実測図 5 (1/3・1/2) ······	91
第 97 国 道構外出土遺物実測図 6 (1/1・1/3) ······	92
第 98 国 道構外出土遺物実測図 7 (1/3) ······	93

# 表 目 次

第1表 園芸施設整備事業に伴う 試掘確認調査及び立会調査一覧	1	第4表 周辺の道路	18
第2表 林中原Ⅰ道路X出土遺物觀察表	9	第5表 林中原Ⅰ道路既往調査一覧	26
第3表 幸神遺跡出土遺物觀察表	12	第6表 S101柱穴計測表	35
		第7表 林中原Ⅰ道路X出土遺物觀察表	94

# 図 版 目 次

図版 1 試掘確認調査（1. 林中原Ⅰ道路Ⅳ・2. 林字宮原①） 1. 林中原Ⅰ道路Ⅳ<3地区>（東から） 2. 林字宮原<2地区>（東から）	図版 8 試掘確認調査（8. 林宮原道路Ⅴ） 1. 林宮原道路Ⅴ<1地K>（北西から） 2. 1号トレンチ（南から） 3. 2号トレンチ（南から） 4. 3号トレンチ（西から） 5. 3号トレンチ上層（南から）
図版 2 試掘確認調査（2. 林字宮原②・3. 東原田道路Ⅱ①） 1. 1号トレンチ（南東から） 2. 1号トレンチ上層（南西から） 3. 3号トレンチ（南東から） 4. 4号トレンチ（南から） 5. 東原田道路Ⅱ<7地区>（北東から）	図版 9 試掘確認調査（9. 幸神道路1区③） 1. 幸神道路<1区>（北から） 2. 1号トレンチ（南西から） 3. 1号トレンチ上層（南東から） 4. 1号トレンチ縄文包含層（南西から） 5. 1号トレンチ縄文包含層断ち削り（南西から）
図版 3 試掘確認調査（3. 東原田道路Ⅱ②・4. 上原Ⅰ道路①） 1. 1号トレンチ（南から） 2. 2号トレンチ（南から） 3. 2号トレンチ上層（西から） 4. 上原Ⅰ道路<5地区>（南から）	図版 10 試掘確認調査（9. 幸神道路1区②） 1. 2号トレンチ（南西から） 2. 2号トレンチ上層1（南東から） 3. 2号トレンチ上層2（南東から） 4. 2号トレンチ北側扯張（南西から） 5. 2号トレンチ北側扯張上層（南東から） 6. 3号トレンチ（南西から） 7. 3号トレンチ上層1（南東から） 8. 3号トレンチ上層2（南東から）
図版 4 試掘確認調査（4. 上原Ⅰ道路②） 1. 1号トレンチ（南西から） 2. 2号トレンチ（南西から） 3. 3号トレンチ（南西から） 4. 4号トレンチ（南西から） 5. 4号トレンチ上層（北西から） 6. 5号トレンチ（南西から） 7. 6号トレンチ（南西から） 8. 6号トレンチ上層（北西から）	図版 11 試掘確認調査（9. 幸神道路1区③・2区①） 1. 3号トレンチ歯サク検出状況（南西から） 2. 4号トレンチ（南西から） 3. 4号トレンチ上層1（南東から） 4. 4号トレンチ上層2（南東から） 5. 幸神道路2区（北から）
図版 5 試掘確認調査（5. 林中原Ⅱ道路Ⅲ） 1. 林中原Ⅱ道路Ⅲ<6地区>（東から） 2. 1号トレンチ（南東から） 3. 2号トレンチ（南東から） 4. 3号トレンチ（南東から） 5. 3号トレンチ上層（南西から）	図版 12 試掘確認調査（9. 幸神道路2区②・幸神道路出土遺物） 1. 5号トレンチ（南西から） 2. 5号トレンチ上層1（南東から） 3. 5号トレンチ上層2（南東から） 4. 調査前風景（西から） 5. 幸神道路出土遺物
図版 6 試掘確認調査（6. 林字中原・7. 林中原Ⅰ道路X①） 1. 林字中原<8地区>（南東から） 2. 林中原Ⅰ道路X<4地区>（南西から）	図版 13 林中原Ⅰ道路X（調査区遠景） 1. 調査区遠景①（東上から） 2. 調査区遠景②（南真上から）
図版 7 試掘確認調査（7. 林中原Ⅰ道路X②） 1. 1号トレンチ（南から） 2. 1号トレンチ上層（東から） 3. 2号トレンチ（南から） 4. 3号トレンチ（南から） 5. 4号トレンチ（南から） 6. 4号トレンチ上層（西から） 7. 林中原Ⅰ道路X出土遺物	図版 14 林中原Ⅰ道路X（調査区全景） 1. 調査区全景（南真上から）
	図版 15 林中原Ⅰ道路X（調査区近景①） 1. 調査区東側（南上から）

2. 調査区西側（南上から）
- 図版 16 林中原 I 道路Ⅸ（調査区近景②）  
 1. 調査区近景①（東から）  
 2. 調査区近景②（西から）
- 図版 17 林中原 I 道路Ⅸ（SI01 ①）  
 1. SI01（北東から）  
 2. SI01（南西から）
- 図版 18 林中原 I 道路Ⅸ（SI01 ②）  
 1. SI01 東西セクション（北から）  
 2. SI01 伊勢（北から）  
 3. SI01 伊勢上器出土状況①（北から）  
 4. SI01 伊勢上器出土状況②（北から）  
 5. SI01 伊勢上器出土状況③（北から）  
 6. SI01 遺物出土状況①<第 26 図 8>  
 7. SI01 遺物出土状況②<第 26 図 9>  
 8. SI01 遺物出土状況③<第 31 図 100>
- 図版 19 林中原 I 道路Ⅸ（SK02・SK01～SK03）  
 1. SK02（南から）  
 2. SK01（南西から）  
 3. SK01 半裁（南から）  
 4. SK02・03（北東から）  
 5. SK02・03 半裁（南西から）
- 図版 20 林中原 I 道路Ⅸ（SK04～SK07）  
 1. SK04（北東から）  
 2. SK04 半裁（北東から）  
 3. SK05（東から）  
 4. SK05 半裁（南東から）  
 5. SK06（南から）  
 6. SK06 半裁（東から）  
 7. SK07（南西から）  
 8. SK07 半裁（南から）
- 図版 21 林中原 I 道路Ⅸ（SK08～SK10・各種風景）  
 1. SK08（南から）  
 2. SK09（北東から）  
 3. SK09 半裁（南西から）  
 4. SK10（東から）  
 5. SK10 半裁（東から）  
 6. 作業風景（東から）  
 7. 空撮風景  
 8. 調査前風景（東から）
- 図版 22 林中原 I 道路Ⅸ（調査区東側配石遺構群・SS01・SS02）  
 1. 調査区東側配石遺構群（北西から）  
 2. SS01（東から）  
 3. SS01 検出状況（東から）  
 4. SS02（南東から）  
 5. SS02 斷ち割り状況（西から）
- 図版 23 林中原 I 道路Ⅸ（SS03～SS06）  
 1. SS03 ①（南西から）  
 2. SS03 ②（南東から）  
 3. SS04（南から）  
 4. SS04 断ち割り状況（西から）  
 5. SS05（南東から）  
 6. SS05 検出状況（南東から）  
 7. SS06（南から）  
 8. SS06 検出状況（南から）
- 図版 24 林中原 I 道路Ⅸ（SS07～SS12 ①）  
 1. SS07（南から）  
 2. SS08（東から）  
 3. SS09（南から）  
 4. SS10・SS11（南西から）  
 5. SS10（南西から）  
 6. SS12（南から）  
 7. SS12 断ち割り状況（南東から）  
 8. SS12 検出状況（南から）
- 図版 25 林中原 I 道路Ⅸ（SS12 ②～SS17）  
 1. SS12 遺物出土状況①（南西から）  
 2. SS12 遺物出土状況②<第 64 図 3>  
 3. SS13 ①（西から）  
 4. SS13 ②（南から）  
 5. SS14～SS17（南から）
- 図版 26 林中原 I 道路Ⅸ（SS14～SS18 ①）  
 1. SS14（南西から）  
 2. SS14 断ち割り状況（南東から）  
 3. SS15（南西から）  
 4. SS17（南西から）  
 5. SS16（南西から）  
 6. SS16 遺物出土状況<第 73 図 1>  
 7. SS18（南西から）
- 図版 27 林中原 I 道路Ⅸ（SS18 ②～SS20）  
 1. SS18 断ち割り状況（東から）  
 2. SS18 遺物出土状況<第 77 図 1>  
 3. SS19（南から）  
 4. SS19 断ち割り状況（南から）  
 5. SS20（南から）  
 6. SS20 断ち割り状況（東から）  
 7. SS20 上層（東から）  
 8. SS20 売り方（東から）
- 図版 28 林中原 I 道路Ⅸ（SS21～SS24）  
 1. SS21～SS23 号（南西から）  
 2. SS21（北から）  
 3. SS22（北から）  
 4. SS23（北西から）  
 5. SS24（北から）
- 図版 29 林中原 I 道路Ⅸ（SI01 出土遺物①）
- 図版 30 林中原 I 道路Ⅸ（SI01 出土遺物②）
- 図版 31 林中原 I 道路Ⅸ（SI01 出土遺物③）
- 図版 32 林中原 I 道路Ⅸ（SI01 出土遺物④・SI02）
- 図版 33 林中原 I 道路Ⅸ（SK01・SK07・SK10・SS01 ①出土遺物）
- 図版 34 林中原 I 道路Ⅸ（SS01 ②・SS02 出土遺物）
- 図版 35 林中原 I 道路Ⅸ（SS03・SS04 ①出土遺物）
- 図版 36 林中原 I 道路Ⅸ（SS04 ②・SS05・SS06 出土遺物）
- 図版 37 林中原 I 道路Ⅸ（SS07～SS13 出土遺物）
- 図版 38 林中原 I 道路Ⅸ（SS14～SS16 出土遺物）
- 図版 39 林中原 I 道路Ⅸ（SS17～SS19 出土遺物）
- 図版 40 林中原 I 道路Ⅸ（SS20～SS23 出土遺物）
- 図版 41 林中原 I 道路Ⅸ（SS23・SS24・道構外①出土遺物）
- 図版 42 林中原 I 道路Ⅸ（道構外出土遺物②）
- 図版 43 林中原 I 道路Ⅸ（道構外出土遺物③）
- 図版 44 林中原 I 道路Ⅸ（道構外出土遺物④）

# 第1章 調査概要

## 第1節 調査に至る経緯

林地区および長野原地区は県北部に位置する中山間地域であり、急峻で狭小な農地で高原野菜の栽培が行われている。またハッカダムの建設により一部水没する予定地であり、地域の農業基盤整備は立遅れ、規模拡大や農地の流動化、経営の合理化が阻害されている。近年の農業を取り巻く内外の激しい情勢に対応するため、生産性の向上と農業経営及び生活環境の効率化を図り、併せて地域農業の未来を担う中核施設として農業生産と販売技術の向上を図るために活動を行う場として園芸生産用施設の整備が期待される。

平成17年（平成20年）12月上旬に長野原町役場事業建設課より林地区（長野原地区）園芸施設整備事業の計画が示され、埋蔵文化財の取り扱いについて、長野原町教育委員会に照会があった。計画地はそのほとんどが周知の包蔵地の範囲内に含まれていることから試掘確認調査の必要がある旨を説明し、調査実施で合意を得た。文化財保護法第94条第1項の規定により、平成18年8月21日付け（長野原地区は平成21年9月28日付け）で関係書類（「発掘届」・「開発に伴う文化財調査願書」）が提出された。

試掘確認調査及び立会調査は、林地区は平成18年度に8地点、長野原地区は平成21年度に1地点、計9地点、26本のトレンチで実施され、林地区の1地点（3地区）で縄文後期前半の住居・配石遺構・土坑が検出された。工事計画ではビニールハウスを設置するために、北側半分を1m前後掘削し、南側は盛土で平坦面を造り出す造成工事が計画されており、掘削部分の記録保存（発掘調査）が必要と判断された。試掘確認調査に継続して教育委員会直営で、平成18年9月19日から調査を実施する運びとなった。

## 第2節 試掘確認調査・立会調査

園芸施設関係の試掘確認調査及び立会調査は第1表の通りである。上述したように、本事業に伴い、平成18年度～21年度までの間に9地点、26本のトレンチで実施された。そのうち1地点は本発掘調査を実施したが、残りの8地点については、試掘確認調査および立会調査で工事施工に支障ないと判断され調査不要となつた。本節では、これら9地点の概要を報告する。出土遺物の取り扱いに関しては、本調査を実施した地点は本文にて報告するが、本調査不要と判断した8地点での出土遺物はここで報告することとする。

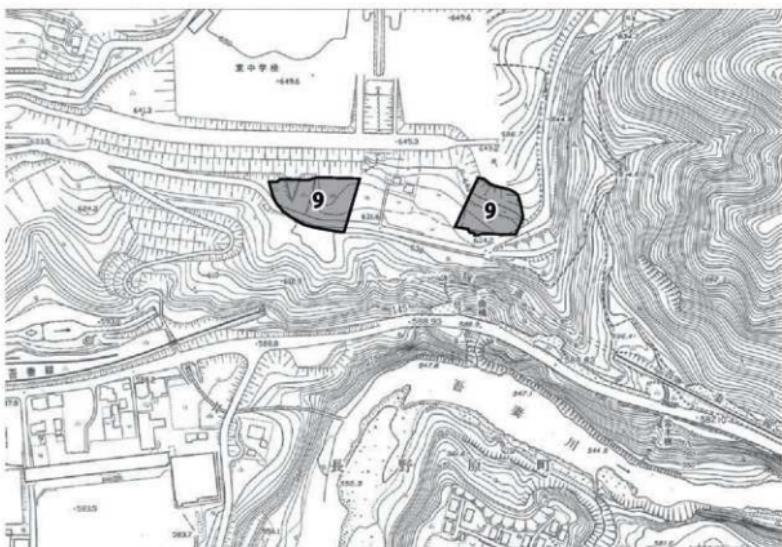
第1表 園芸施設試掘確認調査及び立会調査一覧

No	年 度	遺 跡 名	所 在 地	原 因 種 類	調査面積	調 査 期 間	備 考
1	平成18年度	林中原Ⅰ遺跡Ⅳ	林字中原952-1 外1筆	園芸施設（3区） 本調査	190m <sup>2</sup>	H18年9月19日 ～ H18年10月25日	縄文後期前半住居 2・配石遺構24・ 土坑 発掘届（94-1）
2	"	林字宮原	林字宮原507外 4筆	園芸施設（2区） 試掘調査	27m <sup>2</sup>	H18年9月21日	遺構・遺物なし。
3	"	東原Ⅲ遺跡Ⅱ	林字東原1469 外2筆	園芸施設（7区） 確認調査	8 m <sup>2</sup>	H18年9月28日	遺構なし。縄文土 器片出土。 発掘届（94-1）
4	"	上原Ⅰ遺跡	林字上原1036 外1筆	園芸施設（5区） 確認調査	37m <sup>2</sup>	H18年10月10日	遺構・遺物なし。 発掘届（94-1）
5	"	林中原Ⅱ遺跡Ⅷ	林字中原973外 1筆	園芸施設（6区） 確認調査	36m <sup>2</sup>	H18年10月10日	遺構・遺物なし。 発掘届（94-1）

第1図 林地区園芸施設調査地点位置図 (1/3,000)



No	年 度	遺 跡 名	所 在 地	原 種 因 類	調査面積	調 査 期 間	備 考
6	平成18年度	林字中原	林字中原1026-1	園芸施設(8区) 試掘調査	36m <sup>2</sup>	H18年10月13日	遺構・遺物なし。
7	"	林中原 I 遺跡X	林字中原868外 4筆	園芸施設(4区) 確認調査	42m <sup>2</sup>	H18年10月19日	遺構なし。縄文土器出土。 発掘届(94-1)
8	"	林宮原遺跡V	林字宮原574-1 外1筆	園芸施設(1区) 確認調査	21m <sup>2</sup>	H18年10月23日	遺構・遺物なし。 発掘届(94-1)
9	平成21年度	幸神遺跡	長野原字幸神 1140-1外1筆	園芸施設 確認調査	245m <sup>2</sup>	H21年10月28日 ～ H21年11月1日	縄文中期中葉包含層。 発掘届(94-1)



第2図 長野原地区園芸施設調査地点位置図 (1/3,000)

### 1. 林中原 I 遺跡IX (第1・3・4図／第1表／PL1)

- (1) 所在地 林字中原 952-1 外 1筆
- (2) 開発事業名 林地区園芸施設 (3地区)
- (3) 調査期間 平成 18年 9月 19日～ 10月 25日
- (4) 開発総面積 1,820m<sup>2</sup>
- (5) 調査面積 190m<sup>2</sup>
- (6) 調査概要
  - ・予定箇所の掘削部分の表土を剥ぎ、土層の堆積状況や遺構の有無を確認する。

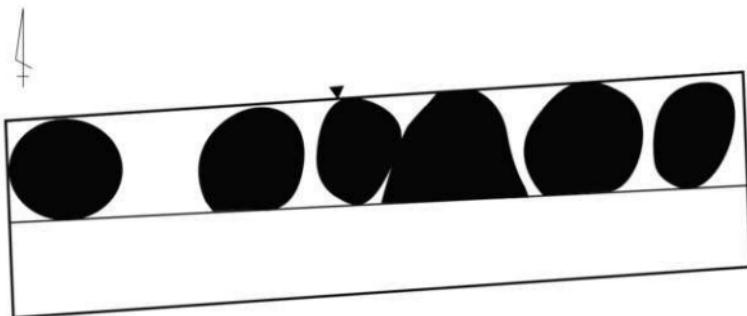


第3図 林中原 I 遺跡IX土層図 (1/20)

・土層確認、写真撮影をし、引き続き本調査の準備に入った。

(7) 調査所見

園芸施設予定箇所（3地区）の掘削部分の表土を剥ぎ、土層の堆積状況と遺構の有無を確認した。その結果、対象地には縄文時代後期前葉の敷石住居跡・配石遺構などが検出された。浅い箇所では掘削予定高より上で検出され、30cmの保護層を保持することができないので記録保存が必要と判断された。

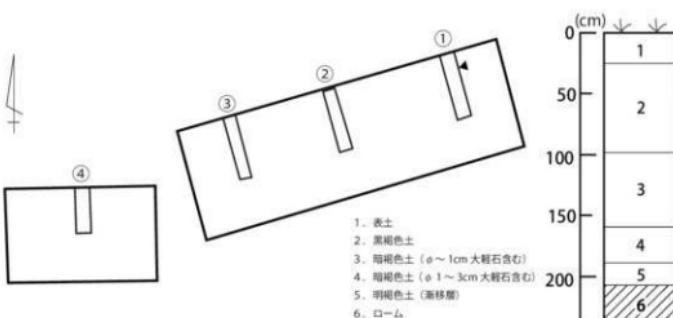


第4図 林中原Ⅰ遺跡IXトレンチ配置図 (1/250)

2. 林字宮原（第1・5図／第1表／PL 1・2）

- (1) 所在地 林字宮原 507 外 4筆
- (2) 開発事業名 林地区園芸施設（2地区）
- (3) 調査期間 平成 18年9月21日
- (4) 開発総面積 2,633m<sup>2</sup>
- (5) 調査面積 27m<sup>2</sup>
- (6) 調査概要

- ・予定箇所に4本の試掘坑（トレンチ）を設定し、土層の堆積状況や遺構の有無を確認する。
- ・土層確認・写真撮影をし終了する。



第5図 林字宮原トレンチ配置図 (1/200)・土層図 (1/40)

#### (7) 調査所見

園芸施設の予定箇所（2地区）に、4本の試掘坑（トレンチ）を設定し、土層の堆積状況と遺構の有無を確認した。その結果、対象地には顯著な遺構・遺物は検出されなかったので、文化財保護的には園芸施設設置の造成工事に支障はないと判断した。

対象地は急斜面地の中のテラス部分で黒色土が予想以上に深く堆積していた。1トレで地山の関東ローム層まで掘り下げて土層を確認したところ、表土下210cmで地山に達した。表土下120cm位から60cm大の礫が顯著になることから、何度かの山押しによってできた地形であることが想起される。

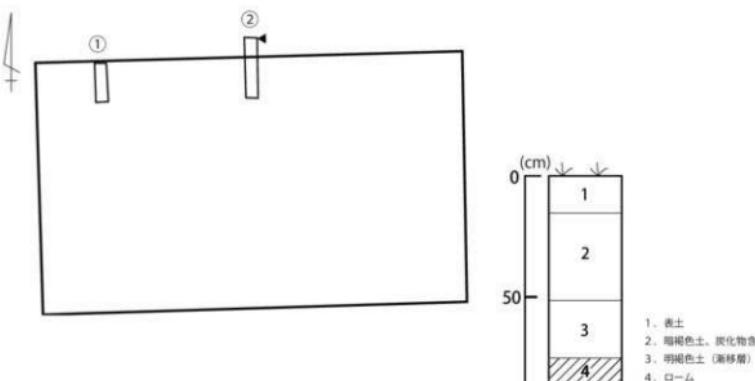
### 3. 東原Ⅲ遺跡II (第1・6図／第1表／P L 2・3)

- (1) 所在地 林字東原1469外2筆
- (2) 開発事業名 林地区園芸施設（7地区）
- (3) 調査期間 平成18年9月28日
- (4) 開発総面積 1.219m<sup>2</sup>
- (5) 調査面積 8m<sup>2</sup>
- (6) 調査概要

- ・予定箇所に2本の試掘坑（トレンチ）を設定し、土層の堆積状況や遺構の有無を確認する。
- ・土層確認・写真撮影をし終了する。

#### (7) 調査所見

園芸施設の予定箇所（7地区）に、2本の試掘坑（トレンチ）を設定し、土層の堆積状況と遺構の有無を確認した。その結果、対象地には顯著な遺構は検出されなかったので、文化財保護的には園芸施設設置の造成工事に支障はないと判断した。遺物も1トレの埋土中に土器片が1点出土した。対象地は急斜面地で過去に壁土の採集により大部分が掘削を被っており、岩盤も露出していた。堆積土層は2トレで確認し、地山の関東ローム層まで表土下75cmで達した。

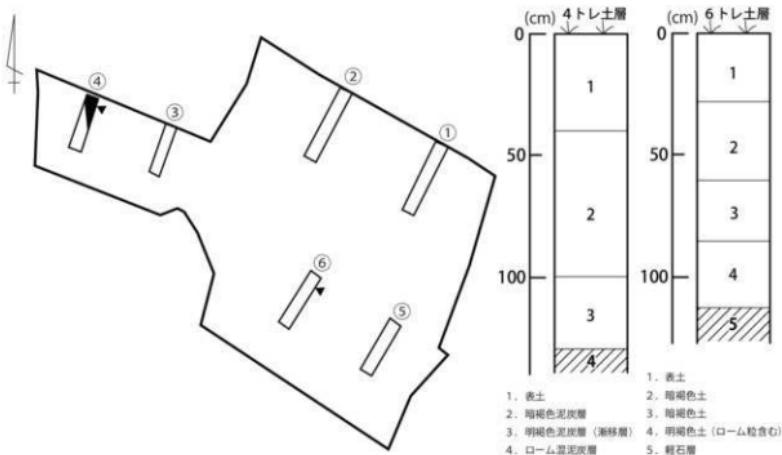


第6図 東原Ⅲ遺跡II トレンチ配置図 (1/200)・土層図 (1/20)

うえはらいちいせき  
4. 上原 I 遺跡 (第1・7図／第1表／PL 3・4)

- (1) 所在地 林字上原 1036 外 1 筆
- (2) 開発事業名 林地区園芸施設（5地区）
- (3) 調査期間 平成 18 年 10 月 10 日
- (4) 開発総面積 1,130m<sup>2</sup>
- (5) 調査面積 37m<sup>2</sup>
- (6) 調査概要
  - ・園芸施設予定箇所に試掘坑（トレンチ）を 6 本設定し、土層の堆積状況と遺構の有無を確認した。
  - ・土層確認・写真撮影をし終了する。
- (7) 調査所見

園芸施設の予定箇所（5 地区）に、6 本の試掘坑（トレンチ）を設定し、土層の堆積状況と遺構の有無を確認した。その結果、対象地には顯著な遺構は検出されなかったので、文化財保護的には園芸施設設置の造成工事に支障はないとの判断した。対象地は緩斜面地で西側に田圃を含む沢がある。対象地は過去に切り盛りが行われたと思われ、1 トレ・2 トレ・5 トレでは堆積土層は 20 ~ 30cm 厚で削平された地山の関東ローム層（ハーデローム層）が検出された。また 6 トレではローム層は検出されず、通常ローム層の下に堆積する軽石層が検出され、盛土と判断された。4 トレでは地表下 130cm で自然流路の一部と思われる堀込みが検出され、湧水も確認された。



第7図 上原 I 遺跡トレンチ配置図 (1/200)・土層図 (1/20)

はやしなかほらにいせきはち  
5. 林中原 II 遺跡VIII (第1・8図／第1表／PL 5)

- (1) 所在地 林字中原 973 外 1 筆
- (2) 開発事業名 林地区園芸施設（6 地区）
- (3) 調査期間 平成 18 年 10 月 10 日

(4) 開発総面積 1,456m<sup>2</sup>

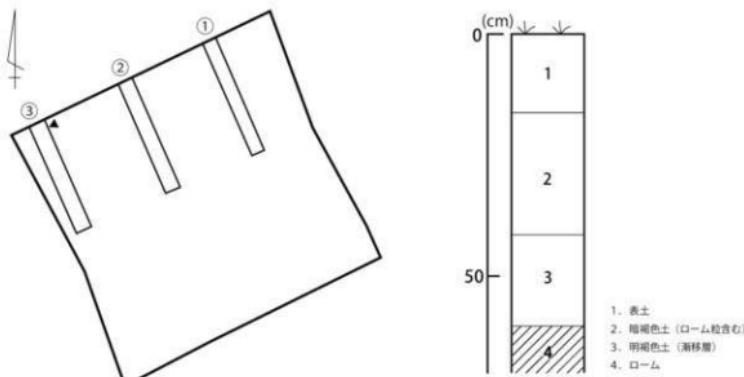
(5) 調査面積 36m<sup>2</sup>

(6) 調査概要

- ・園芸施設予定箇所に試掘坑（トレンチ）を 3 本設定し、土層の堆積状況と遺構の有無を確認した。
- ・土層確認・写真撮影をし終了する。

(7) 調査所見

園芸施設の予定箇所（6 地区）に、3 本の試掘坑（トレンチ）を設定し、土層の堆積状況と遺構の有無を確認した。その結果、対象地には顯著な遺構は検出されなかったので、文化財保護的には園芸施設設置の造成工事に支障はないと判断した。対象地は緩斜面地で東側に沢が南下している。堆積土層は 1 トレで 10cm 厚、2 トレで 30cm 厚、3 トレが一番深く、地山の関東ローム層まで表土下 60cm で達した。



第8図 林中原Ⅱ遺跡Ⅷトレンチ配置図 (1/200)・土層図 (1/10)

## 6. 林字中原 (第1・9図／第1表／PL 6)

(1) 所在地 林字中原 1026-1

(2) 開発事業名 林地区園芸施設（8地区）

(3) 調査期間 平成 18 年 10 月 13 日

(4) 開発総面積 622m<sup>2</sup>

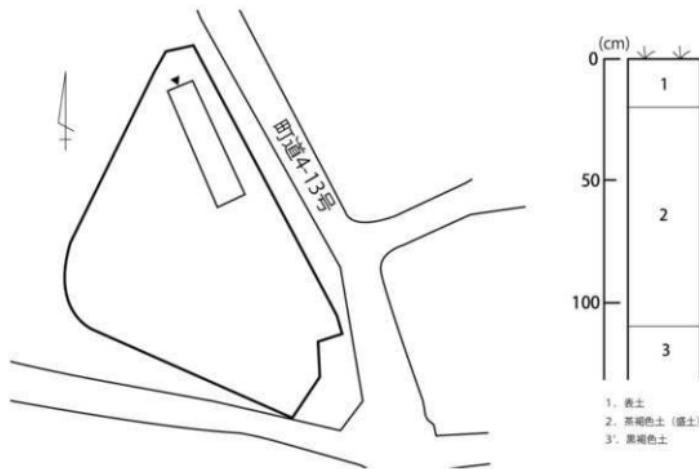
(5) 調査面積 36m<sup>2</sup>

(6) 調査概要

- ・予定箇所に 1 本の試掘坑（トレンチ）を設定し、土層の堆積状況や遺構の有無を確認する。
- ・土層確認・写真撮影をし終了する。

(7) 調査所見

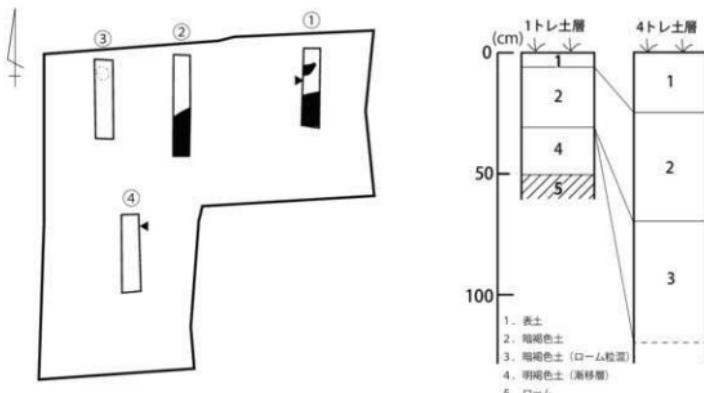
園芸施設の予定箇所（8 地区）に、1 本の試掘坑（トレンチ）を設定し、土層の堆積状況と遺構の有無を確認した。その結果、対象地には顯著な遺構は検出されなかったので、文化財保護的には園芸施設設置の造成工事に支障はないと判断した。対象地は緩斜面地で西側に田圃を含む沢がある。対象地は、過去に道路拡幅や舗装に伴って盛土がされたことが分かった。現表土下 110cm で暗褐色土が検出された。対象地内のその他の箇所は盛土対応ということだった。



第9図 林字中原トレンチ配置図 (1/200)・土層図 (1/20)

7. 林中原Ⅰ遺跡X (第1・10・11図／第1・2表／PL 6・7)  
はやしなかはらいちいせきじゆう

- (1) 所在地 林字中原 868 外4筆
- (2) 開発事業名 林地区園芸施設 (4地区)
- (3) 調査期間 平成18年10月19日
- (4) 開発総面積 789m<sup>2</sup>
- (5) 調査面積 42m<sup>2</sup>



第10図 林中原Ⅰ遺跡Xトレンチ配置図 (1/200)・土層図 (1/20)

#### (6) 調査概要

- 予定箇所に4本の試掘坑（トレンチ）を設定し、土層の堆積状況や遺構の有無を確認する。
- 土層確認・写真撮影をし終了する。

#### (7) 調査所見

園芸施設の予定箇所（4地区）に、4本の試掘坑（トレンチ）を設定し、土層の堆積状況と遺構の有無を確認した。その結果、対象地には顕著な遺構は検出されなかったので、文化財保護的には園芸施設設置の造成工事に支障はない判断した。対象地は緩斜面地でいわゆる地山の関東ローム層を確認できたのは1トレのみだった。2トレは茶褐色のローム層、3・4トレは深いえに礫が多量に含まれていて地山を確認するには至らなかった。遺物は1・2トレで1点ずつ縄文土器片が出土し、掘り込みも3箇所検出したが、伐採痕・谷跡と考えられた。土層は1トレと4トレで記録を探った。



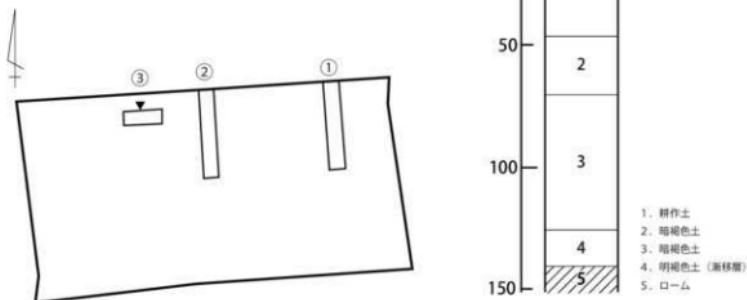
第11図 林中原I遺跡X出土遺物実測図 (1/4 · 1/3)

第2表 林中原I遺跡X出土遺物観察表

検出箇所	面積	器種	法面(最高・口押底)(m)	特徴(兆形・手法等)	形成	地質・材質等	色調(外面・内面)	備考
11-1	7	縄文土器 深鉢	(1.8) / - / <9.0>	内面はナデ。底面に削代痕(2翅・1筋・1送)。	良好	石英・碧・赤色粒	相	底部40%残存
11-2	7	内耳土器	(1.7) / - / -	外内面とも横位ミガキ。	良好	長石・角閃石	に赤い赤褐色	破片資料(口林館)

#### 8. 林宮原遺跡V (第1・12図／第1表／PL 8)

- 所在地 林字宮原 574-1 外1筆
- 開発事業名 林地区園芸施設（1地区）
- 調査期間 平成18年10月23日
- 開発総面積 1,331m<sup>2</sup>
- 調査面積 21m<sup>2</sup>



第12図 林宮原遺跡Vトレンチ配置図 (1/400)・土層図 (1/20)

#### (6) 調査概要

- ・予定箇所に 3 本の試掘坑（トレンチ）を設定し、土層の堆積状況や遺構の有無を確認する。
- ・土層確認・写真撮影をし終了する。

#### (7) 調査所見

園芸施設の予定箇所（1 地区）に、3 本の試掘坑（トレンチ）を設定し、土層の堆積状況と遺構の有無を確認した。その結果、対象地には顕著な遺構は検出されなかったので、文化財保護的には園芸施設設置の造成工事に支障はない判断した。対象地は緩斜面地で黒ボク層が深く堆積しており、いわゆる地山の関東ローム層は 2・3 トレで地表下 1.4 m で確認できた。土層は 3 トレで記録を取った。

### 9. 幸神遺跡 (第 1・12~15 図／第 1・3 表／PL 9~12)

(1) 所在地 長野原字幸神 1140-1・1149-1 外 3 筆

(2) 開発事業名 長野原地区園芸施設

(3) 調査期間 平成 21 年 10 月 28 日～11 月 1 日

(4) 開発総面積 500m<sup>2</sup>

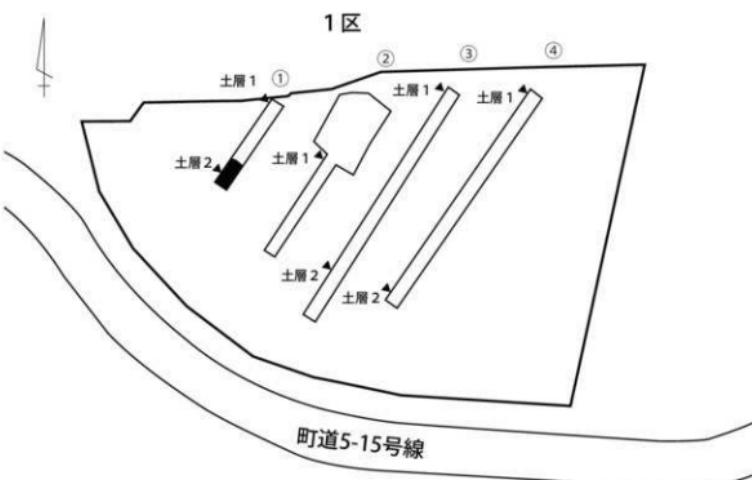
(5) 調査面積 245m<sup>2</sup>

#### (6) 調査概要

- ・園芸施設予定箇所にトレンチを 5 本設定し、土層の堆積状況や遺構の有無を確認する。
- ・土層確認・写真撮影をし終了する。

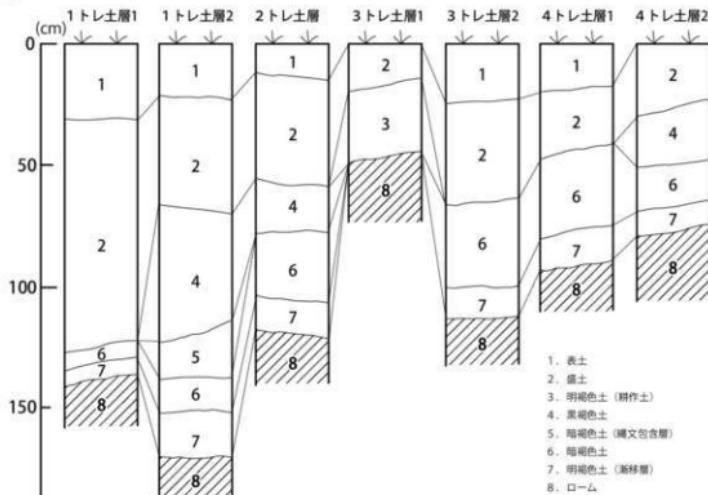
#### (7) 調査所見

園芸施設の予定箇所に試掘坑（トレンチ）を 5 本（1 区 4 本・2 区 1 本）設定して、土層の堆積状況と遺構の有無を確認した。その結果、1 トレ南端で縄文中期中葉包含層が検出されたが、遺構は確認されなかった。また 2 トレ北側で土坑墓の可能性がある掘り込みが数基確認されたので抵張してみたが、いずれも擾乱である

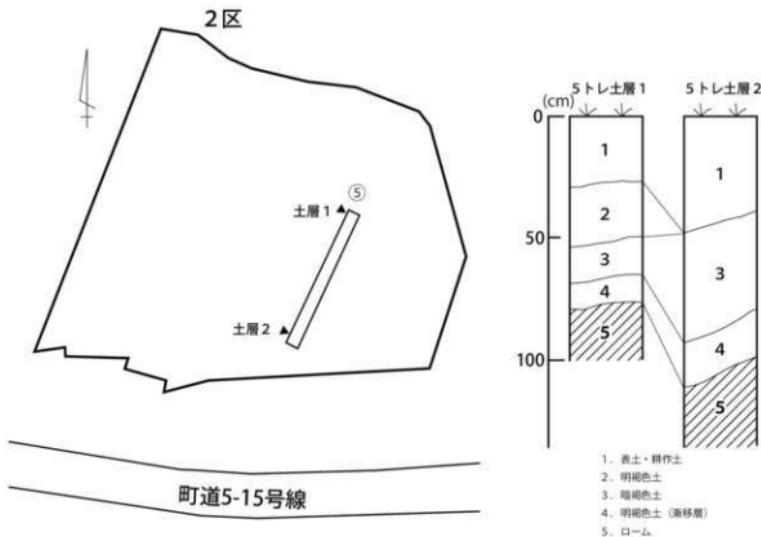


第 13 図 幸神遺跡 1 区トレンチ配置図 (1/150)

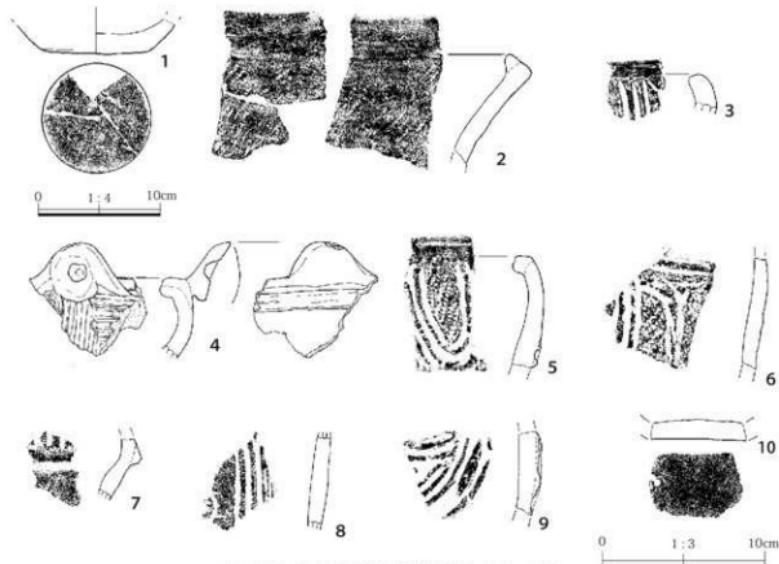
ことが判明した。2・3トレ土側で竪サクが検出されたが、サク切り痕から最近の烟跡と判断した。以上のように対象地内で顕著な遺構は検出されなかったので、文化財保護的には園芸施設造成工事に支障はないとの判断とした。



第14図 幸神遺跡1区土層図 (1/20)



第15図 幸神遺跡2区トレンチ配置図 (1/150)・土層図 (1/20)



第16図 幸神遺跡出土遺物実測図 (1/4・1/3)

第3表 幸神遺跡出土遺物観察表

件目 No.	出発 地名	器種	法量(肩高・口径 等) (cm)	特徴	測定 (用具・手法等)	構成	胎土・材質等	色調(外面・内面)	備考
16-1 12	國文土器部・ 深井	罐	(2.7) / - / 8.8	外面は横位一斜位のミガサ。内面は横位ナデ。底面はナデ。	良好	角閃石・石英・ 長石・雲母	灰黄褐色 / 赤褐色	底部80%残存 2と同一個体	
16-2 12	國文土器部・ 深井	罐	(7.2) / - / -	口側部内屈。外面は R1. 國文を施文。炭化物付着。	良好	角閃石・長石・ 石英・雲母	に赤褐色 / に灰黄褐色	破片資料 (口縁部) 1と同一個体	
16-3 12	國文土器部・ 深井	罐	(2.4) / - / -	外面は下截竹質状工具による横位沈圧。内面は 横位ナデ。	良好	雲母・長石・石 英・鈍閃石	に赤褐色 / に灰黄褐色	破片資料 (口縁部)	
16-4 12	國文土器部・ 深井	罐	(7.2) / - / -	円形突起。口側部内屈。外面は下截竹質状工具によ るよう2条並列の横位沈圧。内面は横位ナデ。	良好	角閃石・長石・ 石英・雲母	灰黄褐色 / に赤褐色	破片資料 (口縁部)	
16-5 12	國文土器部・ 深井	罐	(7.3) / - / -	口側部内屈。外面は R1. 國文を施文。底面は 下截竹質状工具によるナデ状文。内面は横位ナデ。	良好	角閃石・石英・ 雲母・長石	褐色	破片資料 (口縁部) 6と同一個体	
16-6 12	國文土器部・ 深井	罐	(6.7) / - / -	外周部は R1. 國文を施文とし、下截竹質状工具によ る沈圧。内面は横位ナデ。	良好	角閃石・雲母・ 石英・長石	明赤褐色 / 褐	破片資料 (全体) 5と同一個体	
16-7 12	國文土器部・ 深井	罐	(3.7) / - / -	口縁部は横位隙合部内に横位の下截竹質文を施 文。底部は R1. 國文を施文。内面は横位ナデ。	良好	角閃石・長石・ 石英	に赤褐色 / に灰黄褐色	破片資料 (口縁部~ 全体)	
16-8 12	國文土器部・ 深井	罐	(6.3) / - / -	外面は R1. 國文を施文とし、横位の下截竹質文。	良好	雲母・長石・ 石英・石英	褐	破片資料 (全体)	
16-9 12	國文土器部・ 深井	罐	(5.1) / - / -	外面は下截竹質状工具による弧状沈圧とそれに 沿った沈圧。内面は横位ナデ。	良好	角閃石・雲母・ 長石・長石	赤褐色 / 褐	破片資料 (全体)	
16-10 12	國文土器部・ 深井	罐	(1.3) / - / (6.0)	内面はナデ。底面はナデ消し。	良好	雲母・角閃石・ 長石・長石	褐色 / に赤褐色	破片資料 (底部)	

### 第3節 調査の方法と経過

#### (1) 発掘調査

##### a. 表土除去

表土除去は重機（バックフォー）を使用して行った。試掘確認調査で構造確認面及び遺物が検出される深さが判明していたので、そのことを念頭にら構造確認面まで少しづつ掘り下げていった。配石構造の河原石や遺物が確認される直上までを重機でそれ以下は人力で除去した。重機のパケットの爪に鉄板を装着して構造を傷つけないように配慮した。

### b. 遺構確認

遺構確認は上述の表土除去後に人力で行った。住居跡や配石遺構の石はできるだけ残し、確認面での覆土の識別に努め、平面形を確定していった。確認面が黒色土中ということもあり作業は困難な側面もあった。

### c. 遺構発掘及び遺物の取り上げ

遺構の発掘作業は、遺構の平面形を確定した上で土層観察用のベルトを設定し、遺構内の覆土の除去に着手した。住居跡の場合は長軸方向とその中心から長軸に対して直交方向に十字にベルトを設定し、土坑や配石遺構の場合は長軸に沿って半裁して土層の観察を行った。

遺物の取り上げに関しては、単独と思われる破片は上層・下層・床面直上ごとに、個体もしくは遺物の集中している箇所は出土位置図（ドット図）を作成の上、取り上げ作業を行った。遺物出土位置図は1/20のスケールで作成し、標高値の記録を一点ずつ行った。

### d. 実測図の作成及び遺構の写真撮影

実測図は土層堆積状況図、遺物出土位置図及び完掘状況遺構平面図を作成した。土層堆積状況図は遺物出土位置図と同様に1/20のスケールで作成した。完掘状況遺構平面図は光波測距儀を用いて行った。完掘遺構の変化点を三次元記録し、その場でパソコン・コンピューターにより現地での詳細な観察の上で結線し作成した。また、必要に応じてエレベーション図の作成も行った。遺構の記録写真は、35mm小型一眼レフカメラとデジタルカメラを併用して撮影した。モノクローム・カラーリバーサルの2種類のフィルムを使用し、両者同一カットを3枚1単位で露出を変えて撮影した。

## （2）調査の経過

### a. 発掘調査

試掘確認調査および発掘調査は平成18年9月19日から10月25日にわたって実施された。

9月19日、試掘調査。削平部分（調査区北半）列石・配石遺構検出。称名寺式～加曾利B式期か。表土掘削途中。明日午前中まで。

9月20日、本調査。削平部分（調査区北半）遺構5ブロックか。（敷石住居・配石遺構 称名寺～加曾利B式期か。）表土掘削完了。配石部精査、写真撮影。

9月21日、配石部精査、写真撮影。東半分。S101。午後、2区試掘。遺構なし。午後測研本間氏来跡。

9月22日、調査区西側の遺構精査。配石墓か。

9月25日、調査区西側の遺構精査。鶏小屋の擾乱除去。

9月26日、調査区西側の遺構精査。鶏小屋の擾乱除去。

9月27日、調査区西側の遺構精査。鶏小屋の擾乱除去。遺構確認ほぼ終了。

9月28日、午前中、調査区西側の遺構精査。清掃、写真撮影。午後7区（東原Ⅲ遺跡）試掘調査。

9月29日、調査区東側の遺構掘り下げ。擾乱3、配石1（SS01）、S101ベルト設定掘り下げ。午後、都民祭準備。

10月2日、調査区西側の遺構測量。遺物取り上げNo1～45。

10月3日、集石1、配石墓3～4基。

10月4日、調査区東側配石群清掃、写真撮影（配石1（SS01）～8（SS08））。

10月5日、調査区東側配石群遺物取り上げ。（No46～194）。谷部土坑半截、調査区中央遺構精査。

10月10日、配石9（SS09）・配石10（SS10）・SK01～05清掃、写真撮影。配石3（SS03）・配石4（SS04）掘り下げ。園芸施設5地区・6地区試掘調査。

10月11日、配石1（SS01）・3（SS03）～5（SS05）・8（SS08）・12（SS12）・13（SS13）掘り下げ、図面補足。配石14（SS14）半截。SK01～06セクション図。遺物取り上げ（No195～261）

- 10月12日、配石1(SS01)・配石8 (SS08) 挖り下げ。配石2 (SS02)～5 (SS05) 完掘、清掃・写真撮影。  
配石12 (SS12)・14 (SS14) 挖り下げ、配石15 (SS15)～17 (SS17) 半截。SK01～06完掘・  
写真撮影。SK07写真撮影。SK08半截。
- 10月13日、午前中園芸施設8地区試掘。配石1 (SS01)～14 (SS14) 図面補足。配石1 (SS01)、6 (SS06)、  
8 (SS08) 挖り下げ途中。SK07完掘途中、SK08完掘・写真撮影。SK09、10半截・写真撮影。  
配石15 (SS15) 半截途中。
- 10月16日、配石1 (SS01)、12 (SS12)、14 (SS14) 清掃・写真撮影。配石6 (SS06)、8 (SS08)、10 (SS10)、  
SK07、09完掘写真撮影。SI01振り下げ途中。配石16 (SS16) 挖り下げ途中。事業団麻生氏来跡。
- 10月17日、配石1 (SS01)、5 (SS05)、6 (SS06)、10 (SS10)、15 (SS15)、16 (SS16)、SK07、SI01南北  
セクション図面補足。SI01振り下げ途中。山口参事来跡。
- 10月18日、配石1 (SS01)、SK10完掘写真撮影。配石12 (SS12)、14 (SS14)～17 (SS17) 写真撮影、  
振り下げ、清掃。SI01図面補足、振り下げ途中。西側配石遺構群（配石18 (SS18)、19 (SS19)  
セクション写真撮影、図面補足、SI02写真撮影、図面補足。）配石12 (SS12) より土製耳飾り  
出土。事業団藤巻氏来跡。
- 10月19日、配石14 (SS14)～17 (SS17) 振り下げ、清掃。SI01振り下げ途中。配石18 (SS18)、19 (SS19)  
振り下げ途中。西側配石遺構群→配石21 (SS21)。午後、園芸施設4地区試掘調査。
- 10月20日、配石12 (SS12)、14 (SS14)～17 (SS17) 清掃・写真撮影。SI01炉、柱穴残し。配石18 (SS18)、  
19 (SS19) 清掃・写真撮影。配石21 (SS21)～24 (SS24) 清掃。全体清掃、シート・土嚢片づけ。  
図面補足。
- 10月21日、午前中に航空写真撮影。空撮後、セクション注記。
- 10月23日、午前中、園芸施設1地区試掘調査。配石1 (SS01)、4 (SS04)、18 (SS18) 摂方、図面補足。  
SI01炉体土器・柱穴。配石15 (SS15)～17 (SS17) 搾乱、セクション。配石20、24。
- 10月24日、雨天にて現場中止。林中原1遺跡IVの出土器石膏入れと、本遺跡出土土器の洗浄。
- 10月25日、SI01、配石18 (SS18)、24 (SS24) 完掘・写真撮影。配石3 (SS03)、7 (SS07)、8 (SS08)、  
10 (SS10)、13 (SS13)、18 (SS18)、20 (SS20) 挖り方、図面補足。道具片づけ・撤収。

#### b. 整理調査・報告書作成

整理調査のうち基礎整理（遺物：洗浄・注記・接合・実測・トレース・写真撮影／遺構：図面修正・基礎編集・写真編集）は平成27年度までに、事業の合間に複数事業と併行して実施した。

令和3年3月から報告書編集作業を開始し、遺構図版・写真図版のデジタル編集を令和4年1月下旬まで、併せて執筆作業を令和3年12月上旬～令和4年2月下旬にかけて行い、2月下旬～3月下旬に編集の最終調整・校正、印刷製作を実施し、併せて保管用に資料・遺物の整理をしてすべての作業を完結した。

## 第2章 遺跡の立地と環境

### 第1節 遺跡の位置

林中原I遺跡が所在する長野原町は群馬県北西部にある吾妻郡域の南西隅に位置し、東は吾妻郡東吾妻町(旧吾妻町)・高崎市倉渕町(旧倉渕村)、北は吾妻郡草津町・同郡中之条町(旧六合村)、西は吾妻郡嬬恋村と接し、南は浅間高原を経て長野県北佐久郡軽井沢町と県境をなす。本町は高間・白根の両山系と大洞山系とに挟まれた吾妻川流域地帯の北部と、高原地帯の南部とに大別され、高原地帯を除きほとんどが河川・渓谷に向かう山岳傾斜地帯である。

町の北西には草津白根山(標高2,170m)、南西には浅間山(標高2,568m)が位置する。町域も北部は高間山(標高1,341.7m)や王城山(標高1,123.2m)、吾妻川より南に丸岩(標高1,124m)や昔峰(標高1,473.5m)など、南部は南東から南にかけて浅間隱山(標高1,756.7m)、鷹鷺山(標高1,431.4m)、鼻曲山(標高1,655m)など、周囲を1,000m～1,800m級の陥しい山々で囲まれている。

長野原町の河川は長野県境の鳥居峠付近(標高1,362m)を水源とする吾妻川が東流し、それに万座川や熊川・白砂川など主に両岸の山地から発する諸支流が注ぎ、渋川市街地付近で利根川右岸に合流する。町域は吾妻川の中流にあたるが、かつて酸性を帯びた水質をもつ支流の流入により、中流より下流にかけて魚類の生息に適さない状態であった。しかし石灰投による中和処理が開始されて以来、水質の改善が行われている。

吾妻川两岸は大字長野原付近でやや幅が広く、河岸段丘が発達する(第17図)。この段丘面は最上位・上位・中位・下位の4段階で形成されている。これら段丘面とその上位の丘陵上に縄文時代～平安時代にかけての遺跡が多く見つかっており、現在でも住宅地や田畠として利用されている。これらの段丘は約21,000年前に浅間山から噴出した応桑泥流堆積物が侵食されて形成されており、その上を覆っている関東ローム層中に約11,000年前に噴出した浅間・草津黄色軽石層(As-Ypk)が堆積しているのが認められる。現在の吾妻川からの比高差は最上位段丘面で約80～90m、上位段丘で約60～65m、中位段丘で30m前後、下位段丘で約10～15mを測る。大字川原湯から東では川幅が狭まり峡谷をなし、吾妻渓谷を形成している。

長野原町が含まれる浅間山周辺地域は、気候的には太平洋側の気候区に入るが、高地であることから寒冷な中央高地型の気候がみられる。しかし吾妻川沿いの標高600mの谷底から、最高点の浅間隱山の1,756mまでと起伏に富んでおり、地理的条件も変化が大きいため、地区ごとに気候・気象に変化が見られる。降水量も地形により変化するが、年間降水量は関東平野各地域とほぼ等しい。降水量の年変化は日本海側と異なり冬季に少なく夏季に多い。

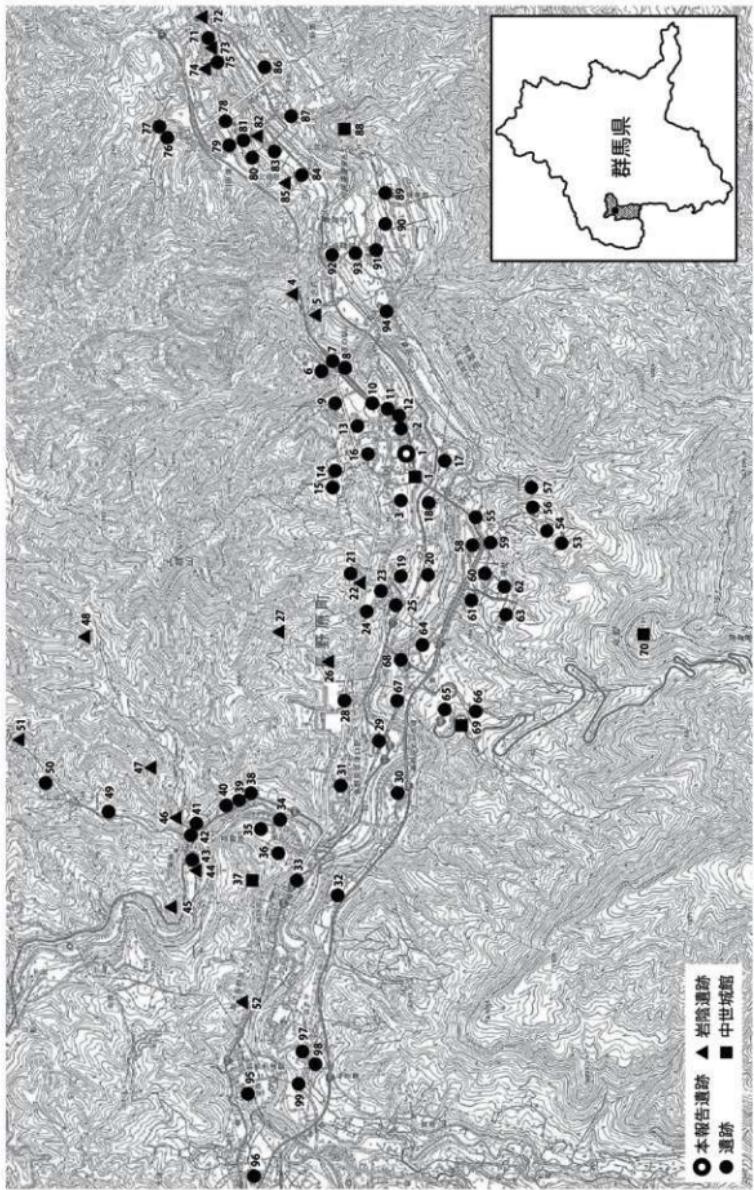
今回報告する林中原I遺跡は町域北部の吾妻川流域帶にあり、吾妻川左岸の上位段丘上に立地している。調査地点の標高は626m位である。

### 第2節 周辺の遺跡

長野原町における遺跡の調査は、昭和29年に行われた勘場木遺跡の調査を始めとして、昭和38・47・48年には群馬県による分布調査が行われ、昭和53年には石畠I岩陰遺跡が発掘調査された。本町における遺跡分布状況は昭和48年に群馬県教育委員会刊行の『群馬県遺跡地図』に依っていたが詳細な遺跡の分布の把握は不十分であった。その後、町教育委員会は県教育委員会文化財保護課の指導のもと、昭和62年度から3ヶ年かけて、全町を対象とした遺跡詳細分布調査を実施し、199の遺跡包蔵地を確認した<sup>(1)</sup>。また平成6年度から八ツ場ダム建設事業に関連した工事用進入路や水没地域の工事に対応して(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団が継続して調査を実施しており、新たな包蔵地の発見や遺跡名の変更などの必要性から平成14年3月と

第17図 連続開拓の河岸段丘分布図 (1/25,000)





第18図 通路の位置と周辺の遺跡 (1/25,000)

第4表 周辺の遺跡（遺跡番号は第18図と対応）

No.	遺 跡 名	町 里	種 別	時 代	概 要	出 収
1	林中原Ⅰ遺跡	45	集落跡 城壁跡	縄文・平安・中世 近世	本遺跡、昭和37年度（群大）、平成14～22・30・31年度（町）、平成16・19～21・30年度調査（事）。縄文中期後半～後期の拠点集落、縄文前期後半住居・土坑、中世の「城址」。竪穴式住構、区画溝、柱建物跡。	文献1.2.21.4.16～22,31.39, 43.45,55.66.69.94.102,103, 210,211,150,177,205,206～ 210,219,230,236,238,247 田中原Ⅰ遺跡
2	林中原Ⅱ遺跡	46	集落跡 散布地	縄文・弥生・平安 中世・近世	平成15～19・21・22・29年度（町）、平成16～20・21年度調査（事）。縄文中期中葉～後期前段の拠点集落、竪坑8基。弥生前期～中期前半土坑・内舟塚墓。中世前半住居跡4軒。中近世掘立柱建物跡。	文献2.14.16～18,22,23.31, 36,45,55.66.69.104.109.111.112, 154,167.170.205.209.210, 237.238.254 田中原Ⅱ遺跡
3	林宮原遺跡	48	集落跡	縄文・古墳・平安 中世	平成14～16・18～20・24年度調査（町）、平成24・27年度調査（事）。縄文中期～後期前半住居跡1軒。平安住居跡、土坑、中近世掘立柱建物跡。	文献1.2.12.14～16.18～20, 24.45.153.217.213.26.241 「飛鳥遺跡図」No.3127 田宮原遺跡（神社前遺跡）
4	久森沢Ⅰ岩跡場	53	その他	不明	羽原遺跡、下陰沢3号所にわたる。	文献2
5	久森沢Ⅱ岩跡場	54	その他	不明	羽原遺跡。	文献2
6	立馬Ⅰ遺跡	37	集落跡 墓	縄文・弥生・平安 中世・近世	平成13・14・17年度調査（事）。縄文早期前半住居跡、縄文初期多窓墓、明治中期住居跡、弥生中期住居跡、櫛表墓。平安住居跡のはほか、縄文・平安の墓じまい6多室。	文献1.2.82.90.93.112, 123,189.202.203.206.233
7	立馬Ⅱ遺跡	213	集落跡	縄文・弥生・平安	平成14年度調査（事）。縄文中期前段～後半住居跡11軒。縄文早期後半層遺物、縄文～平安を除く6多室。	文献90.93.104.120.203.234
8	立馬Ⅲ遺跡	215	集落跡	縄文・平安	平成19年度調査（事）。縄文早期前半中心とする集落跡。縄文住居跡5軒、縄文六状遺構2軒のはほか土坑・土竪坑など。平安土坑・土竪坑など6多室、中近世の土坑・溝。	文献90.93.135.189.208
9	花畠遺跡	205	集落跡	縄文・平安	平成10年～12年度調査（事）。平安住居跡の無、築堤・六角形多面積石柵。	文献82.90.114.199～201
10	東原Ⅰ遺跡	38	集落跡 散布地	縄文・平安・近世	平成17・18・24・26年度調査（町）、平成20年度調査（事）。縄文前期～中期後期の廃しへ、土坑、平安住居跡。	文献1.2.17.18.28.32.142.209, 237
11	東原Ⅱ遺跡	39	集落跡 散布地	縄文	平成20・30年度調査（事）。縄文後期土器群、黒曜石出土。	文献 2.14.2.18.209.219.237.247
12	東原Ⅲ遺跡	40	集落跡 散布地	平安・近世	平成15・18年度調査（町）、平成20・21年度調査（事）。縄文早期～後期の土器・土坑・土竪坑、近世掘立柱建物跡、ピット廻。	文献1.2.14.2.19.20.210.237, 238
13	上原Ⅰ遺跡	41	集落跡 散布地	縄文・平安・近世	平成18・23・24年度調査（事）。縄文・平安・24年度調査（事）。縄文早期末～中期前半住居跡、中近世半干拓跡、弥生前期前半土坑、古墳前期後半住居跡、中期土坑。	文献1.2.18.26.31.111.112, 114.153.213.241
14	上原Ⅱ遺跡	42	散布地	平安	平成19年～20年度調査（事）。平成21年～22年度調査（事）。縄文中期前半層遺構、砂押・埋葬、土坑・土竪坑など。	文献1.28.31.180.205
15	上原Ⅲ遺跡	43	集落跡 散布地	縄文・弥生・平安	平成18年～20年調査（事）、平成21・22年度調査（事）。縄文中期前半層遺構、砂押・埋葬、土坑・土竪坑、平安初期治山工場、住居跡、燒土構造、築下穴など。	文献2.16.216.242.244
16	上原Ⅳ遺跡	44	集落跡 散布地	縄文・平安・近世	平成14・18・20・21年調査（事）、平成15・21年調査（事）。縄文中期前半層遺構、砂押・埋葬、土坑・土竪坑、後南湖石住居跡、配石遺構、廻転・廻転式立派な柱建物跡、平安住居跡、瓦世溝、下脚、陶物の底、器具、石鉢、陶器。	文献2.12.18.20.31.99.102, 109.112.128.146.204.210, 233.238
17	下田遺跡	47	集落跡 その他	縄文・平安・中世 近世	平成5・7・9・25・26・28～31年度調査（事）。縄文時代の掘立柱建物跡、中世の土壌塙、天明御浜に埋没した民家、廻転など。	文献1.27.39.90.114.159.175, 214.215.217～220.242.243 「飛鳥遺跡図」No.3126 下田原（下山）遺跡
18	下原遺跡	204	集落跡 その他	縄文・弥生・古墳 平安・中世	平成12・13・15・16・19年度調査（事）。縄文時代の柄垂型住居跡、古墳前期前半住居跡、平安住居跡、中世の廻転跡、中世の廻転跡3面など。	文献68.73.90.112.115.124, 168.201.202.204.205.218
19	中郷Ⅰ遺跡	49	散布地	平安・中世 近世	平成18・23・25・28年調査（事）。平成11・29年度調査（事）。縄文早期後半層の柱建物跡、平安住居跡、中近世の土壌塙など。	文献1.2.18.31.44.169.200, 218～220年と見える理塙跡。
20	中郷Ⅱ遺跡	203	その他	縄文・平安・中世	平成11～13・15～28～30年調査（事）。平安集落跡、河川泥流で埋没した廻転跡、廻転式立派な柱建物跡、平安住居跡、中近世の土壌塙など。	文献1.2.18.31.44.65.69.72.85.86, 151.116.177.178.201.202, 204.217～219.230.234.235
21	二反沢遺跡	52	寺 今	中世・近世	平成12年度調査（事）。平成28年度（度）。中世の石垣を伴う造城跡（旧大聖院空堀跡）。近世の埋蔵。	文献2.23.94.121.201.204 「飛鳥遺跡図」No.3126
22	瀬津原古跡	55	その他	近世	羽原遺跡、「瀬津原」の堂宇と石仏群。平安～28年度（度）。	文献2.34
23	縄木Ⅰ遺跡	50	集落跡 散布地	縄文・平安	平成10・21年度調査（事）。平安住居跡、カマド屋、土坑。堆积。江戸櫻井建物跡など。	文献2.1.21.24.25.26.27.28.29.30
24	縄木Ⅱ遺跡	51	集落跡	縄文・平安・中世 近世	平成12年度調査（事）。縄文後期～後期、共生中期の含膏層。	文献1.2.18.31.44.65.69.72.73, 214.215.217～220.242.243
25	縄木Ⅲ遺跡	202	散布地	縄文・弥生・平安 中世	平成10年度調査（事）。縄文後期～後期、共生中期の含膏層。	文献 90.113
26	御前山Ⅰ遺跡	57	その他	中世	御前山Ⅰ遺跡。	文献2
27	難々沢Ⅰ遺跡	56	その他	縄文	羽原遺跡。打削石斧出土。	文献2
28	辛津遺跡	62	集落跡 近世	縄文・弥生・平安 中世・近世	平成21年度調査（事）、平成8・9・14・17・18年度調査（事）。縄文中期前半～中期後半の柱建物跡、平安住居跡、廻転式立派な柱建物跡。	文献2.29.90.94.127.197.198 206
29	尾坂遺跡	201	集落跡 その他	縄文・弥生・平安 中世・近世・近代	平成23年度調査（事）、平成8・7・11～18・23・25・26・28～30年度調査（事）。縄文中期前半～中期後半の柱建物跡、平安住居跡、中世の廻転跡、廻転式立派な柱建物跡。	文献44.73.90.95.109.111, 112.114.155.163.180.187, 200.207～212.214.25.217 ～219.220.235.237～239, 240.241.246.247
30	久々戸Ⅰ遺跡	200	集落跡 その他	縄文・弥生・平安 近世	平成19年度調査（事）、平成9～12・14・15・27・28年度調査（事）。縄文中期前半～中期後半の柱建物跡、平安住居跡、廻転式立派な柱建物跡。	文献1.2.19.59.65.68.69.72.73, 75.80.90.101.111.115.116.157, 186.196.198～200.204.216, 217.225.230.233.244.245, 253.269
31	長野原一木松遺跡	63	集落跡	縄文・弥生・古墳 平安・中世	平成22年度調査（事）、平成6～29年度調査（事）。縄文中期後半～後期の廻転跡を中心とする拠点集落跡、平安住居跡、中世の廻転式立派な柱建物跡など多数発見。	文献1.2.23.67.81.82.88.90, 94.95.101.107.109.110.113, 127.130.134.131.147.148, 151.152.153.154.155.156.157, 222.224.234.238「一本木松遺跡」
32	向原遺跡	75	集落	縄文・弥生・平安	平成5・19・20年度調査（町）。	文献2.16.19.37.59.82.109.112, 224
33	町遺跡	219	集落跡 その他	近世	明和2年度～平成14・15・25～26・28年度（町）平成23～25・30年度調査（事）。大原町後半に埋没した集落跡・生産跡、長野原原。	文献1.32.37.46.152.180.212 ～214.219.240～242.247
34	鶴木Ⅰ遺跡	72	集落跡 その他	縄文・平安・近世・近代	平成16・22・24・25・26（町）。近世の石建物跡、天明礎、清、ヤックラ、復元清、古代ガードー橋台石柱。	文献2.16.23.33.72
35	鶴木Ⅱ遺跡	73	散布地	縄文・平安	男鹿原・雄勝郡集。平成26年度調査（町）。	文献2

No.	道 路 名	町名	種 别	時 代	概 况	備 考
36	船木田道路	74	散布地	周文	石跡・石路探査。	文献2
37	長原城跡	85	城跡跡	中世・近世	平成23年度調査(事)。天明泥流下の烟跡。	文献2,23,49,50,52,55,74,150,212,240
38	東日漁 I 道跡	64	散布地	周文		文献2
39	東日漁 II 道跡	65	散布地	周文		文献2
40	東日漁 III 道跡	66	散布地	周文・近世	平成24・25年度調査(町)。チャーフ片探査。近世大明礬3面。	文献2,23,8
41	日ノ上 I 道跡	67	散布地	周文・平安	石井探査。	文献2
42	日ノ上 II 道跡	68	散布地	周文		文献2
43	日ノ上 III 道跡	69	散布地	周文・平安		文献2
44	日向川沿岸	82	その他	不明	岩陰2カ所にわたる。	文献2
45	油池川沿岸	81	その他	周文・共生	岩陰4カ所にわたる。	文献2
46	駒家以/佐藤郡	80	その他	周文・共生	平成26年度より調査が継続中(国学院大學)。岩陰6カ所にわたる。	文献2,112,187～194
47	岸ノ沢川沿	79	その他	不明		文献2
48	駒倉川沿	78	その他	不明		文献2
49	火打花 I 道跡	70	散布地	周文・近世	平成22年度(町)。大明礬に遡る可能性のある石垣を検出。	文献2,12,46
50	火打花 II 道跡	71	散布地	不明	石碑出土。	文献2
51	仙下河跡	76	その他	不明		文献2
52	遠見川沿岸	83	その他	不明	岩陰2カ所にわたる。	文献2
53	上野 I 道跡	21	集落跡	周文・平安	平成29・30年度調査(町)。平安時代の住居跡、廻し穴など。	文献2,36,40
54	上野 II 道跡	22	集落跡	周文・平安	平成29・30年度調査(町)。廻文中期の住居跡、平安時代の住居跡、廻し穴など。	文献2,36,40
55	横壁勝沼 I 道跡	23	集落跡	周文・共生・平安・中世・近世	平成6・7年度調査(事)。廻文土竪坑数。稲先形土竪坑1点表様。平安初期の1軒耕跡。	文献2,12,90,114,151,202,203,3318 近隣道路地図 No.3318 近隣道路地図(東平道跡)
56	横壁勝沼 II 道跡	223	その他	平安	平成29・30年度調査(町)。平安時代の廻し穴。	文献36,40
57	横壁勝沼 III 道跡	224	その他	平安・近世	平成29・30年度調査(町)。平安時代の住居跡、廻し穴、近世の石垣など。	文献36,40
58	横壁中村道跡	24	集落跡	周文・共生・平安・中世・近世	平成8～18・29年度調査(事)。廻文中期後半～後期を中心とした孤立集落跡、平安住居跡も含めて250m以上を検出。中世近世柱立建物跡、廻石建物、土塁跡など多數検出。	文献1,2,40,67,68,73,86,88,90,94,95,102～104,107～112,115,117,119,122,126,131,132,138～141,144,148,151,180,198～207,219,223,224,226～228,231～234,246,247～250,251 近隣道路地図 No.3118 近隣道路地図
59	山根 I 道跡	26	散布地	周文・平安	平成28・29年度調査(町)。廢製石所、石礫、石棒などの石類類。	文献2,23,33,6 近隣道路地図 No.3118 近隣道路地図
60	山根 II 道跡	28	散布地	平安・近世	平安時代の散布地。	文献2
61	山根 III 道跡	29	集落跡	近世	平成16・17・29～31年度調査(町)。平成10・15・18・20・29年度調査(事)。廻文中期後半柱立住居跡、土塁、中近世の廻など。	文献2,14,17,36,40,42,90,95,114,128,202,207,246
62	山根 IV 道跡	30	集落跡	周文・平安	平成19・29年度調査(町)。廻文中期後半の住居跡、土塁など。	文献2,36,40,46
63	山根 V 道跡	225	散布地	周文	平成30年度調査(町)。水堀遺構、廻文時代中期の土器。	文献2,40
64	西久保 I 道跡	31	集落跡	周文・共生・平安・中世・近世	平成6・10・12・29・29年度調査(事)。廻文中期末葉の散石住居跡、水堀遺構など。	文献2,90,109,114,172,199,201,218
65	西久保 II 道跡	32	その他	周文・平安・近世	平成29年度調査(町)。平安時代の廻し穴。	文献2,34,36,40
66	西久保 III 道跡	33	散布地	不明		文献2
67	西久保 IV 道跡	216	集落跡	周文・平安・近世	平成17・26年度調査(町)。平成12・21・23・30・31年度調査(事)。廻文初期前中期柱立住居跡、平安時代住居跡、大明泥流下の廻跡、泥流の大きさを確認。路溝・溝・円形平坦地。	文献2,32,146,180,210,212,220,237,239
68	西久保 V 道跡	222	集落跡	周文・共生・中世・近世	平成27年度調査(町)。平成28・29年度調査(事)。大明泥流下の水田跡、廻文中期後半～近世中期前葉の廻合居住。	文献33,172,217,218,245
69	御津城跡	35	城跡跡	周石器・廻文・中世	周石器、廻文、中世の廻跡、廻石、廻石、廻石輪、廻石、鐵製品、銅製品、石臼などを検出。	文献1,2,45,50,52,55,61,68,74
70	舟引城跡	34	城跡跡	中世	土器や水甌が遺存。	文献1,2,49,50,52,55,74
71	石畠道跡	210	散布地	周文・共生・近世	平成7・9・10・29・31年度調査(事)。大明泥流下の廻。廻文前期住居跡、廻生後期住居跡。	文献2,73,114,182,217,218,230
72	石畠 I 岩陰	9	墓	周文・中世・近世	明和9～21年度調査(事)。平成29～31年度調査(事)。廻文初期～中期の土器片、廻生代人骨など。	文献53～55,59,60,70,71,90,111,182,189,218～220,247
73	石畠 II 岩陰	10	その他	不明	岩陰廻跡、人骨など。	文献2
74	二社平岩跡	11	その他	不明	岩陰廻跡。	文献2
75	二社平道跡	209	散布地	周文・共生・平安・近世	平成8・10・28・29年度調査(事)。共生後期土器跡。大明泥流下の廻。	文献1,14,182,217,218,245
76	御手 I 道跡	1	散布地	周文・平安	廻文後期柱立地。	文献2
77	御手 II 道跡	2	散布地	周文	廻文中期柱立地。	文献2
78	三平 I 道跡	3	集落跡	周文・平安・近世	平成20・26年度調査(町)。平成10・16・17・24・25・30年度調査(事)。廻文時代中期～前期の集落跡、共生時代前葉～中期の土器。平安時代の廻跡、廻生代人骨、廻石、廻石輪の柱立建物跡。廻生金具をはじめとして、各時代とも豊富な廻跡と其共性が認められる。	文献2,20,27,32,90,114,125,174,189,205,206,213,214,219,242,244,246
79	三平II道跡	4	集落跡	周文・平安	平成16年度調査(事)。廻文初期～中期の土器・石器・廻石・廻石輪・廻石・廻石輪などを含む中世柱立建物跡。	文献2,90,93,125,189,205
80	上ノ平 I 道跡	5	集落跡	周文・共生・平安・中世・近世	平成18・19・28年度調査(事)。廻文中期中葉～後期初回柱立跡・廻し穴多数。平安住居跡・廻石・廻石輪など。	文献2,89,92,95,103,133,156,162,207,208,321,235,245,246
81	上ノ平 II 道跡	6	散布地	周文・平安	廻文・平安時代の散布地。	文献2
82	三ツマ岩陰	12	その他	近世	平成28年度(事)。岩陰廻跡。江戸時代中期以前の廻跡。堂平・石仏群は平成20年度に本移設。	文献2,181,217,245
83	東宮道跡	208	集落跡	周文・近世	平成12年度調査(町)。平成7～9・19・21・26～31年度調査(事)。廻文中期～後期の大規模集落。天明泥流下の廻跡、廻石跡、廻跡など。	文献1,11,14,143,145,158,160,200,201,202,203,204,205,206,207,208,209,210,211,212,213,214,215,216,217,218,219,220,221,222,223,224,225,226,227,228,229,230,231,232,233,234,235,236～240,243～245,247,250,255,257,259,262,266,268
84	西宮道跡	7	集落跡	周文・平安・近世	平成20・26～31年度調査(事)。天明泥流下の廻跡と付属建物。廻流埋没5面以上。復旧10面木、セッタク、小堀など。	文献2,111,161,178,180,209,215～220,237,243～245,247,250,256,257,266

No.	遺跡名	町名	種別	時代	概要	備考
85	西宮陪塚	13	その他	近世	平成26年度調査(事)。宮殿跡、石造物を掘るために土廻・陶磁器・瓦転びなどを検出。	文献2.161.243
86	下原遺跡	217	集落跡	縄文・弥生・平安・中世・近世	平成27～29・31年度調査(事)。縄文中期の土坑、平安時代の住居跡、天明配達手の壺・壺など。	文献166.176.180.216～218.245.252
87	西ノ上遺跡	212	その他	縄文・中世・近世	平成18・27年度調査(町)、平成14・27・29・30年度調査(事)。人形配達手の壺・壺、平安時代の壺穴、発生時代の土坑。	文献18.32.73.90.116.171.203.216.218
88	金花山野跡	207	城館跡	中世	平成12年度調査(町・事)。壺切などを確認。明治期の「川原瀬真岡」に「トリデア」との記載あり。	文献2.18
89	川原瀬中原Ⅰ遺跡	16	散布地	縄文	平成19年度調査(町)。チャート片出土。	文献2.19 田中原Ⅰ遺跡
90	川原瀬中原Ⅱ遺跡	18	散布地	縄文	平成17年度調査(町)。	文献2.17 田中原Ⅱ遺跡
91	川原瀬中原Ⅲ遺跡	19	集落跡	縄文・平安・近世	平成28年度調査(事)。縄文中期後半住居跡・遺物含層、平安の壺穴。	田中原Ⅲ遺跡
92	前原遺跡	221	その他	近世	平成29年度調査(事)。天明配達手の壺。	文献2.18
93	石川原遺跡	17	集落跡	縄文・平安・中世・その他の近世	平成20・25～31年度調査(事)。縄文中期～晩期の大規模聚落跡。後期の丸太柱構造など。天明配達手の壺切、水垢構造など。	文献2.19.18.41.85.209.216～220.237.243～245.247.251.258.266.北八幡(20)と統合
94	川原瀬勝沢遺跡	206	散布地	その他の近世	平成9・15・16・28・30・31年度調査(事)。縄文晩期の理塙2基。平安住居跡3軒。天明配達手の壺切。	文献69.73.84.85.90.12.114.118.173.180.204.205.217.232.233.234.244
95	小林家屋敷跡	211	城館跡	近世	平成14～30年度調査(町)。天明配達手の壺敷、礫石建物、土蔵。石垣など。分離する小林の左右家屋敷の一部。	文献11～13.36.69.72～74.85.91
96	坪井遺跡	86	集落跡	縄文・弥生・古墳・中世	平成3・10・12・13・24・26・29年度調査(町)。縄文前期後期花崗岩下層1式、摩山式土器。中期以下の陶器の集落跡。平安時代集落。	文献2.45.12.4.10～12.26.28.32.36.49.63.64.67.71.80.82.87.95.109
97	長崎I遺跡	126	集落跡	平安	平成15年度調査(町)。平安時代の住居跡・土坑。	文献2.14
98	長崎II遺跡	127	集落跡	縄文・平安	平成2・3・21・28・30年度調査(町)。縄文時代の住居跡・土坑、平安時代の住居跡。	文献2.12.22.33.39.59
99	旧新井村跡	143	村落跡	近世	昭和55年度調査(町)。天明配達手に埋没した村落。廃敷跡や用水池などを検出。南側丘地上に墓地が残る。	文献2.56.58.69.72.73.100.105

平成 16 年 4 月に遺跡地図の改訂を実施した。その後も小さな変更を繰り返しているが、令和 4 年 2 月現在で 226 の包囲地（指定史跡等を含む）が把握されている<sup>(2)</sup>。

本遺跡群の位置する吾妻川流域地域の東部地区はダム関連事業と直結している地域で、先述した（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団（平成24年4月に公益財团法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に名称変更）が常時数力所の発掘調査を継続して実施してきた地域である。町教育委員会でも本地域でこれまで生活再建事業として水源地域対策特別措置法（以下、水特法）および利根川・荒川水源地域対策基金（以下、基金）関連事業を実施してきたが、ダム本体の完成間近であり、発掘調査は令和2年9月末で完了した<sup>(3)</sup>。

本遺跡群を含む吾妻川流域東部地区には多くの遺跡が分布している（第18図・第4表）。遺跡は基本的に吾妻川とその支流沿いの河岸段丘上に占地しているが近年丘陵上にも遺跡が発見されはじめ、これまで空白だった時期を埋める遺構も検出されている。ここでは調査を実施した遺跡を中心に当該地域の遺跡を概観したい。

## （1）旧石器時代

これまでのところ長野原町では旧石器時代の遺跡は確認されていない。吾妻川流域は前述した応桑泥流やAs-YPKが厚く堆積しており、それより下位の発掘調査が困難な状況がある。遺構外の遺物としては柳沢城跡（69）で細石器文化に伴うと考えられる珪質頁岩製のスクレイパーが1点出土している。吾妻郡内においても旧石器時代遺跡は高山村に所在する新田西沢遺跡<sup>(4)</sup>でしか確認されていないという現状である。

このことは長野県側の浅間山麓でも同様で、厚く堆積した火山噴出物により旧石器時代の発掘調査は困難である。長野県側の浅間山麓付近で発掘調査されている旧石器時代遺跡は、いずれも千曲川を挟み浅間山麓の対岸側で確認されている。

## （2）縄文時代

縄文時代になると遺跡数も膨大となる。吾妻川及びその支流沿岸の下位段丘面は低調だが主として中・上・最上位河岸段丘および丘陵部に集落が展開する。

### ①草創期～早期

現在のところ、長野原町で人々の生活が確認されているのは草創期末～早期初頭からである。該期の遺跡として石畑・岩陰（72）がある。昭和53年に群馬県教育委員会により一部調査され、中期を除く草創期～晩

期の土器片・獸骨・人骨などが出土している。特に草創期～早期の土器片には表裏縄文・撫糸文・押型文が認められる。平成26年度から國學院大學により學術調査が実施されている居家以岩陰群（46）でも草創期～晚期の土器片・石器・獸骨・人骨が出土している。平成28～31（令和元）年度の調査では岩陰部の灰層中から遺存状態の良い早期中葉の埋葬人骨が20体確認されており、その数は今後も増えるだろう<sup>(5)</sup>。また横壁勝沼I遺跡（55）では草創期の槍形尖頭器が表採されている。近年、丘陵上での調査機会も増え、榎木II遺跡（24）、立馬I遺跡（6）、立馬III遺跡（8）で早期の集落が検出されている。榎木II遺跡では早期前半撫糸文期の住居跡が31軒検出され、遺構外で表裏縄文・押型文・沈線文・条痕文土器片も出土している。該期の住居跡検出数では県はもとより全國的にも有数である。また立馬I遺跡では撫糸文期の住居跡の他、沈線文（田戸下層式）期の住居跡も検出され、遺構外では押型文・条痕文をはじめ晚期までの土器片が連続と出土している。立馬III遺跡では子母口式や稻荷台式、沈線文土器などの住居跡が検出されている。さらに同時期の遺物は、調査事例の多い東部地区に偏っており、本遺跡のほか、三平I遺跡（78）、三平II遺跡（79）、花畑遺跡（9）、中棚I遺跡（19）、幸神遺跡（28）、横壁中村遺跡（58）、長野原一本松遺跡（31）、西部地区では坪井遺跡（96）で確認されているのみである。それまでの岩陰での生活から早期前半撫糸文期になると丘陵上のオープンサイトでの集落に移行していくようである。また石畠I岩陰に代表される岩陰遺跡は丘陵部の自然に迫り出した岩場を利用して居住・墓域とするものであるため、県内では分布・遺跡数ともに限定される。吾妻川流域はそのほとんどが河川や渓沢に沿う山岳傾斜地帯であることから岩陰遺跡の立地する条件を満たしているといえよう。岩陰遺跡は長野原町域で21遺跡34ヶ所確認されており、その大半がこの東部地区に集中している。この岩陰遺跡の多さは本町の原始古代の大きな特徴の一つである。

### ②前期

前期の遺跡も少ないが漸増の傾向にある。立地は丘陵上が多いが、河岸段丘へも集落が広がる傾向が見受けられる。前期前半の遺跡は東部地区より西部地区で顕著であったが近年の調査で東部地区的該期の状況が明らかとなってきている。坪井遺跡では前期初頭（花積下層I式期）の住居跡と土坑が検出され、土坑内で花積下層I式と長野県で主体的な塙田式との共伴が初めて確認された。平成30年度に調査した赤羽根遺跡では、当該期の石器製作工房1軒と土坑4基が検出されている<sup>(6)</sup>。暮坪遺跡では前期前葉（二ッ木式期）の住居跡<sup>(7)</sup>、長歛II遺跡（98）では前期前葉（関山式期）の土坑と前期前葉（黒浜式期）の住居跡土坑が検出されている。東部地区では上原I遺跡（13）で前期初頭の住居跡が15軒検出され、花積下層I式土器が主体で塙田式土器が共伴するかたちで追認されている。榎木II遺跡で前期前葉（黒浜式期）の住居跡が検出されている他、横壁中村遺跡では埋没河道で少量の破片が認められている。前期後半は榎木II遺跡、三平I遺跡、林中原I遺跡（1）で前期後葉（諸磯式期）の住居跡や土坑、川原湯勝沼遺跡（94）で前期末葉の土坑が検出されている以外は遺構外の出土である。

### ③中期

中期の遺跡は他時期に比して最も多い。中期前半は県内でも極めて限られた検出事例で少ないが、丘陵上あるいは最上位段丘に占地しているようである。後半になると河岸段丘の平場を中心として積極的な居住区域を展開している。中期前半の集落は近年東部地区的丘陵上あるいは最上位段丘に立地する遺跡で発見されはじめている。中期初頭（五領ヶ台式期）の遺跡は榎木II遺跡で住居跡3軒、上原II遺跡（14）で屋外焼土遺構を伴う竪穴状遺構が3基・土坑21基、上原IV遺跡（16）で土坑1基が確認されている。中期前葉（阿玉台式期）の遺跡は立馬II遺跡（7）で五領ヶ台式期～阿玉台式期の住居跡11軒・土坑100基ほど、林中原I遺跡で住居跡が1軒、幸神遺跡で土坑が検出されている。横壁中村遺跡では中期中葉（勝坂式期）の住居跡、西久保I遺跡（64）では同時期の土坑が確認されている。中期中葉（焼町類型期）の遺跡は幸神遺跡で焼町土器の深鉢を炉体土器とした住居跡、林中原II遺跡（2）と横壁中村遺跡で焼町土器を主体とする住居跡がそれぞれ1軒ずつ確認されている他、上ノ平I遺跡（80）では同時期の住居跡が12軒検出された。今年度、町営横壁土地

改良事業の工事中に中期前半の水場遺構が発見され、山根V遺跡（63）を追加した。全国的にみても古手の水場遺構である。西部地区では観奈遺跡<sup>(8)</sup>で中期前半の土坑8基、クヌギII遺跡<sup>(9)</sup>で中期中葉の埋設土器が検出されているのみで、山岸II遺跡<sup>(10)</sup>で少量の破片が認められたぐらいである。中期後半になると列石を伴う拠点集落が吾妻川流域地帯に分布を広げて出現する。長野原一本松遺跡、横壁中村遺跡を筆頭として近年の調査により林中原I遺跡、林中原II遺跡、東宮遺跡（83）、石川原遺跡（93）が新たに加わり、西部地区では坪井遺跡に代表される。遺跡を大規模に調査している前6者に共通するのは中期後半に引き続き、後期前半（～加曾利B式期）まで継続して集落が営まれていることである。また坪井遺跡は前2者に比して規模は小さいが、弧状石列1基、住居跡19軒（拡張住居含む）、土坑49基が検出されている。土器は大きく4系統（①加曾利E式土器<北関東系>、②曾利・唐草文系土器<信州系>、③「郷土」式土器<①と②の融合型式>、④柄倉II式土器<越後系>）が認められ、特に③の「郷土」式土器が該期の主体となる時期であり、環浅間山地域に分布し、小文化圏を形成していることが最近分かってきている。この坪井遺跡出土土器の傾向は前6者出土土器、さらに県指定史跡「勘場木石器時代住居跡」<sup>(11)</sup>出土土器にも看取される。その他、向原遺跡（32）では中期末～後期初頭の敷石住居跡が検出されており、立地から拠点集落のひとつになる可能性が高い。最近の調査では尾坂遺跡（29）で中期後半の住居跡が6軒検出されており、うち3軒が敷石住居と確認され、敷石住居出現期の可能性がある。尾坂遺跡の対岸に位置する久々戸遺跡（30）でも中期末の遺存状態が良好で古手の敷石住居が検出され、町では平成30年度に住民総合センターエントランス床下へ移築保存を実施した。

#### ④後期

後期の遺跡は規模は縮小するものの吾妻川流域の比較的広い範囲に分布する。上記の中期後半の遺跡の他、西部地区では本町で初めて敷石住居跡を検出したクヌギII遺跡、向原遺跡、滝原III遺跡<sup>(12)</sup>、古屋敷遺跡<sup>(13)</sup>、東部地区では上ノ平I遺跡、上原IV遺跡、林中原I遺跡、石川原遺跡に代表される。後期初頭（称名寺式期）～後期中葉（加曾利B式期）までの敷石住居跡、掘立柱建物跡は長野原一本松遺跡、横壁中村遺跡で多く検出されている。長野原一本松遺跡では壁に板材の痕跡を遺し、方形周縁を明瞭に遺す柄鏡形敷石住居跡が確認されている。また横壁中村遺跡では主軸全長9mにも及ぶ大形の柄鏡形敷石住居跡や配石墓群が検出されている。その他、林中原I遺跡、上原IV遺跡、上ノ平I遺跡でも後期初頭～前葉（称名寺式期～堀之内式期）の敷石住居跡等が検出されている。後期後葉（高井東式期）の住居跡は横壁中村遺跡で3軒、久々戸遺跡で土坑が検出されているのみである。石川原遺跡では後期後半～晚期前半の住居跡、配石遺構、水場遺構が多数検出されている。後期終末（安行1・2式期）に関しては横壁中村遺跡や立馬I遺跡で土器片が出土しているがいずれも遺構外である。

#### ⑤晚期

晩期に関してはこれまで石畑I岩陰で土器片が出土している他、横壁中村遺跡で晩期末葉（千綱式併行）の包含層が確認されているだけであった。遺構の検出は晩期前半は前述の石川原遺跡で確認されていているものの、依然少なく、後半（特に末葉～弥生中期）に関しては最近の調査で増えつつある。立馬I遺跡では晩期末葉の住居跡1軒、横壁中村遺跡では晩期末葉の住居跡2軒、埋甕1基、上原IV遺跡・西ノ上遺跡（87）では土坑1基が検出されている。立馬I遺跡では南信松本盆地に分布する女鳥羽川式土器が出土している。さらに川原湯勝沼遺跡からは該期の土坑が数基検出され、その中の1基は壺棺再葬墓であることが判明している。同一土坑に2個体が埋置されており、ひとつが中沢氏のいう「氷式突帶壺」<sup>(14)</sup>の上半部が逆位に、もう一方は浮線文系の半精製壺が正位の状態で出土している。この壺棺再葬墓は東日本でも最古級として注目されよう。その他、遺構外ではあるが久々戸遺跡で氷式土器の浅鉢、向原遺跡で大洞A式まで遡ると考えられる土器片も確認されている。

### (3) 弥生時代

弥生時代の遺跡は分布調査の時点で後期に属する3遺跡のみであったが、縄文時代晩期末葉から弥生中期前半までの資料が増えてきている。遺跡は丘陵上あるいは最上位段丘に立地する傾向が強く、縄文時代早期や中期前半と共に共通しているようである。東部地区では本遺跡のほか長野原一本松遺跡で中期前半までと考えられる土坑1基、横壁中村遺跡では埋葬（再葬墓か）1基が検出され、東海地方に分布する輕王式土器の甕が出土している。下原遺跡（18）では集石遺構から中期前半を中心とした遺物が認められた。未報告ではあるが、林中原II遺跡では中期前半と考えられる住居跡4軒の他、前期末に遡る土坑墓（再葬墓か）、尾坂遺跡でも前期末の再葬墓と思われる土坑や完形土器2個体を出土する土坑、貯藏穴など、上原I遺跡では前期末の短頭壺を納めた土坑、三平I遺跡では前期末～中期前半の土坑が数基検出されている。西部地区では遺物出土量が少なく時期が判然としないものが多いが、坪井遺跡で中期初頭と考えられる住居跡1軒、土坑が5基、向原遺跡では前期に遡るものも含めて中期前半までの土坑が7基検出されている。遺構外では外輪原I遺跡<sup>(15)</sup>、上ノ平遺跡<sup>(16)</sup>で中期前半までの資料が比較的まとまっている。中期後半に関しては、立馬I遺跡で住居跡2軒と土器棺墓2基を含む土坑が数基、後期に関しては、石畠遺跡（71）で土坑1基が確認されているのみである。分布調査時に居家以岩陰群、寺久保遺跡<sup>(17)</sup>、新田原I遺跡<sup>(18)</sup>で土器片が表採されている他、立馬I遺跡では遺構外で、二社平遺跡（75）周辺で後期～古墳時代前期に比定される土器片が表採されている。

### (4) 古墳時代

これまで遺構外では他時期の遺物に混入するかたちで5世紀後半の土器片は坪井遺跡、長野原一本松遺跡、二社平遺跡などで確認されてきたが、長野原町で古墳時代の集落として把握されている遺跡は皆無であった。平成15年度に最上位段丘面に立地する林宮原遺跡（3）で5世紀末～6世紀初頭の住居跡が1軒検出されたのが初例である。これに統いて平成16年度の調査で川原湯勝沼遺跡で焼土を作った土坑から同時期の土師器と遺構外で剣形模造品、下原遺跡で同時期の住居跡1軒の他、土師器（片）がまとまって出土している。最近の調査では上原IV遺跡でも5世紀後半～6世紀初頭の住居跡が2軒検出されている。これらは吾妻川に直面した最上位・中位段丘面の自然流路あるいはその周辺で出土していることから水に関連した祭祀遺構の可能性が高い。これら4遺跡で検出された遺構は周期的にほぼ合致しており注目される。さらに上原I遺跡で前期と考えられる住居跡からS字状口縁台付甕や埴形土器が出土し、中期の高环を包含する土坑も検出され、これまで空白であった時期の遺構検出事例が徐々にではあるが大規模調査の成果として増えてきている。

また昭和13年に刊行された『上毛古墳綜覧』によれば、大津地区的「鉄塚」、与喜屋地区的「五輪塚」が前方後円墳と報告されている。また昭和11年刊行の『群馬県吾妻郡誌』では林地区の「御塚」が古墳とされ、合計3基が古墳とされている。「五輪塚」は現況で畑としてならされているが、「鉄塚」と「御塚」は円形の形状を保ち、現在は墓地として利用されている。その他、「てつか（てづか）」や林地区中棚にある「砂塚」に関しては『長野原町誌』で「宮内地区的「てづか」は鉄塚の訛音ではあるまいか。鉄塚の地名には城跡や屋敷跡などに多いといわれ、砂塚との対照がおもしろい」とあり、古墳という認識ではないが同じ林地区に少なくとも「塚」と付くものが3基あるということが注目される。いずれも古墳とするには根拠が薄く、今後の調査に期待したい。

### (5) 奈良・平安時代

奈良時代に該当する遺跡は分布調査時の羽根尾II遺跡<sup>(19)</sup>のみで増えていない。これに対して平安時代の遺跡の分布は町内全域に及んでおり、縄文時代とともに本町で原始古代の中心をなす時期である。調査した遺跡を挙げれば、西部地区では、坪井遺跡、向原遺跡、長欽I遺跡（97）、長欽II遺跡、山岸II遺跡、東部地区では東宮遺跡、上ノ平I遺跡、三平I遺跡、下原湯遺跡（86）、西ノ上遺跡、石川原遺跡、川原湯勝沼遺跡、立馬I遺跡、東原I遺跡（10）、榆木I遺跡（23）、榆木II遺跡、花畠遺跡、下原遺跡、中棚I遺跡、上原I遺跡、上原III遺跡（15）、上原IV遺跡、林宮原遺跡、横壁勝沼I遺跡、横壁勝沼II遺跡（57）、山根III遺跡、山

根IV遺跡（62）、上野I遺跡（53）、上野II遺跡（54）、横壁中村遺跡、長野原一本松遺跡、尾坂遺跡などから住居跡や掘立柱建物跡、陥り穴などが検出され、該期集落として把握されている。この中で榎木II遺跡では9世紀後半～10世紀前半の住居跡が38軒、竪穴造構3基が検出され、「長」・「三家」の墨書きと刻字「称」をもつ石製紡錘車、上ノ平I遺跡では住居跡が20軒検出され、県内2例目となる皇朝十二銭「貞觀永寶」が出土しており注目される。この他、土原III遺跡では鍛冶工房跡1軒・住居跡11軒・焼土遺構6基・竪穴29基など、中棚I遺跡では住居跡4軒が検出され、そのうち全容が判明した2軒は一辺が6mを超える大形住居であった。このうちの1軒からは「赤」の墨書きが大量に出土しておりその性格が注目される。

## （6）中世

吾妻流域地帯には中世城館跡が点在している。その立地は当時の道との関連性が強く、分岐点の丘陵上など交通の要衝に多い。西から羽根尾城跡<sup>(20)</sup>、長野原城跡（37）、丸岩城跡（70）、柳沢城跡、金花山砦跡（88）などがあり、その他に林城跡（1）、林の烽火台などといわれている箇所も存在する。これらはいずれも山城である。この中で丸岩城は「丸屋の要害」として『加沢記』にも記され、節理の発達した岩山の山頂に立地している。この丸岩城跡の北西麓に里城としての柳沢城跡が位置し、山城部と丘城部から成る本城を構えている。この柳沢城跡の一部が発掘調査されており、郭跡・堀切・土居・礎石建物・腰曲輪・石組遺構・溝・柵列などが検出されている。遺物のほとんどが礎石建物から出土しておりかつ豊富である。陶器・鉄製品・銅製品・石臼などが出土しており、特に陶器類は常滑系大壺・古瀬戸三耳壺・古瀬戸菊皿・珠洲系陶器壺の他、輸入陶磁器である景徳鎮窯梅瓶などが準完形で出土している。また最近の調査で林中原I遺跡範囲内に林城跡が確認され、その範囲や構造が明らかになりつつある。金花山砦跡は明治期の絵図『川原湯真図』に「トリデアト」の記載があったことから平成12年度に町教委と事業団で踏査して堀切などを確認した。

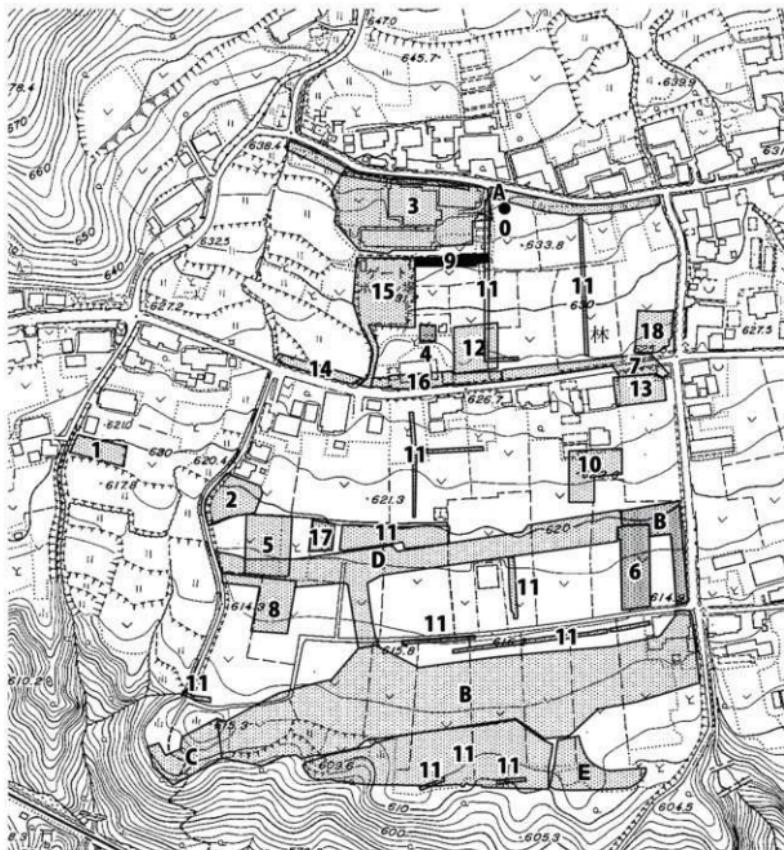
近年は河岸段丘面の遺跡でも該期の遺構が検出されはじめており、集落として把握されるようになっている。それらを例挙すると立馬I遺跡、林宮原遺跡、榎木II遺跡、二反沢遺跡（21）、下原遺跡、横壁中村遺跡、西久保I遺跡、長野原一本松遺跡、尾坂遺跡となる。このうち、横壁中村遺跡と下原遺跡では石垣で区画された屋敷跡がそれぞれ1棟、長野原一本松遺跡では掘立柱建物群と竪穴状遺構、榎木II遺跡でも掘立柱建物群、二反沢遺跡では区画跡のほか羽口や鉄サイなど鍛冶関連遺構などが検出されており注目される。

## （7）近世

長野原町は浅間火山・白根火山の麓に位置し、古くから度重なる火山災害を被っていることが地層からも窺える。浅間火山の主な噴火活動を概観すれば、すでに9万年前には黒斑山は活動をはじめおり、2.4～2.1万年前に黒斑山崩壊を伴う噴火活動があった。その時発生した泥流は、応桑泥流・中之条泥流・前橋泥流と確認された地点ごとに異なる名称で呼ばれている。その後は伊岩火山の活動期で浅間板鼻黄色軽石（As-YP）降下をもたらした。1万年前頃から前掛山の活動が始まり、その噴火により繩文時代中期の浅間D軽石（As-D）、4世紀の浅間C軽石（As-C）、天元元（1108）年の浅間B軽石（As-B）、天明3（1783）年の浅間A軽石（As-A）という4つの大きなテフラがもたらされた。これらは、浅間山の活動史を如実に物語る証であり、群馬県内の考古年代の指標にもなっている。その中でも天明3（1783）年の噴火は軽石降下後に襲った泥流（鎌原火砕流）により吾妻川・利根川流域沿いの町村に甚大な被害をもたらし、有史以来の記録的火山災害として知られている。この泥流によって埋没した嬬恋村の旧鎌原村が昭和54年から調査され、「延命寺觀音堂の石段」、「十日ノ窪」など天明の大噴火における被災遺跡として注目を集めたが<sup>(21)</sup>、翌年に本町でも山間地域若者定住環境整備モデル事業として陸上自衛隊によるグランド造成中に日待供養塔・石臼・農具などが出土し、旧新井村跡（99）の痕跡が確認された。平成14年度には町立中央小学校の屋内体育館・プールの新築に伴って、当時の分限者小林助右衛門屋敷の一部が発見され、石垣・土蔵・礎石建物跡が調査されている（96）。また平成16年度には長野原市街地における下水道工事で建築部材・薬缶・鉄釜・石臼の他、「青面金剛塔」が泥流中から出土しており、旧長野原村が壊滅的状況であった一端を垣間見る発見があった<sup>(22)</sup>。さらに

平成20年度に草木原遺跡<sup>(23)</sup>、平成23年度に小滝Ⅱ遺跡<sup>(24)</sup>で天明泥流に埋没した畠跡が検出され、立石村・羽根尾村の被災状況も確認された。

近年、ダム関連工事に伴う発掘調査により、これまで認識されていなかった下位・中位段丘で泥流に埋もれた遺跡が相次いで発見された。それらを例挙すると、町遺跡（33）、長野原城跡、鷲木Ⅰ遺跡（34）、東貝瀬Ⅲ遺跡（40）、下田遺跡（17）、下原遺跡、中棚Ⅱ遺跡（20）、西宮遺跡（84）、東宮遺跡、石川原遺跡、石畠遺跡、西ノ上遺跡、川原湯勝沼遺跡、横壁勝沼Ⅰ遺跡、横壁中村遺跡、西久保Ⅳ遺跡（67）、西久保Ⅴ遺跡（68）、尾坂遺跡、久々戸遺跡などがある。これらの遺跡では主として畠跡・ヤックラ・道・石垣・溝・井戸・覆屋構造物などが検出されている。現時点での成果として天明泥流に埋まつた畠景観の復原や「ツカ」や平坦面から推定される「単位畠」の構造、さらには泥流とその逆級化構造のメカニズムなどに関して詳細な検討がなされている。また東宮遺跡、西宮遺跡、石川原遺跡、町遺跡、尾坂遺跡、下田遺跡などでは民家跡も検出されている。特に東宮遺跡は泥流に埋没した川原畠村を面的に調査した貴重な発見である。建物跡が14棟



第19図 林中原Ⅰ遺跡既往調査地点位置図 (1/2,500)

第5表 林中原Ⅰ遺跡既往調査一覧（番号は第19図と対応）

番号	調査年度	調査機関	原種 因縁	調査面積 (開発面積)	概 要	備 考
0	昭和37年度	群馬大学	学術調査	?m <sup>2</sup> (-)	縄文中期住居1	文献 66
1	平成14年度	長野原町教育委員会	個人専用住宅 試験調査	10m <sup>2</sup> (288m <sup>2</sup> )	遺構なし	文献 12.202
2	平成15年度	"	個人専用住宅 確認調査	52m <sup>2</sup> (489m <sup>2</sup> )	遺構なし	
3	"	"	個人専用住宅 立会調査	-m <sup>2</sup> (2684.26m <sup>2</sup> )	現状保存	文献 14.203
4	"	"	個人専用住宅 本調査	59.8m <sup>2</sup> (675.42m <sup>2</sup> )	縄文後期敷石住居1・配石遺構2・石 組遺構1（住居跡？）	
5	平成16年度	"	個人専用住宅 確認調査	28m <sup>2</sup> (734.69m <sup>2</sup> )	縄文包含層	文献 16.204
6	平成17年度	"	個人専用住宅 確認調査	59m <sup>2</sup> (647m <sup>2</sup> )	縄文中期包含層	文献 17.205
7	"	"	町道林幹拡幅 本調査	500m <sup>2</sup> (749.52m <sup>2</sup> )	縄文住居1・土坑11基	文献 17.205 水特法
8	"	"	個人専用住宅 確認調査	15m <sup>2</sup> (528m <sup>2</sup> )	縄文前期後半包含層	文献 17.205
9	平成18年度	"	園芸施設（3地区） 本調査	190m <sup>2</sup> (1820m <sup>2</sup> )	本報告	文献 18.206 水特法
10	"	"	園芸施設（4地区） 確認調査	42m <sup>2</sup> (789m <sup>2</sup> )	本報告	
11	平成25年度	"	土地改良事業 確認調査	436m <sup>2</sup> (2541m <sup>2</sup> )	縄文中期後半～後期包含層・後期初頭 住居・中近世溝状遺構1基他	文献 18.36.206 水特法
			土地改良事業 本調査	4013m <sup>2</sup> (4865m <sup>2</sup> )	（縄文）中期土坑1・中期～後期土坑 60・ピット70・土坑（防護穴）6 (平安) 築造6 (中近世) 振立柱建物跡7・柱列1・ 墓1・地下水坑1・土坑78・ピット 594・溝跡12・平坦面1・水場遺構1 (近代) 墓土溝構2 (時期不明) 土坑2・谷地形1	文献 29.36.213 水特法
12	平成19年度	"	個人専用住宅 本調査	480m <sup>2</sup> (555m <sup>2</sup> )	縄文後期前葉住居2・配石遺構10・ 土坑15（平安土坑含む）・中期後半包 含層1・振立柱建物跡1	文献 19.207 未報告
13	"	"	個人専用住宅 確認調査	78m <sup>2</sup> (564.22m <sup>2</sup> )	縄文後期初頭～前葉包含層	文献 19.207
14	"	"	町道林幹拡幅 本調査	165m <sup>2</sup> (760m <sup>2</sup> )	縄文中期後半～末住居2・土坑15	文献 19.207 水特法
15	平成20年度	"	町営住宅 本調査	535m <sup>2</sup> (1291m <sup>2</sup> )	縄文中期末住居1・後期初頭～前葉住 居3・配石遺構22・土坑4	文献 20.208 未報告
16	"	"	町道林幹拡幅 本調査	340m <sup>2</sup> (825m <sup>2</sup> )	縄文中期～後期前葉包含層・理役河 道・土坑11	文献 20.208 水特法
17	平成21年度	"	個人専用住宅 確認調査	19m <sup>2</sup> (205m <sup>2</sup> )	縄文中期～後期前葉包含層	文献 22.209
18	平成30年度・ 令和元年度	"	町営住宅 確認調査・ 本調査		縄文時代後期前葉遺物集中1・土坑29 ・溝状遺構1	文献 39.217.218 水特法
A	平成16年度	(財)群馬県埋蔵文化財 調査事業団	町道拡幅 本調査	1415m <sup>2</sup> (1415m <sup>2</sup> )	時期不明土坑8 柏原田チラ	文献 107.204
B	平成19年度	"	国道付替・町道敷設 本調査	9874m <sup>2</sup> (9874m <sup>2</sup> )	（縄文）前期前半住居3・中期前半 住居1・土坑8・隠穴13・ピット20 (中近世) 振立柱建物61・竪穴状遺 構3・土坑217・縄7・溝17・ピット 1434・墓6・石垣5・ため池2・橋2	
C	平成20年度	"	国道付替 本調査	618m <sup>2</sup> (618m <sup>2</sup> )	（縄文）土坑7 (中世) 土坑3・土取穴1・ピット17 (近世) 磚石建物1・土坑3・土取穴10 ・溝2・墓3・石垣2・燒土6・道1	文献 150.208, 209.210.235, 238
D	平成21年度	"	町道敷設 本調査	1954m <sup>2</sup> (1982m <sup>2</sup> )	（縄文）前期後葉住居1 (中近世) 振立柱建物・溝・土坑	
E	平成30年度	(公財)群馬県埋蔵文化財 調査事業団	町道敷設 本調査	711m <sup>2</sup> (711m <sup>2</sup> )	（縄文）早期後葉・後期前葉土坑21 (中近世) 振立柱建物群	文献 177.219.247

のほか畑20区画・道3条・溝6条・石垣10基・集石1基・土坑8基を検出した。通常遺存しない建築部材や漆器など植物遺存体の検出例が多く、当時の川原畠村の景観復原はもとより、近世建築学、民俗学など多角的な分析に寄与する部分が大きいと考えられる。さらに隣接する西宮遺跡では埋没畠とともに南北方向に10数本の復旧溝が検出され、被災後の復旧の痕跡が本町ではじめて確認された。

また推定される泥流到達範囲外でも該期の遺構・遺物は確認されている。林中原II遺跡、上原IV遺跡、二反沢遺跡、榎木I遺跡、幸神遺跡、長野原一本松遺跡が該当する。このうち上原IV遺跡では溝（旧河川流路）を検出しているがそこから下駄や曲物の底・農具・石鉢・陶磁器など生活道具が出土している。

### 第3節 既往の調査

今回の調査は林中原I遺跡の第9次調査にあたる。本遺跡は長野原町教育委員会だけで令和3年12月現在で18次にわたる調査が実施されている。その中には試掘確認調査・立会調査により本発掘調査に至らなかつたものも多く含んでいるが、この数字はここ数年で本遺跡内で開発が集中して行われてきたことを如実に物語っている。また町教委に先駆けて群馬大学史学研究室による学術調査や近年ではハッサム工事関連で公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団でA～D地点の調査が実施されている（第19図・第5表）。

先述したとおり、本遺跡での最初の発掘調査は昭和37年11月23日～26日まで群馬大学史学研究室により実施された<sup>(38)</sup>。詳細は不明であるが縄文時代中期の住居跡を1軒調査したという。遺物は同研究室に保管されている。

第1次調査は平成14年度に個人専用住宅に先立って実施された。トレンチ調査により遺構・遺物を検出すには至らなかった。対象地は谷地で泥炭層を基盤としていることが確認された。

第2次～第4次調査は平成15年度に個人専用住宅に先立って実施された。第2次調査ではトレンチ調査により遺構・遺物を検出すには至らなかった。第3次調査では北側の町道拡幅のため住宅を移動する計画が出されたため、開発事業主と協議して確認調査を実施することで合意を得ていたが、その後設計変更で盛土対応（現況から1m）することになり現状保存されることになった。第4次調査では、縄文時代後期前葉住居跡1軒、配石遺構2基、石組遺構1基が検出された。住居内覆土には大量の遺物がブロック状で出土し、いわゆる「土器捨て場」の様相を呈していた。配石遺構は確認面からの深さが一般なものと範疇を超えており掘立柱建物跡の可能性が高い。また石組遺構としたのも出土炭化材の放射性炭素年代測定が中期後半に帰属することや板石の組み方から判断して炉跡の可能性が高く、調査区全体が中期後半の住居跡であったことが推測された。遺物は住居内廐棄遺物に準定形遺物が多く、当該地域の堀之内2式中段階を把握できる土器群であった。中でも「釣手付き注口土器」は類例に乏しく貴重な発見であった。

第5次調査は平成16年度に個人専用住宅建設に先立って実施された。トレンチ調査により遺構は検出されなかったが縄文時代中期後半の土器片が出土している。

第6次～第8次調査は平成17年度に実施された。第6次調査は個人専用住宅建設に先立って実施され、トレンチ調査により縄文時代中期後半の包含層が確認されたが、顕著な遺構は検出されなかった。第7次調査は町道林線拡幅工事（水特法事業）に先立って実施され、縄文時代後期前葉住居跡1軒、中期後半～後期前葉上坑11基が検出された。第8次調査は個人専用住宅建設に先立って実施され、トレンチ調査により縄文時代前期後半の包含層が確認されたが、顕著な遺構は検出されなかった。

第11次調査は町営林土地改良事業（水特法事業）の事業採択前の埋蔵文化財の取り扱いを決定するための確認調査を実施した。本遺跡全体で農道や水路が計画されている箇所を中心にトレンチ7本を設定し調査した。その結果、遺構は判然としないものの縄文時代中期後半～後期前葉包含層や中近世の溝（堀）などが検出された。その後、平成25年度に本調査が実施され、後述する（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団によって明らかにされた林城跡の域域の広がりを確認する調査となった。

第12次～第14次調査は平成19年度に実施された。第12次・第13次調査は個人専用住宅建設に先立って実施された。第12次調査では縄文時代後期前葉住居跡2軒（うち1軒は中期後半か）、配石遺構（配石墓含む）10基、土坑（埋葬2基・陥し穴2基含む）13基、中期後半～後期前葉包含層、平安時代土坑2基（掘立柱建物跡の可能性あり）が検出された。調査面積に比して遺物の出土量が多く、特に住居跡出土土器では注口土器の出土が顕著であった。整理段階ではあるがほぼ完形に復原できるものが3個体は確認されている。また調査区全体で多孔石の出土が目立った。第14次調査は町道林線拡幅工事（水特法事業）に先立って実施され、縄文時代中期後半～末住居跡2軒、土坑15基が検出された。

第15次・第16次調査は平成20年度に実施された。第15次調査は町営住宅建設に先立って実施され、縄文時代中期後半住居跡1軒、後期初頭～後期前葉住居跡3軒、配石遺構22基、土坑4基が検出された。中期後半住居は土器捨て場の様相を呈しており、完形土器および準完形土器が多量に出土した。第16次調査は町道林線拡幅工事（水特法事業）に先立って実施され、縄文時代中期後半～後期前葉包含層、土坑11基のほか埋没河道が検出された。

第17次調査は平成21年度に個人専用住宅建設に先立って実施された。トレーン調査により遺構は検出されなかったが縄文時代中前期～後期前葉包含層が検出された。

第18次調査は平成31年度（令和元年度）に町営団地造成（水特法事業）に伴い実施された。縄文後期の遺物集中箇所1箇所、土坑29基、溝状遺構1条が検出された。出土遺物に関しては、縄文後期前葉墓之内1式期のものが大部分を占めるが、遺構外出土遺物の中には前期前半・後半、中期中葉、後期初頭の遺物も混在する。特に前期後半の諸磯b式併行の北白川下層II式期の深鉢が出土しており、西日本との交流を示す資料といえる

この他に第19図におけるA～D地点は（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団により発掘調査が実施された箇所である。

A地点は平成16年度に林地区工事用進入路建設工事に先立って実施された。拡幅部分の調査1415m<sup>2</sup>であったが、近～現代を含む時期不明の土坑8基と縄文土器、陶磁器片等の遺物が発見された。他に浅間山起源の青灰色を中心とする厚さ3cm程度の火山灰（浅間一粒川テフラ）の一次堆積層が確認された。

B地点は平成19年度に国道145号線及び町道新設工事に先立って実施された。縄文時代の遺構は前期前半住居跡3軒、中期前半住居跡1軒、土坑30基弱、陥し穴13基が検出された。また調査区の西側長さ100mは中世城郭「林城」にあたり、堀7条と区画された生活面（郭）7か所（第I郭～第VII郭）を発見した。第III郭では中世から近世の掘立柱建物跡7棟を含むピット・土坑群を検出した。第III郭の西を区画する堀では土橋と木橋が発見され土橋の南壁には石垣が5段程度積まれていた。さらに第III郭と第V郭の間には水場遺構のため池2基が発見され、石垣と板材による土留めを伴っていた。調査区東側では一辺60m規模の中世屋敷が発見され、掘立柱建物跡は39棟認定されている。竪穴遺構は3基検出され、うち1基は柱穴を持つ建物で、方形の炉にほぼ完形の内耳鍋が据えられていた。炉の北側床面には2つ折りにされた半円形の紙片（漆紙文書）も発見された。

C地点は平成20年度に国道145号線新設工事に先立って実施された。縄文時代の遺構は前期土坑7基が検出された。中世は林城第I・II郭を調査した。第I郭では整地盛土層が確認され、その下で土坑2基とピット13基が検出された。土坑1基からは馬歛上下と額の一部が出土した。またピットの配列から掘立柱建物跡が想定された。第II郭は近世以降の変更が著しくピット4基の検出に留まった。第II郭南側では近世礎石建物跡が、北側では土取穴が6基重複して検出された。うち1基からはほぼ全身骨格の馬骨4頭分が出土している。建物跡下位には江戸時代の土坑墓、建物と重複して永楽錢を伴い炭を多く混入する土坑が検出された。

D地点は平成21年度に町道新設工事及び国道取り付け工事に先立って実施された。縄文時代の遺構は調査区西端で前期後半（諸磯式期）の住居跡1軒、竪穴遺構1基、土坑2基が検出された。中世は竪穴遺構2基、礎石建物跡2棟、掘立柱建物跡9棟、溝7条、土坑48基、ピット609基が検出され、林城の第VII郭の範囲が北側に広がっていることが確認された。

E地点は平成30年度にハッカ場バイパス南に接する取付道路部分が調査対象となった。縄文時代は早期後葉および後期前葉の土坑21基が検出された。中近世は隣接するB地点や町教委の第11次調査でも検出された中世屋敷の一画に属する掘立柱建物群を調査し、系統付けた建物の変遷の検討が行われた。

## 第4節 基本層序

本遺跡の基本層序は第21図のA地点で確認した。発掘調査での所見と併せると以下のようになる。

第I層 暗褐色土

いわゆる表土で、上位は畑の耕作土である。締まりは上位が弱く、下位はやや強い。

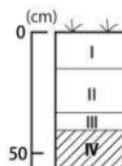
第II層 暗褐色土

縄文時代後期の包含層である。締まりはある。

第III層 明褐色土

いわゆる漸移層でローム粒子を多く含み、締まりもある。

第IV層 ローム



第20図 基本土層図 (1/20)

### 註

- 文献2。
- 主に下位・中位段丘で発見された天明泥流に埋もれた遺跡を追加・範囲拡張した他、遺跡名の変更を実施した。その改訂版の詳細については「マッピングぐんま 遺跡・文化財」(<http://www2.wagnap.jp/pref/gunma/top/select.asp?npr=dtp-86/pl-3>)で参照願いたい。本書では第2表および本章にできるだけ最新情報を記載した。
- 発掘調査は令和2年9月まで、整理調査・報告書作成は令和3年7月まで実施された。
- (群馬県埋蔵文化財調査事業団) 2004「新田西沢遺跡 新田平林遺跡」
- 前庭部においてもおよぶ厚さの灰層が検出されており、骨格や押型文土器が出土している。今後は平庭部の灰層との関係の解明が注目される。また平成30年度、考古学研究室によりリサーチデザインを示した道路のパンフレットが作成された。
- 文献1・2・33・34・41。
- 文献2・9・10。
- 文献2・34・35・47。
- 文献2・3・102・109・224。
- 文献2・25・28。
- 文献1・2・48・51・54・56・59・62・67・95・224。
- 文献2・7・82・109・224。
- 文献2・20・109。
- 中沢道彦 1998 「『水1式』の細分と構造に関する試論」『長野県小諸市水道跡発掘調査資料図譜』第三編 水道跡発掘調査資料図譜刊行会
- 文献1・2・14・16・49・77・78・112。旧下田遺跡。
- 1・2・28・49。与喜屋に所在する。
- 文献2。
- 文献2。
- 文献2。
- 文献1・2・49・50・52・55。
- 嬬恋村教育委員会 1981「鎌原道路発掘調査概報 深間山噴火による埋没村落の研究」  
1994「埋没村落 鎌原道路発掘調査概報 (よみがえる延命寺)」

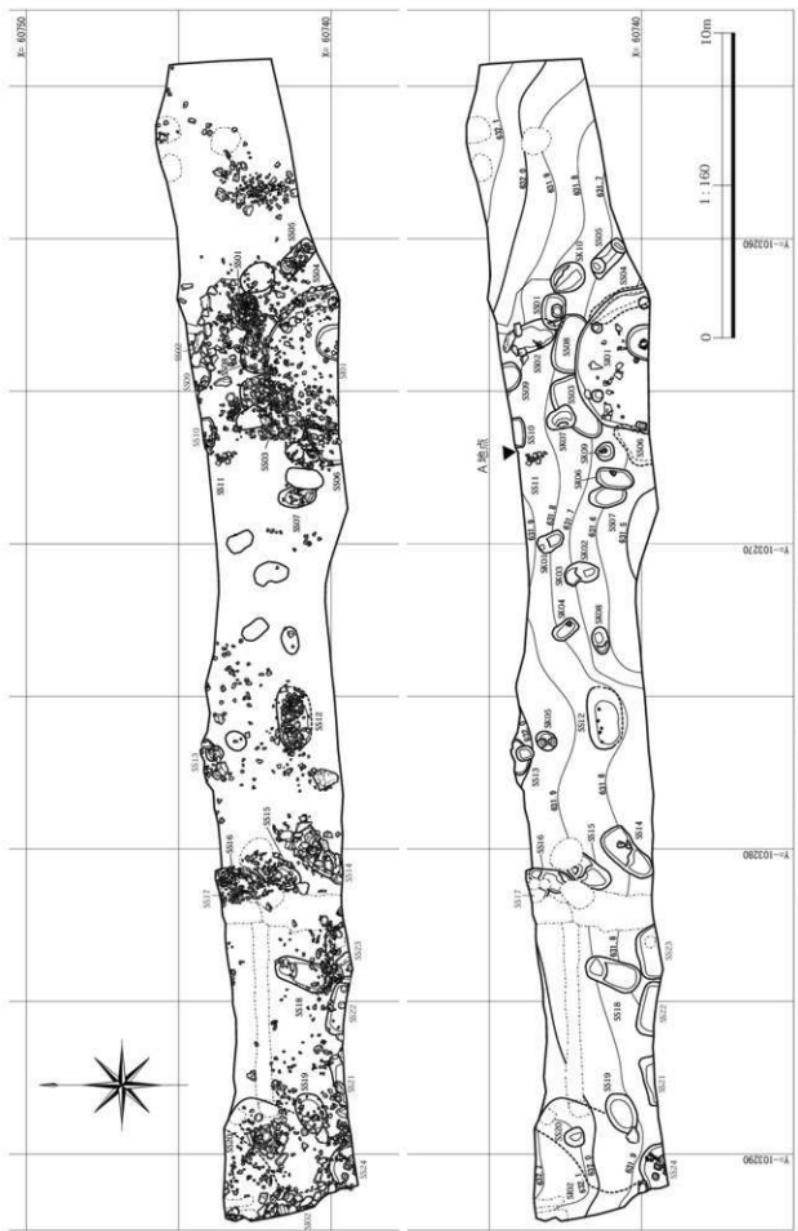
- その他文献58・59・65・72など。
22. 文献46. なお、「青面金剛塔」は雲林寺参道に安置してある。
23. 文献1・2・17・20・49。
24. 文献26。
- 参考文献（第4・5表の文献番号に対応）**
- 番号
- 長野原町 1976 「長野原町誌」上巻
  - 長野原町教育委員会 1990 「長野原町の道路一町内巡回分布調査」長野原町埋蔵文化財調査報告第1集
  - 長野原町教育委員会 1990 「解説Ⅱ」長野原町埋蔵文化財調査報告第2集
  - 長野原町教育委員会 1992 「長原町」長野原町埋蔵文化財調査報告第3集
  - 長野原町教育委員会 1995 「櫛説跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第4集
  - 長野原町教育委員会 1996 「高原遺跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第5集
  - 長野原町教育委員会 1998 「高原遺跡」上野原町埋蔵文化財調査報告第6集
  - 長野原町教育委員会 2000 「井戸遺跡Ⅱ」長野原町埋蔵文化財調査報告第7集
  - 長野原町教育委員会 2001 「春坪遺跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第8集
  - 長野原町教育委員会 2002 「町内遺跡Ⅰ」上野原町埋蔵文化財調査報告第9集
  - 長野原町教育委員会 2003 「町内遺跡Ⅱ」上野原町埋蔵文化財調査報告第10集
  - 長野原町教育委員会 2003 「町内遺跡Ⅲ」上野原町埋蔵文化財調査報告第11集
  - 長野原町教育委員会 2005 「小林原塚敷跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第12集
  - 長野原町教育委員会 2004 「町内遺跡Ⅳ」上野原町埋蔵文化財調査報告第13集
  - 長野原町教育委員会 2004 「林宮遺跡Ⅱ」長野原町埋蔵文化財調査報告第14集
  - 長野原町教育委員会 2005 「町内遺跡Ⅴ」上野原町埋蔵文化財調査報告第15集
  - 長野原町教育委員会 2006 「町内遺跡Ⅵ」上野原町埋蔵文化財調査報告第16集
  - 長野原町教育委員会 2008 「町内遺跡Ⅶ」上野原町埋蔵文化財調査報告第17集
  - 長野原町教育委員会 2009 「町内遺跡Ⅷ」上野原町埋蔵文化財調査報告第18集
  - 長野原町教育委員会 2010 「町内遺跡Ⅸ」上野原町埋蔵文化財調査報告第19集
  - 長野原町教育委員会 2010 「林中Ⅰ(遺跡Ⅹ)」長野原町埋蔵文化財調査報告第20集
  - 長野原町教育委員会 2011 「町内遺跡Ⅹ」上野原町埋蔵文化財調査報告第21集
  - 長野原町教育委員会 2012 「町内遺跡Ⅺ」上野原町埋蔵文化財調査報告第22集
  - 長野原町教育委員会 2012 「林宮遺跡Ⅲ」長野原町埋蔵文化財調査報告第23集
  - 東京電力馬見支社・長野原町教育委員会 2013 「解説Ⅱ遺跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第24集
  - 長野原町教育委員会 2013 「町内遺跡Ⅻ」長野原町埋蔵文化財調査報告第25集
  - 長野原町教育委員会 2013 「三平(遺跡)」上野原町埋蔵文化財調査報告第26集
  - 長野原町教育委員会 2013 「町内遺跡ⅩⅢ」長野原町埋蔵文化財調査報告第27集
  - 長野原町教育委員会 2014 「町内遺跡ⅩⅣ」長野原町埋蔵文化財調査報告第28集
  - 岡山電力馬見支社・長野原町教育委員会 2014 「岡山Ⅳ(遺跡)」長野原町埋蔵文化財調査報告第29集
  - 長野原町教育委員会 2015 「林地Ⅰ(遺跡)」長野原町埋蔵文化財調査報告第30集
  - 長野原町教育委員会 2016 「町内遺跡ⅩⅤ」長野原町埋蔵文化財調査報告第31集
  - 長野原町教育委員会 2017 「町内遺跡ⅩⅥ」長野原町埋蔵文化財調査報告第32集
  - 長野原町教育委員会 2018 「町内遺跡ⅩⅦ」長野原町埋蔵文化財調査報告第33集
  - 長野原町教育委員会 2018 「解説Ⅹ」長野原町埋蔵文化財調査報告第34集
  - 長野原町教育委員会 2019 「町内遺跡ⅩⅧ」長野原町埋蔵文化財調査報告第35集
  - 長野原町教育委員会 2019 「長野原町Ⅹ(遺跡)」長野原町埋蔵文化財調査報告第36集
  - 長野原町教育委員会 2019 「長野原町Ⅹ(遺跡)Ⅱ」長野原町埋蔵文化財調査報告第37集
  - 長野原町教育委員会 2020 「町内遺跡ⅩⅨ」長野原町埋蔵文化財調査報告第38集
  - 長野原町教育委員会 2020 「横里遺跡Ⅲ(遺跡)」長野原町埋蔵文化財調査報告第39集
  - 沙前発電会社社会・長野原町教育委員会 2020 「赤坂遺跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第40集
  - 長野原町教育委員会 2020 「山根遺跡Ⅳ」長野原町埋蔵文化財調査報告第41集
  - 長野原町教育委員会 2020 「林中Ⅱ(遺跡)」長野原町埋蔵文化財調査報告第42集
  - 長野原町教育委員会 2020 「坂越遺跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第43集
  - 長野原町教育委員会 2020 「林地Ⅲ(遺跡)Ⅱ」長野原町埋蔵文化財調査報告第44集
  - 長野原町教育委員会 2020 「解説Ⅹ(遺跡)」長野原町埋蔵文化財調査報告第45集
  - 長野原町教育委員会 2021 「町内遺跡Ⅹ」長野原町埋蔵文化財調査報告第46集
  - 長野原町教育委員会 2021 「群馬県立史跡『塙木石器時代住居跡』保存修理事業報告書
  - 小畠富治編著 1936 「吾妻記述」古文書教育会
  - 山崎 一・山川武夫 1972 「吾妻記述解釈史」
  - 塙野新一 1972 「塙馬糸井田郡長野原町(高馬糸指定史跡)塙木遺跡」
  - 山崎 一 1978 「塙馬糸古墳墓址の研究」下巻
  - 山 伸之 1979 「長原遺跡概観」上野原町教育委員会・高馬糸管理部
  - 葛馬郡 1988 「葛馬郡志」資料編
  - 葛馬郡教育委員会 1988 「葛馬郡の世界遺産解説」
  - 長野原町教育委員会 1989 「長野原町の文化財」
  - 長野原町 1993 「長野原町の自然、ハッキ島ダム湖予定地及び関連地域文化財調査報告書
  - 葛馬郡立歴史博物館 1995 第52回企画展「天明の隕空間」
  - 上毛新聞社 1999 「塙馬糸遺跡大解説」
  - 皆堅野古文明資料館 2000 第30回企画展「利根川流域の縄文草創期」
  - かみつけの博物館 2000 第6回特別展「湖について考える」
  - 葛馬郡教育委員会 2001 「葛馬の歴史(原始時代編)」
  - 皆堅野古文明資料館 2004 第79企画展「底の失った土器」
  - 葛馬郡立歴史博物館 2004 第79企画展「底の失った土器」
  - 葛馬郡立歴史博物館 2004 「浅間山大噴火」
  - 都馬大学教育学部 2004 「尾崎編左雄博士・調査収集考古遺物・調査資料目録」雄山閣
  - (財)都理文編 2005 「都馬の遺跡2 義文時代」
  - (財)都理文編 2005 「都馬の遺跡7 中世~近代」
  - かみつけの博物館 2007 第16回特別展「江戸時代・浅間山大噴火」
  - 那田昌平 2007 「日本の美術No.495 織文土器 草創期 早期」至文堂

- 71 小林達雄編 2008 「駿賀灘文庫」
- 72 関 俊明 2010 「駿賀山火災の裏面―天明三年浅間山灰害遺跡」新星社
- 73 (公財)群馬文編 2013 「自然災害と考古学」
- 74 宮坂武男 2015 「震盪をめぐる地の小山城と、壁上城」成洋出版
- 75 群馬県教育委員会 2017 「駿馬然立文庫と一本木・一張表塚」
- 76 関 俊明、藤山康成 1999 「天明三年浅間災に関する地域史的研究」[研究紀要 16] (財) 群理文
- 77 白石光彦、山口逸弘 1999 「外輪原・豊時山上の碑」[古跡手帳]、群馬県手帳 0. 群馬県歴史文化財保存会
- 78 畠山孝彦 2009 「外輪原・豊時山上の碑」[古跡手帳]、群馬県手帳 10. 群馬県歴史文化財保存会
- 79 犀井秀雄 2000 「壬氏城の土器について一枚、「郷士十三郷、成立の可能性」」小説研究内 3. 三子保塚群、三田道跡群、岩戸道跡、石神道跡群、郷土道跡、郡道跡、東丸山遺跡、西丸山遺跡、郡道跡群」本文編上。信濃白鳥美術館蔵文化財発掘調査報告書 19 長野県歴史文化財センター
- 80 谷保保彦・復元編集二 2002 「郡馬然立内出の郷文代石刻と其の集録」[研究紀要 20] (財) 群理文
- 81 関根権二 2003 「郡馬然立における御持利式と郷の地名と」第 16 回郷文セミナー「中崩原平の再検討」郷文セミナーの会
- 82 石川真 2004 「郡馬然立北部に於ける古びての構築物の期をめぐって―二野原原の事例を中心として―」[研究紀要 22] (財) 群理文
- 83 関 俊明 2005 「天明三年浅間山灰害遺跡の調査と実業」[研究紀要 23] (財) 群理文
- 84 関 俊明 2006 「天明災ははどう消したか」「くま山史研究 24」郡馬然立文庫
- 85 中央防災会議 2006 「1783 年天明山噴火(大噴火)大報文」内閣府
- 86 畠谷章男 2007 「天明文書(小字別の居内御内御内について)横野(中村道跡段)」[研究紀要 25] (財) 群理文
- 87 谷保保彦 2007 「加賀利式の系統を引き土原郡一北開東に於ける後期初頭の様相」[第 20 回郷文セミナー「中崩原末から後期初頭の再検討」郷文セミナーの会]
- 88 関根権二 2008 「駿賀山を題する郷文文類」[研究紀要 26] (財) 群理文
- 89 山口逸弘 2009 「ノゾマツ群 31 号住吉出土土器の再検討」[研究紀要 27] (財) 群理文
- 90 藤谷章男 2009 「八ヶ原群 2 号建物地盤における調査結果―既成の記述から出土物類型把握の効用―」[研究紀要 27] (財) 群理文
- 91 黒澤照弘・大西雅弘 2009 「英賀原・森木原の内野の「生産と流通」」[第 19 回九州歴史学会 江戸後期における庶民向け陶磁器の生産と流通]開催・東京・北海道
- 92 山口逸弘 2010 「鶴見原」土器に関する再検討」[研究紀要 28] (財) 群理文
- 93 橋 伸 2010 「中郷地区における鉄鋳物古銭紋銘版の編年第一号とダム建設地跡出土資料の位置付け」[研究紀要 28] (財) 群理文
- 94 鶴木健雄 2010 「駿河内に於ける研究課題問題第一郷之内の郷と郷界問題」第 25 回郷文セミナー「郷文断層研究の現状と課題」郷文セミナーの会
- 95 山口逸弘 2013 「越谷山中流域における郷文代中崩原の二種類―加賀利式古跡と郷界研究を中心として―」[研究紀要 31] (公財) 群理文
- 96 黒澤照弘 2013 「東宮道跡・天明一年の様相」(第 1 回郷文研究会第 13 回)江戸郷文研究会
- 97 黒澤照弘 2013 「天明三年浅間山灰害火葬場・官営道跡」[研究者古跡ジャーナル (46)]、ニュー・サイエンス
- 98 黒澤照弘 2013 「東宮道跡における「郷」―新規八ヶ日町の構造から想察される天明三年被災前後の状況―」[研究紀要 31] (公財) 群理文
- 99 伊藤美香・小室奈津子・黒澤照弘 2013 「東宮道跡出土の郷遺物について」[研究紀要 31] (公財) 群理文
- 100 大庭昭彦 2014 「天明三年浅間山噴火沿線の守隨跡と高崎街道」[群馬然立女子大学第 2 创研セミナーリサーチフェロー研究報告会]群馬然立女子大学
- 101 山口逸弘 2015 「春妻川流域における「郷」―郷の一種―」[江戸郷文研究会第 13 回]江戸郷文研究会
- 102 小川卓也・宮田忠洋・山田博之 2015 「北開東地域における後期江戸土器の様相」[第 28 回郷文セミナー「郷文後期土器研究の現状と課題」郷文セミナーの会]
- 103 藤谷章男・鶴見一郎・能登亮 2016 「群馬然立野原・鶴見原・横野(中村道跡)の中近世と同地における青磁制作の研究」[研究紀要 34] (公財) 群理文
- 104 山口逸弘 2016 「駿河田中村道跡と山形文式について」「横野(鶴見原)の郷唱」[地域考古学・古地図考古学研究会]
- 105 大庭昭彦 2016 「天明三年浅間山灰害火葬場」[研究紀要 35] (公財) 群馬然立地域文化研究協議会
- 106 藤谷章男・佐藤健 2016 「天明寺における考古学的検討―群馬然立・堀切地帯に於いて―」[研究紀要 32] 群馬然立地域文化研究協議会
- 107 谷保保彦・谷昌裕 2017 「郡馬然立山の石碑・石柱・石刀・石門等―鶴見時代中期前葉の跡―」[研究紀要 35] (公財) 群理文
- 108 石川茂 2017 「「桃源郷」鬼怒川一帯郡馬然立中村道跡を中心とした分析」―「郷文代 28」郷文断層研究会
- 109 谷保保彦・根岸樹一・鈴木祐太 2017 「郡馬然立内野の「生産と流通」」[第 28 回郷文研究会第 6 集] (公財) 群理文
- 110 鶴木健雄 2018 「「隣後」後半に於ける土器式群と立場構造の「隣後式」と「類型」」[地域考古学 3 号] 地域考古学研究会
- 111 山口逸弘 2018 「「瓦ヶ原」多賀郡山中流域の「郷文代」」[第 51 回] (財) 群馬然立地域文化振興会
- 112 大庭昭彦 2019 「郡馬然立北側丘陵地の「郷文代」」[研究紀要 37] (公財) 群理文
- 113 (財) 群理文・國交省 2002 「群馬県一松道跡・八ヶ原ダム建設工事に伴う理文化財発掘調査報告書第 1 集
- 114 (財) 群理文・國交省 2002 「八ヶ原ダム發掘調査報告書 (1)」八ヶ原ダム建設工事に伴う理文化財発掘調査報告書第 2 集
- 115 (財) 群理文・國交省 2003 「八ヶ原道跡・中郷道跡・上郷道跡・横野中村道跡・八ヶ原ダム建設工事に伴う理文化財発掘調査報告書第 3 集
- 116 (財) 群理文・國交省 2003 「八ヶ原道跡 (2)・中郷道跡 (2)・西ノ上郷道跡・上郷 A 道跡」八ヶ原ダム建設工事に伴う理文化財発掘調査報告書第 4 集
- 117 (財) 群理文・國交省 2005 「横野中村道跡 (2)」八ヶ原ダム建設工事に伴う理文化財発掘調査報告書第 5 集
- 118 (財) 群理文・國交省 2005 「川原瀬御道跡 (2)」八ヶ原ダム建設工事に伴う理文化財発掘調査報告書第 6 集
- 119 (財) 群理文・國交省 2006 「横野中村道跡 (3)」八ヶ原ダム建設工事に伴う理文化財発掘調査報告書第 7 集
- 120 (財) 群理文・國交省 2006 「八ヶ原道跡」八ヶ原ダム建設工事に伴う理文化財発掘調査報告書第 8 集
- 121 (財) 群理文・國交省 2006 「上郷 B 道跡・横石 A 道跡・上郷道跡」[研究紀要 37] (公財) 群理文
- 122 (財) 群理文・國交省 2006 「横野中村道跡 (4)」八ヶ原ダム建設工事に伴う理文化財発掘調査報告書第 10 集
- 123 (財) 群理文・國交省 2006 「立野 A 道跡」八ヶ原ダム建設工事に伴う理文化財発掘調査報告書第 11 集
- 124 (財) 群理文・國交省 2007 「下郷道跡 (2)」八ヶ原ダム建設工事に伴う理文化財発掘調査報告書第 12 集
- 125 (財) 群理文・國交省 2007 「三平・II 道跡」八ヶ原ダム建設工事に伴う理文化財発掘調査報告書第 13 集
- 126 (財) 群理文・國交省 2007 「横野中村道跡 (5)」八ヶ原ダム建設工事に伴う理文化財発掘調査報告書第 14 集
- 127 (財) 群理文・國交省 2007 「野原原・一松道跡 (2)」八ヶ原ダム建設工事に伴う理文化財発掘調査報告書第 15 集
- 128 (財) 群理文・國交省 2008 「下郷道跡・上郷道跡・山中道跡 (2)」八ヶ原ダム建設工事に伴う理文化財発掘調査報告書第 17 集
- 129 (財) 群理文・國交省 2008 「横木 II 道跡 (1)」八ヶ原ダム建設工事に伴う理文化財発掘調査報告書第 18 集
- 130 (財) 群理文・國交省 2008 「山野原・一松道跡 (3)」八ヶ原ダム建設工事に伴う理文化財発掘調査報告書第 19 集
- 131 (財) 群理文・國交省 2008 「横野中村道跡 (6)」八ヶ原ダム建設工事に伴う理文化財発掘調査報告書第 20 集
- 132 (財) 群理文・國交省 2008 「横野中村道跡 (7)」八ヶ原ダム建設工事に伴う理文化財発掘調査報告書第 22 集
- 133 (財) 群理文・國交省 2008 「ノ・平・I 道跡」八ヶ原ダム建設工事に伴う理文化財発掘調査報告書第 23 集
- 134 (財) 群理文・國交省 2008 「野原原・一松道跡 (4)」八ヶ原ダム建設工事に伴う理文化財発掘調査報告書第 24 集
- 135 (財) 群理文・國交省 2009 「八ヶ原道跡」八ヶ原ダム建設工事に伴う理文化財発掘調査報告書第 26 集
- 136 (財) 群理文・國交省 2009 「横木 I 道跡 (2)」八ヶ原ダム建設工事に伴う理文化財発掘調査報告書第 27 集
- 137 (財) 群理文・國交省 2009 「山野原・一松道跡 (5)」八ヶ原ダム建設工事に伴う理文化財発掘調査報告書第 28 集
- 138 (財) 群理文・國交省 2009 「横野中村道跡 (8)」八ヶ原ダム建設工事に伴う理文化財発掘調査報告書第 29 集
- 139 (財) 群理文・國交省 2009 「横野中村道跡 (9)」八ヶ原ダム建設工事に伴う理文化財発掘調査報告書第 30 集
- 140 (財) 群理文・國交省 2010 「横野中村道跡 (10)」八ヶ原ダム建設工事に伴う理文化財発掘調査報告書第 33 集
- 141 (財) 群理文・國交省 2010 「横野中村道跡 (11)」八ヶ原ダム建設工事に伴う理文化財発掘調査報告書第 34 集
- 142 (財) 群理文・國交省 2010 「横野 I 道跡 (1)」八ヶ原ダム建設工事に伴う理文化財発掘調査報告書第 35 集
- 143 (財) 群理文・國交省 2011 「東宮道跡 (1)」八ヶ原ダム建設工事に伴う理文化財発掘調査報告書第 36 集
- 144 (財) 群理文・國交省 2012 「横野中村道跡 (12)」八ヶ原ダム建設工事に伴う理文化財発掘調査報告書第 37 集
- 145 (財) 群理文・國交省 2012 「東宮道跡 (2)」八ヶ原ダム建設工事に伴う理文化財発掘調査報告書第 38 集
- 146 (財) 群理文・國交省 2013 「横木 I 道跡 / 上郷 IV 道跡 (2)」八ヶ原ダム建設工事に伴う理文化財発掘調査報告書第 40 集
- 147 (財) 群理文・國交省 2013 「野原原・一松道跡 (6)」八ヶ原ダム建設工事に伴う理文化財発掘調査報告書第 41 集

- 149 (公財) 郡理文・國交省 2014 「長野原・本松道路(7)」ハッ場ダム建設工事に伴う理歴文化財発掘調査報告書 第42集
- 150 (公財) 郡理文・國交省 2014 「中原1号道路・長野原城」ハッ場ダム建設工事に伴う理歴文化財発掘調査報告書 第43集
- 151 (公財) 郡理文・國交省 2014 「廣瀬谷道路(14)」ハッ場ダム建設工事に伴う理歴文化財発掘調査報告書 第44集
- 152 (公財) 郡理文・國交省 2015 「高瀬路(14)」ハッ場ダム建設工事に伴う理歴文化財発掘調査報告書 第45集
- 153 (公財) 郡理文・國交省 2015 「上ノ平道路・高瀬路(1)」ハッ場ダム建設工事に伴う理歴文化財発掘調査報告書 第46集
- 154 (公財) 郡理文・國交省 2016 「林中原1号道路・高瀬路(1)」ハッ場ダム建設工事に伴う理歴文化財発掘調査報告書 第47集
- 155 (公財) 郡理文・國交省 2016 「高瀬路(2)」ハッ場ダム建設工事に伴う理歴文化財発掘調査報告書 第48集
- 156 (公財) 郡理文・國交省 2017 「上ノ平・高瀬路(2)」ハッ場ダム建設工事に伴う理歴文化財発掘調査報告書 第49集
- 157 (公財) 郡理文・國交省 2017 「上原3号道路(2)・久々木道路(3)」ハッ場ダム建設工事に伴う理歴文化財発掘調査報告書 第50集
- 158 (公財) 郡理文・國交省 2017 「兼宮道路(3)」ハッ場ダム建設工事に伴う理歴文化財発掘調査報告書 第51集
- 159 (公財) 郡理文・國交省 2017 「下原道路(2)」ハッ場ダム建設工事に伴う理歴文化財発掘調査報告書 第52集
- 160 (公財) 郡理文・國交省 2018 「兼宮道路(4)」ハッ場ダム建設工事に伴う理歴文化財発掘調査報告書 第53集
- 161 (公財) 郡理文・國交省 2018 「高瀬路(1)・西原1号路」ハッ場ダム建設工事に伴う理歴文化財発掘調査報告書 第54集
- 162 (公財) 郡理文・國交省 2018 「上ノ平・高瀬路(3)」ハッ場ダム建設工事に伴う理歴文化財発掘調査報告書 第55集
- 163 (公財) 郡理文・國交省 2018 「高瀬路(3)」ハッ場ダム建設工事に伴う理歴文化財発掘調査報告書 第56集
- 164 (公財) 郡理文・國交省 2018 「川原宿跡(2)」ハッ場ダム建設工事に伴う理歴文化財発掘調査報告書 第57集
- 165 (公財) 郡理文・國交省 2018 「石川原宿跡(1)」ハッ場ダム建設工事に伴う理歴文化財発掘調査報告書 第58集
- 166 (公財) 郡理文・國交省 2018 「湯原宿跡(1)」ハッ場ダム建設工事に伴う理歴文化財発掘調査報告書 第59集
- 167 (公財) 郡理文・國交省 2018 「中原8号道路(2)」ハッ場ダム建設工事に伴う理歴文化財発掘調査報告書 第60集
- 168 (公財) 郡理文・國交省 2019 「下原道路(3)」ハッ場ダム建設工事に伴う理歴文化財発掘調査報告書 第61集
- 169 (公財) 郡理文・國交省 2019 「中根1号道路(3)」ハッ場ダム建設工事に伴う理歴文化財発掘調査報告書 第62集
- 170 (公財) 郡理文・國交省 2019 「中原8号道路(3)」ハッ場ダム建設工事に伴う理歴文化財発掘調査報告書 第63集
- 171 (公財) 郡理文・國交省 2019 「高瀬路(2)」ハッ場ダム建設工事に伴う理歴文化財発掘調査報告書 第64集
- 172 (公財) 郡理文・國交省 2019 「久々木・高瀬路(2)・西久々木・高瀬路」ハッ場ダム建設工事に伴う理歴文化財発掘調査報告書 第65集
- 173 (公財) 郡理文・國交省 2019 「川原宿跡(3)」ハッ場ダム建設工事に伴う理歴文化財発掘調査報告書 第66集
- 174 (公財) 郡理文・國交省 2020 「三平1号道路(2)」ハッ場ダム建設工事に伴う理歴文化財発掘調査報告書 第67集
- 175 (公財) 郡理文・國交省 2020 「下原道路(2)」ハッ場ダム建設工事に伴う理歴文化財発掘調査報告書 第68集
- 176 (公財) 郡理文・國交省 2020 「下原宿跡(2)」ハッ場ダム建設工事に伴う理歴文化財発掘調査報告書 第69集
- 177 (公財) 郡理文・國交省 2020 「林原宿跡(2)・林原宿(2)」ハッ場ダム建設工事に伴う理歴文化財発掘調査報告書 第70集
- 178 (公財) 郡理文・國交省 2020 「西原宿跡(2)・川原宿(2)」ハッ場ダム建設工事に伴う理歴文化財発掘調査報告書 第71集
- 179 (公財) 郡理文・國交省 2020 「川原宿跡(2)」ハッ場ダム建設工事に伴う理歴文化財発掘調査報告書 第72集
- 180 (公財) 郡理文・國交省 2021 「ハッ場ダム発掘調査集録(2)」ハッ場ダム建設工事に伴う理歴文化財発掘調査報告書 第73集
- 181 (公財) 郡理文・國交省 2021 「兼宮遺跡(5)・三堂原遺跡(2)」ハッ場ダム建設工事に伴う理歴文化財発掘調査報告書 第74集
- 182 (公財) 郡理文・國交省 2021 「二社原遺跡(1)・石原遺跡(1)」ハッ場ダム建設工事に伴う理歴文化財発掘調査報告書 第75集
- 183 (公財) 郡理文・國交省 2021 「高瀬路(6)」ハッ場ダム建設工事に伴う理歴文化財発掘調査報告書 第76集
- 184 (公財) 郡理文・國交省 2021 「石川原宿跡(3)」ハッ場ダム建設工事に伴う理歴文化財発掘調査報告書 第77集
- 185 (公財) 郡理文・國交省 2021 「石川原宿跡(4)」ハッ場ダム建設工事に伴う理歴文化財発掘調査報告書 第78集
- (財) 郡理文 1994 「長野原久々木道路・高瀬長野原草津1号市場跡道路(橋梁) 建設に伴う理歴文化財発掘調査報告書」(財) 郡理文調査報告書 第240集
- 187 郡理顕・(公財) 郡理文 2012 「尾坂遺跡」社会資本整備総合交付金事業(活力創出基盤整備)長野原草津1号駅舎整備に伴う理歴文化財発掘調査報告書」(公財) 郡理文調査報告書 第54集
- 188 国学院大学文学部考古学研究室 2017 「郡開拓者遺跡・長野原町駄野以降道路 2014年度発掘調査報告書」国学院大学文学部考古学実習報告 第53集
- 189 国学院大学文学部考古学研究室 2020 「郡馬県吾妻郡長野原町駄野以降道路Ⅱ 第2次・第3次発掘調査報告書」国学院大学文学部考古学実習報告 第56集
- 190 国学院大学文学部考古学研究室 2015-2010 「御深明会資料「歴家以降道路跡調査(第2次・第6次調査)」
- 191 寺内進浩 2019 「郡馬県駄野以降道路における歴文化人類学的発掘調査」「日本考古学会第85回総会 研究発表要旨」
- 192 近藤 雄 2019 「歴家以降道路跡の構文早期人骨における同位体分析」「日本考古学会第85回総会 研究発表要旨」
- 193 宮田 雄 2019 「歴家以降道路跡の構文早期人骨における同位体分析」「日本考古学会第85回総会 研究発表要旨」
- 194 横田信太郎・水野文津 2019 「ミコトンドリアDNAからみた駄野以降道路出土人骨の遺伝的系統」「日本考古学会第85回総会研究発表要旨」
- 195 (財) 郡理文 1995 「年報14」
- 196 (財) 郡理文 1996 「年報15」
- 197 (財) 郡理文 1997 「年報16」
- 198 (財) 郡理文 1998 「年報17」
- 199 (財) 郡理文 1999 「年報18」
- 200 (財) 郡理文 2000 「年報19」
- 201 (財) 郡理文 2001 「年報20」
- 202 (財) 郡理文 2002 「年報21」
- 203 (財) 郡理文 2003 「年報22」
- 204 (財) 郡理文 2004 「年報23」
- 205 (財) 郡理文 2005 「年報24」
- 206 (財) 郡理文 2006 「年報25」
- 207 (財) 郡理文 2007 「年報26」
- 208 (財) 郡理文 2008 「年報27」
- 209 (財) 郡理文 2009 「年報28」
- 210 (財) 郡理文 2010 「年報29」
- 211 (財) 郡理文 2011 「年報30」
- 212 (財) 郡理文 2012 「年報31」
- 213 (公財) 郡理文 2013 「年報32」
- 214 (公財) 郡理文 2014 「年報33」
- 215 (公財) 郡理文 2015 「年報34」
- 216 (公財) 郡理文 2016 「年報35」
- 217 (公財) 郡理文 2017 「年報36」
- 218 (公財) 郡理文 2018 「年報37」
- 219 (公財) 郡理文 2019 「年報38」
- 220 (公財) 郡理文 2020 「年報39」
- 221 (財) 郡理文 1994 「道跡は今 第1号」
- 222 (公財) 郡理文 1996 「道跡は今 第2号」
- 223 (財) 郡理文 1996 「道跡は今 第3号」
- 224 (公財) 郡理文 1997 「道跡は今 第4号」
- 225 (財) 郡理文 1997 「道跡は今 第5号」
- 226 (公財) 郡理文 1998 「道跡は今 第6号」
- 227 (財) 郡理文 1999 「道跡は今 第7号」

- 228 (財) 郡理文 2000 「道跡は今 第 8 号」  
 229 (財) 郡理文 2000 「道跡は今 第 9 号」  
 230 (財) 郡理文 2000 「道跡は今 第 10 号」  
 231 (財) 郡理文 2002 「道跡は今 第 11 号」  
 232 (財) 郡理文 2003 「道跡は今 第 12 号」  
 233 (財) 郡理文 2004 「道跡は今 第 13 号」  
 234 (財) 郡理文 2006 「道跡は今 第 14 号」  
 235 (財) 郡理文 2007 「道跡は今 第 15 号」  
 236 (財) 郡理文 2008 「道跡は今 第 16 号」  
 237 (財) 郡理文 2009 「道跡は今 第 17 号」  
 238 (財) 郡理文 2010 「道跡は今 第 18 号」  
 239 (財) 郡理文 2011 「道跡は今 第 19 号」  
 240 (財) 郡理文 2011 「道跡は今 第 20 号」  
 241 (財) 郡理文 2012 「道跡は今 第 21 号」  
 242 (財) 郡理文 2014 「道跡は今 第 22 号」  
 243 (財) 郡理文 2015 「道跡は今 第 23 号」  
 244 (財) 郡理文 2016 「道跡は今 第 24 号」  
 245 (財) 郡理文 2017 「道跡は今 第 25 号」  
 246 (財) 郡理文 2018 「道跡は今 第 26 号」  
 247 (財) 郡理文 2019 「道跡は今 第 27 号」
- 248 稲井正洋 2008 「人明泥濘に春まれた福敷の謡—長野原町東宮道跡—」『理文郡馬 47』(公財) 郡理文  
 249 脇田陽一 2012 「東宮道跡ハッブルで発掘された江戸時代—」『理文郡馬 56』(公財) 郡理文  
 250 刈崎泰一・中原一 2015 「東宮道跡・西宮道跡—姿を現した江戸時代の川原畠村—」『理文郡馬 59』(公財) 郡理文  
 251 鹿島利昭・麻生敏也 2015 「石川道跡—見てきた上湖南の歴史—」『理文郡馬 60』(公財) 郡理文  
 252 中沢 情 2016 「下湯原遺跡—大内山田南下から見えた江戸時代の川原畠村—」『理文郡馬 61』(公財) 郡理文  
 253 関 俊明・小林茂夫 2016 「久々の道跡・大内山田南下の船跡 下に眠っていた漢文時代の石住田跡—」『理文郡馬 61』(公財) 郡理文  
 254 山口進弘 2016 「林中屋道跡—姿を現した江戸時代以前～後期の船伏跡—」『理文郡馬 61』(公財) 郡理文  
 255 石坂 宏・楢山野正洋 2017 「東宮道跡—姿を現した江戸時代以前の東宮道跡—」『理文郡馬 62』(公財) 郡理文  
 256 宮下 實・石田 良・園 明宏・飯田周 2018 「西宮道跡・江戸時代の建物跡 建築断材の発見と機織り具—」『理文郡馬 63』(公財) 郡理文  
 257 (公財) 郡理文 2015 平成27年度調査遺跡発表会「東宮道跡・西宮道跡の調査」  
 258 (公財) 郡理文 2016 平成28年度調査遺跡発表会「長野原町石川原畠道跡の調査」  
 259 (公財) 郡理文・長野原町教育委員会 2018 平成30年度調査道跡発表会「発掘された八ヶ塙の軌跡」  
 260 (公財) 郡理文 2012 平成24年度最新情報解説 第1期「東宮道跡～八ヶ塙で発掘された江戸時代」  
 261 (公財) 郡理文 2016 平成28年度最新情報解説 第1期「舟着地域の漢文時代 古代人の心」  
 262 (公財) 郡理文 2017 平成29年度最新情報解説 第1期「えみがえった江戸時代の村ー大明三年改間記下の発掘調査から」  
 263 (公財) 郡理文 2018 平成29年度最新情報解説 第3期「一万年につく穀食文化・櫛文クッキーからおきりこみまでー」  
 264 (公財) 郡理文 2019 平成30年度最新情報解説 第3期「古代の装身具」  
 265 (公財) 郡理文 2019 令和元年度最新情報解説 第1期「八ヶ塙の謡の時代」  
 266 (公財) 郡理文 2019 合祀元年度最新情報解説 第2期「江戸時代の大明改流に被災した村」  
 267 乾助菊治 2010 墓藏文化財講座「天明二年の地域社会・銀原の発掘から八ヶ塙ダムまでー」  
 268 黒澤照弘 2014 墓藏文化財講座「天明の改間山噴火—その時、東西道跡の人々はどうしたかー」  
 269 山口進弘 2016 墓藏文化財講座「久々の道跡発掘の教石行脚」  
 270 飯森康広 2016 墓藏文化財講座「発掘された郡馬の城」  
 271 関 俊明 2016 墓藏文化財講座「江戸民家ー大明三年の改間焼け前日の風景」

第21図 林中原Ⅰ遺跡X全体図<上段：検出状況 下段：完掘状況> (1/160)



# 第3章 検出された遺構と遺物

## 第1節 概要

今回の発掘調査は林中原I遺跡の第9次調査にあたる。検出された遺構は、竪穴住居（敷石住居）2軒、配石遺構24基、土坑10基である。出土した遺物の種類は、土器、土製品、石器、土師器、須恵器、陶磁器で、その数量はテンバコで9箱分であった。

調査区は林中原I遺跡の範囲内の北端付近に位置する。調査面積が狭小なため、詳細まで述べることはできないが、遺構の分布をみると、調査区東側は低調になるがほぼ全体に配石遺構が配されており、土坑は調査区中央の微高地に集中する傾向が看取される。本調査では称名寺式期から加曽利B1式期までの縄文時代後期前半の遺物が中心に出土したが、中でもSI01出土土器の堀之内1式期はまとまった良質な遺物が出土している。

## 第2節 竪穴住居跡

SI01（第22～31図／第6・7表／PL 17・18・29～32）

位置 調査区東側、南壁沿い。

重複関係 SS03・SS04・SS06・SS08と重複し、それらに切られる。

遺存状況 周囲の配石遺構に切られるものの、遺存状態は概ね良好である。

覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。

平面形態と規模 部分検出であるが平面形態は柄鏡形を呈すると推測される。今回の調査では当初、主軸を南北方向にもつ主体部の北側半分が検出されたと考えたが、炉跡が東側に寄りすぎているため、P1とP2の間に主軸をもつ可能性が高い。従って柄部は南東側の調査区外へ延びていると考えられる。規模は主軸で4.32m以上、副軸で3.98m以上、床面積9.2m<sup>2</sup>以上を測る。

主軸方向 N-68°-W。

床面 ほぼ平坦で敷石を施していた痕跡が認められる。北側を中心に長さ20～40cm、幅20～30cmの扁平な板状石と長さ6～14cmの細長い間詰め石が一部残されていたが、大部分は片付けられている。

壁・壁高 周囲の配石遺構によって上面は消失しているが、壁高は北側で22cm程度、東側で20cm程度、西側で15cm程度を測り、ほぼ垂直に立ち上がっている。壁溝は認められない。

柱穴 壁に沿ってP1～P4まで、炉の西側に隣接してP5が確認されている。柱穴はP1～P4で復元すると6本柱を想定できる。平面形は楕円形～開丸長形を基調とする。柱穴の規模は第5表のとおりである。

炉跡 床面を掘り込んで設置した地床炉である。中央東寄りに位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸78cm以上、短軸114cm以上、床面からの深さは30cmを測る。中央に入れ子状に重なった深鉢が炉体土器として設置されていた。

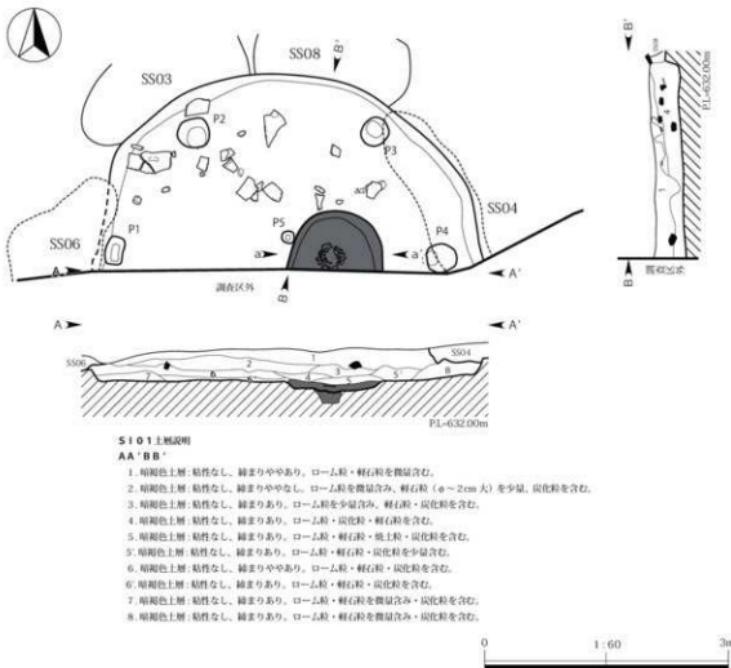
遺物検出状況 床面上から注口土器（第26図8）などが出土しているが、ほとんどの遺物は床から40cm程浮いて出土が顕著である。周辺に配石遺構が密集しかつ重複していることから、廃絶後の廃棄や流れ込みの遺物が多いと考えられる。上述したように炉から  
は炉体土器が出土している。

第6表 SI01柱穴計測表

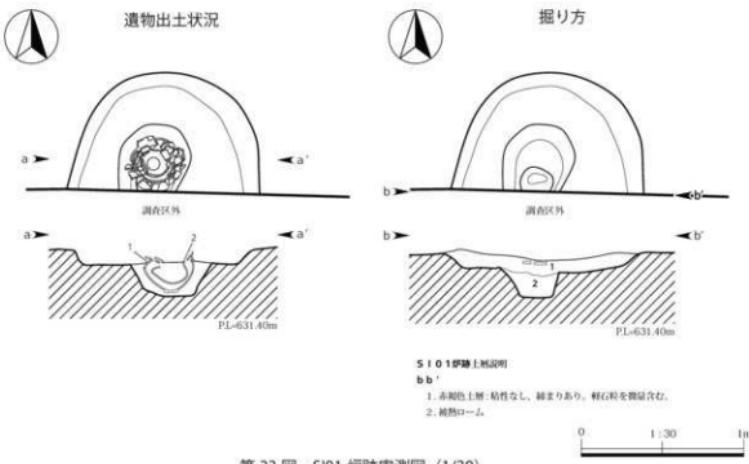
	P1	P2	P3	P4	P5
長軸長(cm)	34	37	35	39	15
短軸長(cm)	21	37	34	36	15
深さ	15	69	71	64	14

遺物 総出土量は土器片（個体・土製品を含む）

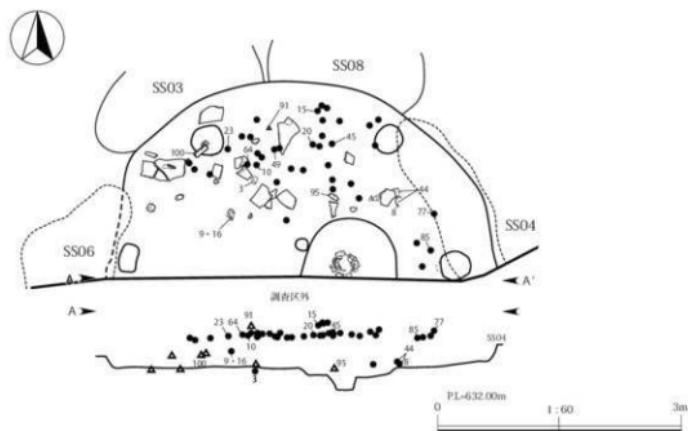
672点（17,411g）、石器（剥片を含む）69点（8,328.9g）である。石器組成は剥片石器類35



第22回 SI01 実測図 (1/60)

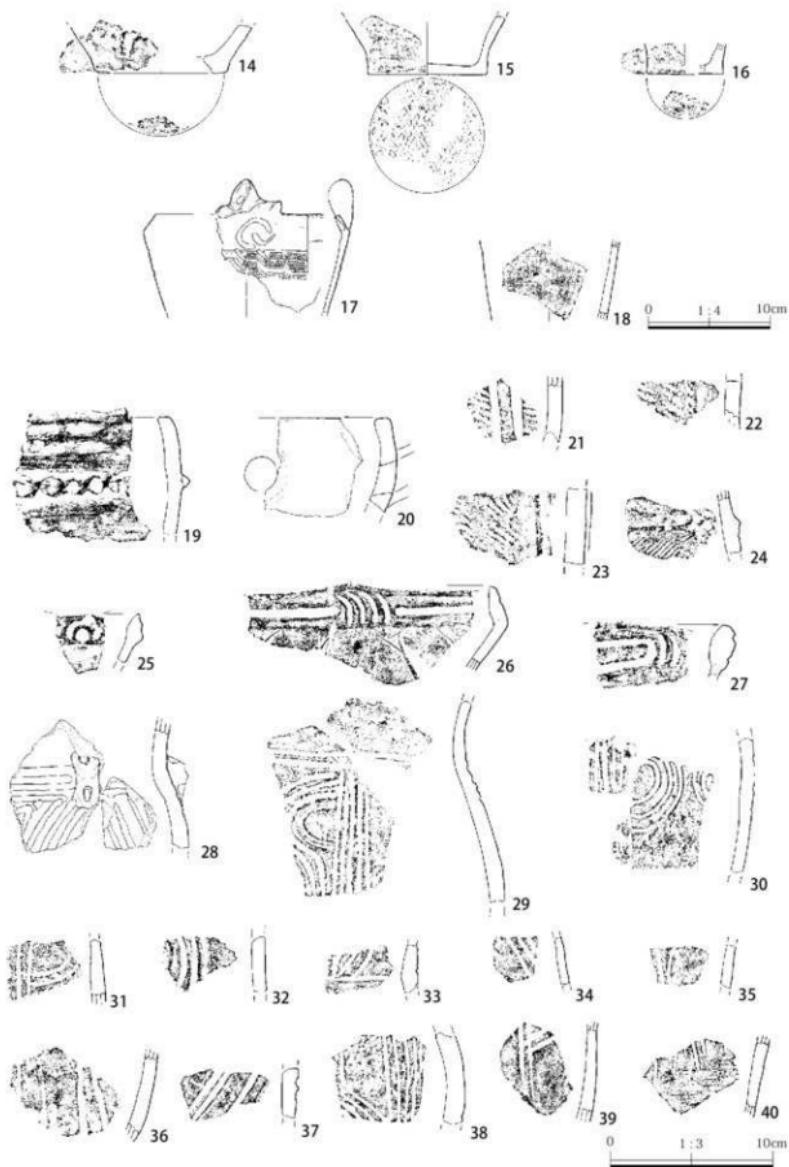


第23図 SI01 炉跡実測図 (1/30)

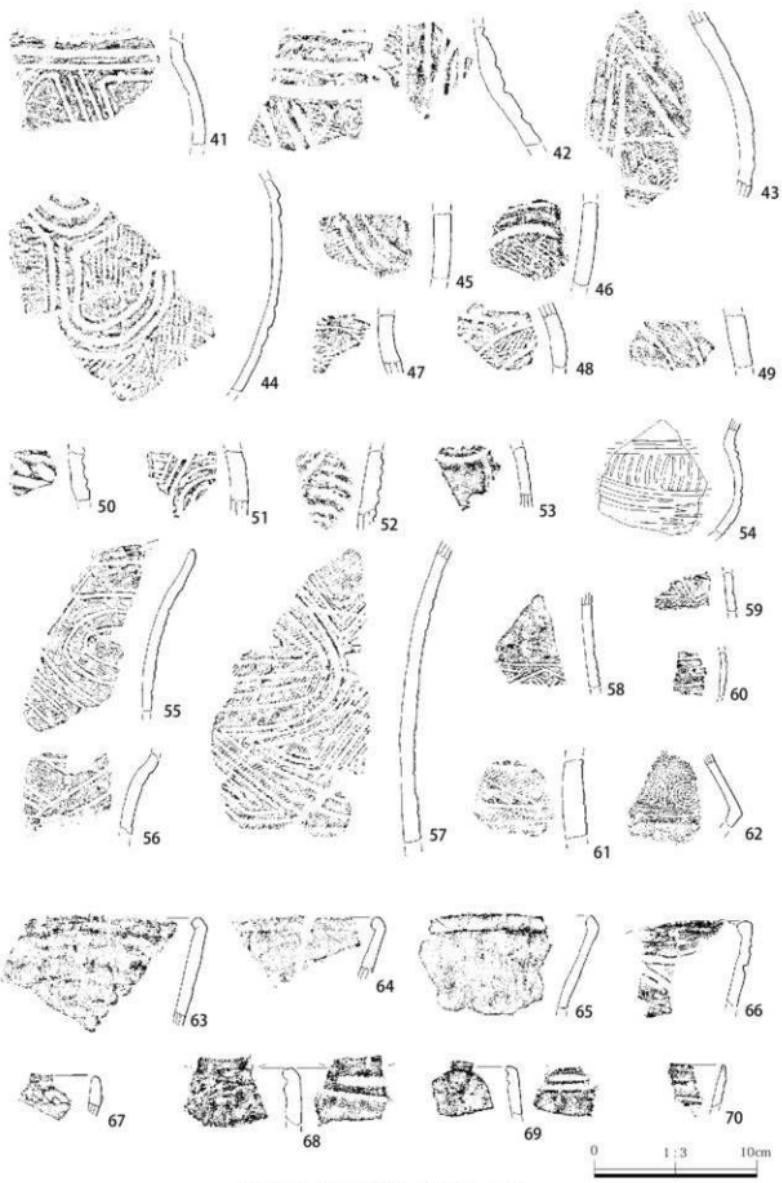




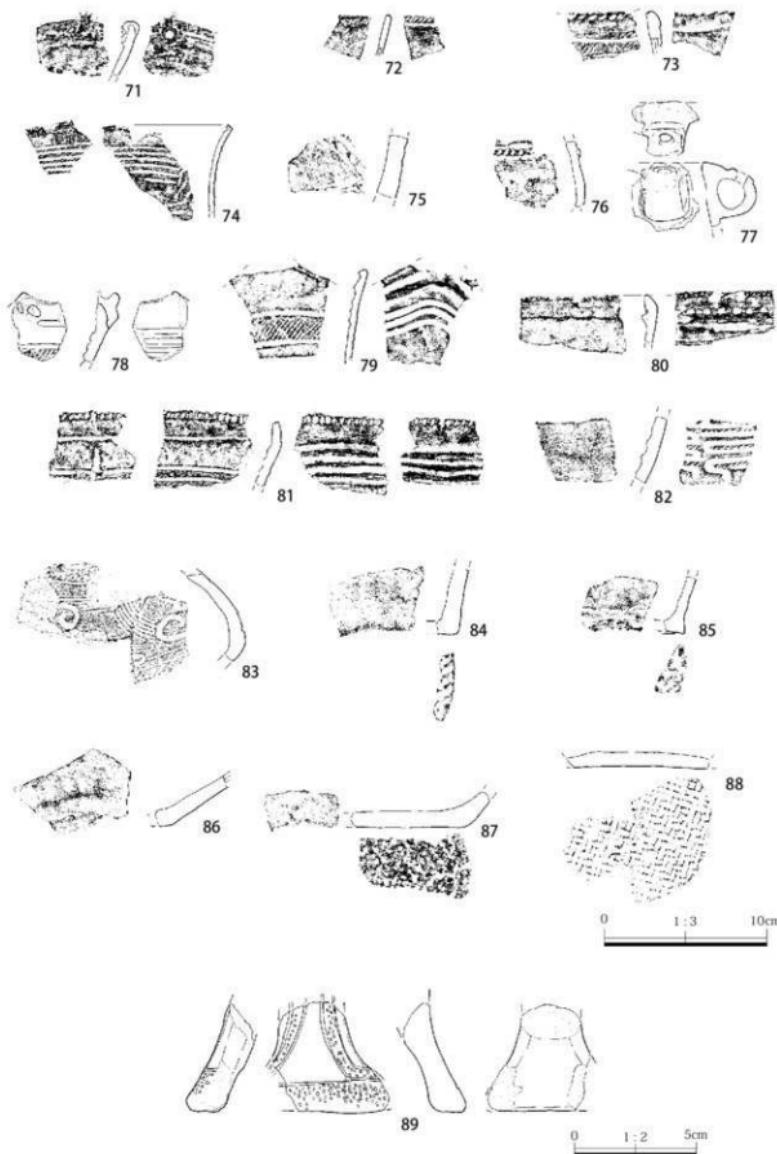
第26図 SI01出土遺物実測図2 (1/4)



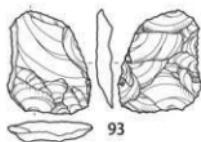
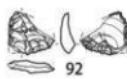
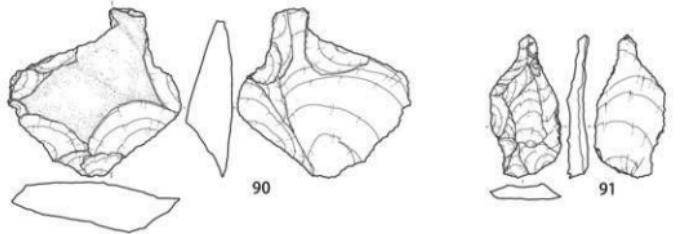
第27図 SI01出土遺物実測図3 (1/4・1/3)



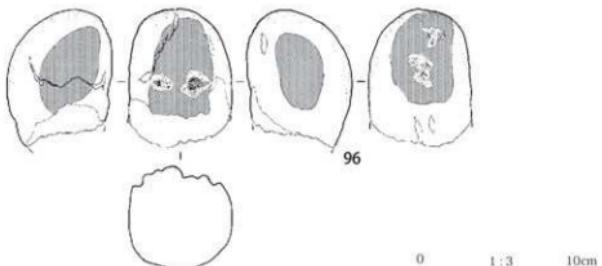
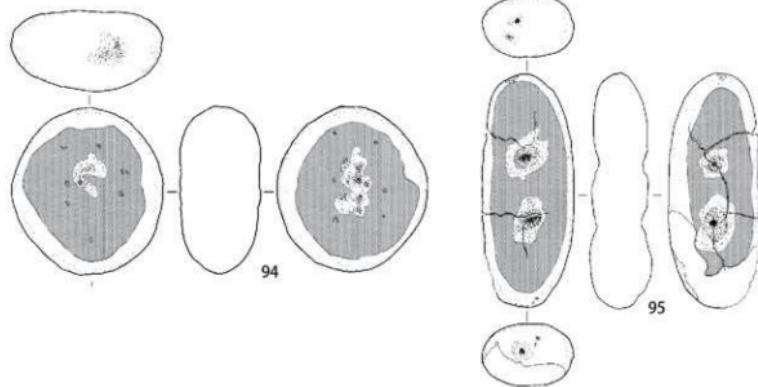
第28図 SI01出土遺物実測図4 (1/3)



第29図 SI01出土遺物実測図5 (1/3・1/2)

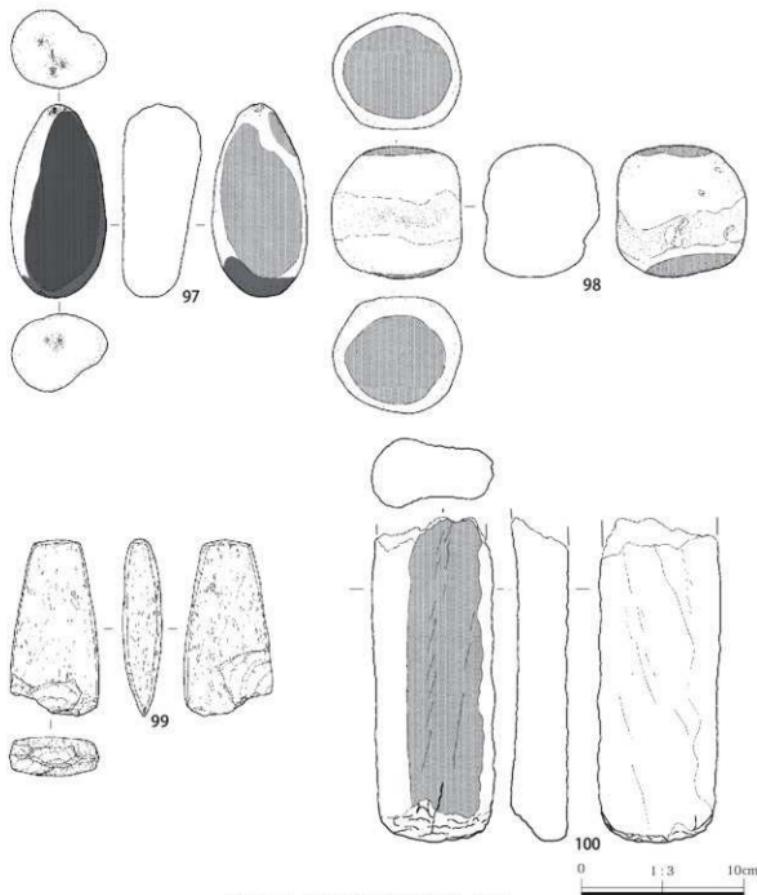


0 1 : 2 5cm



0 1 : 3 10cm

第30図 SI01出土遺物実測図6 (1/2・1/3)



第31図 SI01出土遺物実測図7 (1/3)

点(石鏃1点、石匙2点、削器1点、剥片31点)、打製石斧類5点(剥片5点)、礫石器類26点(磨石23点、磨石+凹石3点)、その他の石器1点(磨製石斧1点)である。そのうち土器88点、土偶1点、石器11点を図示し得た。

**備考** 主に堀之内1式期から加曾利B1式期までの遺物が出土しているが、床面直上出土土器及び炉体土器から、堀之内1式新段階が住居の使用時期と考えられ、それ以降の遺物は周辺の配石遺構からの流れ込みであると判断した。

SI02 (第32・33図／第7表／P L 19・32)

位置 調査区西端。

重複関係 SS20・SS24と重複し、SS20との新旧関係は不明だが、SS24に切られている。

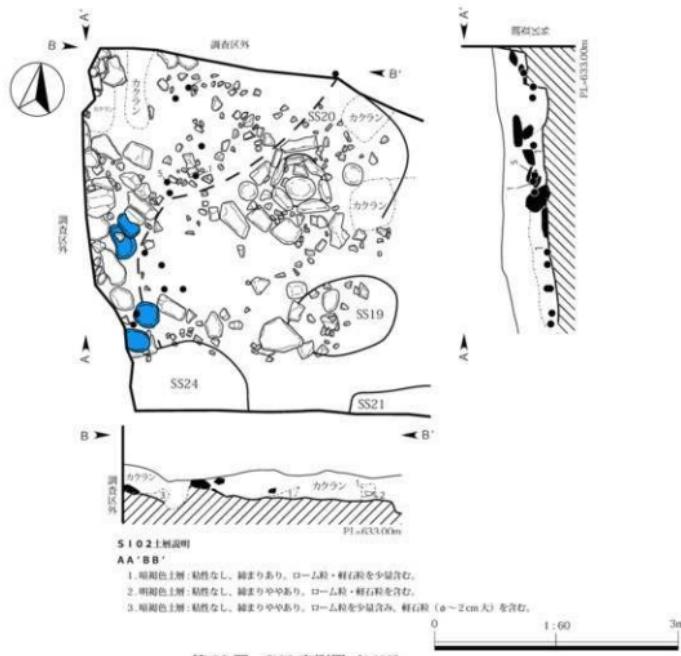
**遺存状況** 調査区西壁で柄部と考えられる 20 ~ 40cm 大の扁平な板状石が並んで検出され、柄部の東側半分と主体部の南東部分にあたると判断し、大半は調査区外へ広がっていると考えた。遺存状況は比較的良好である。

**覆土** 暗褐色土を基調としているが、全体的に攪乱を被っている。

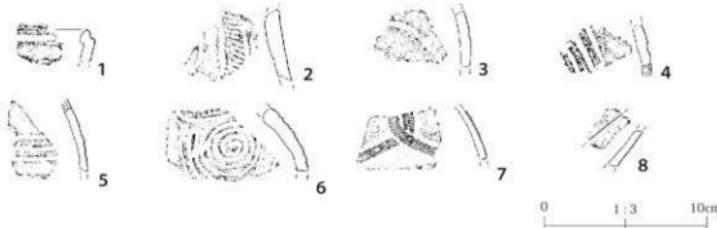
**平面形態と規模** 部分検出であるが平面形は柄鏡形を呈すると推測される。規模は主軸で 3.5m 以上、副軸で 3.1m 以上、床面積 5.2m<sup>2</sup> 以上を測る。

**主軸方向** N - 12.5° - W

**床面** 南側に緩やかに傾斜している。



第32図 SI02 実測図 (1/60)



第33図 SI02 出土遺物実測図 (1/3)

**壁・壁高** 未検出。

**柱穴** 未検出。

**炉跡** 未検出。

**その他の施設** なし。

**遺物** 総出土量は土器片 41 点 (839g)、石器 (剥片を含む) 3 点 (140g) である。そのうち土器 8 点を図示した。

**備考** 出土遺物から本住居は縄文時代後期前半 (堀之内式) に帰属すると考えられる。

### 第3節 土 坑

**SK01** (第 34・36 図／第 7 表／P L 19・33)

**位置** 調査区中央。

**重複関係** なし。

**遺存状況** 良好。

**覆土** 暗褐色土を基調とし、自然堆積を呈している。

**平面形態と規模** 平面形は不整橢円形を呈し、長軸 90cm、短軸 52cm、確認面からの深さ 25cm の規模を有する。

**主軸方向** N - 30.5° - W

**壁面** 南側は垂直に立ち上がる。北側は緩やかに立ち上がる。

**底面** 凸凹している。

**遺物** 土器片 6 点 (76g) が出土し、1 点を図示した。

**備考** 本土坑は出土遺物から縄文時代後期中葉 (加曾利 B1 式) に帰属すると考えられる。

**SK02・03**

**SK02** (第 34 図／P L 19)

**位置** 調査区中央。

**重複関係** SK03 と重複し、これを切っている。

**遺存状況** 良好

**覆土** 暗褐色土を基調とし、自然堆積を呈している。

**平面形態と規模** 平面形は不整橢円形を呈し、長軸 76cm、短軸 67cm、確認面からの深さ 33cm の規模を有する。

**主軸方向** N - 14° - W

**壁面** 外傾して立ち上がっている。

**底面** 中央が深くなっている。

**遺物** なし。

**SK03** (第 34 図／P L 19)

**位置** 調査区中央

**重複関係** SK02 と重複し、これに切られている。

**遺存状況** 全体の 3 分の 1 程度消失しているが、遺存状況は良好。

**覆土** 明褐色土を基調とし、単層である。

**平面形態と規模** 平面形は不整橢円形を呈すると考えられ、長軸 80cm 以上、短軸 67cm、確認面からの深さ

14cm 以上の規模を有する。

**主軸方向** N - 19° - W

**壁面** 外傾して立ち上がっている。

**底面** 南側へ傾斜している。

**遺物** なし。

#### SK04 (第 34 図／P L 20)

**位置** 調査区中央。

**重複関係** なし。

**遺存状況** 良好。

**覆土** 暗褐色土を基調としている。1・2 層は人為的な堆積を示している。

**平面形態と規模** 平面形は隅丸長方形を呈し、長軸 88cm、短軸 58cm、確認面からの深さ 27cm の規模を有する。

**主軸方向** N - 34° - W

**壁面** 外傾して立ち上がっている。

**底面** 南側が低く、ほぼ平坦である。

**遺物** 土器片 3 点 (52g) が出土したが、図示するには至らなかった。

#### SK05 (第 34 図／P L 20)

**位置** 調査区中央、SS13 の南側。

**重複関係** なし。

**遺存状況** 良好。

**覆土** 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。

**平面形態と規模** 平面形は梢円形を呈し、長軸 72cm、短軸 60cm、確認面からの深さ 20cm の規模を有する。

**主軸方向** N - 37° - E

**壁面** 外傾して立ち上がっている。

**底面** 南側が深くなっている。

**遺物** なし

#### SK06 (第 34 図／P L 20)

**位置** 調査区中央、SK09 の西側。

**重複関係** SS07 と重複し、これを切っている。

**遺存状況** 良好。

**覆土** 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。

**平面形態と規模** 平面形は隅丸長方形を呈し、長軸 125cm、短軸 68cm、確認面からの深さ 21cm の規模を有する。

**主軸方向** N - 15° - E

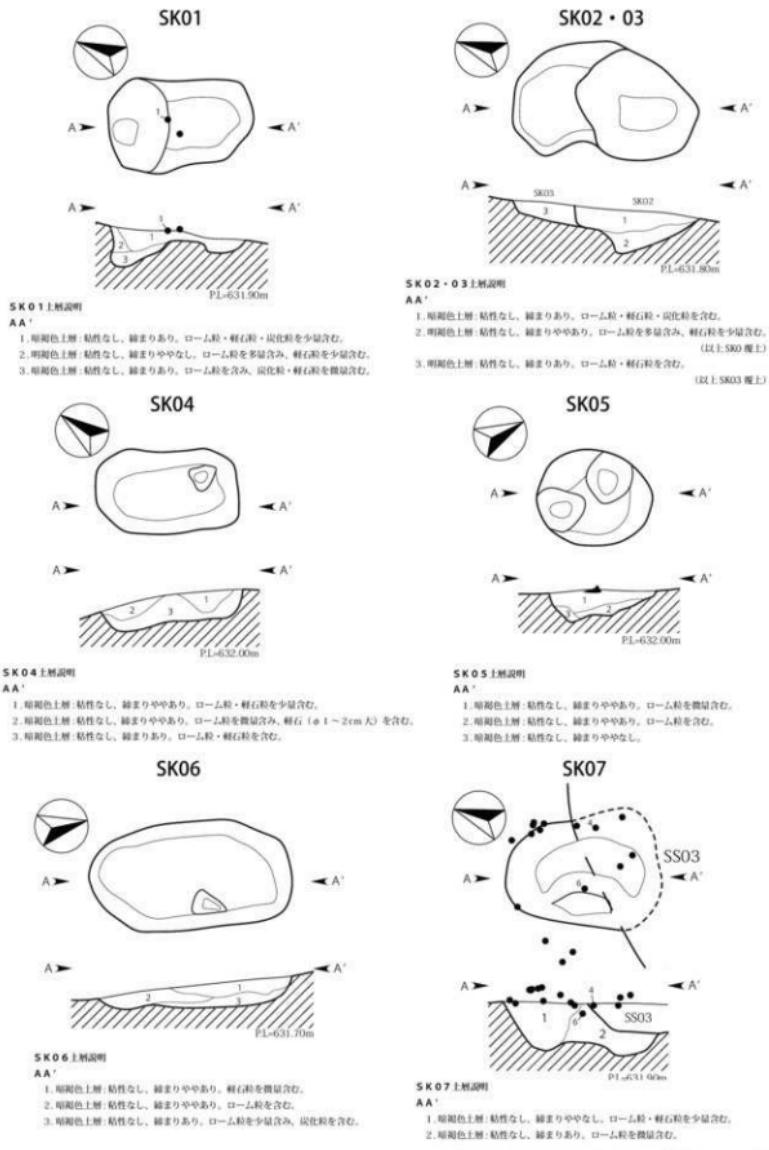
**壁面** 外傾して立ち上がっている。

**底面** 南側が低くほぼ平坦である。

**遺物** 土器片 3 点 (19g)、石器 2 点 (17g) が出土したが、図示するには至らなかった。

#### SK07 (第 34・36・37 図／第 7 表／P L 20・33)

**位置** 調査区東側、SS10 の南側、SI01 の北西側。



第34図 SK01～SK07実測図 (1/30)

**重複関係** SS03 と重複し、これを切っている。

**遺存状況** 良好。

**覆土** 暗褐色土を基調としている。1層は人為的堆積を示している。

**平面形態と規模** 平面形は不整橢円形を呈し、長軸 91cm、短軸 70cm、確認面からの深さ 25cm の規模を有する。

**主軸方向** N - 21.5° - W

**壁面** 外傾して立ち上がっている。

**底面** 凸凹している。

**遺物** 土器片 59 点 (1,796g)、石器 (剥片を含む) 3 点 (78.6g) が出土し、そのうち土器片 8 点、石器 1 点を図示した。

**備考** 本土坑は出土遺物から縄文時代後期前半 (堀之内 2 式) に帰属すると考えられる。

#### SK08 (第 35 図／P L 21)

**位置** 調査区中央。

**重複関係** なし。

**遺存状況** 良好。

**覆土** 暗褐色土を基調とし、単層である。

**平面形態と規模** 平面形は橢円形を呈し、長軸 90cm、短軸 54cm、確認面からの深さ 19cm の規模を有する。

**主軸方向** N - 74° - E

**壁面** 外傾して立ち上がっている。

**底面** 平坦である。

**遺物** なし。

#### SK09 (第 35 図／P L 21)

**位置** 調査区東側。

**重複関係** なし。

**遺存状況** 良好。

**覆土** 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。

**平面形態と規模** 平面形は不整円形を呈し、長軸 61cm、短軸 58cm、確認面からの深さ 21cm の規模を有する。

**主軸方向** N - 19° - W

**壁面** 外傾して立ち上がっている。

**底面** 北側に深くなる。

**遺物** 土器片 6 点 (55g) が出土したが、図示するには至らなかった。

#### SK10 (第 35・37 図／第 7 表／P L 21・33)

**位置** 調査区東側、SS05 の北側、SS01 の南東隣。

**重複関係** SS01 と隣接しており、SS01 の配石が覆い被さっていることから、これより古いと考えられる。

**遺存状況** 良好。

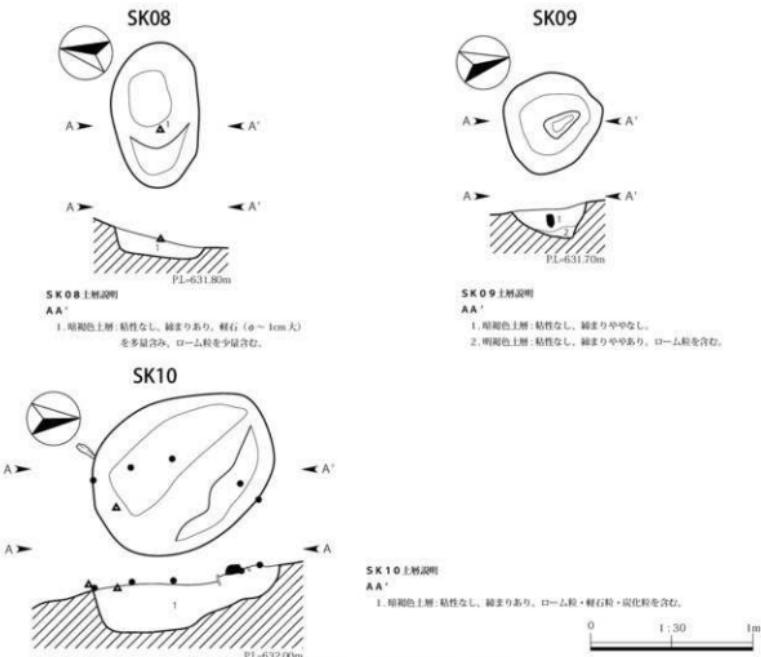
**覆土** 暗褐色土を基調とし、単層である。

**平面形態と規模** 平面形は橢円形を呈し、長軸 117cm、短軸 90cm、確認面からの深さ 42cm の規模を有する。

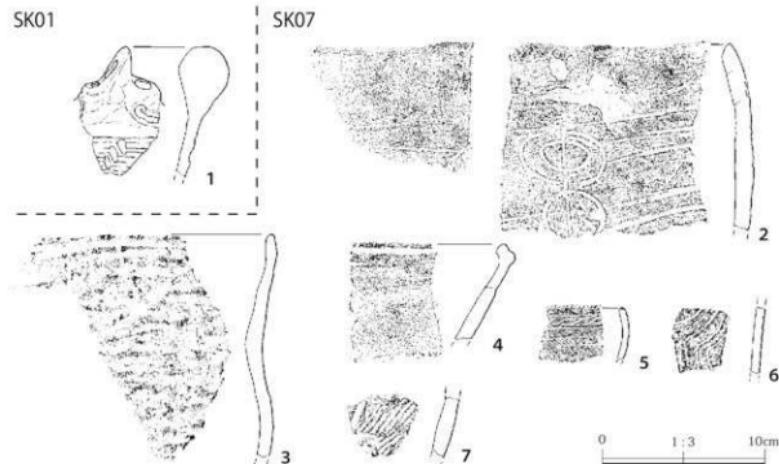
**主軸方向** N - 32.5° - W

**壁面** 北側は外傾して立ち上がっている。

**底面** 南側半分は平坦で北側は一段高くなる。



第35図 SK08～SK10 実測図 (1/30)

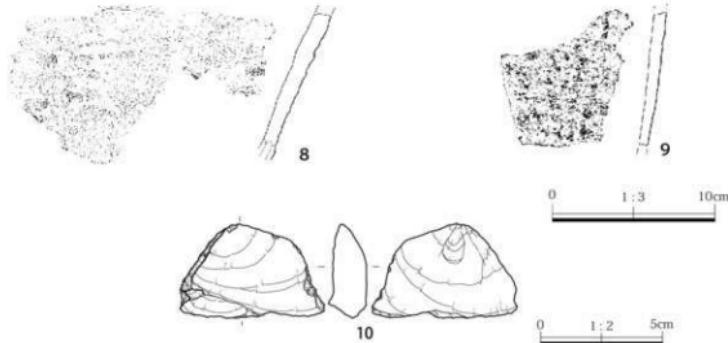


第36図 土坑出土遺物実測図 1 (1/3)

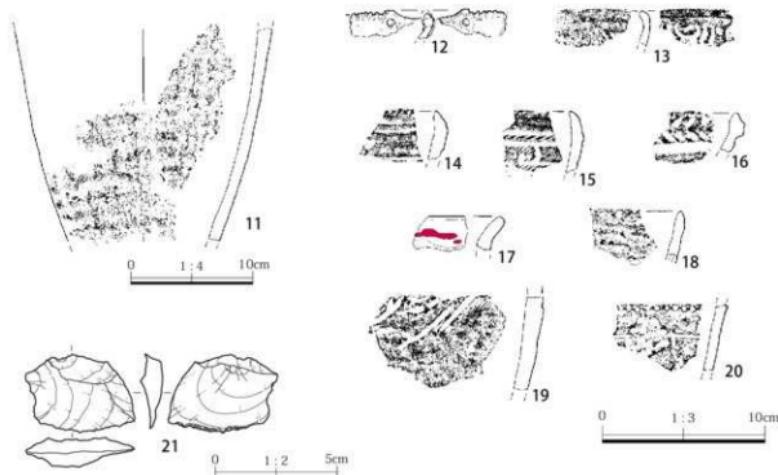
遺物 土器片 99 点 (1,889g)、石器(剥片を含む) 8 点 (403g) が出土し、そのうち土器 10 点、石器 1 点を図示した。

備考 本土坑は出土遺物から縄文時代後期前半(堀之内 2 式新段階)に帰属すると考えられる。

### SK07



### SK10



第 37 図 土坑出土遺物実測図 2 (1/3・1/2・1/4)

## 第4節 配石遺構

SS01 (第38~41図／第7表／P L 22・33・34)

位置 調査区東側、SS08の北東側、SK10の北西隣。

重複関係 SS02・SS08と重複し、これらを切っている。SK10と隣接しているが、配石がSK10に覆いかぶさっていることから、これを切っていると判断した。

遺存状態 良好。

覆土 単層である。礫が多数詰まっていた。

主軸方向 N-81°-W

配石の状況 10~20cm 大の角礫が下部遺構の底の落ち窟んだ場所を中心にして集積されていた。集積された石はSS08の縁取る角礫の列にも覆い被さっている。

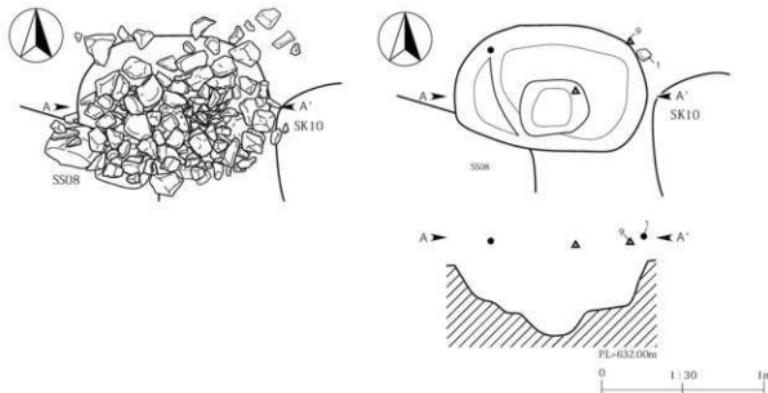
下部遺構 平面形は橢円形を呈し、長軸 118cm、短軸 78cm、確認面からの深さ 46cm の規模を有する。

壁面 階段状に外傾して立ち上がっている。

底面 平坦だが、中央部が深く掘り下げられている。

遺物 総出土量は土器片 58 点 (1,002g)、石器 14 点 (18.112g) で、石器の組成は、礫石器類 9 点 (磨石 7 点、多孔石 2 点)、打製石斧類 4 点 (剥片 4 点) である。そのうち、縄文土器を 3 点、石器を 6 点図示した。

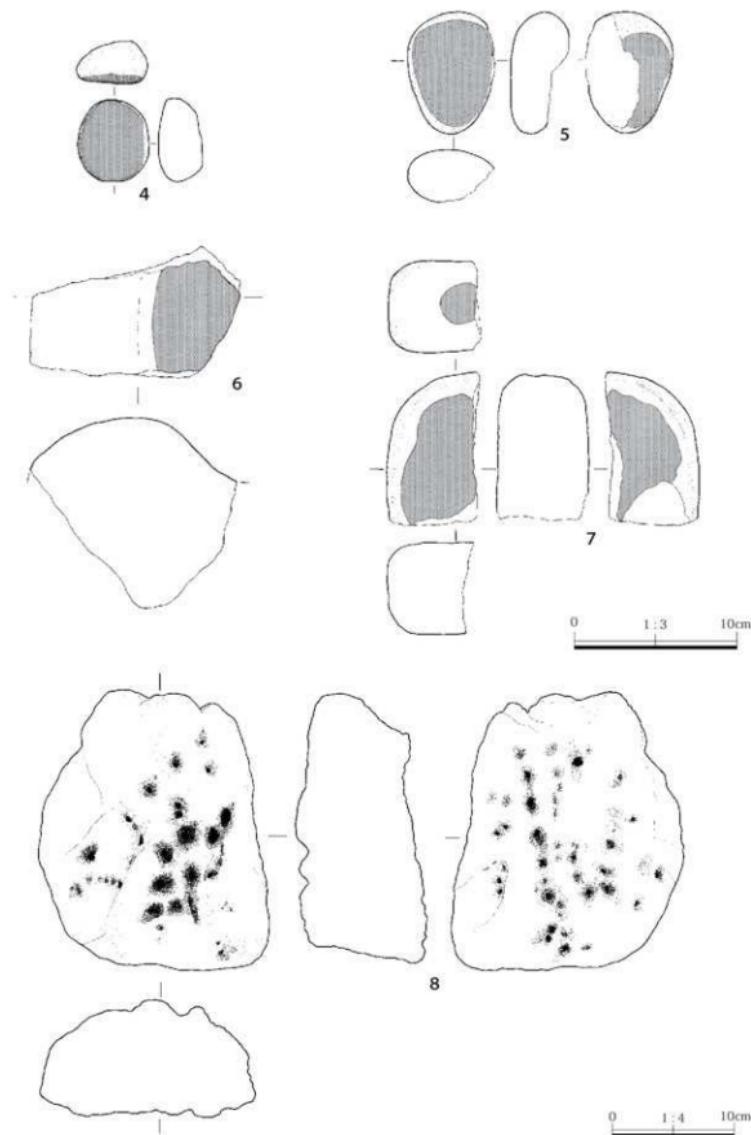
備考 本配石は出土遺物から縄文時代後期前半 (堀之内 2 式新段階) に収まると考えられる。



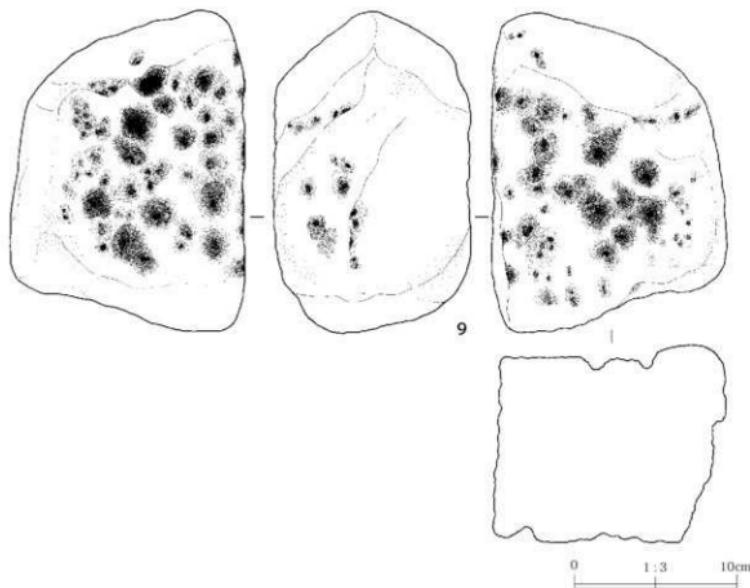
第38図 SS01 実測図 (1/30)



第39図 SS01 出土遺物実測図 1 (1/4・1/3)



第40図 SS01出土遺物実測図2 (1/3・1/4)



第41図 SS01出土遺物実測図3 (1/3)

SS02 (第42~44図/第7表/P.L.22・34)

位置 調査区東側、SS09の南東側、SS08の北側。

重複関係 SS01・SS08と重複し、これらに切られている。

遺存状況 上部構造の石の残存が悪く、特に南側は他の遺構と切りあっているため、境界が不明瞭である。北側は石組に使われた比較的大きな石が残存している。

覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。

主軸方向 N-17°-W

配石の状況 北東側に30~60cm 大の板状石・角礫を配置している。これらの比較的大きい板状石・角礫は、そのまま東方向に列石として続いている可能性がある。配石中央付近に30cm 大の礫を配置し、それを中心に10~20cm 大の礫が東西の帯状に集積されている。また下部遺構を縁取るよう10~20cm 大の角礫が並べられていた。

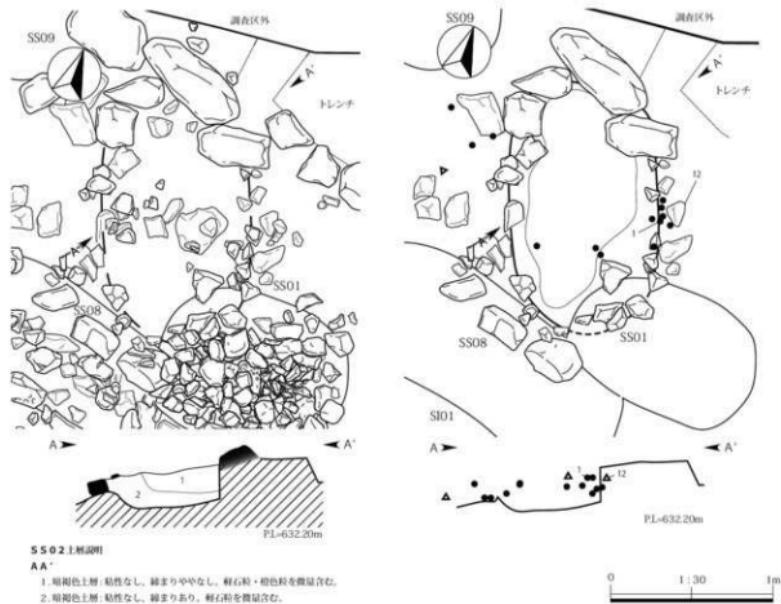
下部遺構 平面形は梢円形を呈し、長軸 150cm 以上、短軸 74cm、確認面からの深さ 39cm の規模を有する。

壁面 北東側は大きな角礫が据えられてほぼ垂直に、南西側はほぼ外傾して立ち上がっている。

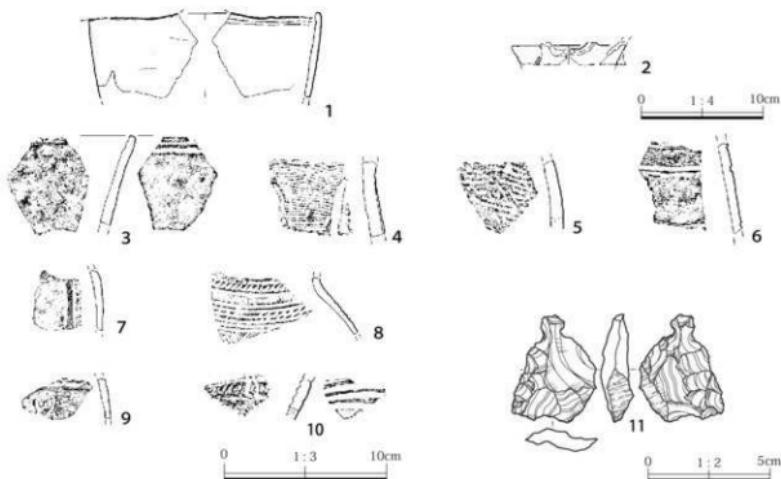
底面 平坦である。

遺物 総出土量は土器片 86 点 (1.057g)、石器 (剥片石器含む) 7 点 (1252.4g) で、石器組成は剥片石器類 6 点 (石匙 1 点、剥片 5 点)、礫石器類 1 点 (石皿) である。そのうち、縄文土器を 10 点、石器を 2 点 図示した。

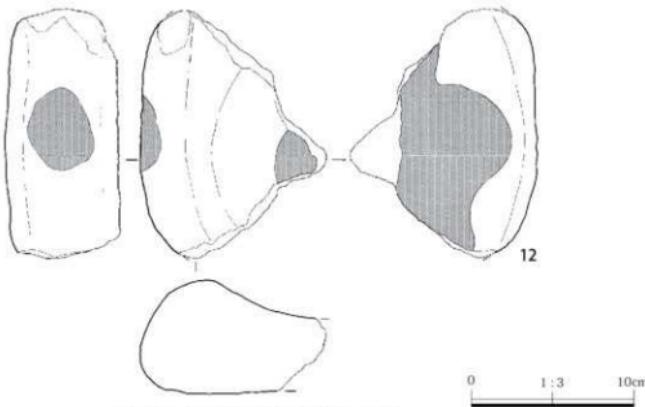
備考 本配石は出土遺物から縄文時代後期中葉 (堀之内 2 式末~加曾利 B1 式) に帰属すると考えられる。



第42図 SS02 実測図 (1/30)



第43図 SS02 出土遺物実測図 1 (1/4 • 1/3 • 1/2)



第44図 SS02出土遺物実測図2 (1/3)

SS03 (第45~47図/第7表/P.L.23・35)

位置 調査区東側、SI01の北側、SS03の西側。

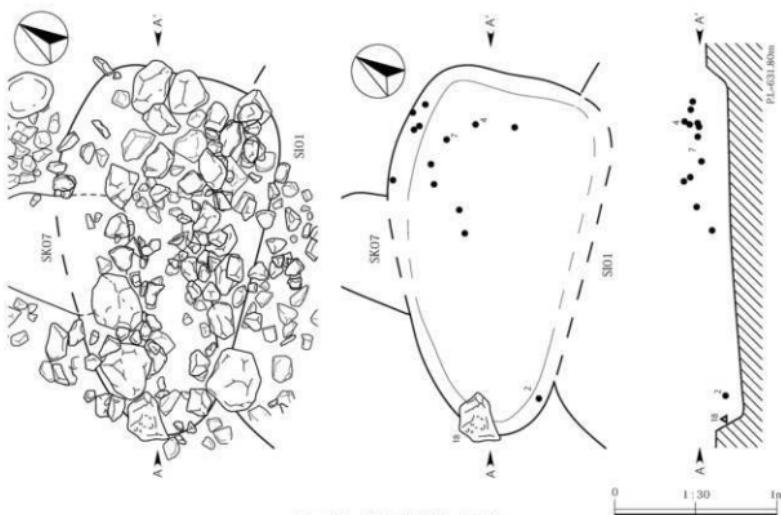
重複関係 SI01・SK07と重複し、これらを切っている。

遺存状況 良好。

覆土 暗褐色土を基調とし、単層である。

主軸方向 N-52°-E

配石の状況 20~30cm 大の角砾を用いて下部造構よりやや南寄りに長楕円形に並べている。本配石と SI01



第45図 SS03実測図 (1/30)

にかけて、10cm大の角礫が梢円形に集積されているが、境界付近には 20cm大の角礫が列状に並ぶ。

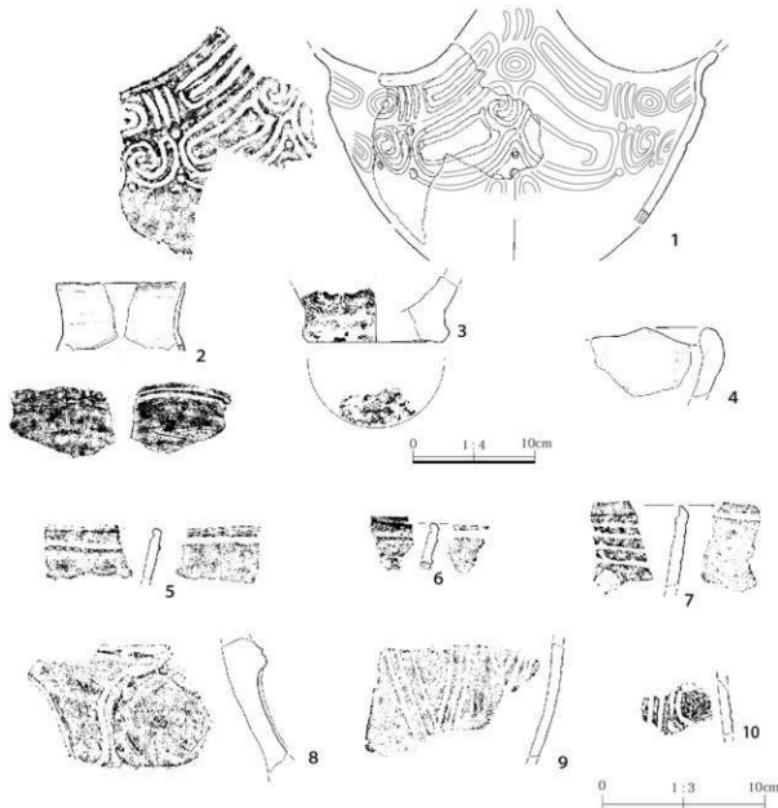
**下部遺構** 平面形は不整梢円形を呈し、長軸 229cm、短軸 88cm 以上、確認面からの深さ 13cm の規模を有する。

**壁面** 外傾して立ち上がっている。

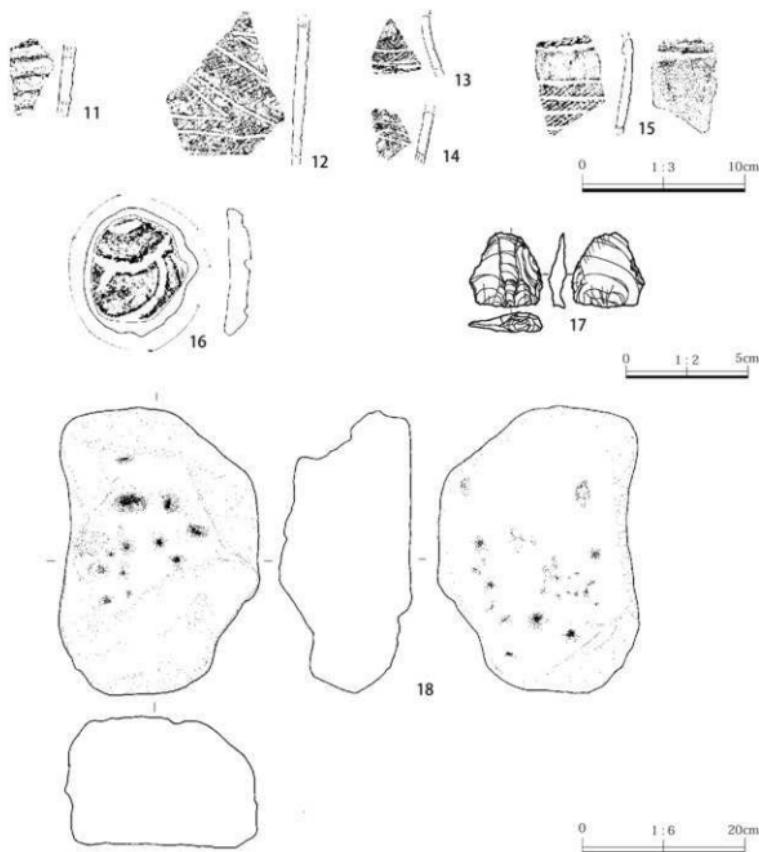
**底面** ほぼ平坦。

**遺物** 総出土量は土器片 112 点 (2.108g)、石器 (剥片石器含む) 7 点 (15.506.5g) で、石器組成は剥片石器類 1 点 (削器)、礫石器類 1 点 (多孔石) である。そのうち、縄文土器を 16 点、石器を 2 点図示した。

**備考** 出土遺物から縄文時代後期中葉 (加曾利 B1 式) に帰属すると考えられる。出土遺物は堀之内 1 式期～加曾利 B1 式期まで認められ、第 46 図 7 や第 47 図 15 などが本配石に伴う土器でそれ以外の土器は SI01・SK07 からの流れ込みであると判断した。



第 46 図 SS03 出土遺物実測図 1 (1/4・1/3)



第47図 SS03出土遺物実測図2 (1/3・1/2・1/6)

SS04 (第48~51図/第7表/P.L.23・35・36)

位置 調査区東側、南壁沿い。SS05の西側。

重複関係 S101と重複し、これを切っている。

遺存状況 南端が調査区外へ延びているが遺存状態は良好。

覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。

主軸方向 N-31°-E

配石の状況 下部遺構の東側縁辺に20~30cm大の板状石・角礫が列状に並べられている。西側縁辺にも並んでいたようだが、北側の2個のみ残存する。配石内側には10cm大の角礫が疎らに散らばっている。

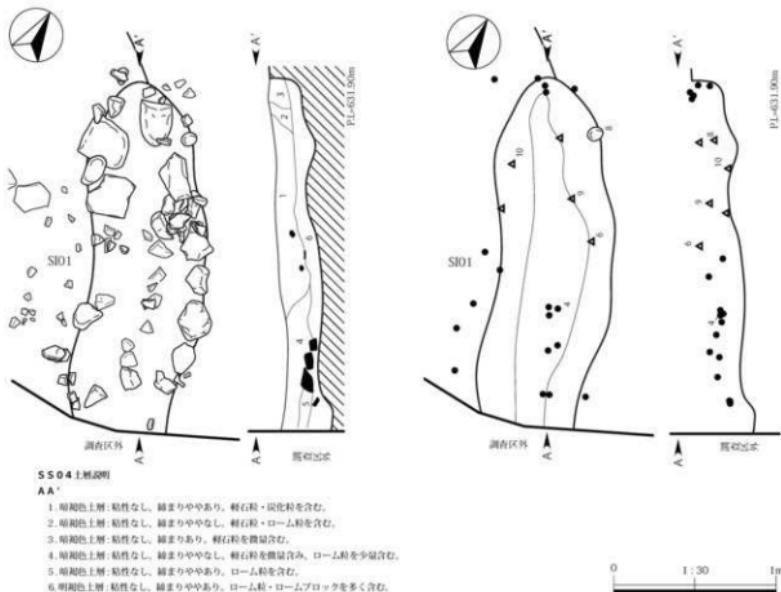
下部遺構 平面形は細長い楕円形を呈し、長軸226cm以上、短軸71cm、確認面からの深さ40cmの規模を有する。

壁面 外傾して立ち上がっている。

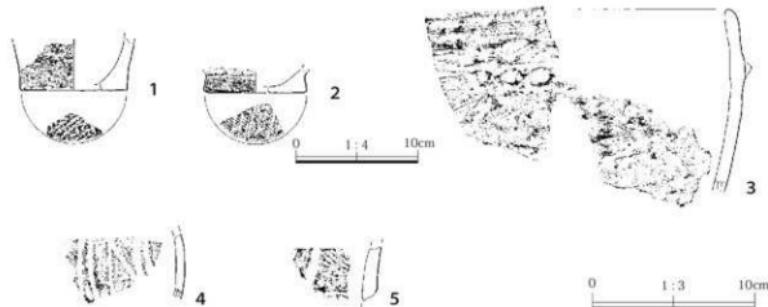
**底面** 凸凹している。

**遺物** 総出土量は土器片43点(601g)、石器(剥片石器含む)13点(15,575.5 g)で、石器組成は剥片石器類6点(石鏃1点、石匙1点、剥片4点)、打製石斧類2点(剥片)、疊石器類4点(磨石2点、磨石+凹石2点)である。そのうち、縄文土器を5点、石器を5点図示した。

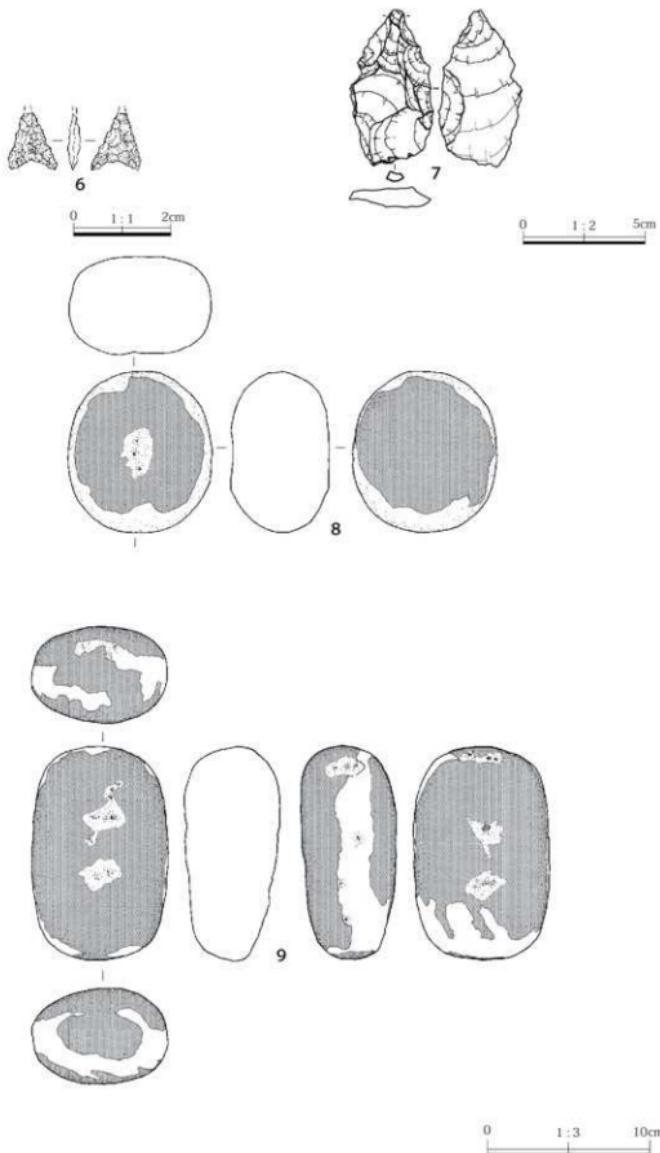
**備考** 本配石は出土遺物から縄文時代後期前葉(堀之内1式新段階)に帰属すると考えられる。



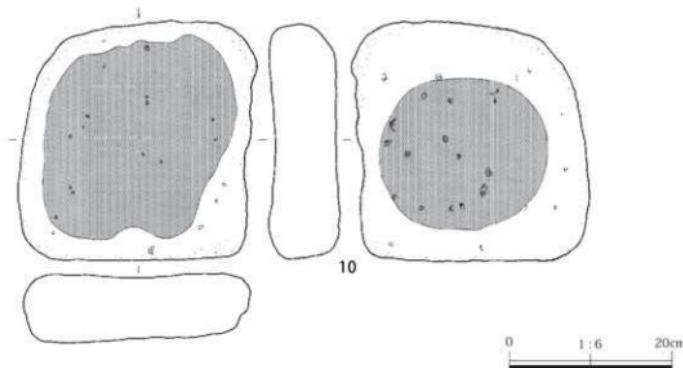
第48図 SS04実測図(1/30)



第49図 SS04出土遺物実測図1(1/4 + 1/3)



第50図 SS04出土遺物実測図2 (1/1・1/2・1/3)



第51図 SS04出土遺物実測図3 (1/6)

SS05 (第52・53図／第7表／PL 23・36)

位置 調査区東側、南壁沿い。S101・SS04の東側、SK10の南側。

重複関係 なし。

遺存状況 良好。

覆土 暗褐色土を基調とし、単層である。

主軸方向 N-43.5°-W

配石の状況 30cm 大の礫が中央やや北よりに数個集積され、下部遺構を覆うように 10cm 大の礫が疎らに散らばっている。

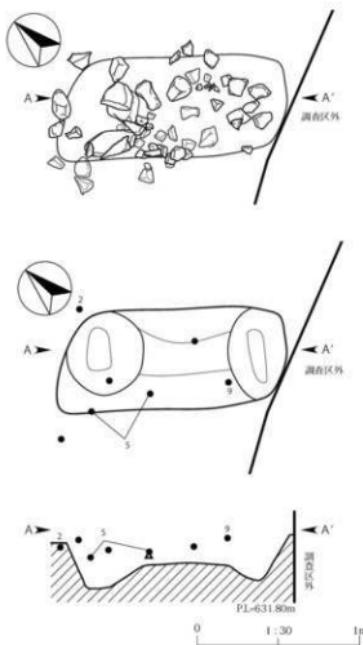
下部遺構 平面形は隅丸長方形を呈し、長軸 138cm、短軸 61cm、確認面からの深さ 35cm の規模を有する。

壁面 外傾して立ち上がっている。

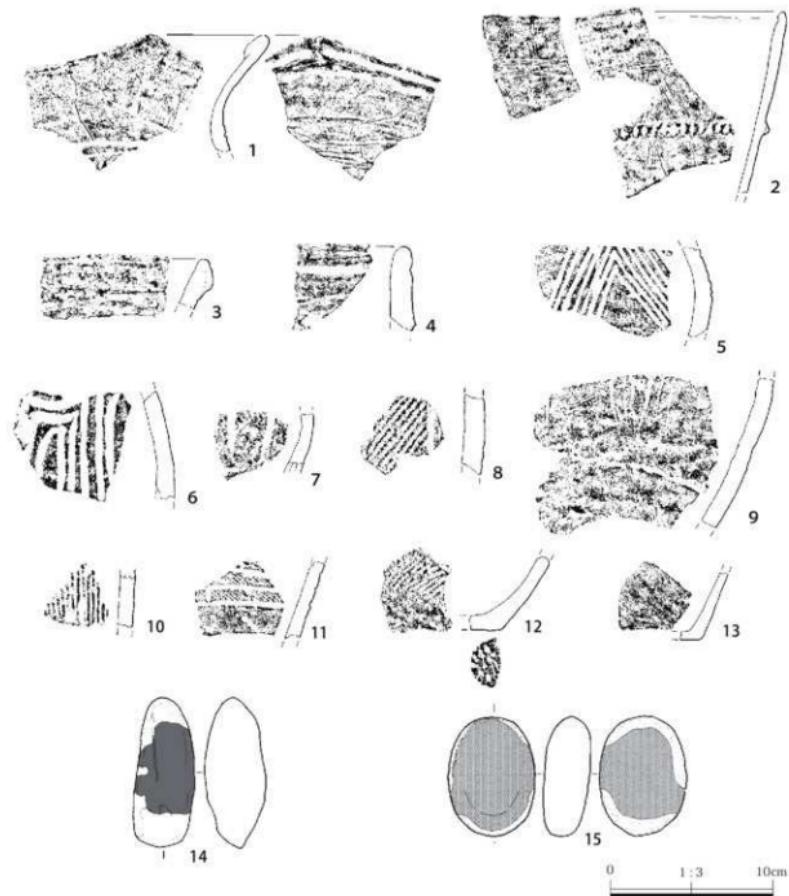
底面 長軸方向の両端が掘り込まれている。

遺物 総出土量は土器片 55 点 (1,183g)、石器 (剥片石器含む) 4 点 (394.8g) で、石器組成は剥片石器類 2 点 (剥片)、礫石器類 2 点 (磨石) である。そのうち、縄文土器を 13 点、石器を 2 点を図示した。

備考 本配石は出土遺物から縄文時代後期前半 (堀之内式新段階) であると考えられる。



第52図 SS05実測図 (1/30)



第53図 SS05出土遺物実測図(1/3)

SS06 (第54・55図／第7表／P L 23・36)

位置 調査区東側、南壁沿い。SI01の西側、SK09の南側。

重複関係 SI01と重複し、これを切っている。

遺存状況 南側半分以上が調査区外に延びているが、遺存状況は良好である。

覆土 暗褐色土を基調とし、単層である。

主軸方向 N-37°-E

配石の状況 30~40cm大の比較的大きな板状石と10cm大の角礫が規則性なく集積されている。

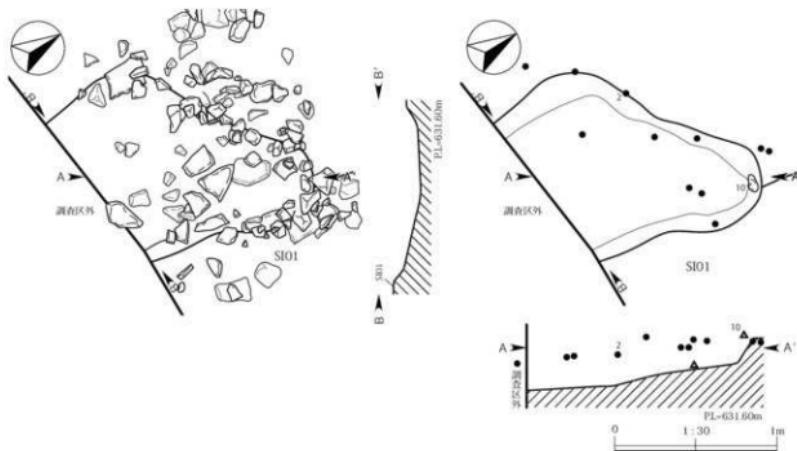
下部造構 平面形は不整梢円形を呈すると考えられ、長軸138cm以上、短軸61cm以上、確認面からの深さ35cmの規模を有する。

下部造構の壁面 外傾して立ち上がっている。

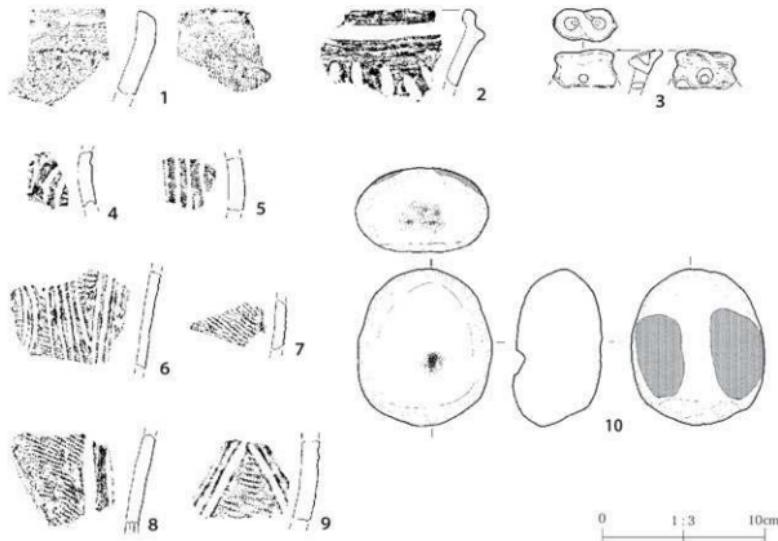
**底面** ほぼ平坦で南側に向かって深くなっている。

**遺物** 総出土量は土器片 48 点 (787g)、石器 (剥片石器含む) 2 点 (636.7g) で、石器組成は剥片石器類 1 点 (剥片)、礫石器類 1 点 (磨石+四石) である。そのうち、縄文土器を 9 点、石器を 1 点図示した。

**備考** 本配石は出土遺物から縄文時代後期前半（堀之内 1 式新段階）に帰属すると考えられる。



第 54 図 SS06 実測図 (1/30)



第 55 図 SS06 出土遺物実測図 (1/3)

SS07 (第 56・57 図／第 7 表／PL 24・37)

位置 調査区中央、SK06 の西側。

重複関係 SK06 と重複し、これに切られている。

遺存状況 全体の 80%が遺存している。

覆土 暗褐色土を基調とし、単層である。

主軸方向 N - 10° - W

配石の状況 10 ~ 30cm 大の角礫が下部遺構を覆うよう疊らに集積され、中央から南寄りに 50cm 大の板状石が配置されている。

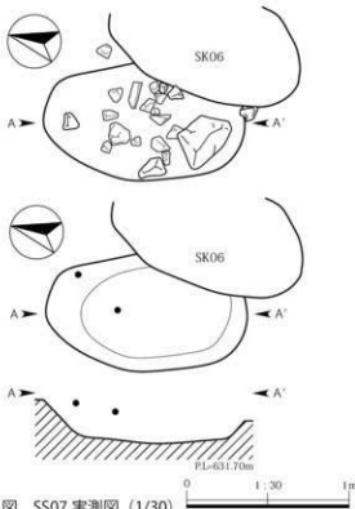
下部遺構 平面形は楕円形を呈し、長軸 125cm、短軸 72cm、確認面からの深さ 30cm の規模を有する。

下部遺構の壁面 外傾して緩やかに立ち上がっている。

底面 凹状を呈している。

遺物 総出土量は土器片 9 点 (96g) である。そのうち、縄文土器 3 点を図示した。

備考 出土遺物から本配石は縄文時代後期前半（堀之内 2 式）に帰属すると考えられる。



第 56 図 SS07 実測図 (1/30)



第 57 図 SS07 出土遺物実測図 (1/3・1/4)

SS08 (第 58 ~ 60 図／第 7 表／PL 24・37)

位置 調査区東側、SI01 の北側、SS03 の東側。

重複関係 SI01・SS01・SS02 と重複し、SI01・SS02 を切り、SS01 に切られている。

遺存状況 良好。

覆土 暗褐色土を基調とし、単層である。

主軸方向 N - 73° - W

配石の状況 30 ~ 40cm 大の角礫が下部遺構の長軸方向に平行に並べられていた形跡が認められる。その内側には 10 ~ 20cm 大の角礫が列に沿って集積されている。

下部遺構 平面形は隅丸長方形を呈し、長軸 197cm、短軸 75cm 以上、確認面からの深さ 21cm の規模を有する。

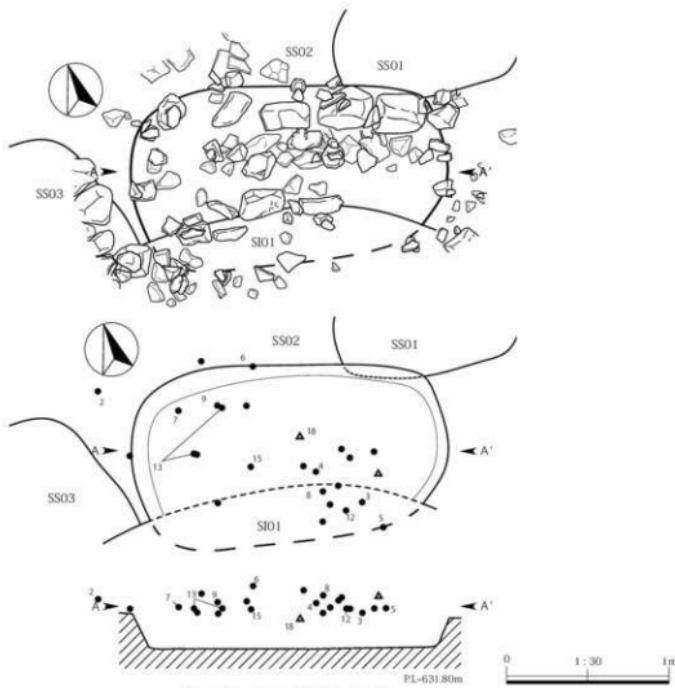
壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 平坦である。

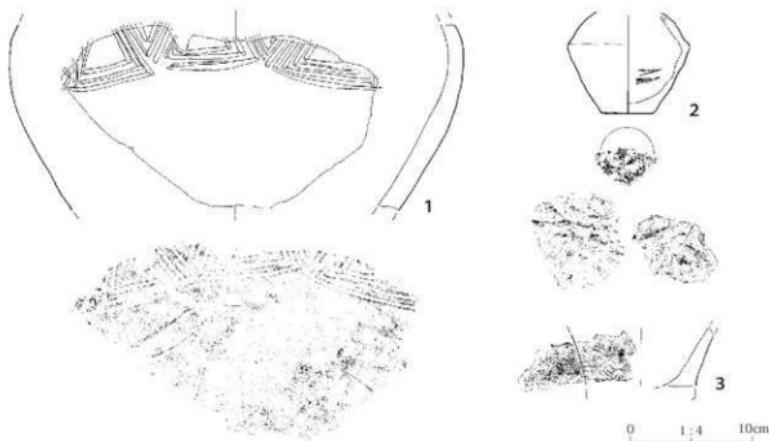
遺物 総出土量は土器片 41 点 (2,159g)、石器（剥片石器含む）2 点 (3.0g) で、石器組成は剥片石器類 2 点 (石鏃 1 点、剥片 1 点) である。そのうち、縄文土器を 17 点、石器を 1 点図示した。

備考 本配石は出土遺物から縄文時代後期中葉（堀之内 2 式新段階～加曾利 B1 式期）に帰属すると考えられる。

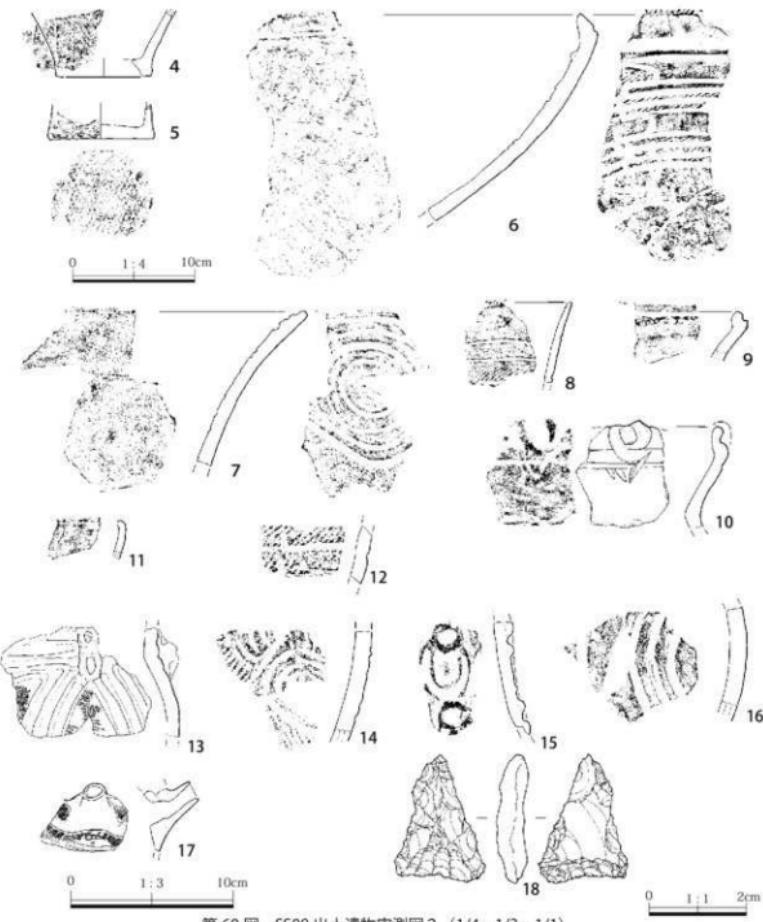
出土遺物は堀之内 1 式～加曾利 B1 式期まで認められ、第 59 図 2 や第 60 図 6 ~ 8・12・17 などが本配石に伴う土器でそれ以外の土器は SI01・SS02 からの流れ込みであると判断した。



第58図 SS08 実測図 (1:30)



第59図 SS08 出土遺物実測図 1 (1:4)



第60図 SS08出土遺物実測図2 (1/4・1/3・1/1)

SS09 (第61図/第7表/P L 24・37)

位置 調査区東側、北壁沿い。SS10の東側、SS02の北西側。

重複関係 なし。

遺存状況 遺構は調査区外へ延びており、半分以下の検出だが遺存状態は比較的良好。

覆土 暗褐色土を基調とし、单層である。

主軸方向 N - 81.5° - E

配石の状況 東隅に60cm 大の板状石が配置され、10 ~ 30cm 大の角礫が長方形状に集積されている。

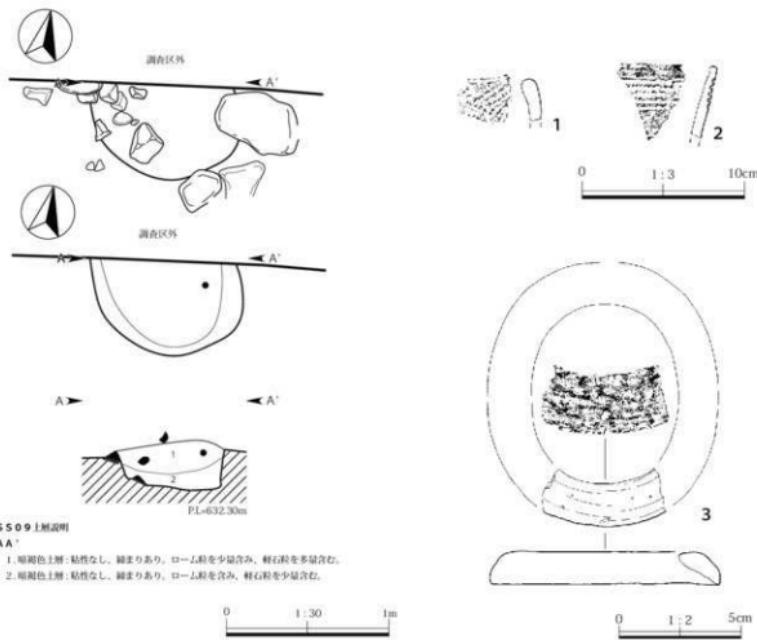
下部遺構 平面形は楕円形を呈すると考えられ、長軸 61cm 以上、短軸 84cm、確認面からの深さ 25 ~ 45cm の規模を有する。

**壁面** 東側は石直立気味に、西側は外傾して立ち上がっている。

**底面** ほぼ平坦である。

**遺物** 総出土量は土器片（土製品含む）17点（214g）である。そのうち、縄文土器を2点と土製品1点を図示した。

**備考** 本配石は出土遺物から縄文時代後期中葉（加曾利B1式期）に帰属すると考えられる。遺物は少ないものの、副葬品と考えられる土製腕輪（第61図3）の破片が出土している。



第61図 SS09 実測図（1/30）・出土遺物実測図（1/3・1/2）

### SS10（第62図／PL 24）

**位置** 調査区東側、北壁沿い。SS11の北東側、SK07の北側。

**重複関係** なし。

**遺存状況** 大部分が調査区外に延びているが、遺存状態は良好である。

**覆土** 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。

**主軸方向** N-9°-W

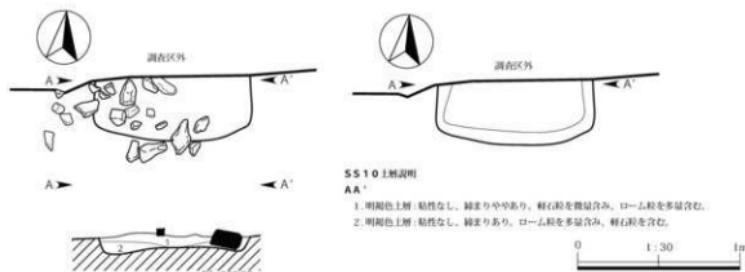
**配石の状況** 10~20cm 大の礫が下部遺構の西寄りに集積されている。

**下部遺構** 平面形は長方形を呈すると考えられ、長軸40cm以上、短軸97cm、確認面からの深さ15~38cmの規模を有する。

**壁面** 外傾して立ち上がっている。

**底面** ほぼ平坦だが、長軸方向の両端がやや窪んでいる。

**遺物** なし。



第 62 図 SS10 実測図 (1/30)

### SS11 (第 63 図／第 7 表／PL 24・37)

位置 調査区中央、北壁沿い。SS10 の南西側。

重複関係 なし。

遺存状況 良好。

覆土 なし。

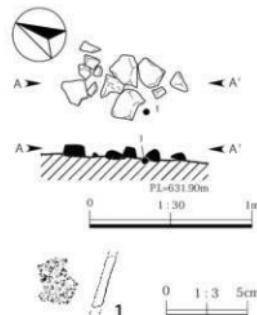
配石状況 長軸 70cm × 短軸 45cm の範囲に 20cm 大の板状石と 10cm 大の角礫を集積している。

主軸方向 N - 1° - E

下部構造 なし。

底面 配石の下は平坦である。

遺物 総出土量は土器片 1 点 (6.0g) である。縄文土器 1 点を示した。



第 63 図 SS11 実測図 (1/30) ·

出土遺物実測図 (1/3)

### SS12 (第 64 図／第 7 表／PL 24・25・37)

位置 調査区中央。SK05 の南側、SK08 の西側。

重複関係 なし。

遺存状況 良好。

覆土 暗褐色土を基調とし、単層である。

主軸方向 N - 85° - E

配石の状況 30cm 大の丸石が中央西寄り、20cm 大の丸石が西端に配置され、下部構造の全体を 10 ~ 40cm 大の角礫・板状石で覆っている。

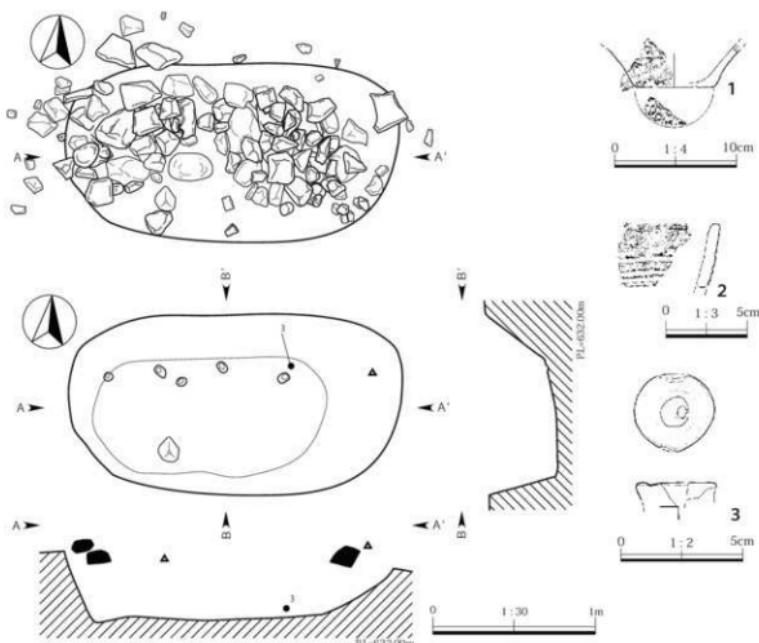
下部構造 平面形は梢円形を呈し、長軸 204cm、短軸 100cm、確認面からの深さ 51cm の規模を有する。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 ほぼ平坦で北側に小ピットが並ぶ。

遺物 総出土量は土器片 (土製品含む) 36 点 (324g)、石器 (剥片石器含む) 8 点 (2.015.4g) で、石器組成は剥片石器類 7 点 (剥片)、礫石器類 1 点 (多孔石) である。そのうち、縄文土器を 2 点、土製品 1 点を図示した。

**備考** 下部遺構の底面付近から副葬品と考えられる耳飾り（第64図3）が出土している。本配石は出土遺物から縄文時代後期中葉（堀之内2式～加曾利B1式期）に帰属すると考えられる。



第64図 SS12 実測図 (1/30)・出土遺物実測図 (1/4・1/3・1/2)

### SS13 (第65図/第7表/PL 25・37)

**位置** 調査区中央、北壁沿い。SK05の北側。

**重複関係** なし。

**遺存状況** 北側の約3分の1が調査区外に延びるが、遺存状態は良好。

**覆土** 暗褐色土を基調とし、単層である。

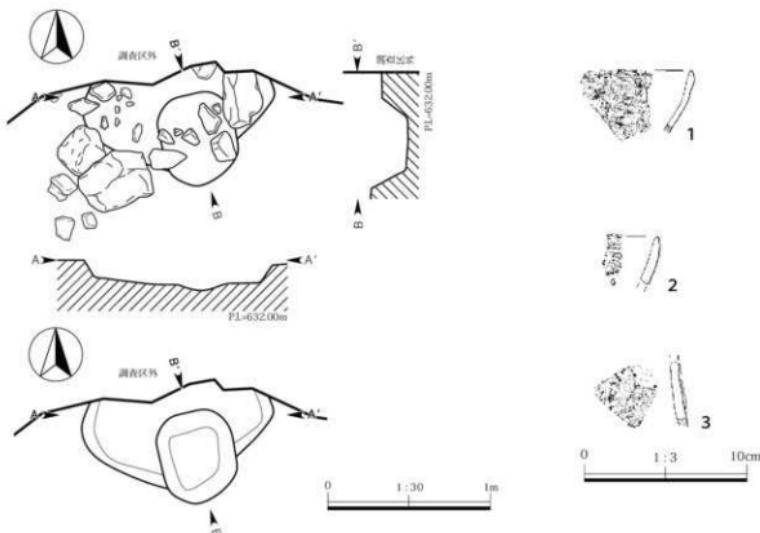
**主軸方向** N - 77° - E

**配石の状況** 長軸側東端と南西下部構造縁辺に30～50cm大の石が配置され、その間や配石内には10～20cm大の角礫が疎らに散っている。

**下部遺構** 平面形は梢円形を呈し、長軸118cm、短軸62cm以上、確認面からの深さ31cmの規模を有する。  
**下部遺構壁面** 外傾して立ち上がる。

**底面** ほぼ平坦だが、南側が掘り込まれている。

**遺物** 総出土量は土器片5点(225g)、石器(剥片石器含む)8点(2,015.4g)である。そのうち、縄文土器3点を図示した。



第65図 SS13実測図(1/30)・出土遺物実測図(1/3)

SS14 (第66～68図／第7表／PL 25・26・38)

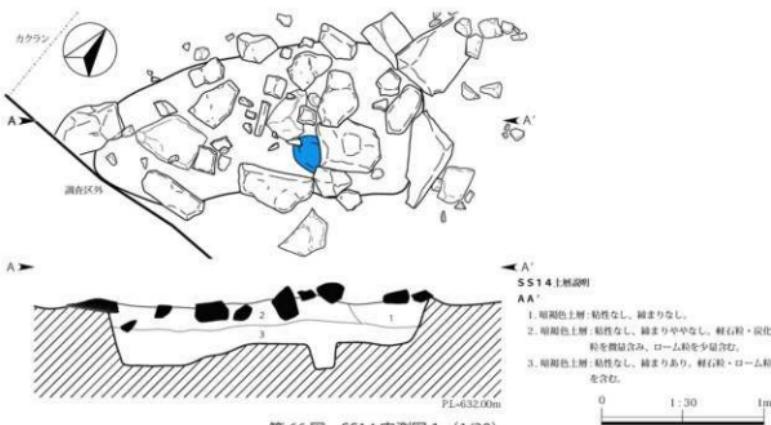
位置 調査区西側、南壁沿い。SS15の南側。

重複関係 なし。

遺存状況 良好。

覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。

主軸方向 N-43°-E



第66図 SS14実測図1(1/30)

**配石の状況** 中央やや東寄りに丸石、下部遺構の縁辺や上部に 40 ~ 50cm 大の比較的大きな板状石・角礫を配置している。

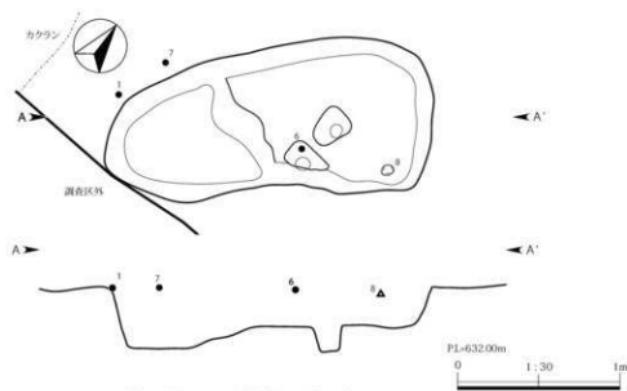
**下部遺構** 平面形は長楕円形を呈し、長軸 205cm、短軸 86cm、確認面からの深さ 53cm の規模を有する。

**壁面** 外傾して立ち上がっている。

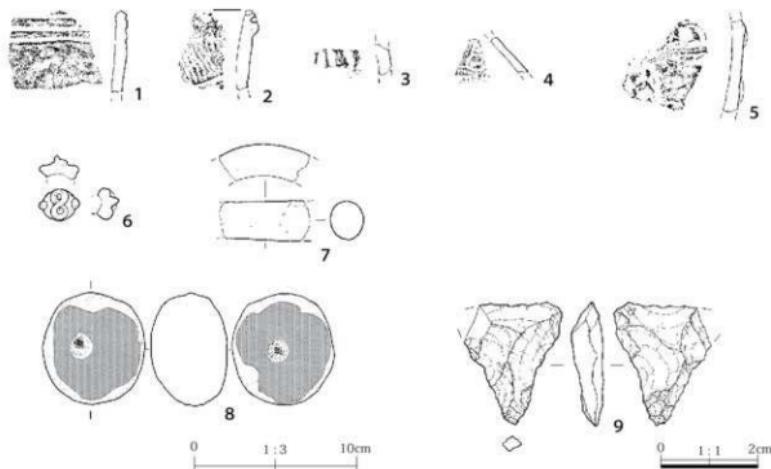
**底面** 北東側は比較的平坦でピットが 2 基確認されている。南西側は階段状に深くなっている。

**遺物** 総出土量は土器片 26 点 (301g)、石器 (剥片石器含む) 5 点 (263.9g) で、石器組成は剥片石器類 4 点 (石錐 1 点、剥片 3 点)、礫石器類 1 点 (磨石+凹石) である。そのうち、縄文土器を 7 点、石器を 2 点図示した。

**備考** 本配石は出土遺物より縄文時代後期中葉 (堀之内 2 式新段階～加曾利 B1 式期) に帰属すると考えられる。



第 67 図 S514 実測図 2 (1/30)



第 68 図 S514 出土遺物実測図 (1/3・1/1)

SS15 (第 69 ~ 71 図／第 7 表／PL 25・26・38)

位置 調査区西側、SS14 の北側、SS16・17 の南側。

重複関係 なし。

遺存状況 摂乱を被り、全体の約 5 分の 1 が消失している。

覆土 暗褐色土を基調とし、単層である。

主軸方向 N - 35° E

配石の状況 配石中央に 40cm 大の河原石が 1 個、長軸南端に 40cm 大の板状石が配置されている。河原石を囲むように 10cm~20cm の角礫が配置されている。

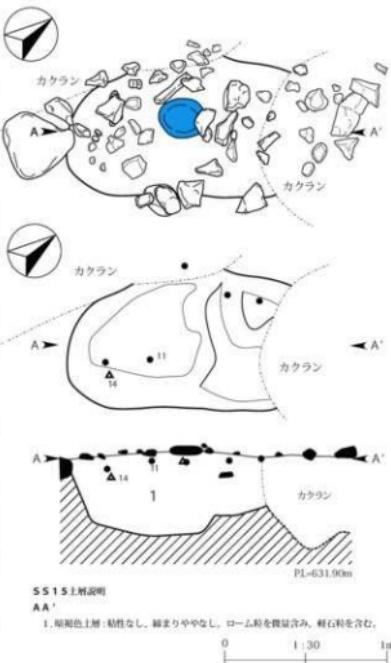
下部遺構 平面形は楕円形を呈すると考えられ、長軸 122cm 以上、短軸 76cm 以上、確認面からの深さ 47cm の規模を有する。

壁面 外傾して立ち上がっていいる。

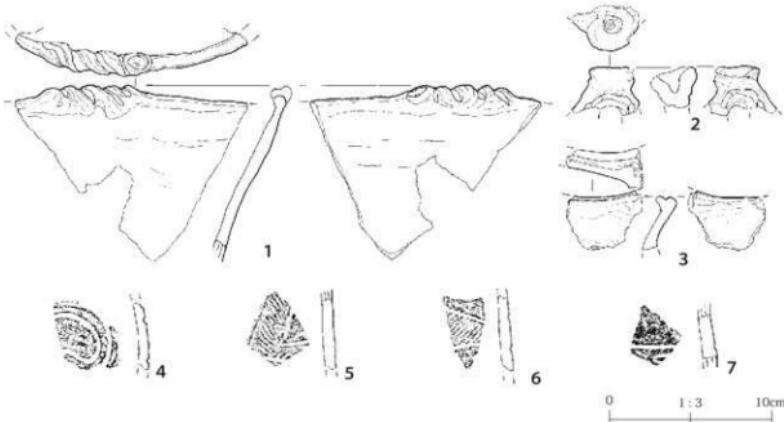
底面 南西側は皿状を呈し、北東側は一段高くなっている。

遺物 総出土量は土器片 55 点 (828g)、石器 (剥片石器含む) 6 点 (2,347.6g) で、石器組成は剥片石器類 3 点 (石礫 1 点、剥片 2 点)、礫石器類 3 点 (磨石 2 点、磨石 + 凹石 1 点) である。そのうち、縄文土器を 12 点、石器 2 点を図示した。

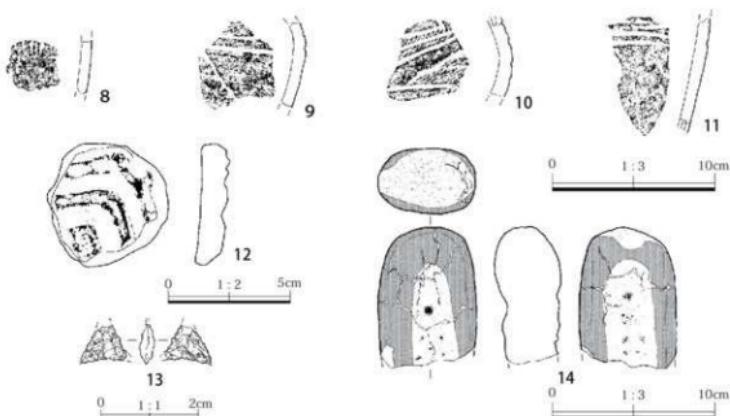
備考 本配石は出土遺物より縄文時代後期前半 (堀之内 2 式期) に帰属すると考えられる。



第 69 図 SS15 実測図 (1/30)



第 70 図 SS15 出土遺物実測図 1 (1/3)



第71図 SS15出土遺物実測図2 (1/3・1/2・1/1)

SS16 (第72・73図／第7表／PL 25・26・38)

位置 調査区西側、北壁沿い。SS15の北側。

重複関係 SS17と重複し、これに切られている。

遺存状況 摂乱を被っているため全体の3分の1が消失している。

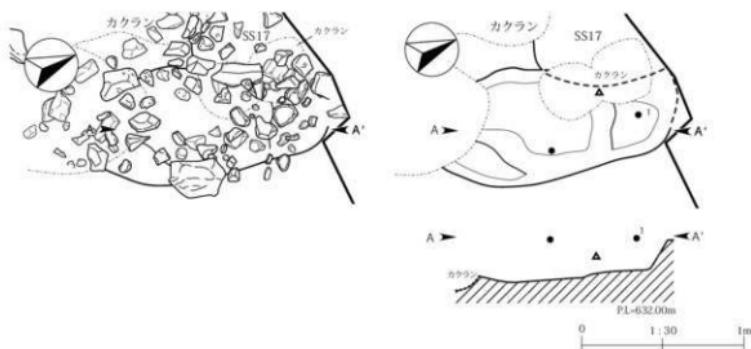
覆土 暗褐色土を基調とし、単層である。粘性なし、締まりあり。ローム粒を少量含み、軽石粒・炭化粒を含む。

主軸方向 N=20°-E

配石の状況 下部遺構の縁辺に30~40cm大の角礫が配置され、その周囲・内側に10~20cm大の礫が集積されている。

下部遺構 平面形は楕円形を呈すると考えられ、長軸116cm以上、短軸73cm、確認面からの深さ26cmの規模を有する。

壁面 南壁は失っているが、北壁は外傾して立ち上がっている。

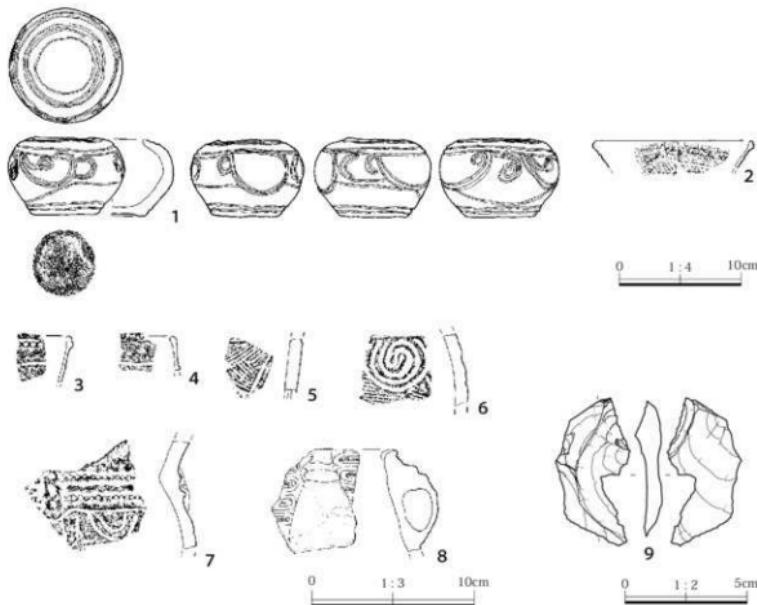


第72図 SS16実測図 (1/30)

**底面** ほぼ平坦で南側へ緩やかに傾斜している。

**遺物** 総出土量は土器片 26 点 (575g)、石器 (剥片石器含む) 5 点 (518.8g) で、石器組成は剥片石器類 2 点 (剥片)、礫石器類 3 点 (磨石 2 点、破片 1 点) である。そのうち、縄文土器を 8 点、石器を 1 点図示した。

**備考** 本出土遺物から縄文時代後期前半 (堀之内 1 式新段階～堀之内 2 式期) に帰属すると考えられる。下部遺構底面付近から副葬品と考えられる完形の小形鉢 (第 73 図 1) が出土している。



第 73 図 SS16 出土遺物実測図 (1/4・1/3・1/2)

### SS17 (第 74・75 図 / 第 7 表 / P L 25・26・39)

**位置** 調査区西側、北壁沿い。SS15 の北側。

**重複関係** SS16 と重複し、これを切っている。

**遺存状況** 北側半分以上が調査区外に伸びていて、周辺も擾乱を受けている。

**覆土** 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。

**主軸方向** N - 4° - E

**配石の状況** 下部遺構の東南側縁辺に比較的大きな 20 ~ 30cm 大の角礫が遺存しており、その他縁辺・内側には 10 ~ 20cm 大の礫が集積されている。

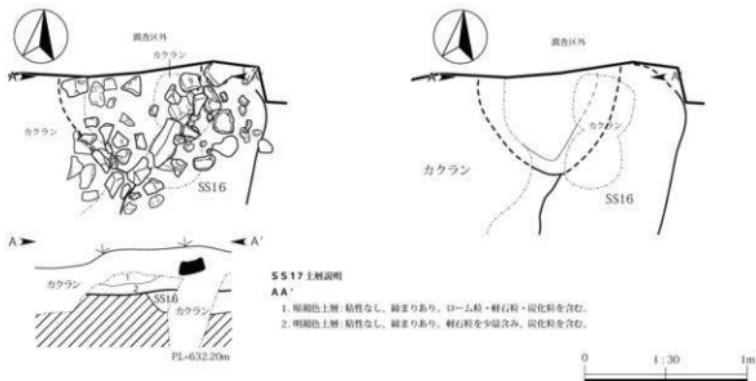
**下部遺構** 平面形は不明瞭である。長軸 60cm 以上、短軸 45cm 以上、確認面からの深さ 29cm の規模を有する。

**下部遺構壁面** 外傾して立ち上がっている。

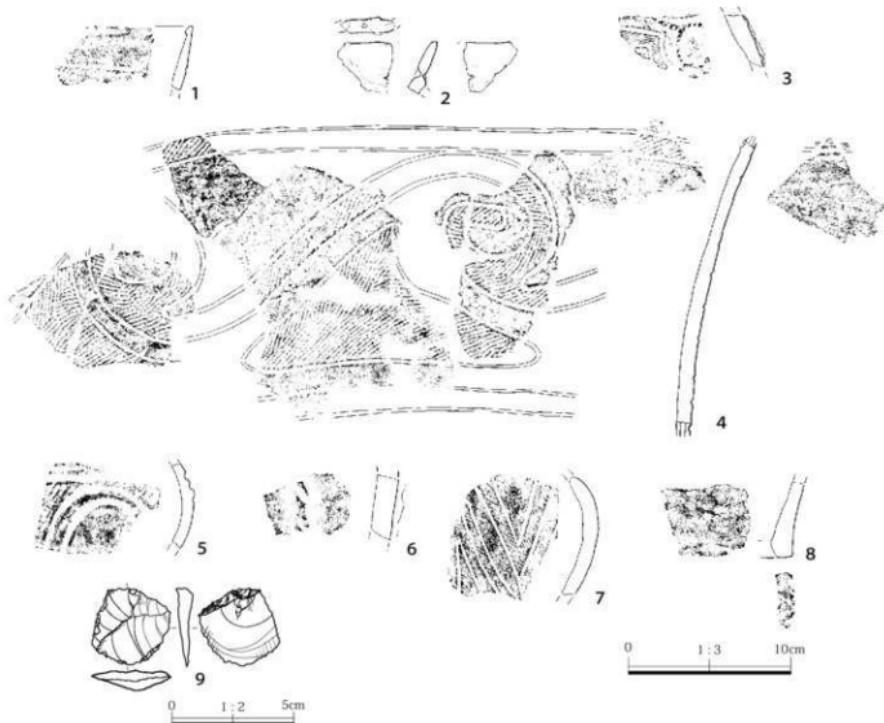
**底面** 平坦である。

**遺物** 総出土量は土器片 27 点 (403g)、石器 (剥片石器含む) 5 点 (591g) で、石器組成は剥片石器類 2 点 (剥片)、打製石斧類 1 点 (剥片)、礫石器類 2 点 (磨石) である。そのうち、縄文土器を 8 点、石器を 1 点図示した。

**備考** 本配石は出土遺物から縄文時代後期前半 (堀之内 2 式期) に帰属すると考えられる。



第74図 SS17実測図 (1/30)



第75図 SS17出土遺物実測図 (1/3・1/2)

SS18 (第 76・77 図／第 7 表／PL 26・27・39)

位置 調査区西側、SS22・SS23 の北側。

重複関係 なし。

遺存状況 良好。

覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。

主軸方向 N - 18° - E

配石の状況 下部遺構の中央北寄りに立石状に斜めの状態で長楕円形の河原石が設置され、下部遺構南側には縁辺を締取った 10 ~ 20cm 大の角礫が配置されている。

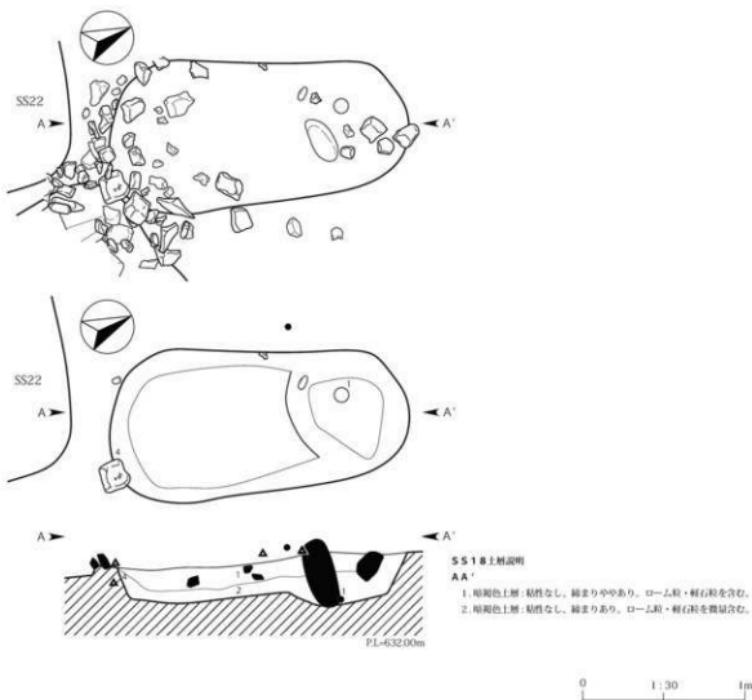
下部遺構 平面形は隅丸長方形で、長軸 185cm、短軸 86cm、確認面からの深さ 42cm の規模を有する。

壁面 外傾して立ち上がる。

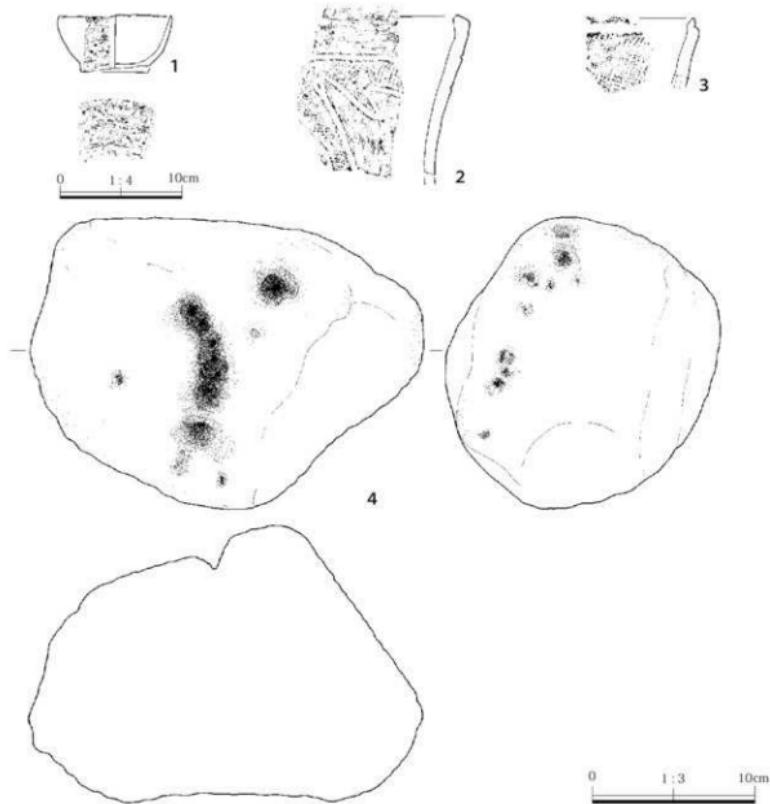
底面 ほぼ平坦であるが、立石を据えた北側は一段掘り込まれている。

遺物 総出土量は土器片 11 点 (302g)、石器 (刮片石器含む) 6 点 (7.683g) で、石器組成は礫石器類 6 点 (磨石 5 点、多孔石 1 点) である。そのうち、繩文土器を 3 点、石器を 1 点図示した。

備考 本配石は出土遺物から繩文時代後期前葉 (堀之内 2 式期) に帰属すると考えられる。下部遺構の底面から口縁を上にして碗状の鉢 (第 77 図 1) が出土している。



第 76 図 SS18 実測図 (1/30)



第77図 SS18出土遺物実測図 (1/4・1/3)

SS19 (第78・79図/第7表/P L 27・39)

位置 調査区西側、S102の南東側、SS19の北側。

重複関係 なし。

遺存状況 良好。

覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。

主軸方向 N-60°-E

配石の状況 配石中央やや北よりに40cm大の不整楕円形の川原石が配置されている。また長軸南西端に60cm大ほどの板状の石が配置されていた。配石内には10~20cm大の礫が疎らに集積されていた。

下部造構 平面形は楕円形で、長軸140cm、短軸92cm、確認面からの深さ64cmの規模を有する。

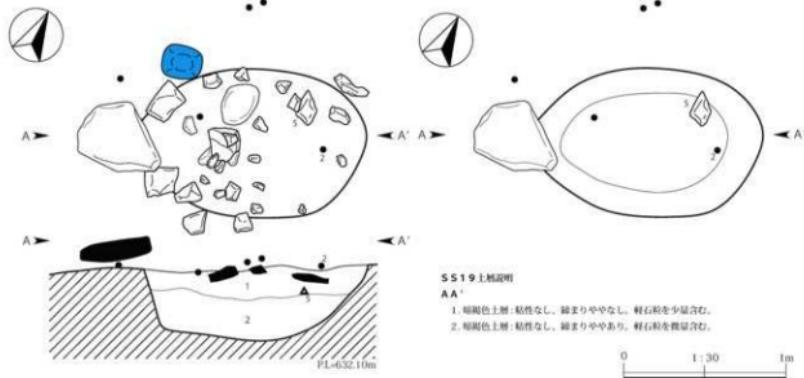
壁面 東西壁とも外傾しているが、東壁は緩やかに立ち上がっている。

底面 ほぼ平坦である。

遺物 総出土量は土器片11点(157g)、石器2点(6.991g)で、石器組成は礫石器類2点(磨石1点、多孔石1点)

である。そのうち、縄文土器を4点、石器を1点図示した。

備考 本配石は出土遺物が少ないが、縄文時代後期前半に帰属するものと考えられる。

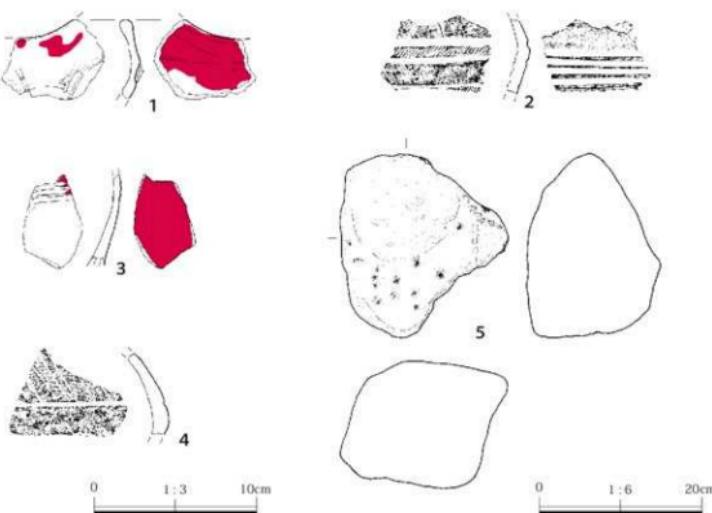


SS19 実測図

A A'

1. 姫路色土層：粘性なし、締まりややなし。軽石類を少量含む。

2. 姫路色土層：粘性なし、締まりややあり。軽石類を微量含む。



SS19 出土遺物実測図 (1/3 • 1/6)

SS20 (第80~82図/第7表/PL 27・40)

位置 調査区西側。

重複関係 なし。

遺存状況 良好だが、上面は攢乱を被っており、配石を構成する石が一部抜かれているようである。

**覆土** 暗褐色土を基調としている。

**主軸方向** N-19°-W (丸石の並びはN-71°-E)

**配石の状況** 中央に40cm大の丸石を配置し、その周りを囲んで30cm大の扁平な河原石・角礫を立位・円形に組んでいる。更にその外側には、中央の丸石から35cm程の間隔で東西に30cm大の丸石を設置し、それらを繋ぐように30~50cm大の角礫・板状石で囲っている。内外の囲い間は小礫が詰められている。

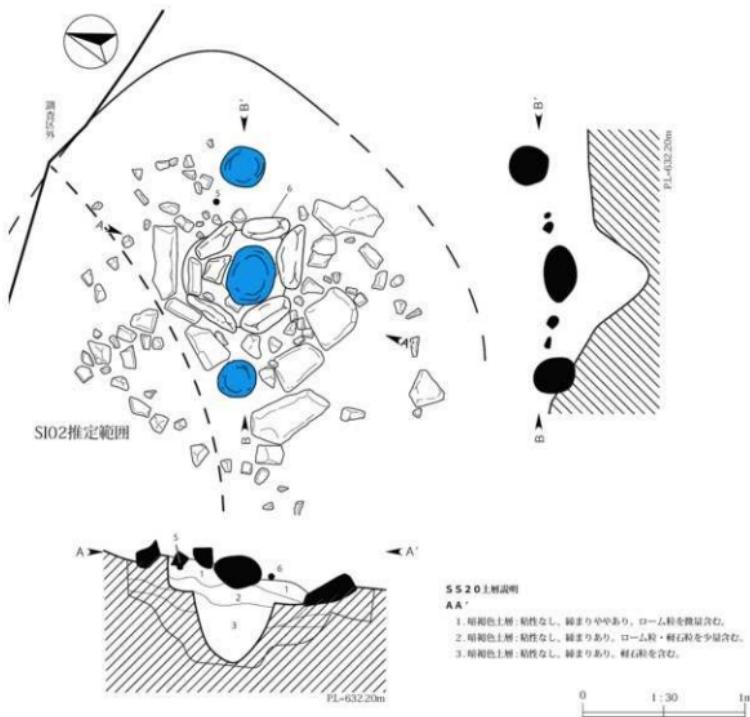
**下部遺構** 平面形はほぼ円形で、長軸65cm、短軸59cm、深さ78cmの規模を有する。掘り方はもっと範囲が広がるが、すべてを確認することができなかった。

**壁面** 外傾して立ち上がっている。

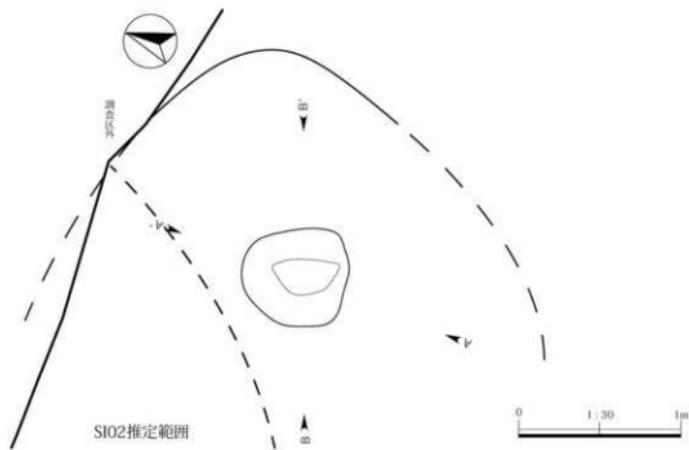
**底面** 柱穴状で中心が深くなっている。

**遺物** 総出土量は土器片22点(429g)、石器2点(29.420g)で、石器組成は礫石器類2点(磨石1点、磨石+多孔石が1点)である。そのうち、縄文土器を5点、石器を1点図示した。

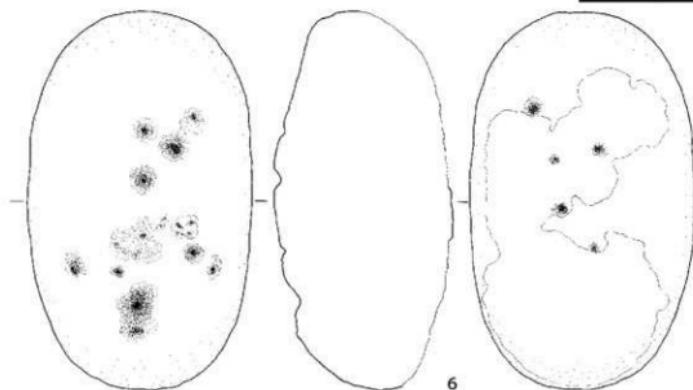
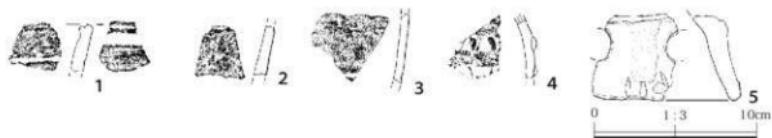
**備考** 本配石は出土遺物から縄文時代後期前葉(堀之内2式期)に帰属すると考えられ、隣接するSI02と同時期である。敷石住居の主体部と柄部の脇に設置された配石遺構と判断した。



第80図 SS20実測図1 (1/30)



第 81 図 SS20 実測図 2 (1/30)



第 82 図 SS20 出土遺物実測図 (1/3・1/4)



SS21 (第 83 図／第 7 表／P L 28・40)

位置 調査区西側、南壁沿い。SS19 の南東側、SS22 の西側。

重複関係 なし。

遺存状況 南側が調査区外に延びており、約 2 分の 1 程度の検出であるが、遺存状況は良好。

覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。

主軸方向 N - 84° - E

配石の状況 下部遺構縁辺の東西両端に 50 ~ 60cm 大の大きな角礫が配されている。配石の周辺には 10 ~ 20cm 大の角礫が集積されている。

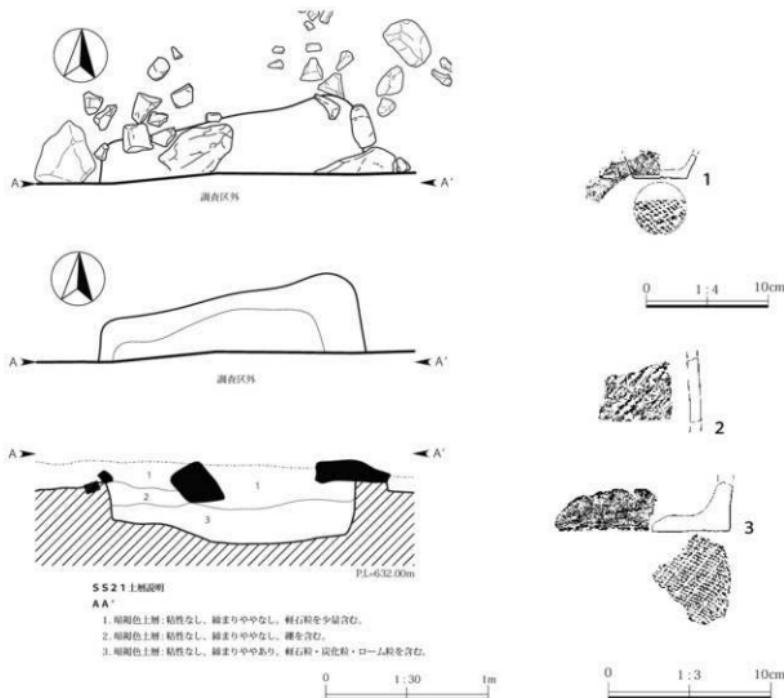
下部遺構 平面形は楕円長方形を呈すると考えられ、長軸 164cm、短軸 37cm 以上、確認面からの深さ 39cm の規模を有する。

下部遺構壁面 直立に近いが外傾気味に立ち上がっている。

底面 西側が高く、東側に段を有して深くなっている。

遺物 総出土量は土器片 12 点 (104g)、石器 (剥片石器含む) 2 点 (3.4g) で、石器組成は剥片石器類 2 点 (剥片) である。そのうち、縄文土器 3 点を図示した。

備考 本配石は出土遺物が少ないが、縄文時代後期前半に帰属すると考えられる。



第 83 図 SS21 実測図 (1/30)・出土遺物実測図 (1/4・1/3)

SS22 (第 84・85 図/第 7 表/PL 28・40)

位置 調査区西側、南壁沿い。SS18 の南西側、SS23 の西隣。

重複関係 重複はないが SS23 と隣接している。

遺存状況 南側が調査区外に延びており、約 2 分の 1 程度の検出だが遺存状態は良好。

覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。

主軸方向 N - 76° - W

配石の状況 下部遺構の西端、東端にそれぞれ 40cm 以上大の扁平な大形礫を配置している。下部遺構内は中央と東側に 20cm 大の丸石が配置されている。特に中央に配置されていたのは球状の凹石 (第 85 図 5) である。周辺には河原石と角礫が疎らに認められた。

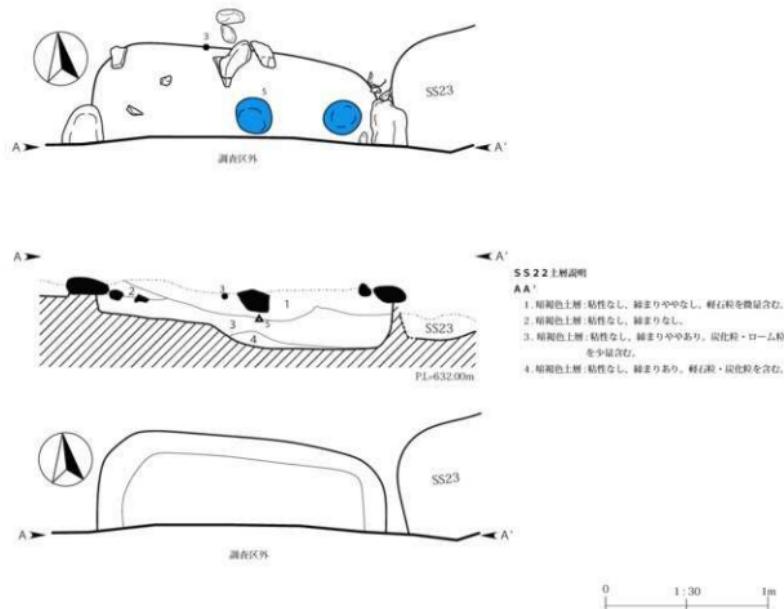
下部遺構 平面形は隅丸長方形を呈すると考えられ、長軸 178cm、短軸 54cm 以上、確認面からの深さ 52cm の規模を有する。

壁面 外傾して立ち上がる。

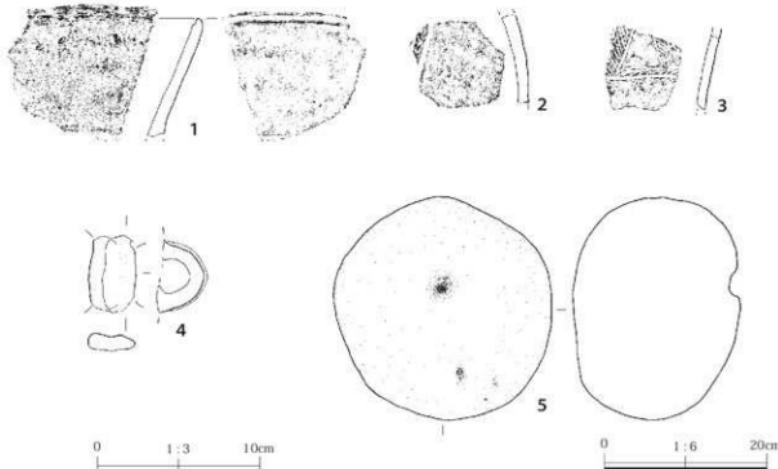
底面 東側に傾斜し、東側の丸石付近は一段深くなっている。

遺物 総出土量は土器片 10 点 (189g)、石器 3 点 (22.938g) で、石器組成は礫石器類 3 点 (磨石 2 点、磨石 + 四石 1 点) である。そのうち、縄文土器を 4 点、石器 1 点を図示した。

備考 本配石は出土遺物から縄文時代後期前葉 (堀之内 2 式期) に帰属すると考えられる。



第 84 図 SS22 実測図 (1/30)



第 85 図 SS22 出土遺物実測図 (1/3・1/6)

SS23 (第 86・88 図／第 7 表／PL 28・40・41)

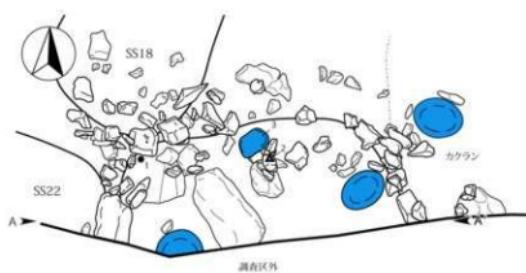
位置 調査区西側、南壁沿い。SS18 の南東隣、SS22 の東隣。

重複関係 重複ではないが SS18・SS22 と隣接している。

遺存状況 南側が調査区外に延びており、2 分の 1 程度の検出であるが、遺存状態は良好。

覆土 上面は攢乱を被っているが、遺存している覆土は暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。

主軸方向 N - 80° - E



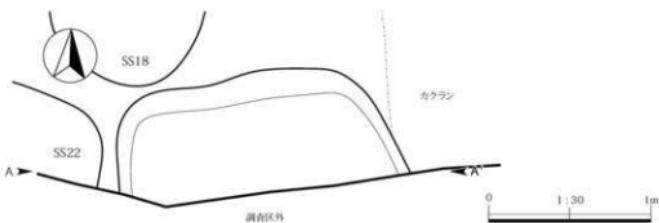
SS23 上層説明

AA'

1. 暗褐色土層：粘性なし、緑まりあり。炭化粒・ローム粉、軽石粉を含む。

2. 暗褐色土層：粘性なし、緑まりややなし。軽石粉を微量含む。

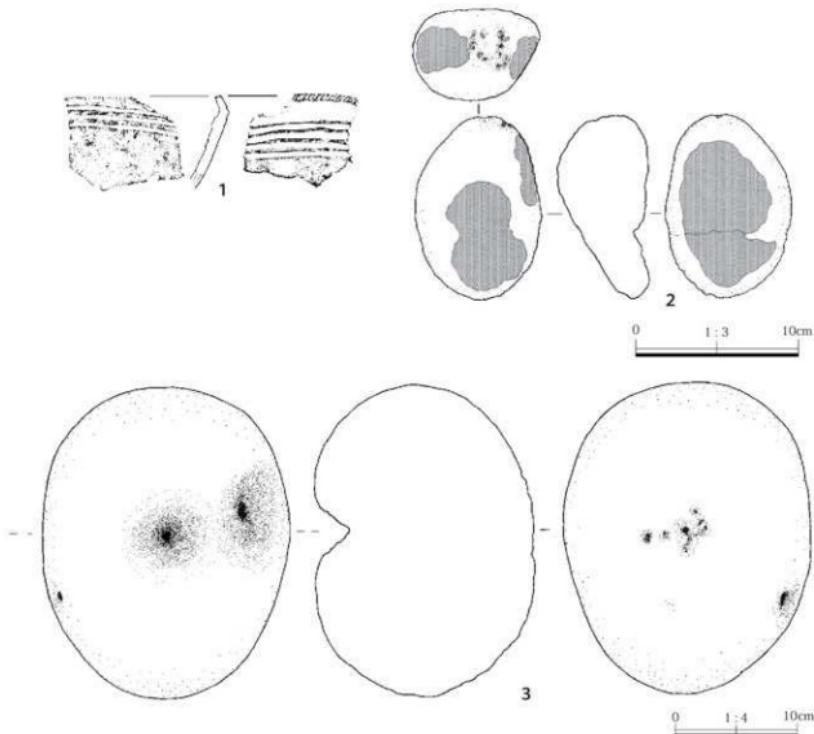
第 86 図 SS23 実測図 1 (1/30)



第 87 図 SS23 実測図 2 (1/30)

**配石の状況** 下部構造の縁辺を縁取った 20 ~ 30cm 大の角礫が残る。30cm 大の丸石は下部遺構内の東西と遺構外にも認められる。特に西側の丸石は 50cm 大以上の大型礫で囲まれており、当初はこれで 1 基の遺構と考えていたが、覆土の観察から東側へ延びていると判断した。

**下部遺構** 平面形は橢円長方形を呈すると考えられ、長軸 176cm、短軸 74cm 以上、確認面からの深さ 38cm の規模を有する。



第 88 図 SS23 出土遺物実測図 (1/3・1/4)

**壁面** 東側は角礫を掘えており、西側は外傾気味に立ち上がっている。

**底面** 凸凹している。

**遺物** 総出土量は土器片 2 点 (58g)、石器 6 点 (9.079g) で、石器組成は砾石器類 6 点 (磨石 5 点、磨石 + 凹石 1 点) である。そのうち、縄文土器を 1 点、石器を 2 点図示した。

**備考** 本配石は出土遺物から縄文時代後期中葉（加曾利 B1 式期）に帰属すると考えられる。

#### SS24 (第 89 ~ 91 図／第 7 表／PL 28・41)

**位置** 調査区南西隅。

**重複関係** SI02 と重複している可能性があるが、直接的な切り合いは認められない。

**遺存状況** 南側と西側が調査区外に延びており、全体の 4 分の 1 程度の検出であるが、遺存状態は良好。

**覆土** 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。

**主軸方向** N - 81° - E

**配石の状況** 下部遺構縁辺は 10cm 大の砾で縁取られ、北側には 30cm 大の丸石が配置されている。SI02 の袖部と重複する部分でもある。また東側にも 20cm 大の砾が集積されている。

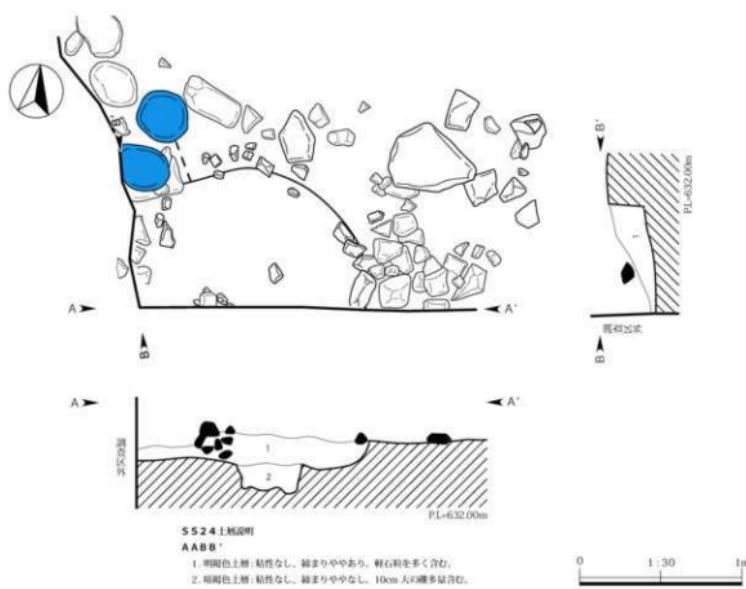
**下部遺構** 平面形は隅丸長方形を呈すると考えられ、長軸 142cm 以上、短軸 86cm 以上、確認面からの深さ 56cm の規模を有する。

**壁面** 直立気味に丸く立ち上がっている。

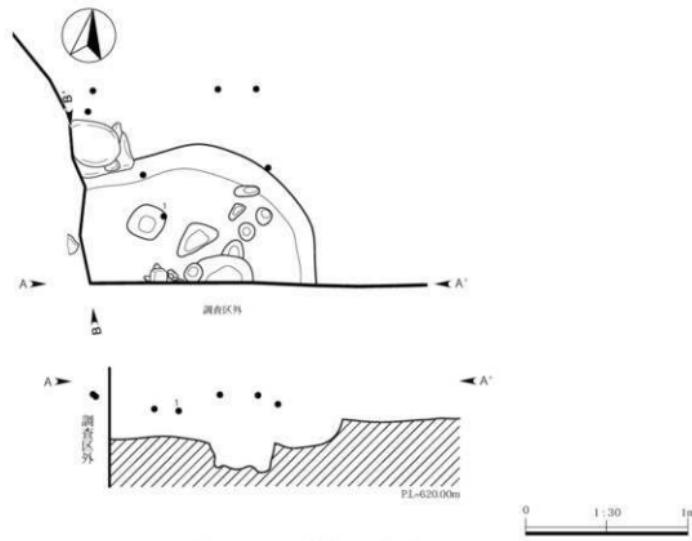
**底面** ほぼ平坦だが、ピットや掘り込みが認められる。

**遺物** 総出土量は土器片 41 点 (844g) である。そのうち、縄文土器 11 点を図示した。

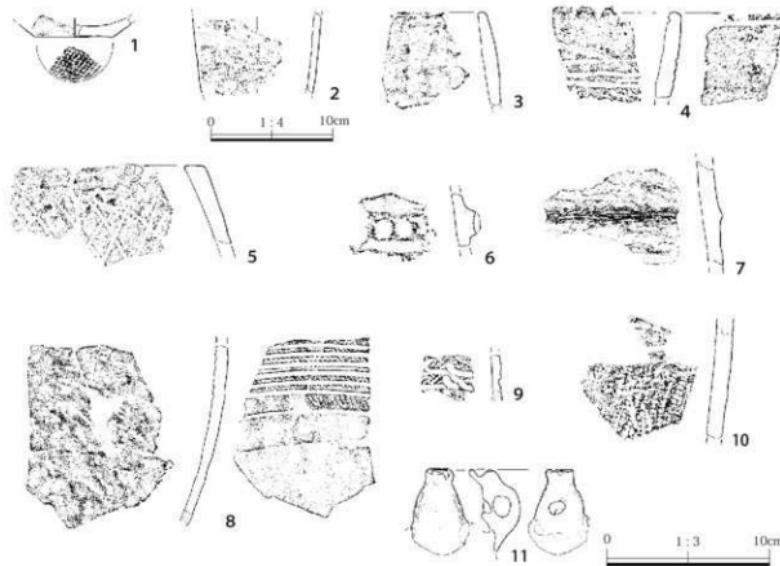
**備考** 本配石は出土遺物から縄文時代後期中葉（加曾利 B1 式期）に帰属すると考えられる。



第 89 図 SS24 実測図 1 (1/30)



第90図 SS24 実測図2 (1/30)



第91図 SS24 出土遺物実測図 (1/4・1/3)

## 第5節 遺構外出土遺物

ここでは調査区表土及び確認面出土遺物、遺構内の流れ込み遺物を一括して取り扱う。遺構外出土遺物は縄文時代前期から中世に至るまで認められ、今回遺構が検出されなかった時期のものも含んでいる。

遺構外出土遺物の総出土量は、土器片 683 点 (12,820g)、石器 (剥片石器含む) 54 点 (8,771.1g) である。石器組成は、剥片石器類 13 点 (石鏃 1 点、石鏃未成品 1 点、剥片 11 点)、打製石斧類 5 点 (打製石斧 1 点、剥片 4 点)、礫石器類 34 点 (磨石 31 点、磨石+凹石 3 点)、磨製石斧未成品 1 点である。そのうち、縄文土器 101 点、須恵器 3 点、中世陶器 2 点、石器 8 点を図示した。

### 1 土 器 (第 92 ~ 96 図 / PL41 ~ 44)

以下の 6 群に大別する。

第 I 群 縄文前期の土器を一括する。(第 92 図 1)

諸磯 b 式 (第 92 図 1)

有刻浮線文を張り付けしている。

第 II 群 縄文中期の土器を一括する。(第 92 図 2)

五領ヶ台式の深鉢体部である。縦位沈線間に半截竹箇による刺突列が施文されている。

第 III 群 縄文後期の土器を一括する。(第 92 ~ 96 図 3 ~ 99)

第 1 群 称名寺式 (第 92 図 3 ~ 8)

3 は沈線で区画した縄文帶で J 字ないし M 字状の文様を描出していると考えられる。4 と 5 は波状口縁の頂点から弧状に描出される微隆帯と刺突列を有する。6・7 は体部破片で、隆線の交点にボタン状の突起が付くタイプである。8 は有刻隆帯が縦位に施され、これは口縁飾りより垂下しているものと考えられる。刺突文を有する三十種葉式の小破片も 1 点あったが、図示しえなかった。

第 2 群 堀之内 1 式 (第 92 図 9 ~ 20)

9 ~ 16 は体上部にくびれを持ち体下半部に沈線文や渦巻文、縄文地文が展開するタイプで中部高地系の深鉢である。17 は、東関東系の深鉢体部破片である。同一個体の接合しない破片が複数あったため、拓本を掲載した。18 ~ 20 は越後系の土器である。18、19 は口縁部の直下に縄文地文や、沈線文が施されている。20 は深鉢か壺で、体部に渦巻文を施し沈線で充填している。

第 3 群 堀之内 2 式 (第 92 ~ 94 図 21 ~ 60)

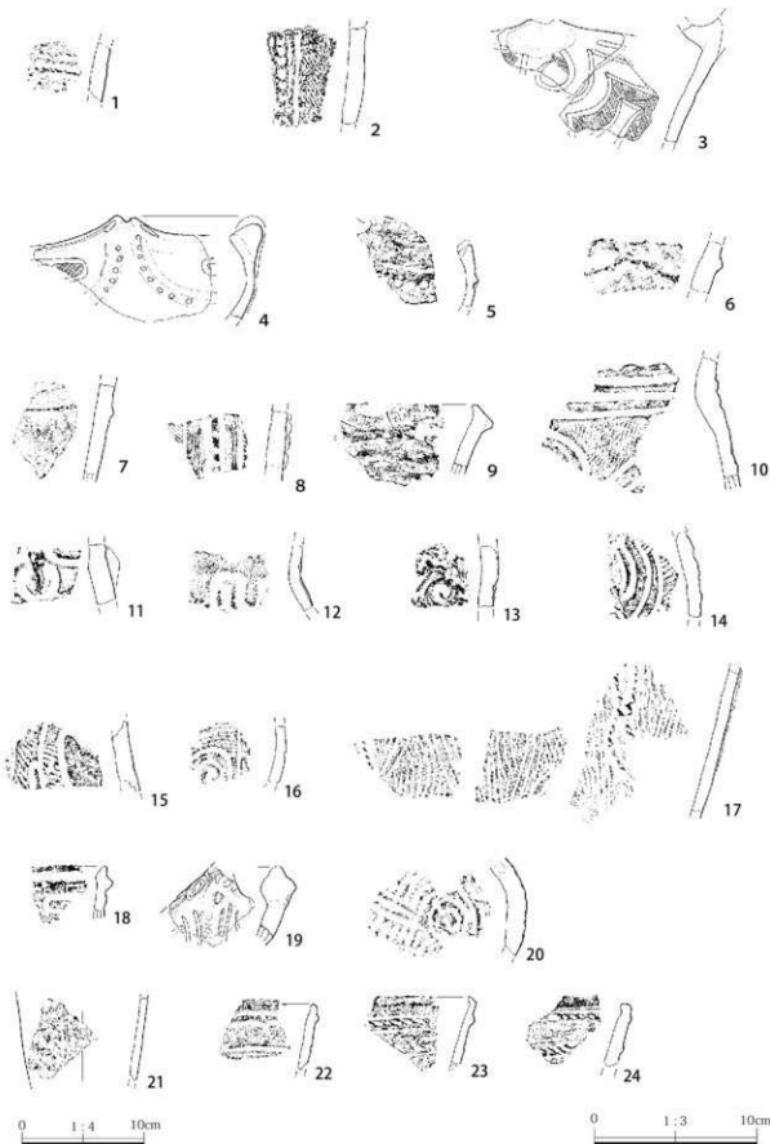
21・25・26 は体部に条線が施されているものである。器形や厚さから堀之内 2 に分類した。22 ~ 24、36 は口縁直下に細かい刻みのある細隆帯を持つものである。27 ~ 31 の体部破片は、体部文様に多条沈線文や重三角が用いられているもので、32 ~ 40 は体部の幾何学文様の充填に多条沈線を用いず、無文を採用しているものである。41 ~ 45 は注口土器である。41 ~ 43 は蕃神台類型<sup>(1)</sup>、44 は福田類型<sup>(2)</sup>である。45 は注口部の破片だが、注口の途中まで沈線文が刻まれている。

46 ~ 57 は堀之内 2 式の末から加曾利 B 1 式期にかけての土器である。体部文様に横位沈線を採用しているが、内面の沈線文があり発達していないものをこちらに分類した。破片なので決定打に欠けるため、帰属時期が加曾利 B 1 に下るものもあると考えられる。58 ~ 60 は大形粗製土器である。外面は粗いナデ調整になっている。

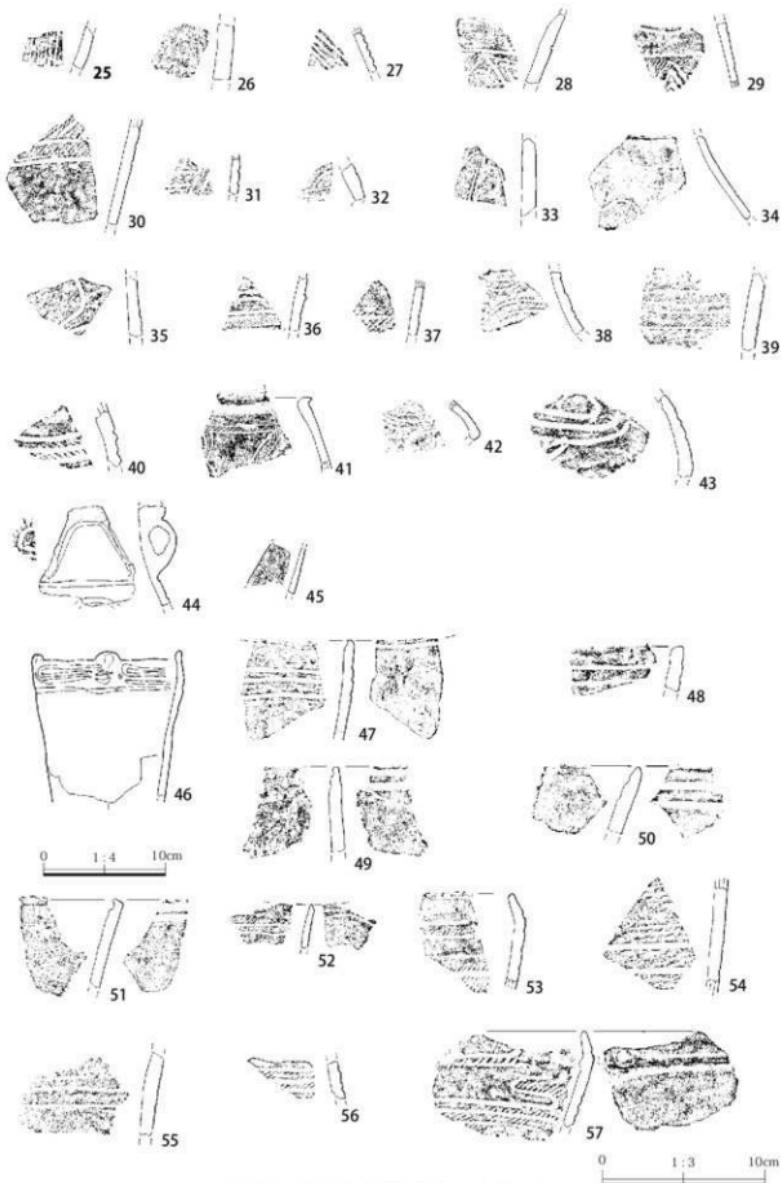
第 4 群 加曾利 B 式 (第 94 ~ 96 図 61 ~ 98)

61 ~ 73 は加曾利 B 1 式に比定する。61・66 ~ 73 は横位縄文帶をクランク状の区切り文が施されている。61 ~ 65・69 は内面に多条沈線が施され、62・63 は「の」字文が施文されている。

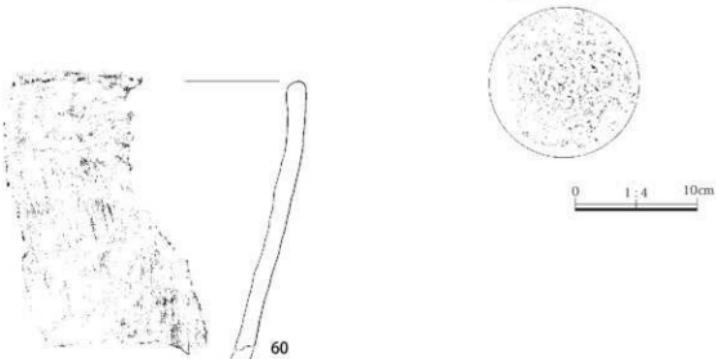
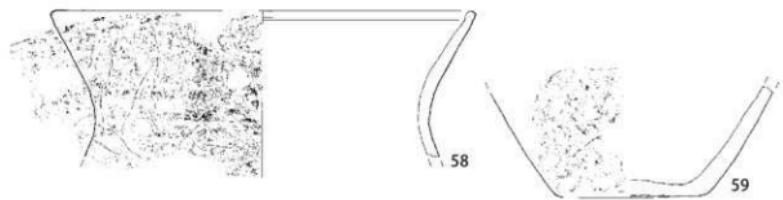
74 ~ 84 は加曾利 B 2 ~ 3 式に比定される。74 ~ 77 は口縁部内面に施文がなく、外面は横位沈線文が施される。特に 74 は特徴的な弧状文の部分が残存する破片である。78 は細隆線で施文している土器である。



第92図 遺構外出土遺物実測図1 (1/4・1/3)



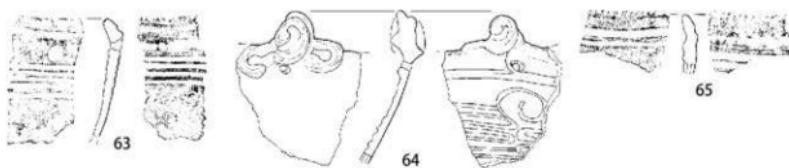
第93図 遺構外出土遺物実測図2 (1/4・1/3)



0 1 : 4 10cm



0 1 : 4 10cm

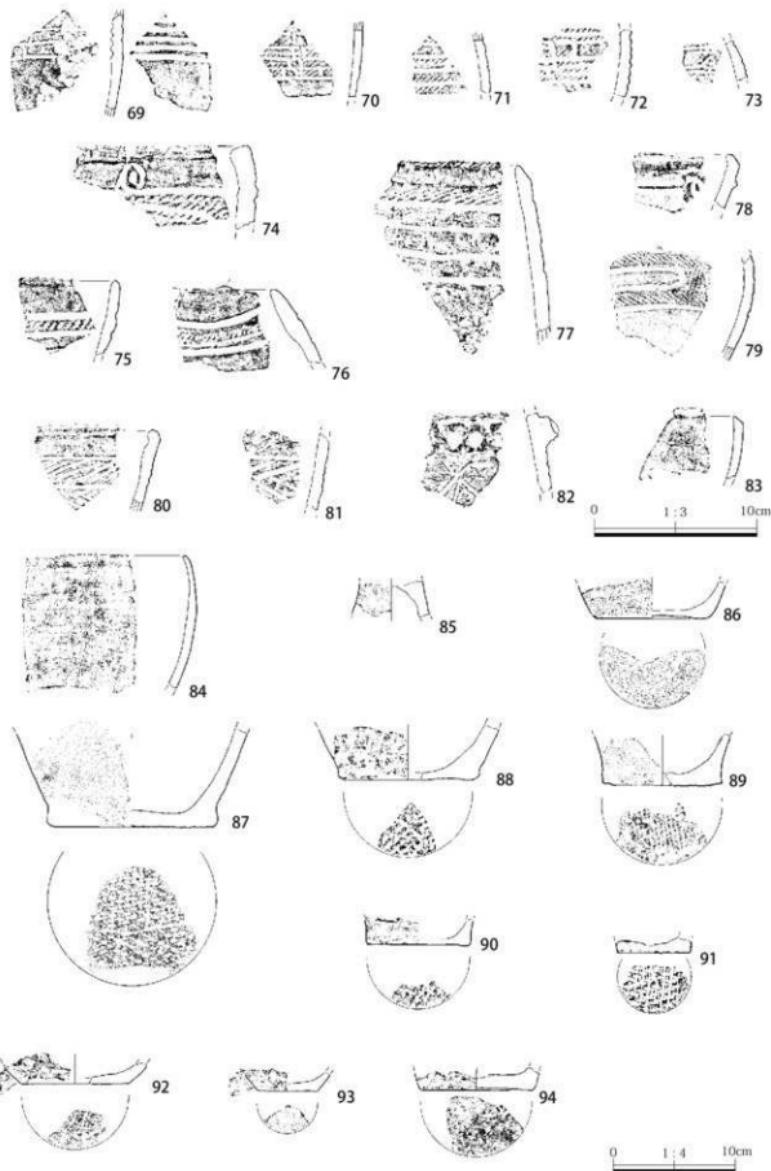


65

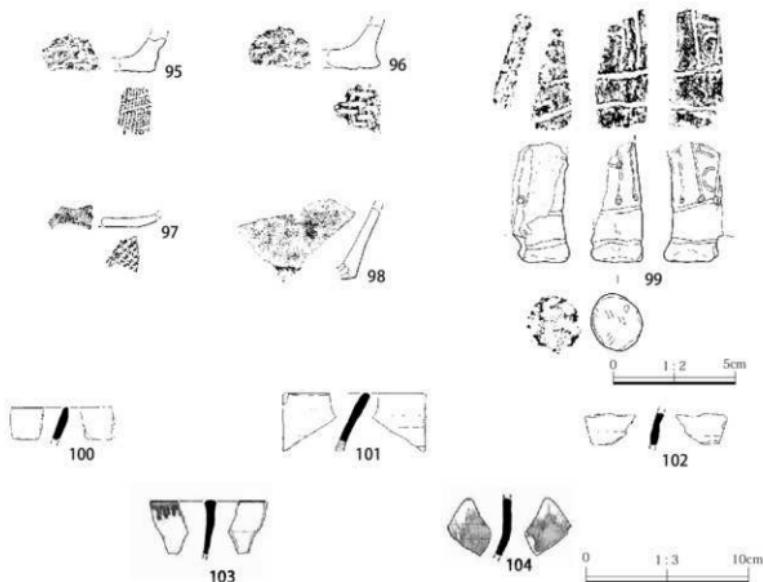


0 1 : 3 10cm

第94図 遺構外出土遺物実測図3 (1/4・1/3)



第95図 遺構外出土遺物実測図4 (1/3・1/4)



第96図 遺構外出土遺物実測図5 (1/3 · 1/2)

加曾利B2の弧状文を隆帯で描出しているように見える。79は鉢で、体部が丸みを帯び口縁部が内傾するタイプと考えられる。80・81は矢羽状沈線が施されている。82は大形粗製土器片。83・84は無文の鉢とを考えた。

#### 第5群 後期土器一括 (第95・96図 85 ~ 98)

底部など、時期の特定できない遺物を一括する。85は台付土器の脚部である。86は底面に葉脈の圧痕が付く。平行脈を持つ植物が振れたような跡で、笹のような植物と思われる。87~92・95~97は底面に網代痕が付いているものである。87~91・95~97は底面の際まで網代痕が付いていて、87・88・96は底部が脚部からややはみ出して立ち上がっており、89~91・95・97はやや外傾して立ち上がる。92は底面の縁の網代がつぶれて見えなくなっているタイプで、91は内面調整から注口土器の底部であることが分かっている。93・94は底面が無文のものである。98は底部付近の破片で、底面はほとんど残存していないかった。

#### 第IV群 繩文時代土製品

器以外の土製品を一括した。99は土偶片で、胴~脚部である。脚が非常に短く、すぐ股になっている。縦横に沈線文や刺突文が描かれている。割れ口から芯棒痕が確認できる。表面からの刺突が貫通し、内側の穴の縁が盛り上がっていることから、芯棒自体は焼成前に抜き取られたと考えられる。繩文時代後期に帰属すると考えられる。

#### 第V群 平安時代の土師器・須恵器を一括する。(第96図 100 ~ 102)

#### 第VI群 中世以降の陶磁器を一括する。(第96図 103・104)

2 石 器 (第 97・98 図／PL44)

(1) 剥片石器類

a . 石鏃 (第 97 図 105・106)

105 は凹基長形。106 は未成品である。

(2) 打製石斧類

a . 打製石斧 (第 97 図 107)

平バチ型を呈する。

(3) 磨製石斧類

a . 磨製石斧未成品 (第 97 図 108)

(4) 碾石器類 (第 98 図 109～112)

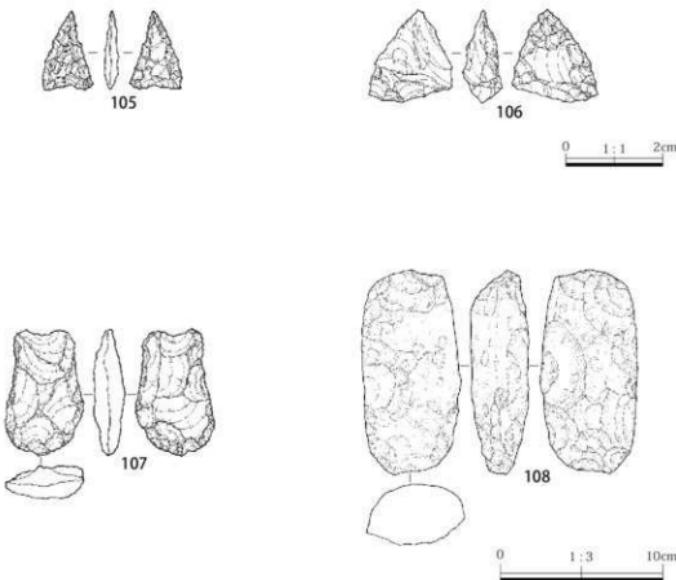
a . 磨石 (第 98 図 109)

b . 磨石+凹石 (第 98 図 110・111)

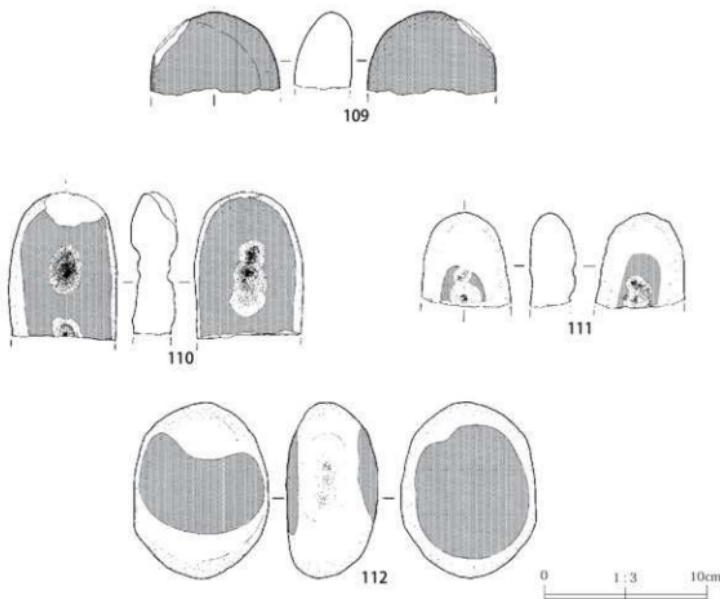
磨石で、主要な磨り面の中に窪みのあるものをこれに分類した。

c . 磨石+敲石 (第 98 図 112)

磨石で、主要な磨り面以外（側面など）に敲打痕のあるものをこれに分類した。



第 97 図 遺構外出土遺物実測図 6 (1/1・1/3)



第98図 遺構外出土遺物実測図7 (1/3)

### 註

1. 小川卓也 2015 「北関東地域における後期江戸土器の様相」/第28回縄文セミナー 縄文後期土器研究の現状と課題 縄文セミナーの会
2. 宮田忠洋 2015 「北関東地域における後期江戸土器の様相」/第28回縄文セミナー 縄文後期土器研究の現状と課題 縄文セミナーの会

中原 | 遺跡・出土遺物・観察表

標題No	題名No	岩種	法面露頭面積／延長／垂直(m)	岩面形態／主要	地底	塵土・碎屑等	色調外観／特徴	備考
2724	30	風化上部 風化下部	(3.9) / - / -	外露は風化の露頭・鉄錆等。内面は風化ミガキ。	良好	白色・角閃石	風化露頭(体感)	好
2725	30	風化上部 風化下部	(3.0) / - / -	1.外露は風化の露頭。D99系外山地帯。外露は風化ミガキ。 2.外露は風化・鉄錆等。D99系外山地帯。外露は風化の露頭。表面は風化で下端約3mが平。内面は風化ミガキ。	良好	角閃石	黒褐色風化(1.鉄錆) 風化露頭(2.鉄錆)	d c-d
2726	30	風化上部 風化下部	(5.2) / - / -	露出は風化・鉄錆等。D99系外山地帯。外露は風化の露頭。表面は風化で下端約3mが平。内面は風化ミガキ。	良好	角閃石	黒褐色風化(1.鉄錆) 風化露頭(2.鉄錆)	d d
2727	30	風化上部 風化下部	(3.1) / - / -	露出は風化・鉄錆等。D99系外山地帯。外露は風化の露頭。表面は風化で下端約3mが平。内面は風化ミガキ。	良好	角閃石	黒褐色風化(1.鉄錆) 風化露頭(2.鉄錆)	d d
2728	30	風化上部 風化下部	(6.1) / - / -	外露は風化の露頭。3条目の外山地帯。外露は風化の露頭。表面は風化ミガキ。	良好	角閃石	黒褐色風化(1.鉄錆) 風化露頭(2.鉄錆)	d d
2729	30	風化上部 風化下部	(1.9) / - / -	外露は風化の露頭。3条目の外山地帯。外露は風化の露頭。表面は風化ミガキ。	良好	角閃石	黒褐色風化(1.鉄錆) 風化露頭(2.鉄錆)	d d
2730	30	風化上部 風化下部	(8.3) / - / -	外露は風化の露頭。3条目の外山地帯。外露は風化の露頭。表面は風化ミガキ。	良好	角閃石	黒褐色風化(1.鉄錆) 風化露頭(2.鉄錆)	d d
2731	30	風化上部 風化下部	(4.0) / - / -	外露は風化の露頭。3条目の外山地帯。外露は風化ミガキ。	良好	角閃石	黒褐色風化(1.鉄錆) 風化露頭(2.鉄錆)	d d
2732	30	風化上部 風化下部	(3.4) / - / -	外露は風化の露頭。3条目の外山地帯。外露は風化ミガキ。	良好	角閃石	黒褐色風化(1.鉄錆) 風化露頭(2.鉄錆)	c c-d d
2733	30	風化上部 風化下部	(3.0) / - / -	外露は風化。内面は風化。外露は風化の露頭。3条目の外山地帯。外露は風化ミガキ。	良好	角閃石	黒褐色風化(1.鉄錆) 風化露頭(2.鉄錆)	d
2734	30	風化上部 風化下部	(2.9) / - / -	外露は風化の露頭。3条目の外山地帯。外露は風化の露頭。表面は風化ミガキ。	良好	角閃石	黒褐色風化(1.鉄錆) 風化露頭(2.鉄錆)	c
2735	30	風化上部 風化下部	(2.7) / - / -	外露は風化による風化。内面は風化ミガキ。	良好	角閃石	黒褐色風化(1.鉄錆) 風化露頭(2.鉄錆)	d
2736	30	風化上部 風化下部	(5.6) / - / -	外露は風化の露頭。3条目の外山地帯。外露は風化ミガキ。	良好	角閃石	黒褐色風化(1.鉄錆) 風化露頭(2.鉄錆)	d d
2737	30	風化上部 風化下部	(3.1) / - / -	外露は風化の露頭。3条目の外山地帯。外露は風化ミガキ。	良好	角閃石	黒褐色風化(1.鉄錆) 風化露頭(2.鉄錆)	d d
2738	30	風化上部 風化下部	(5.6) / - / -	外露はLR鉱文地に3-4条目の外山地帯による風化。内面は風化ミガキ。	良好	角閃石	黒褐色風化(1.鉄錆) 風化露頭(2.鉄錆)	d d
2739	30	風化上部 風化下部	(6.0) / - / -	外露はLR鉱文地による風化。内面は風化ミガキ。	良好	角閃石	黒褐色風化(1.鉄錆) 風化露頭(2.鉄錆)	d d
2740	30	風化上部 風化下部	(5.0) / - / -	外露は2-3条目の外山地帯による風化。内面は風化ミガキ。	良好	角閃石	黒褐色風化(1.鉄錆) 風化露頭(2.鉄錆)	d d
2841	30	風化上部 風化下部	(6.5) / - / -	外露はLR鉱文地に4条目の外山地帯による風化。内面は風化ミガキ。	良好	角閃石	黒褐色風化(1.鉄錆) 風化露頭(2.鉄錆)	d d
2842	30	風化上部 風化下部	(7.3) / - / -	外露はLR鉱文地に3条目の外山地帯による風化。内面は風化ミガキ。	良好	角閃石	黒褐色風化(1.鉄錆) 風化露頭(2.鉄錆)	c d
2843	30	風化上部 風化下部	(1.6) / - / -	外露はLR鉱文地に3条目の外山地帯による風化。内面は風化ミガキ。	良好	角閃石	黒褐色風化(1.鉄錆) 風化露頭(2.鉄錆)	d d
2844	30	風化上部 風化下部	(13.1) / - / -	外露はLR鉱文地に3条目の外山地帯による風化。内面は風化ミガキ。	良好	角閃石	黒褐色風化(1.鉄錆) 風化露頭(2.鉄錆)	c c-d d
2845	30	風化上部 風化下部	(4.0) / - / -	外露はLR鉱文地に3条目の外山地帯による風化。内面は風化ミガキ。	良好	砂	灰	d d
2846	30	風化上部 風化下部	(3.1) / - / -	外露は風化の露頭。外露は風化ミガキ。	良好	角閃石	黒褐色風化(1.鉄錆) 風化露頭(2.鉄錆)	d d
2847	30	風化上部 風化下部	(3.6) / - / -	外露は次第に鉻柘榴石の露頭。内面は風化ミガキ。	良好	角閃石	黒褐色風化(1.鉄錆) 風化露頭(2.鉄錆)	d d
2848	30	風化上部 風化下部	(3.9) / - / -	外露は次第に鉻柘榴石の露頭。内面は風化ミガキ。	良好	角閃石	黒褐色風化(1.鉄錆) 風化露頭(2.鉄錆)	d d
2849	30	風化上部 風化下部	(3.2) / - / -	外露は次第に鉻柘榴石の露頭。内面は風化ミガキ。	良好	角閃石	黒褐色風化(1.鉄錆) 風化露頭(2.鉄錆)	d d
2850	30	風化上部 風化下部	(3.1) / - / -	外露は風化の露頭。内面は風化ミガキ。	良好	角閃石	黒褐色風化(1.鉄錆) 風化露頭(2.鉄錆)	d d
2851	30	風化上部 風化下部	(4.0) / - / -	外露は次第に鉻柘榴石の露頭。内面は風化ミガキ。	良好	角閃石	黒褐色風化(1.鉄錆) 風化露頭(2.鉄錆)	d d
2852	30	風化上部 風化下部	(4.9) / - / -	外露は次第に鉻柘榴石の露頭。内面は風化ミガキ。	良好	角閃石	黒褐色風化(1.鉄錆) 風化露頭(2.鉄錆)	d d
2853	30	風化上部 風化下部	(3.7) / - / -	外露は次第に鉻柘榴石の露頭。内面は風化ミガキ。	良好	角閃石	黒褐色風化(1.鉄錆) 風化露頭(2.鉄錆)	d d

標定 NO.	位置 NO.	岩種	透視・穿視面／上端／底端 (cm)		透視面形態・穿視面形態	地底	塵土・碎屑等	色調(外観・穿視)	備考
			透視	穿視					
28-54	30	風化上部 風化下部 溶出	(6.6) / - / -	外端は次層と、内端ともに傾斜面。 外端は見葉文と花崗岩の見葉文による複合文。内端は傾斜ミガラ。	良好	角閃石 角閃石+白色	明るい青緑 灰青緑	透視面形態 底端形態 (本色)	べらん
28-55	30	風化上部 風化下部 溶出	(16.0) / - / -	外端は見葉文と花崗岩による複合文。内端は傾斜ミガラ。	良好	角閃石 角閃石+白色	灰青緑 灰青緑	透視面形態 底端形態 (本色)	c-f
28-56	30	風化上部 風化下部 溶出	(5.0) / - / -	外端は次層の見葉文による複合文。内端は傾斜ミガラ。	良好	角閃石 角閃石+白色	灰青緑 灰青緑	透視面形態 底端形態 (本色)	c-f
28-57	31	風化上部 溶出	(18.5) / - / -	外端は次層の見葉文による複合文。内端は傾斜ミガラ。	良好	角閃石 角閃石+白色	灰青緑 灰青緑	透視面形態 底端形態 (本色)	d-i
28-58	31	風化上部 風化下部 溶出	(5.8) / - / -	外端は次層の見葉文による複合文。内端は傾斜ミガラ。	良好	石英 石英+鈣長石	灰青緑 灰青緑	透視面形態 底端形態 (本色)	べらん
28-59	31	風化上部 風化下部 溶出	(2.4) / - / -	外端は次層の見葉文による複合文。内端は傾斜ミガラ。	良好	石英 石英+鈣長石	灰青緑 灰青緑	透視面形態 底端形態 (本色)	べらん
28-60	31	風化上部 溶出	(2.6) / - / -	外端は次層と、内端は傾斜ミガラ。	良好	石英 石英+鈣長石	灰青緑 灰青緑	透視面形態 底端形態 (本色)	d
28-61	31	風化上部 溶出	(4.9) / - / -	外端は見葉文と花崗岩の複合文。内端は傾斜ミガラ。	良好	角閃石 角閃石+白色	灰青緑 灰青緑	透視面形態 底端形態 (本色)	c
28-62	31	風化上部 風化下部 溶出	(4.5) / - / -	外端はLR構文と見葉文による複合文。内端は傾斜ミガラ。	良好	角閃石 角閃石+黑色	明るい青緑 暗い青緑	透視面形態 底端形態 (本色)	べらん
28-63	31	風化上部 溶出	(6.6) / - / -	外端はLR構文と、内端ともに傾斜ミガラ。	良好	石英 石英+鈣長石	灰青緑 灰青緑	透視面形態 底端形態 (本色)	べらん
28-64	31	風化上部 溶出	(3.8) / - / -	外端はLR構文と、内端ともに傾斜ミガラ。	良好	石英 石英+鈣長石	灰青緑 灰青緑	透視面形態 底端形態 (本色)	c-d
28-65	31	風化上部 溶出	(5.7) / - / -	外端はLR構文と、内端ともに傾斜ミガラ。	良好	角閃石 角閃石+白色	灰青緑 灰青緑	透視面形態 底端形態 (本色)	g
28-66	31	風化上部 風化下部 溶出	(5.3) / - / -	外端はLR構文と、内端ともに傾斜ミガラ。	良好	角閃石 角閃石+白色	灰青緑 灰青緑	透視面形態 底端形態 (本色)	c-f
28-67	31	風化上部 溶出	(2.4) / - / -	外端は傾斜ミガラ。	良好	角閃石 角閃石+白色	灰青緑 灰青緑	透視面形態 底端形態 (本色)	べらん
28-68	31	風化上部 溶出	(3.5) / - / -	外端はLR構文と見葉文による複合文。内端は傾斜ミガラ。	良好	石英 石英+白色	灰青緑 灰青緑	透視面形態 底端形態 (本色)	d
28-69	31	風化上部 溶出	(3.0) / - / -	外端はLR構文と見葉文による複合文。内端は傾斜ミガラ。	良好	角閃石 角閃石+白色	灰青緑 灰青緑	透視面形態 底端形態 (本色)	d
28-70	31	風化上部 溶出	(2.6) / - / -	外端は傾斜ミガラ。	良好	角閃石 角閃石+白色	灰青緑 灰青緑	透視面形態 底端形態 (本色)	d
29-71	31	風化上部 溶出	(3.3) / - / -	外端はLR構文と見葉文による複合文。内端は傾斜ミガラ。	良好	角閃石 角閃石+白色	灰青緑 灰青緑	透視面形態 底端形態 (本色)	c
29-72	31	風化上部 溶出	(2.4) / - / -	外端はLR構文と見葉文による複合文。内端は傾斜ミガラ。	良好	角閃石 角閃石+白色	灰青緑 灰青緑	透視面形態 底端形態 (本色)	c
29-73	31	風化上部 溶出	(2.7) / - / -	外端はLR構文と見葉文による複合文。内端は傾斜ミガラ。	良好	角閃石 角閃石+白色	灰青緑 灰青緑	透視面形態 底端形態 (本色)	d
29-74	31	風化上部 溶出	(5.4) / - / -	外端はLR構文と見葉文による複合文。内端は傾斜ミガラ。	良好	角閃石 角閃石+白色	灰青緑 灰青緑	透視面形態 底端形態 (本色)	d
29-75	31	風化上部 溶出	(3.0) / - / -	外端は傾斜ミガラ。	良好	角閃石 角閃石+白色	灰青緑 灰青緑	透視面形態 底端形態 (本色)	d
29-76	31	風化上部 溶出	(4.0) / - / -	外端は傾斜ミガラ。	良好	角閃石 角閃石+白色	灰青緑 灰青緑	透視面形態 底端形態 (本色)	d
29-77	31	風化上部 溶出	(4.0) / - / -	風化節理面。上面は傾斜ミガラ。下面はミガラ。	良好	角閃石 角閃石+白色	灰青緑 灰青緑	透視面形態 底端形態 (本色)	f-g
29-78	31	風化上部 溶出	(4.3) / - / -	風化節理面。上面は風化節理。下面は風化節理。内端は傾斜ミガラ。	良好	角閃石 角閃石+白色	灰青緑 灰青緑	透視面形態 底端形態 (本色)	d-i
29-79	31	風化上部 溶出	(5.4) / - / -	風化節理面。上面は風化節理。内端は傾斜ミガラ。	良好	角閃石 角閃石+白色	灰青緑 灰青緑	透視面形態 底端形態 (本色)	d
29-80	31	風化上部 溶出	(2.9) / - / -	LR構文と見葉文。外端は傾斜ミガラ。	良好	角閃石 角閃石+白色	灰青緑 灰青緑	透視面形態 底端形態 (本色)	d
29-81	31	風化上部 溶出	(4.0) / - / -	LR構文と見葉文。外端は傾斜ミガラ。	良好	角閃石 角閃石+白色	灰青緑 灰青緑	透視面形態 底端形態 (本色)	透視面形態 底端形態 (本色)
29-82	31	風化上部 溶出	(4.1) / - / -	外端はLR構文と見葉文による複合文。内端は多孔状。	良好	白色 白色+鈣長石	灰青緑 灰青緑	透視面形態 底端形態 (本色)	d-i
29-83	31	風化上部 溶出	(6.4) / - / -	外端は傾斜ミガラ。	良好	白色 白色+鈣長石	灰青緑 灰青緑	透視面形態 底端形態 (本色)	c-d
29-84	31	風化上部 溶出	(4.0) / - / -	外端はLR構文と見葉文による複合文。内端は傾斜ミガラ。	良好	白色 白色+鈣長石	灰青緑 灰青緑	透視面形態 底端形態 (本色)	c

発掘No.	遺物名	器種	法面/底盤/口径/蓋面(cm)	特	備考(出典・手法等)	地	施工・材質等	色原/外縁/内縁	備
29-85	31	陶文口瓶	(3.5) / - / -	外周には幅約1mmのミナリ、内面には幅約3mmのミナリ。底面は幅約3mmのミナリを有す。	良好 白色系・石英	白粘土・焼石	褐色/白・内縁	施工資料(体下部・底部)	F-7ト
29-86	31	陶文口瓶	(3.4) / - / -	外周には幅約3mmのミナリ、内面には幅約3mmのミナリ。底面に幅約3mmのミナリを有す。	良好 白色系・焼石	白粘土・黒	褐色/白・内縁	施工資料(底部分)	d 1.
29-87	31	陶文口瓶	(2.1) / - / -	外周には幅約3mmのミナリ。内面には幅約3mmのミナリでスカリ面。底面に幅約3mmのミナリ(1周)を有す。	良好 白色系・石英	白粘土・焼石	褐色/白・内縁	施工資料(底部分)	c-6a ト
29-88	31	陶文口瓶	(1.0) / - / -	内面表面に切入した凹凸がある。底面は幅約3mmのミナリ。内面には幅約3mmのミナリ。	良好 白色系・石英	白粘土・焼石	褐色/白・内縁	施工資料(底部分)	c ト
29-89	31	二重口瓶	高(4.4) / 口径(2.9) / 底(4.7)	瓶底上部の下平底。瓶身は中間に幅約3mmの細かい中筋文を有す。瓶身は幅約3mmのミナリ。	良好 白色系・石英	白粘土・焼石	褐色/白・内縁	施工資料(底部分)	b-6ト
30-90	32	陶文口瓶	高6.9 / 口径7.1 / 底(7.1)	瓶底上部の下平底。瓶身は中間に幅約3mmの細かい中筋文を有す。瓶身は幅約3mmのミナリ。	-	無	-	-	c ト
30-91	32	陶文口瓶	高5.9 / 口径2.9 / 底(0.9)	瓶底上部の下平底。瓶身は中間に幅約3mmの細かい中筋文を有す。瓶身は幅約3mmのミナリ。	良好 白色系・石英	白粘土・焼石	褐色/白・内縁	施工資料(底部分)	F-7ト
30-92	32	陶文口瓶	高1.7 / 口径1.9 / 底(0.6)	瓶底上部の下平底。瓶身は中間に幅約3mmの細かい中筋文を有す。瓶身は幅約3mmのミナリ。	-	無	-	-	F-7ト
30-93	32	陶文口瓶	高4.3 / 口径3.5 / 底(0.8)	瓶底上部の下平底。瓶身は中間に幅約3mmの細かい中筋文を有す。瓶身は幅約3mmのミナリ。	-	無	-	-	d 1.
30-94	32	陶文口瓶	高10.2 / 口径3.7 / 底(5.0)	瓶底上部の下平底。瓶身は中間に幅約3mmの細かい中筋文を有す。瓶身は幅約3mmのミナリ。	-	無	-	-	d 1.
30-95	32	陶文口瓶	高14.4 / 口径5.7 / 底(3.8)	瓶底上部の下平底。瓶身は中間に幅約3mmの細かい中筋文を有す。瓶身は幅約3mmのミナリ。	-	無	-	-	F-7ト
30-96	32	陶文口瓶	高(8.5) / 口径6.3 / 底(6.5)	瓶底上部の下平底。瓶身は中間に幅約3mmの細かい中筋文を有す。瓶身は幅約3mmのミナリ。	-	無	-	-	d 1.
31-97	32	陶文口瓶	高11.9 / 口径5.9 / 底(4.8)	瓶底上部の下平底。瓶身は中間に幅約3mmの細かい中筋文を有す。瓶身は幅約3mmのミナリ。	-	無	-	-	d 1.
31-98	32	陶文口瓶	高8.2 / 口径8.0 / 底(7.2)	瓶底上部の下平底。瓶身は中間に幅約3mmの細かい中筋文を有す。瓶身は幅約3mmのミナリ。	-	無	-	-	g 1.
31-99	32	その他の	高10.8 / 口径5.4 / 底(2.4)	瓶底上部の下平底。瓶身は中間に幅約3mmの細かい中筋文を有す。瓶身は幅約3mmのミナリ。	-	無	-	-	g 1.
31-100	32	陶文口瓶	高(20.3) / 口径6 / 底(4.3)	瓶底上部の下平底。瓶身は中間に幅約3mmの細かい中筋文を有す。瓶身は幅約3mmのミナリ。	-	無	-	-	F-7ト

S02出土遺物整理表

発掘No.	遺物名	器種	法面/底盤/口径/蓋面(cm)	特	備考(出典・手法等)	地	施工・材質等	色原/外縁/内縁	備
33-1	32	陶文口瓶	(1.8) / - / -	[口押]部分有り。口押外縁部に側面挫滅。以下輪底ミガサ。内面は輪底ミガサ。内面は輪底ミガサ。内面は輪底ミガサ。	良好 白色系・石英	白粘土・長石	褐色/白・内縁	施工資料(1.8cm)	F-7ト
33-2	32	陶文口瓶	(4.2) / - / -	外周には幅約3mmのミナリ。内面には幅約3mmのミナリ。	良好 白色系・石英	白粘土・長石・内縁	褐色/白・内縁	施工資料(4.2cm)	軸
33-3	32	陶文口瓶	(3.4) / - / -	外周には幅約3mmのミナリ。内面には幅約3mmのミナリ。	良好 白色系・石英	白粘土・長石	褐色/白・内縁	施工資料(3.4cm)	軸
33-4	32	陶文口瓶	(3.1) / - / -	外周には幅約3mmのミナリ。内面には幅約3mmのミナリ。	良好 白色系・石英	白粘土・長石	褐色/白・内縁	施工資料(3.1cm)	軸
33-5	32	陶文口瓶	(4.0) / - / -	外周には幅約3mmのミナリ。内面には幅約3mmのミナリ。	良好 白色系・石英	白粘土・長石	褐色/白・内縁	施工資料(4.0cm)	F-7ト
33-6	32	陶文口瓶	(3.2) / - / -	外周には幅約3mmのミナリ。内面には幅約3mmのミナリ。	良好 白色系・石英	白粘土・長石	褐色/白・内縁	施工資料(3.2cm)	軸
33-7	32	陶文口瓶	(3.0) / - / -	外周には幅約3mmのミナリ。内面には幅約3mmのミナリ。	良好 白色系・石英	白粘土・長石・内縁	褐色/白・内縁	施工資料(3.0cm)	軸
33-8	32	陶文口瓶	(2.2) / - / -	内面全体にも幅約3mmのミナリ。	良好 白色系・石英	白粘土・長石・内縁	褐色/白・内縁	施工資料(2.2cm)	F-7ト

SK01出土遺物整理表

発掘No.	遺物名	器種	法面/底盤/口径/蓋面(cm)	特	備考(出典・手法等)	地	施工・材質等	色原/外縁/内縁	備
36-1	33	陶文口瓶	(8.0) / - / -	所れをもつて。外周には幅約3mmのミナリ。内面は幅約3mmのミナリ。内面は幅約3mmのミナリ。	良好 白色系・石英	白粘土・長石・内縁	褐色/白・内縁	施工資料(8.0cm)	F-7ト

5K07 出土遺物類要表

5K10 出土遺物圖錄表

地名	標高(m)	緯度(度・分)	経度(度・分)	地質	地質(外因・内因)	地質(外因・内因)	地質	地質(外因・内因)	地質
西ノ瀬戸	100	37.411	137.411	西ノ瀬戸	(17.4) /-/-	外海山崎台ナ、内海は崎崎ナ。沖野島礁ナ。崎崎台ナ。	良好	角閃石・透閃石	海成
西ノ瀬戸	100	37.412	137.412	西ノ瀬戸	(17) /-/-	丸石をつる尾。130m海面に冲野島礁ナ。崎崎台ナ。	良好	角閃石・透閃石	海成
西ノ瀬戸	100	37.413	137.413	西ノ瀬戸	(21) /-/-	口御前島。外海は崎崎台ナ。内海は崎崎台。	良好	角閃石・透閃石	海成
西ノ瀬戸	100	37.414	137.414	西ノ瀬戸	(30) /-/-	口御前島。外海は崎崎台ナ。内海は崎崎台ナ。	良好	角閃石・透閃石	海成
西ノ瀬戸	100	37.415	137.415	西ノ瀬戸	(38) /-/-	外海は崎崎台ナ。内海は崎崎台ナ。	良好	角閃石・透閃石	海成
西ノ瀬戸	100	37.416	137.416	西ノ瀬戸	(24) /-/-	外海は崎崎台ナ。内海は崎崎台ナ。	良好	角閃石・透閃石	海成
西ノ瀬戸	100	37.417	137.417	西ノ瀬戸	(21) /-/-	外洋として聞く事。外海は崎崎台ナ。内海は崎崎台ナ。	良好	角閃石・透閃石	海成
西ノ瀬戸	100	37.418	137.418	西ノ瀬戸	(31) /-/-	外洋上位に崎崎台ナ。内海は崎崎台ナ。	良好	角閃石・透閃石	海成
西ノ瀬戸	100	37.419	137.419	西ノ瀬戸	(58) /-/-	外洋上位に崎崎台ナ。内海は崎崎台ナ。	良好	角閃石・透閃石	海成
西ノ瀬戸	100	37.420	137.420	西ノ瀬戸	(40) /-/-	外洋上位有の崎崎台。内海は崎崎台ナ。	良好	角閃石	海成

施設NO.	面積(m <sup>2</sup> )	施場	法面(断面) / 口徑 / 高度(m)	特	測量(断面・手法等)	地盤	地盤(断面・手法等)	備 考
40.5	33	礫石路敷	長1.5 / 幅0.5-3.4 / 厚 3.0 / 13.0 / 7	半偏	184.6. 平坦。	良好	粗粒漂石(安山岩)	-
40.6	33	礫石路敷	長(8.4) / 幅(1.7) / 厚 (1.6) / 13.0 / 7	半偏	1438g. 路面より一部陥没。	良好	石英閃石(安山岩)	-
40.7	33	礫石路敷	長(9.5) / 幅(5.8) / 厚 5.7	半偏	574g. 路面。	良好	粗粒漂石(安山岩)	-
40.8	34	礫石路敷	長2.0 / 幅18.9 / 厚10.8	半偏	5300g. 路面。	良好	粗粒漂石(安山岩)	-
41.9	34	礫石路敷	長19.8 / 幅14.5 / 厚12.2	半偏	4600g. 路面。	良好	粗粒漂石(安山岩)	-
		多孔石	長19.8 / 幅14.5 / 厚3.6					

SS02 出土遺物調査表

施設NO.	面積(m <sup>2</sup> )	施場	法面(断面) / 口徑 / 高度(m)	特	測量(断面・手法等)	地盤	地盤(断面・手法等)	備 考
43.1	34	磚之上路	(6.7) / - / -	波状口縫。口縫部は外側に多少の傾きを有する。外側は傾斜面。内面は傾斜面。半偏。	良好	角閃石・石英	角閃石・長石斑岩	継手材(13.0m~14.0m) フット・調査区間
43.2	34	磚文上路	(7.0) / - / -	注入口縫。傾斜した外側に開いて圓く。外側は傾斜部を偏る。内面は傾斜面。半偏。	良好	角閃石・石英	粗粒漂石 / 黒	継手材(13.0m~14.0m) フット・調査区間
43.3	34	磚文上路	(5.5) / - / -	外曲面は斜めのミガキ。内面は平行面。傾斜。位置ミガキ。	良好	石英・角閃石	角閃石	継手材(13.0m~14.0m) 西
43.4	34	磚文上路	(4.8) / - / -	外曲面は斜めのミガキ。内面は上傾斜面ミガキ。下傾斜面ミガキ。	良好	石英・白雲石	[に]点相 / 倾斜地	継手材(13.0m~14.0m) 西
43.5	34	磚文上路	(4.2) / - / -	外曲面はLR傾斜。内面は傾斜面ミガキ。	良好	石英・角閃石	黒 / 黑雲母	継手材(13.0m~14.0m) 西
43.6	34	磚文上路	(5.5) / - / -	外曲面は斜めのミガキ。内面は傾斜面ミガキ。	良好	角閃石	角閃石 / 黒	継手材(13.0m~14.0m) 西
43.7	34	磚文上路	(3.7) / - / -	外曲面は斜めのミガキ。内面は斜めのミガキ。	良好	石英・角閃石	[に]点相 / 倾斜地	継手材(13.0m~14.0m) 西
43.8	34	磚文上路	(3.5) / - / -	外曲面は斜めのミガキ。内面は平行面。石英。	良好	石英・角閃石	角閃石	継手材(13.0m~14.0m) 西
43.9	34	磚文上路	(2.4) / - / -	外曲面は斜めのミガキ。内面は傾斜面ミガキ。	良好	角閃石	黒閃石	継手材(13.0m~14.0m) 西
43.10	34	磚文上路	(2.5) / - / -	外曲面は斜めのミガキ。内面は傾斜面平行面。	良好	角閃石・石英	[に]点相 / 黄鉄鉬 / 石英	継手材(13.0m~14.0m) 西
43.11	34	礫石路敷	長4.4 / 幅3.4 / 厚1.3	半偏	132g. 槌形。	良好	手	-
44.12	34	礫石路敷	段(15.3) / 幅(1.5) / 厚 7.0	半偏	1226g. 巴西。	良好	粗粒漂石(安山岩)	-
		多孔石						

SS03 出土遺物調査表

施設NO.	面積(m <sup>2</sup> )	施場	法面(断面) / 口徑 / 高度(m)	特	測量(断面・手法等)	地盤	地盤(断面・手法等)	備 考
46.1	35	脚之上路	(13.0) / <32.0> / -	外曲面は斜めのミガキ。内面は傾斜面。体積は傾斜面に多くなる。外曲面は傾斜面に多くなる。内面は傾斜面に多くなる。外曲面は傾斜面に多くなる。内面は傾斜面に多くなる。	良好	角閃石・長石斑岩	角閃石・長石斑岩	継手材(13.0m~14.0m) フット
46.2	35	磚文上路	(5.0) / - / -	モニに傾斜。ガラスを含む部分がある。	良好	角閃石・石英	角閃石	継手材(13.0m~14.0m) フット
46.3	35	磚文上路	(3.0) / - / <8.4>	有機物を含む。外曲面は傾斜面ミガキ。内面は傾斜面ミガキ。	良好	角閃石	[に]点相 / 黄鉄鉬 / 黒	継手材(13.0m~14.0m) フット
46.4	35	磚文上路	(4.2) / - / -	波状口縫。内面とも傾斜面ミガキ。	良好	角閃石・黒	灰閃石	継手材(13.0m~14.0m) フット
46.5	35	磚文上路	(3.1) / - / -	口縫部が開いており、内面は有機物を含む。	良好	角閃石・石英	角閃石 / 黑	継手材(13.0m~14.0m) フット
46.6	35	磚文上路	(2.9) / - / -	口縫部が開いており、内面は有機物を含む。	良好	内閃石	角閃石 / 黑	継手材(13.0m~14.0m) フット
46.7	35	磚文上路	(3.0) / - / -	口縫部が開いており、内面は有機物を含む。	良好	石英・角閃石	角閃石 / 黑	継手材(13.0m~14.0m) フット
46.8	35	磚文上路	(8.2) / - / -	外曲面は斜めのミガキ。内面は傾斜面ミガキ。	良好	角閃石・石英	角閃石	継手材(13.0m~14.0m) フット

測定No.	箇所No.	器種	法面/底面/口沿/底径(cm)	特 徴	測定面/手法等	地質	出土・付属等	備 考
46.9	35	陶文・土器	(6.9) / - / -	外面部は各部位に擦痕・凹凸等を認める。内面部は楕円ミガキ。	良好	石英・角閃石	上に赤い滑脂(体・手)	剥り方
46.10	35	陶文・土器	(3.3) / - / -	外面部は各部位に擦痕・凹凸等を認める。内面部は楕円ミガキ。	良好	石英・角閃石	赤い滑脂(体・手)	北西
47.11	35	陶文・土器	(4.4) / - / -	外面部は楕円の擦れ跡+。内面部は楕円ミガキ。	良好	角閃石	赤い滑脂(体・手)	
47.12	35	陶文・土器	(8.0) / - / -	外面部は楕円のL字磨き面。内面部は楕円ミガキ。	良好	石英・角閃石	赤い滑脂(体・手)	
47.13	35	陶文・土器	(3.2) / - / -	外面部は楕円の擦れ跡・擦痕・凹凸等。内面部は楕円ミガキ。	良好	角閃石・石英	赤い滑脂(体・手)	
47.14	35	陶文・土器	(3.2) / - / -	外面部は楕円の擦痕・凹凸等。内面部は楕円ミガキ。	良好	角閃石	赤い滑脂(体・手)	
47.15	35	陶文・土器	(5.0) / - / -	輪郭部に削れを認める。外面部は瓦状文様文。内面部は楕円ミガキ。	良好	角閃石・石英	赤い滑脂(体・手)	北西
47.16	35	陶文・土器	径 4.7 ~ 5.2	円形。全周面擦痕。重量 2.17g。重錠。	良好	角閃石・石英	赤い滑脂(体・手)	剥り方
47.17	35	陶文・土器	長 3.1 幅 3.0 厚 0.8	重錠 6.5g。	-	チャコット	-	張り方
47.18	35	磨打石	長 35.3 幅 24.8 厚 1.7	重錠 15.500g。両面。	-	輪郭磨打石(?)	-	ハット

## S5504 出土遺物測量表

## S5505 出土遺物測量表

測定NO.	測定NO.	測定	法面(深さ)/口徑/底面( cm)	特 性	断出部(手法等)	備 考
53.7	36	両文上 窓	(3.6) /-/ /-	外面部は乳頭文の単交織文の複合文。内面は楕位ミガキ。	直好 角閃石・白雲母 角閃石・漂白石 角閃石・漂白石	直好 角閃石・白雲母 黒曜石・漂白石 直好/漂白石(体感)
53.8	36	両文上 窓	(5.0) /-/ /-	外面部は乳頭文のLR鏡文帶。内面は楕位ナフナ。	良好 角閃石・漂白石 角閃石・色鉄 角閃石・漂白石	良好 黒曜石・漂白石 直好/漂白石(体感)
53.9	36	両文上 窓	(9.2) /-/ /-	外面部はLR鏡文に3条目の凹状による重複文。内面は楕位ミガキ。	良好 角閃石・漂白石 角閃石・漂白石 角閃石・漂白石	良好 角閃石・漂白石 黒曜石・漂白石 直好/漂白石(体感)
53.10	36	両文上 窓	(3.7) /-/ /-	外面部は乳頭文。内面は楕位ミガキ。	良好 角閃石・白雲母 角閃石・漂白石 角閃石・漂白石	良好 角閃石・白雲母 黒曜石・漂白石 直好/漂白石(体感)
53.11	36	両文上 窓	(4.7) /-/ /-	外面部は乳頭文に楕位交織文。内面は楕位ミガキ。	良好 角閃石・白雲母 角閃石・漂白石 角閃石・漂白石	良好 角閃石・白雲母 黒曜石・漂白石 直好/漂白石(体感)
53.12	36	両文上 窓	(4.5) /-/ /-	外面部はLR鏡文。内面は楕位ミガキ。内面鏡文と斜位一層のナフナ。	良好 角閃石・白雲母 角閃石・漂白石 角閃石・漂白石	良好 角閃石・白雲母 黒曜石・漂白石 直好/漂白石(体感)
53.13	36	両文上 窓	(4.1) /-/ /-	外面部ともに乳頭ミガキ。内面は楕位ナフナ。	良好 角閃石・白雲母 角閃石・漂白石 角閃石・漂白石	良好 角閃石・白雲母 黒曜石・漂白石 直好/漂白石(体感)
53.14	36	単 窓	長9.2 /幅3.9 /厚3.8	直角163g。スヌ付窓。長形。	—	—
53.15	36	単 窓	長7.3 /幅5.4 /厚2.9	直角205g。半円。	—	—

SS06 出土遺物目録表

測定NO.	測定NO.	測定	法面(深さ)/口徑/底面( cm)	特 性	断出部(手法等)	備 考
55.1	36	両文上 窓	(4.7) /-/ /-	外面部は楕位交織文。内面は楕位重複。	良好 角閃石・白雲母 角閃石・漂白石 角閃石・漂白石	良好 角閃石・白雲母 黒曜石・漂白石 直好/漂白石(体感)
55.2	36	両文上 窓	(4.5) /-/ /-	口縁部面は楕位交織文。内面は楕位交織文。外面部は楕位ミガキ。	良好 角閃石・白雲母 角閃石・漂白石 角閃石・漂白石	良好 角閃石・白雲母 黒曜石・漂白石 直好/漂白石(体感)
55.3	36	両文上 窓	(2.4) /-/ /-	所孔・穿孔をもつ二字状突起品。内面は楕位ミガキ。	良好 角閃石・白雲母 角閃石・漂白石 角閃石・漂白石	良好 角閃石・白雲母 黒曜石・漂白石 直好/漂白石(体感)
55.4	36	両文上 窓	(3.4) /-/ /-	外面部は断し楕位文による重複文。内面は楕位ミガキ。	良好 角閃石・白雲母 角閃石・漂白石 角閃石・漂白石	良好 角閃石・白雲母 黒曜石・漂白石 直好/漂白石(体感)
55.5	36	両文上 窓	(3.2) /-/ /-	外面部は乳頭文。内面は楕位ナフナ。	良好 角閃石・白雲母 角閃石・漂白石 角閃石・漂白石	良好 角閃石・白雲母 黒曜石・漂白石 直好/漂白石(体感)
55.6	36	両文上 窓	(6.0) /-/ /-	外面部はLR鏡文に3条目の凹状による重複文。内面は楕位ミガキ。	良好 角閃石・白雲母 角閃石・漂白石 角閃石・漂白石	良好 角閃石・白雲母 黒曜石・漂白石 直好/漂白石(体感)
55.7	36	両文上 窓	(3.0) /-/ /-	外面部は乳頭文の直角文。内面は楕位ミガキ。	良好 角閃石・白雲母 角閃石・漂白石 角閃石・漂白石	良好 角閃石・白雲母 黒曜石・漂白石 直好/漂白石(体感)
55.8	36	両文上 窓	(6.1) /-/ /-	外面部は乳頭文のLR鏡文。内面は楕位ミガキ。	良好 角閃石・白雲母 角閃石・漂白石 角閃石・漂白石	良好 角閃石・白雲母 黒曜石・漂白石 直好/漂白石(体感)
55.9	36	両文上 窓	(4.8) /-/ /-	外面部は内凹部の面にLR鏡文を充填。内面は楕位ミガキを調節板に斜位ミガキ。	良好 角閃石・白雲母 角閃石・漂白石 角閃石・漂白石	良好 角閃石・白雲母 黒曜石・漂白石 直好/漂白石(体感)
55.10	36	両文上 窓	長9.7 /幅8.2 /厚5.5	直角630 g。半円。	—	—

SS07 出土遺物目録表

測定NO.	測定NO.	測定	法面(深さ)/口徑/底面( cm)	特 性	断出部(手法等)	備 考
57.1	37	両文上 窓	(3.8) /-/ /-	[1層]断面重複。内面は楕位ナフナ。	良好 角閃石・白雲母 角閃石・漂白石 角閃石・漂白石	良好 角閃石・白雲母 黒曜石・漂白石 直好/漂白石(体感)
57.2	37	両文上 窓	(3.4) /-/ /-	外面部は楕位ミガキ。内面は楕位ミガキ。	良好 角閃石・白雲母 角閃石・漂白石 角閃石・漂白石	良好 角閃石・白雲母 黒曜石・漂白石 直好/漂白石(体感)
57.3	37	両文上 窓	(10.8) /-/ /-	注出部。外面部は楕位ミガキ。内面は楕位ナフナ。	良好 角閃石・白雲母 角閃石・漂白石 角閃石・漂白石	良好 角閃石・白雲母 黒曜石・漂白石 直好/漂白石(体感)

## SS08出土遺物清點表

測定NO.	測定NO.	基準	測量(厘米)/口径(厘米)	特 徴	測量(厘米)/口径(厘米)	特 徴
59.1	37	博文 碑文/周	(15.2) /~/-	外曲は体部から足部迄まで三角之、以フアデ。内面は楕位ニ有キ。	直立 内面右(白色地)・ 右斜石・白地色	直立 内面左(白色地)・ 右斜石・白地色
59.2	37	博文 碑文/周	(8.3) /~/-< 4.4 >	体部の右方前面、楕を有する。外曲は楕位ニ有キ。	良好 内面右(白色地)	直立 内面左(白色地)
59.3	37	博文 碑文/周	(4.8) /~/-< 9.0 >	外曲は楕位有キ。外曲は楕位ニ有キ。	良好 内面右(白色地)	直立 内面左(白色地)
60.4	37	博文 碑文/周	(5.4) /~/-< 7.7 >	外曲は楕位前面の上部有り。外曲は楕位ニ有キ。	良好 内面右(白色地)	直立 内面左(白色地)
60.5	37	博文 碑文/周	(3.0) /~/-< 8.4 >	外曲は「等なナ」字形。外曲は楕位ニ有キ。外曲は楕位正面(2刷)「ト」墨(?)を有す。	良好 内面右(白色地)	直立 内面左(白色地)
60.6	37	博文 碑文/周	(12.6) /~/-	口側前面に「等なナ」字形を有す。外曲は楕位ニ有キ。	良好 内面右(白色地)	直立 内面左(白色地)
60.7	37	博文 碑文/周	(9.4) /~/-	外曲は楕位有キ。外曲は楕位正面に「等なナ」字形を有す。外曲は楕位正面に「等なナ」字形を有す。	良好 内面右(白色地)	直立 内面左(白色地)
60.8	37	博文 碑文/周	(5.0) /~/-	口側前面に「等なナ」字形を有す。外曲は楕位正面に「等なナ」字形を有す。	良好 内面右(白色地)	直立 内面左(白色地)
60.9	37	博文 碑文/周	(3.0) /~/-	外曲は楕位有り。外曲は楕位ニ有キ。	良好 内面右(白色地)	直立 内面左(白色地)
60.10	37	博文 碑文/周	(6.6) /~/-	口側前面有り。口側外部に楕位有り。外曲は楕位ニ有キ。	良好 内面右(白色地)	直立 内面左(白色地)
60.11	37	博文 碑文/周	(2.4) /~/-	口側前面有り。内外曲ともに楕位ニ有キ。	良好 内面右(白色地)	直立 内面左(白色地)
60.12	37	博文 碑文/周	(3.5) /~/-	外曲は楕位ニ有キ。外曲は楕位ニ有キ。	良好 内面右(白色地)	直立 内面左(白色地)
60.13	37	博文 碑文/周	(6.7) /~/-	外曲は「等なナ」字形を有す。外曲は楕位ニ有キ。	良好 内面右(白色地)	直立 内面左(白色地)
60.14	37	博文 碑文/周	(6.8) /~/-	外曲はLR(周)に「等なナ」字形を有す。外曲は楕位ニ有キ。	良好 内面右(白色地)	直立 内面左(白色地)
60.15	37	博文 碑文/周	(6.9) /~/-	外曲は「等なナ」字形を有す。外曲は楕位ニ有キ。	良好 内面右(白色地)	直立 内面左(白色地)
60.16	37	博文 碑文/周	(7.0) /~/-	外曲は「等なナ」字形を有す。外曲は楕位ニ有キ。	良好 内面右(白色地)	直立 内面左(白色地)
60.17	37	博文 碑文/周	(4.2) /~/-	外曲は「等なナ」字形を有す。外曲は楕位ニ有キ。	良好 内面右(白色地)	直立 内面左(白色地)
60.18	37	新井 石瓶	高 2.6 幅 1.8 /厚 0.6 直径	重量 2.4kg。形态。	—	直徑

## SS09出土遺物清點表

測定NO.	測定NO.	基準	測量(厘米)/口径(厘米)	特 徴	測量(厘米)/口径(厘米)	特 徴
61.1	37	博文 碑文/周	(2.5) /~/-	外曲はLR(周)。外曲は楕位ニ有キ。	良好 内面右(白色地)	直立 内面左(白色地)
61.2	37	博文 碑文/周	(4.4) /~/-	外曲はLR(周)文後に「等なナ」字形を有す。楕位正面(2刷)「等」墨(?)を有す。	良好 内面右(白色地)	直立 内面左(白色地)
61.3	37	博文 碑文/周	(1.8) /~< 10.8 >/~	墨量 10.9g。楕位を模倣した上部輪郭と考えられる。内外曲ともに楕位ニ有キ。	良好 内面右(白色地)	直立 内面左(白色地)

測定NO.	測定NO.	基準	測量(厘米)/口径(厘米)	特 徴	測量(厘米)/口径(厘米)	特 徴
63.1	37	博文 碑文/周	(3.1) /~/-	内外曲とも楕位ニ有キ。	良好 内面右(白色地)	直立 内面左(白色地)

## SS11出土遺物清點表

測定NO.	測定NO.	基準	測量(厘米)/口径(厘米)	特 徴	測量(厘米)/口径(厘米)	特 徴
61.1	37	博文 碑文/周	(2.5) /~/-	外曲はLR(周)。内面は楕位ニ有キ。	良好 内面右(白色地)	直立 内面左(白色地)
61.2	37	博文 碑文/周	(4.4) /~/-	外曲はLR(周)文後に「等なナ」字形を有す。楕位正面(2刷)「等」墨(?)を有す。	良好 内面右(白色地)	直立 内面左(白色地)
61.3	37	博文 碑文/周	(1.8) /~< 10.8 >/~	墨量 10.9g。楕位を模倣した上部輪郭と考えられる。内外曲ともに楕位ニ有キ。	良好 内面右(白色地)	直立 内面左(白色地)

## SS12 出土遺物類別表

種目NO.	品目NO.	器種	注意(表面・口径・底面・直徑)(cm)	特 徴	備用(形態・手法等)	地質	地土・材質等	地質(外觀・内地)	備 考
64.1	37	陶文土器	(3.5) /-/ < 6.8 >	外表面は細孔ミガキ。内面は糊付ミガキ。底面に削り凹面。(底面 1 深 1.4 逃) 有隻字。	良好	角閃石・赤玉灰	黒泥	体下部一底部 20cm 砂	
64.2	37	陶文土器	(3.9) /-/ /-	外表面はLR 磨之間に糊付ミガキ。内面は糊付ミガキ。	良好	角閃石・赤玉灰	黒泥 / に点々黄	糊付材料(1.5mm)	
64.3	37	陶文土器	底 (1.0) / 壁 3.3 / 脊 1.3 / 基 7.0g	外表面に筋ついた子テ。穿孔を施す。内面は清掃。	良好	角閃石・白玉灰	相	糊付材料(1.5mm)	マット

## SS13 出土遺物類別表

種目NO.	品目NO.	器種	注意(表面・口径・底面・直徑)(cm)	特 徴	備用(形態・手法等)	地質	地土・材質等	地質(外觀・内地)	備 考
65.1	37	陶文土器	(3.8) /-/ /-	口縁は削り凹面。内面は糊付ミガキ。内面には糊付ミガキ。外表面は糊付ミガキ。	良好	角閃石・赤玉灰	黒泥	糊付材料(1.5mm)	
65.2	37	陶文土器	(2.9) /-/ /-	外表面は削り凹面。内面は糊付ミガキ。	良好	角閃石・赤玉灰	黒泥 / に点々黄	糊付材料(1.5mm)	
65.3	37	陶文土器	(4.0) /-/ /-	外表面は糊付凹面。内面は糊付ミガキ。	良好	角閃石・赤玉灰	黒泥 / に点々黄	糊付材料(1.5mm)	マット

## SS14 出土遺物類別表

種目NO.	品目NO.	器種	注意(表面・口径・底面・直徑)(cm)	特 徴	備用(形態・手法等)	地質	地土・材質等	地質(外觀・内地)	備 考
66.1	38	陶文土器	(4.9) /-/ /-	外表面は糊付凹面。口縁切欠。内面は糊付ミガキ。	良好	角閃石・砂	黒泥 / 黃	糊付材料(1.5mm)	マット
66.2	38	陶文土器	(4.7) /-/ /-	口縁は削り凹面。外表面は糊付凹面の LR 磨文。内面は糊付ミガキ。	良好	角閃石・砂	黒泥 / 黃	糊付材料(1.5mm)	
66.3	38	陶文土器	(1.9) /-/ /-	外表面は削り凹面。内面は糊付ミガキ。	良好	長石	に点々黄	糊付材料(1.5mm)	
66.4	38	陶文土器	(1.8) /-/ /-	外表面は糊付凹面。底面は糊付米字彫。内面は糊付ミガキ。	良好	角閃石	黒泥 / 黃	糊付材料(1.5mm)	
66.5	38	陶文土器	(5.8) /-/ /-	外表面は糊付凹面。底面は糊付米字彫。内面は糊付ミガキ。	良好	角閃石・砂	黒泥 / 黃	糊付材料(1.5mm)	
66.6	38	陶文土器	(1.4) /-/ /-	口縁は削り凹面。8.8 穴穿付。小穴穿。	良好	長石	黒泥 / 細青灰	糊付材料(1.5mm)	マット
66.7	38	陶文土器	(2.3) /-/ /-	折肩。内面もに糊付ミガキ。	良好	角閃石・白玉灰	灰	糊付材料(把手付)	マット
66.8	38	陶文土器	長 6.9 幅 6.3 高 4.7	直筒 237.6 平底。	—	粗粒磨石突起付	—	—	
66.9	38	陶文土器	長 2.6 幅 2.0 高 0.7	直筒 2.36. 略弧合意に糊付。穿孔時の破片と見えます。直筒直上部を丸くして丸くした方	—	黑色火山岩	—	—	
		石器		方口頭の見えます。丸。					

## SS15 出土遺物類別表

種目NO.	品目NO.	器種	注意(表面・口径・底面・直徑)(cm)	特 徴	備用(形態・手法等)	地質	地土・材質等	地質(外觀・内地)	備 考
70.1	38	陶文土器	(10.8) /-/ /-	底孔切欠。底面は柱状(底板状)突起付。外表面は糊付ミガキ。内面は糊付ミガキ。	良好	角閃石・白玉灰	黒泥	糊付材料(1.5mm)	相
70.2	38	陶文土器	(3.0) /-/ /-	底孔をもつ。内面は糊付ミガキ。	良好	角閃石	黒泥 / 黃	糊付材料(1.5mm)	
70.3	38	陶文土器	(3.1) /-/ /-	底孔切欠。口縁は削り凹面。口縁内面は糊付ミガキ。	良好	長石	黒泥 / 細青灰	糊付材料(1.5mm)	
70.4	38	陶文土器	(4.0) /-/ /-	外表面はLR 磨之間に糊付。内面は糊付ミガキ。	良好	角閃石・白玉灰	黒泥 / 黃	糊付材料(1.5mm)	
70.5	38	陶文土器	(4.8) /-/ /-	外表面は糊付凹面の LR 磨之間に糊付。内面は糊付ミガキ。	良好	長石・角閃石・砂	黒泥 / 黄	糊付材料(1.5mm)	
70.6	38	陶文土器	(4.6) /-/ /-	外表面は糊付凹面の LR 磨之間に糊付。内面は糊付ミガキ。	良好	長石・角閃石・砂	黒泥 / 黄	糊付材料(1.5mm)	

516 出世相

標印No.	遺物No.	器種	法面/底面/口縁/側面(cm)	特 徴	施用部/手法等	備 考
75.6	39	陶文上唇 筒形	(4.1) /-/ /-	外面部は褐色の有光釉。内面部は白い無光釉。	良好 石英・白色釉	糊 / 伝火痕 糊 / 黑斑 (休窯) 糊
75.7	39	陶文上唇 筒形	(7.1) /-/ /-	外面部は赤色区画のLR規一定による直三角文。内面部は黒いナデ。	良好 黑斑	糊 / 黑斑 (休窯)
75.8	39	陶文上唇 筒形	(4.5) /-/ /-	外面部はミカ子。内面部は黒いナデ。	良好 白色釉・石英	糊 / 黑斑 (休窯)
75.9	39	陶文右脚 削片	且3.3・幅3.2 /厚0.8	直面 / 烧成温度を誤ったためか他へ。加熱の度が遅れできな事。 焼成温度が少しある間に引けた事。ReheatedよりUsedと記す方が合 意の方へと見られる。	— 酒呑瓶灰	— 完存

SS518出土遺物目録表

標印No.	遺物No.	器種	法面/底面/口縁/側面(cm)	特 徴	施用部/手法等	備 考
77.1	39	陶文上唇 筒形	4.5・高9.2 /幅5.5	糊化を呈し、割れ目と考られる。内外面とも燒成。	良好 白色釉・石英	糊 / 黑斑 (休窯) 糊 / 黑斑 糊
77.2	39	陶文上唇 筒形	(9.9) /-/ /-	口縁部が黒く、外面部は赤色区画のLR規文。内面部は黒いミカ子。	良好 白色釉・石英	糊 / 黑斑 / 烧成温度 (休窯~休止期) 糊 / 黑斑 / 烧成温度 (休窯~休止期)
77.3	39	陶文上唇 筒形	(4.2) /-/ /-	口縁部が黒く、外面部は赤色区画を呈する。外面部はLR規文でスズメガ有り。内面部は糊 化した。	良好 白色釉	糊 / 黑斑 / 烧成温度 (休窯~休止期) 糊 / 黑斑 / 烧成温度 (休窯~休止期)
77.4	39	陶右脚 多孔石	長18.0・幅24.3・厚17.0 重420g。2点。	糊化を呈し、糊面に引けた事。	— 糊 / 黑斑 / 烧成温度	— 完存

SS519出土遺物目録表

標印No.	遺物No.	器種	法面/底面/口縁/側面(cm)	特 徴	施用部/手法等	備 考
79.1	39	陶文上唇 筒形	(4.8) /-/ /-	糊化を呈し、外面部とごく少しお小差。糊面に穿孔。内面部は黒いミカ子。谷筋。	良好 角閃石・白色釉	糊 / 黑斑 (休窯) 糊 / 黑斑 糊
79.2	39	陶文上唇 筒形	(4.7) /-/ /-	外面部は赤色区画のLR規文。内面部は穿孔を呈する。内面部とも糊化。	良好 角閃石・白色釉	糊 / 黑斑 ~糊に引 き~糊 / 黑斑 (休窯~休止期) 糊
79.3	39	陶文上唇 筒形	(5.6) /-/ /-	外面部は3.3cm以上の横幅の赤色区画を呈する。内面部及び引けた事。	良好 角閃石・白色釉	糊 / 黑斑 (休窓~休止期) 糊 / 黑斑 (休窓~休止期)
79.4	39	陶右脚 多孔石	(5.0) /-/ /-	外面部は赤色区画のLR規文を呈する。内面部は糊化。	良好 白色釉	糊 / 黑斑 (休窓~休止期) 糊 / 黑斑 (休窓~休止期)
79.5	39	陶226・幅20.7・厚16.3 多孔石	長22.6・幅20.7・厚16.3 重6620g。不定形。1点。	糊化を呈し、糊面に引けた事。	— 糊 / 黑斑 / 烧成温度	— 完存

SS520出土遺物目録表

標印No.	遺物No.	器種	法面/底面/口縁/側面(cm)	特 徴	施用部/手法等	備 考
82.1	40	陶文上唇 筒形	(2.9) /-/ /-	口縁部が黒く、外面部に引けた事。	良好 角閃石	糊 / 黑斑 (休窓~休止期) 糊 / 黑斑 糊
82.2	40	陶文上唇 筒形	(3.0) /-/ /-	外面部は糊化が引けた事。	良好 角閃石	糊 / 黑斑 (休窓~休止期) 糊 / 黑斑 糊
82.3	40	陶文上唇 筒形	(2.8) /-/ /-	外面部は糊化が引けた事。	良好 角閃石・白色釉	糊 / 黑斑 (休窓~休止期) 糊 / 黑斑 (休窓~休止期)
82.4	40	陶文上唇 筒形	(4.0) /-/ /-	外面部は糊化が引けた事。	良好 角閃石	糊 / 黑斑 (休窓~休止期) 糊 / 黑斑 (休窓~休止期)
82.5	40	陶右脚 多孔石	(5.2) /-/ /-	外面部は引けた事。	良好 角閃石	糊 / 黑斑 (休窓~休止期) 糊 / 黑斑 (休窓~休止期)
82.6	40	陶右脚 多孔石	長31.0・幅18.5・厚14.7 多孔石	重11720g。長形。	— 糊 / 黑斑 / 烧成温度	— 完存

SS21出土遺物調査表

種目NO.	西6043	8号 銅文上唇 口印	漆面(表面)/口印/底面(底面)(cm)	特 徴	出土地點(手法等)	測定	地質(外観/内地)	備 考
83.1	40	銅文上唇 口印	(2.0) / - < 4.4 >	外面は楕円形のナメ。裏面は楕円形。(2面・滑・1足)。	良好	角閃石・白雲石	[にごく・黄褐色] / [透明・灰青色]	良好
83.2	40	銅文上唇 口印	(3.8) / - / -	外面はLR規則。裏面は楕円形。	良好	角閃石・白雲石	[にごく・黄褐色] / [透明・灰青色]	良好
83.3	40	銅文上唇 口印	(3.0) / - / -	外面はともに楕円形。(2面・滑・1足)。背面は	良好	角閃石・白雲石	[にごく・黄褐色] / [透明・灰青色]	良好

SS22出土遺物調査表

種目NO.	西6043	9号 銅文上唇 口印	漆面(表面)/口印/底面(底面)(cm)	特 徴	出土地點(手法等)	測定	地質(外観/内地)	備 考
85.1	40	銅文上唇 口印	(7.3) / - / -	外面は楕円形のナメで楕円形のミガキ。スス付着。内面は楕円形。	良好	角閃石・白雲石	[長方形] / [透明・灰青色]	良好
85.2	40	銅文上唇 口印	(5.3) / - / -	外面は軽い凹凸。内外面ともに滑りミガキ。	良好	角閃石・白雲石	[長方形] / [透明・灰青色]	良好
85.3	40	銅文上唇 口印	(5.1) / - / -	外面は凹凸のある状態で裏面にナメ。内面は楕円形ミガキでスス付着あり。	良好	角閃石・白雲石	[にごく・黄褐色] / [透明・灰青色]	良好
85.4	40	銅文上唇 口印	(4.0) / - / -	楕円形のナメ。内面とともに滑りミガキ。	良好	角閃石・白雲石	[にごく・黄褐色] / [透明・灰青色]	良好
85.5	40	銅文上唇 口印	長 27.4 幅 26.7 厚 20.7 重畠 2050g。口径。	-	角閃石・白雲石	-	完形	リット

SS23出土遺物調査表

種目NO.	西6043	10号 銅文上唇 口印	漆面(表面)/口印/底面(底面)(cm)	特 徴	出土地點(手法等)	測定	地質(外観/内地)	備 考
88.1	40	銅文上唇 口印	(5.6) / - / -	口押付形。外側は3面の楕円形の凹面をもつ。4面の楕円形の面をもつ。	良好	角閃石・白雲石	[0mm] / 黒褐色	良好
88.2	40	銅文上唇 口印	長 11.3 幅 7.8 厚 5.6 重畠 625g。	-	石英閃緑岩	-	完形	リット
88.3	41	銅文上唇 口印	長 19.2 幅 15.3 厚 12.5 重畠 5930g。大形。	-	角閃石・白雲石	-	完形	リット

SS24出土遺物調査表

種目NO.	西6043	11号 銅文上唇 口印	漆面(表面)/口印/底面(底面)(cm)	特 徴	出土地點(手法等)	測定	地質(外観/内地)	備 考
91.1	41	銅文上唇 口印	(1.6) / - / -	内面ともに楕円形のナメ。裏面は楕円形。	良好	角閃石・白雲石	[にごく・黄褐色] / [透明・灰青色]	良好
91.2	41	銅文上唇 口印	(6.5) / - / -	外面は楕円形。内面は楕円形。	良好	角閃石・白雲石	[にごく・黄褐色] / [透明・灰青色]	良好
91.3	41	銅文上唇 口印	(5.8) / - / -	内面は楕円形。外側は4面の楕円形の凹面をもつ。	良好	角閃石・白雲石	[にごく・黄褐色] / [透明・灰青色]	良好
91.4	41	銅文上唇 口印	(5.2) / - / -	口押付形。外側は4面の楕円形の凹面をもつ。以下斜面・左半分・右半分。	良好	角閃石・白雲石	[にごく・黄褐色] / [透明・灰青色]	良好
91.5	41	銅文上唇 口印	(4.9) / - / -	内面は楕円形。外側は斜面・左半分・右半分。	良好	角閃石・白雲石	[にごく・黄褐色] / [透明・灰青色]	良好
91.6	41	銅文上唇 口印	(3.3) / - / -	外側は楕円形の凹面をもつ。内面は楕円形ミガキ。	良好	角閃石・白雲石	[にごく・黄褐色] / [透明・灰青色]	良好
91.7	41	銅文上唇 口印	(6.3) / - / -	外側は楕円形。内面は楕円形。	良好	角閃石・白雲石	[長方形] / [透明・灰青色]	良好
91.8	41	銅文上唇 口印	(11.1) / - / -	外側は楕円形のミガキ。内面は楕円形。	良好	角閃石・白雲石	[にごく・黄褐色] / [透明・灰青色]	良好
91.9	41	銅文上唇 口印	(2.8) / - / -	外側はLR規則に楕円形の凹面をもつ。内面は楕円形ミガキ。	良好	角閃石・白雲石	[にごく・黄褐色] / [透明・灰青色]	良好
91.10	41	銅文上唇 口印	(7.4) / - / -	外側はLR規則に楕円形の凹面をもつ。内面は楕円形ミガキ。	良好	角閃石・白雲石	[にごく・黄褐色] / [透明・灰青色]	良好
91.11	41	銅文上唇 口印	長 5.2 幅 2.7 厚 2.0 重畠 170g。上面に刻文有り。母孔をもつ。	良好	石英	-	地質(外観/内地)	リット

## 遺構外出土遺物相対表

測定NO.	測定点	基準	目	測定(手法)	測定(手法)	測定(手法)	測定(手法)	測定(手法)	測定(手法)	測定(手法)	測定(手法)
92.1	41 調査	調文・土面	(3.7) /-/ /-	外面は有孔切妻文と瓦と瓦上に刷毛。内面は側面ナフ。温槽も丸。	良好	白磁・内黒	白磁・内黒	白磁・内黒	白磁・内黒	白磁・内黒	SSR削り方
92.2	41 調査	調文・土面	(5.8) /-/ /-	外面は鏡の平塗文と瓦と瓦上に刷毛。内面は斜面ナフ。温槽も丸。	良好	角面石・内黒	角面石・内黒	角面石・内黒	角面石・内黒	角面石・内黒	SSR削り方
92.3	41 調査	調文・土面	(7.5) /-/ /-	焼成不良品。外面は焼成不良品。内面は焼成不良品。外面は鏡のLR鏡と文字文を焼成。内面は斜面ナフ。温槽も丸。	良好	角面石・内黒	角面石・内黒	角面石・内黒	角面石・内黒	角面石・内黒	ドット・SD1d
92.4	41 調査	調文・土面	(6.3) /-/ /-	鏡のLR鏡と文字文を焼成。内面は焼成不良品。外面は焼成不良品。内面は焼成不良品。	良好	角面石・白釉	角面石・白釉	角面石・白釉	角面石・白釉	角面石・白釉	調査区西
92.5	41 調査	調文・土面	(4.1) /-/ /-	波状口縁。外面は有孔切妻文と瓦と瓦上に刷毛。内面は斜面ナフ。	良好	白色釉	白色釉	白色釉	白色釉	白色釉	調査区西
92.6	41 調査	調文・土面	(3.2) /-/ /-	外面はLR鏡と文字文を焼成。内面は側面ナフ。温槽も丸。	良好	白色釉	白色釉	白色釉	白色釉	白色釉	調査区東
92.7	41 調査	調文・土面	(6.0) /-/ /-	外面は鏡のLR鏡と文字文。内面は斜面ナフ。	良好	角面石・石地	角面石・石地	角面石・石地	角面石・石地	角面石・石地	調査区西
92.8	41 調査	調文・土面	(4.3) /-/ /-	外面は有孔切妻文と瓦と瓦上に刷毛。内面は側面ナフ。温槽も丸。	良好	角面石・赤鉄	角面石・赤鉄	角面石・赤鉄	角面石・赤鉄	角面石・赤鉄	調査区東
92.9	41 調査	調文・土面	(4.2) /-/ /-	口押付の鏡の形跡。内面と外に焼成不良品。	良好	角面石・赤鉄	角面石・赤鉄	角面石・赤鉄	角面石・赤鉄	角面石・赤鉄	調査区西
92.10	41 調査	調文・土面	(8.2) /-/ /-	外面はLR鏡と文字文と斜面ナフ。	良好	角面石・石地	角面石・石地	角面石・石地	角面石・石地	角面石・石地	調査区東
92.11	41 調査	調文・土面	(3.7) /-/ /-	外面は有孔切妻文と瓦と瓦上に刷毛。	良好	長石・白釉・雲母	長石・白釉・雲母	長石・白釉・雲母	長石・白釉・雲母	長石・白釉・雲母	調査区東
92.12	41 調査	調文・土面	(4.0) /-/ /-	外面は有孔切妻文。内面は側面ナフ。	良好	白色釉	白色釉	白色釉	白色釉	白色釉	調査区東
92.13	42 調査	調文・土面	(3.8) /-/ /-	外面は有孔切妻文。内面は側面ナフ。	良好	角面石・赤鉄	角面石・赤鉄	角面石・赤鉄	角面石・赤鉄	角面石・赤鉄	調査区西
92.14	42 調査	調文・土面	(5.2) /-/ /-	外面はLR鏡と文字文と斜面ナフ。	良好	石英・白釉	石英・白釉	石英・白釉	石英・白釉	石英・白釉	調査区東
92.15	42 調査	調文・土面	(4.4) /-/ /-	外面は有孔切妻文と瓦と瓦上に刷毛。	良好	角面石・白釉	角面石・白釉	角面石・白釉	角面石・白釉	角面石・白釉	調査区東
92.16	42 調査	調文・土面	(3.5) /-/ /-	外面はLR鏡と文字文と斜面ナフ。	良好	角面石・石地	角面石・石地	角面石・石地	角面石・石地	角面石・石地	調査区東
92.17	42 調査	調文・土面	(9.6) /-/ /-	外面は鏡のLR鏡と文字文と斜面ナフ。	良好	角面石・白釉	角面石・白釉	角面石・白釉	角面石・白釉	角面石・白釉	調査区東
92.18	42 調査	調文・土面	(3.3) /-/ /-	口押付の鏡の形跡。内面は焼成不良品。	良好	角面石・白釉	角面石・白釉	角面石・白釉	角面石・白釉	角面石・白釉	調査区東
92.19	42 調査	調文・土面	(4.8) /-/ /-	鏡のLR鏡と文字文と斜面ナフ。	良好	角面石・白釉	角面石・白釉	角面石・白釉	角面石・白釉	角面石・白釉	調査区東
92.20	42 調査	調文・土面	(6.0) /-/ /-	外面は有孔切妻文。内面は側面ナフ。	良好	角面石・石地	角面石・石地	角面石・石地	角面石・石地	角面石・石地	ドット
92.21	42 調査	調文・土面	(6.8) /-/ /-	外面は側面ナフ。内面は斜面ナフ。	良好	角面石・赤鉄	角面石・赤鉄	角面石・赤鉄	角面石・赤鉄	角面石・赤鉄	調査区東
92.22	42 調査	調文・土面	(4.0) /-/ /-	口押付の鏡。内面は有孔切妻文と斜面ナフ。	良好	角面石・長石	角面石・長石	角面石・長石	角面石・長石	角面石・長石	ドット
92.23	42 調査	調文・土面	(4.8) /-/ /-	口押付の鏡。内面は有孔切妻文と斜面ナフ。	良好	角面石・白釉	角面石・白釉	角面石・白釉	角面石・白釉	角面石・白釉	調査区東
92.24	42 調査	調文・土面	(3.8) /-/ /-	口押付の鏡。内面は斜面ナフ。	良好	角面石・長石・鐵	角面石・長石・鐵	角面石・長石・鐵	角面石・長石・鐵	角面石・長石・鐵	調査区西
93.25	42 調査	調文・土面	(2.6) /-/ /-	外面は有孔切妻文と斜面ナフ。	良好	砂・白色釉	砂・白色釉	砂・白色釉	砂・白色釉	砂・白色釉	調査区東
93.26	42 調査	調文・土面	(3.7) /-/ /-	外面は有孔切妻文。内面は斜面ナフ。	良好	角面石・鐵	角面石・鐵	角面石・鐵	角面石・鐵	角面石・鐵	調査区東・西
93.27	42 調査	調文・土面	(2.0) /-/ /-	外面は有孔切妻文。	良好	角面石・白釉	角面石・白釉	角面石・白釉	角面石・白釉	角面石・白釉	調査区東
93.28	42 調査	調文・土面	(4.0) /-/ /-	外面は有孔切妻文と斜面ナフ。	良好	角面石・白釉	角面石・白釉	角面石・白釉	角面石・白釉	角面石・白釉	調査区東
93.29	42 調査	調文・土面	(4.0) /-/ /-	外面は有孔切妻文と斜面ナフ。	良好	角面石	角面石	角面石	角面石	角面石	調査区東

測定NO.	測定NO.	場所	法面傾斜度/幅(度)/高さ(cm)	露出形態/手筋等	地質	地主・付帯岩	地質(岩質/产地)	備 考
93-30	42	岡文上層	(6.5) /-/ /-	外側はLR帶を有し、内面は鏡面ミガキ。	良好	角閃石・長石	火成岩/玄武岩 にぶい質	調査区東
93-31	42	岡文下層	(2.5) /-/ /-	外側はLR帶を有し、内面は鏡面ミガキ。	良好	白長石・角閃石	火成岩 鏡面質	調査区東
93-32	42	岡文上層	(2.3) /-/ /-	外側は鏡面の風化鏡面。内面は鏡面ミガキ。	良好	白長石	火成岩/火成岩 鏡面質	ドット
93-33	42	岡文上層	(4.0) /-/ /-	外側は鏡面のLR帶を有し、内面は鏡面ミガキ。	良好	角閃石・白長石	火成岩/火成岩 鏡面質	調査区東
93-34	42	岡文上層	(5.0) /-/ /-	外側は鏡面のLR帶を有し、内面は鏡面ミガキ。	良好	角閃石	火成岩 鏡面質	ドット
93-35	42	岡文上層	(3.7) /-/ /-	外側は鏡面で、端スリップあり。内面は鏡面ナメ物質に鏡面ミガキ。	良好	長石・白長石	火成岩/にぶい質	調査区東
93-36	42	岡文上層	(3.2) /-/ /-	外側は鏡面鏡像・注釈区の乱れ鏡文部。内面は鏡面ミガキ。	良好	角閃石・長石	火成岩/鏡面 鏡面質	調査区東
93-37	42	岡文上層	(3.4) /-/ /-	外側は鏡面の風化鏡面。内面は「」なナナフ。	良好	白色岩	火成岩/火成岩 鏡面質	調査区東
93-38	42	岡文上層	(4.0) /-/ /-	外側はミガキ。内面は鏡面ミガキ。	良好	角閃石・白長石	火成岩 鏡面質	調査区東
93-39	42	岡文上層	(4.0) /-/ /-	外側は鏡面のLR帶を有し、内面は鏡面ミガキ。	良好	角閃石・長石・白 色岩	火成岩/火成岩 鏡面質	調査区東
93-40	42	岡文上層	(4.0) /-/ /-	外側は鏡面のLR帶を有し、内面は鏡面ミガキ。	良好	角閃石	火成岩/火成岩 鏡面質	調査区東
93-41	42	岡文上層	(4.5) /-/ /-	口齊部の鏡面。外側は鏡面鏡像。内面は鏡面ミガキ。	良好	角閃石・白長石	火成岩/火成岩 鏡面質	調査区東
93-42	42	岡文上層	(2.3) /-/ /-	体芯部。外側は鏡面。内面は鏡面ミガキ。	良好	石英	火成岩/火成岩 鏡面質	ドット
93-43	42	岡文上層	(4.5) /-/ /-	外側は鏡面の鏡面鏡像・火成岩。内面は鏡面ミガキ。	良好	角閃石・赤色 岩	火成岩/火成岩 鏡面質	調査区東
93-44	42	岡文上層	(6.1) /-/ /-	鏡状透視面。外側は鏡面の鏡面鏡像。体芯に長柱状火成岩の斜交部。内面は鏡面ミガキ。	良好	白色岩	火成岩/火成岩 鏡面質	調査区東
93-45	42	岡文上層	(3.7) /-/ /-	注釈区。外側は鏡面。内面は鏡面ミガキ。	良好	赤色岩	火成岩/火成岩 鏡面質	調査区東
93-46	42	岡文上層	(12.3) < 11.9 > /-	鏡状透視。外側は鏡面に鏡面仕上げ。内面は鏡面ミガキ。外側は鏡面ミガキ。	良好	角閃石・白長石	火成岩/火成岩 鏡面質	ドット・調査区東
93-47	42	岡文上層	(6.1) /-/ /-	外側は3年の鏡面仕上げ。内面は鏡面ミガキ。	良好	角閃石・白長石	火成岩/火成岩 鏡面質	調査区東
93-48	42	岡文上層	(2.7) /-/ /-	内面は鏡面仕上げ。内面は鏡面ミガキ。	良好	白色岩	火成岩/火成岩 鏡面質	調査区東
93-49	42	岡文上層	(5.2) /-/ /-	鏡状透視。内面は鏡面仕上げ。内面ミガキ。	良好	長石	火成岩/火成岩 鏡面質	調査区東
93-50	43	岡文上層	(3.5) /-/ /-	内面に2つの鏡面仕上げを示す。外側は鏡面ミガキ。	良好	角閃石	火成岩/火成岩 鏡面質	ドット
93-51	43	岡文上層	(5.4) /-/ /-	外側は鏡面ミガキ。内面は鏡面ミガキ。内面は鏡面ミガキ。	良好	長石・白長石	火成岩/にぶい質	調査区東
93-52	43	岡文上層	(2.7) /-/ /-	鏡状透視。外側は鏡面。口齊部は鏡面。内面は鏡面ミガキ。	良好	角閃石	火成岩/火成岩 鏡面質	調査区東
93-53	43	岡文上層	(5.0) /-/ /-	鏡面仕上げ。外側は鏡面。内面は鏡面ミガキ。	良好	角閃石・白長石	火成岩/火成岩 鏡面質	調査区東
93-54	43	岡文上層	(7.3) /-/ /-	外側はLR帶に2つの鏡面仕上げを示す。内面は鏡面ミガキ。	良好	角閃石	火成岩/火成岩 鏡面質	調査区東
93-55	43	岡文上層	(5.1) /-/ /-	外側はLR帶を2つ回りなし。1条の鏡面仕上げを有す。内面は鏡面ミガキ。	良好	角閃石・長石・白 色岩	火成岩/火成岩 鏡面質	調査区東
93-56	43	岡文上層	(2.3) /-/ /-	外側は鏡面。内面は鏡面を有す。内面は鏡面ミガキ。	良好	白色岩	火成岩/火成岩 鏡面質	調査区東
93-57	43	岡文上層	(6.0) /-/ /-	鏡全鏡。内面は鏡面仕上げ。外側はLR帶を2つ回りなし。鏡面仕上げを有す。内面は鏡面ミガキ。	良好	角閃石・白長石	火成岩/にぶい質	調査区東
94-58	43	岡文上層	(13.0) < 3.8 > /-	体芯から鏡面で大きく窓く。LR帶内部に鏡面。内面とミガキミガキ。	良好	角閃石・長石	火成岩/火成岩 鏡面質	ドット・SD1d

地図No.	面積	法面傾斜/深度/高さ(cm)	特徴	露出部/手筋等	地質		地主・耕種等	地質外観/評価
					地層	岩相		
94-59	43	鶴文ノ原	(9.1) /-/ 12.4	外面は斜ヶケズリ断層帶に位置する。内面は断崖ガリ。前面はテナメント層にてうねりがある。	良好	角閃石・長石	角閃石	断崖外観(底面) / にごい黄緑岩
94-60	43	鶴文ノ原	(16.6) /-/ /-	口側部外壁は断崖ガリ。以降は土方ガリ。内面は断崖ガリ。	良好	角閃石	角閃石	断崖外観(底面) / にごい黄緑岩
94-61	43	鶴文ノ原	(8.4) /-/ < 20.1 /-/	L1層の外壁はL1層の断崖ガリ。外壁は土方ガリ。4.6mの断崖ガリ。断崖の土方ガリ。断崖の土方ガリ。断崖の外壁はL1層の断崖ガリ。外壁は土方ガリ。4.6mの断崖ガリ。断崖の土方ガリ。	良好	白雲母・角閃石	白雲母	断崖外観(底面) / にごい黄緑岩
94-62	43	鶴文ノ原	(3.0) /-/ /-	断崖の外壁はL1層の断崖ガリ。外壁は土方ガリ。2.6mの断崖の土方ガリ。断崖の土方ガリ。	良好	角閃石	角閃石	断崖外観(底面) / にごい黄緑岩
94-63	43	鶴文ノ原	(7.2) /-/ /-	L1層の断崖はL1層の断崖。外壁は土方ガリ。断崖の土方ガリ。	良好	石英	石英	断崖外観(底面) / 黒
94-64	43	鶴文ノ原	(9.4) /-/ /-	断崖の外壁はL1層の断崖。外壁は土方ガリ。断崖の土方ガリ。断崖の外壁はL1層の断崖。外壁は土方ガリ。断崖の外壁はL1層の断崖。外壁は土方ガリ。断崖の外壁はL1層の断崖。外壁は土方ガリ。	良好	白色岩	白色岩	断崖外観(底面) / 黒
94-65	43	鶴文ノ原	(3.6) /-/ /-	断崖の外壁はL1層の断崖。外壁は土方ガリ。断崖の外壁はL1層の断崖。外壁は土方ガリ。断崖の外壁はL1層の断崖。外壁は土方ガリ。断崖の外壁はL1層の断崖。外壁は土方ガリ。	良好	角閃石・白雲母	角閃石	断崖外観(底面) / 黑
94-66	43	鶴文ノ原	(6.1) /-/ /-	断崖の外壁はL1層の断崖。外壁は土方ガリ。断崖の外壁はL1層の断崖。外壁は土方ガリ。	良好	白雲母・角閃石	白雲母	断崖外観(底面) / 黑
94-67	43	鶴文ノ原	(3.3) /-/ /-	断崖の外壁はL1層の断崖。外壁は土方ガリ。断崖の外壁はL1層の断崖。外壁は土方ガリ。	良好	角閃石・長石	角閃石	断崖外観(底面) / 黑
94-68	43	鶴文ノ原	(1.7) /-/ /-	断崖の外壁はL1層の断崖。外壁は土方ガリ。断崖の外壁はL1層の断崖。外壁は土方ガリ。	良好	角閃石	角閃石	断崖外観(底面) / 黑
95-69	43	鶴文ノ原	(6.6) /-/ /-	断崖の外壁はL1層の断崖。外壁は土方ガリ。断崖の外壁はL1層の断崖。外壁は土方ガリ。	良好	白色岩	白色岩	断崖外観(底面) / 黑
95-70	43	鶴文ノ原	(4.8) /-/ /-	断崖の外壁はL1層の断崖。外壁は土方ガリ。断崖の外壁はL1層の断崖。外壁は土方ガリ。	良好	角閃石・白雲母	角閃石	断崖外観(底面) / 黑
95-71	43	鶴文ノ原	(3.7) /-/ /-	断崖の外壁はL1層の断崖。外壁は土方ガリ。断崖の外壁はL1層の断崖。外壁は土方ガリ。	良好	角閃石・白雲母	角閃石	断崖外観(底面) / 黑
95-72	43	鶴文ノ原	(4.0) /-/ /-	断崖の外壁はL1層の断崖。外壁は土方ガリ。断崖の外壁はL1層の断崖。外壁は土方ガリ。	良好	角閃石・白雲母	角閃石	断崖外観(底面) / 黑
95-73	43	鶴文ノ原	(2.4) /-/ /-	断崖の外壁はL1層の断崖。外壁は土方ガリ。断崖の外壁はL1層の断崖。外壁は土方ガリ。	良好	石英	石英	断崖外観(底面) / 黑
95-74	43	鶴文ノ原	(4.8) /-/ /-	断崖の外壁はL1層の断崖。外壁は土方ガリ。断崖の外壁はL1層の断崖。外壁は土方ガリ。	良好	角閃石・漂	角閃石・漂	断崖外観(底面) / 黑
95-75	43	鶴文ノ原	(4.5) /-/ /-	断崖の外壁はL1層の断崖。外壁は土方ガリ。断崖の外壁はL1層の断崖。外壁は土方ガリ。	良好	角閃石・白雲母	角閃石	断崖外観(底面) / 黑
95-76	43	鶴文ノ原	(4.5) /-/ /-	断崖の外壁はL1層の断崖。外壁は土方ガリ。断崖の外壁はL1層の断崖。外壁は土方ガリ。	良好	角閃石・白雲母	角閃石	断崖外観(底面) / 黑
95-77	43	鶴文ノ原	(11.1) /-/ /-	断崖の外壁はL1層の断崖。外壁は土方ガリ。断崖の外壁はL1層の断崖。外壁は土方ガリ。	良好	角閃石・白雲母	角閃石	断崖外観(底面) / 黑
95-78	43	鶴文ノ原	(3.0) /-/ /-	断崖の外壁はL1層の断崖。外壁は土方ガリ。断崖の外壁はL1層の断崖。外壁は土方ガリ。	良好	白色岩	白色岩	断崖外観(底面) / 黑
95-79	43	鶴文ノ原	(6.4) /-/ /-	断崖の外壁はL1層の断崖。外壁は土方ガリ。断崖の外壁はL1層の断崖。外壁は土方ガリ。	良好	角閃石・白雲母	角閃石	断崖外観(底面) / 黑
95-80	43	鶴文ノ原	(4.9) /-/ /-	断崖の外壁はL1層の断崖。外壁は土方ガリ。断崖の外壁はL1層の断崖。外壁は土方ガリ。	良好	石英	石英	断崖外観(底面) / 黑
95-81	44	鶴文ノ原	(4.7) /-/ /-	断崖の外壁はL1層の断崖。外壁は土方ガリ。断崖の外壁はL1層の断崖。外壁は土方ガリ。	良好	石英・砂	石英・砂	断崖外観(底面) / 黑
95-82	44	鶴文ノ原	(4.0) /-/ /-	断崖の外壁はL1層の断崖。外壁は土方ガリ。断崖の外壁はL1層の断崖。外壁は土方ガリ。	良好	角閃石・白雲母	角閃石	断崖外観(底面) / 黑
95-83	44	鶴文ノ原	(3.8) /-/ /-	断崖の外壁はL1層の断崖。外壁は土方ガリ。断崖の外壁はL1層の断崖。外壁は土方ガリ。	良好	白色岩	白色岩	断崖外観(底面) / 黑
95-84	44	鶴文ノ原	(8.1) /-/ /-	断崖の外壁はL1層の断崖。外壁は土方ガリ。断崖の外壁はL1層の断崖。外壁は土方ガリ。	良好	角閃石・白雲母	角閃石	断崖外観(底面) / 黑
95-85	44	鶴文ノ原	(2.8) /-/ /-	断崖の外壁はL1層の断崖。外壁は土方ガリ。断崖の外壁はL1層の断崖。外壁は土方ガリ。	良好	石英・角閃石・白	石英・角閃石・白	断崖外観(底面) / 黑
95-86	44	鶴文ノ原	(3.1) /-/ < 3.0 >	断崖の外壁はL1層の断崖。外壁は土方ガリ。断崖の外壁はL1層の断崖。外壁は土方ガリ。	良好	角閃石・白雲母	角閃石・白雲母	断崖外観(底面) / 黑
95-87	44	鶴文ノ原	(8.1) /-/ /-	断崖の外壁はL1層の断崖。外壁は土方ガリ。断崖の外壁はL1層の断崖。外壁は土方ガリ。	良好	角閃石・白雲母	角閃石・白雲母	断崖外観(底面) / 黑
95-88	44	鶴文ノ原	(4.5) /-/ < 10.6 >	断崖の外壁はL1層の断崖。外壁は土方ガリ。断崖の外壁はL1層の断崖。外壁は土方ガリ。	良好	石英	石英	断崖外観(底面) / 黑

地名	標高(m)	地質	法面傾斜(±度)	法面高さ(m)	外観(岩性・構造)	特徴(岩性・構造)	施工(打撃等)	地表(小面積/内地)	地表(大面積/海岸)	備考
岡之原	95.89	44 岡文面	(2.2) / - / -	外露は柱状～板状ミガリ。内地部は柱状(2.0°±1°)傾きを有す。	良好	石英・角閃石・白雲母・透閃石(近)～黑雲母(遠)・30%弱有	ドット			
岡之原	95.90	44 岡文面	(2.2) / < 8.4	外露は柱状～板状ミガリ。内地部は柱状(2.0°±1°)傾きを有す。	良好	石英・角閃石・白雲母・透閃石(近)～黑雲母(遠)・20%弱有	ドット			
岡之原	95.91	44 岡口	(1.3) / < 60	外露は柱状ミガリ。内地部は柱状(2.0°±1°)傾きを有す。	良好	石英・角閃石・白雲母・透閃石(近)～黑雲母(遠)・10%弱有	ドット			
岡之原	95.92	44 岡口	(1.7) / < 8.8	外露は柱状ミガリ。内地部は柱状(2.0°±1°)傾きを有す。	良好	石英・角閃石・白雲母・透閃石(近)～黑雲母(遠)・20%弱有	ドット			
岡之原	95.93	44 岡口	(1.6) / < 8.0	外露は柱状～板状ミガリ。内地部は柱状(2.0°±1°)傾きを有す。	良好	石英・角閃石・白雲母・透閃石(近)～黑雲母(遠)・25%弱有	ドット			
岡之原	95.94	44 岡口	(1.8) / < 8.2	外露は柱状ミガリ。内地部は柱状(2.0°±1°)傾きを有す。	良好	石英・角閃石・白雲母・透閃石(近)～黑雲母(遠)・25%弱有	ドット			
岡之原	96.95	44 岡文面	(2.0) / < 20	外露は柱状ミガリ。内地部は柱状(2.0°±1°)傾きを有す。	良好	石英・角閃石・白雲母・透閃石(近)～黑雲母(遠)・35%	ドット			
岡之原	96.96	44 岡文面	(0.8) / - / -	外露は柱状ミガリ。内地部は柱状(2.0°±1°)傾きを有す。	良好	石英・角閃石・白雲母・透閃石(近)～黑雲母(遠)・35%	ドット			
岡之原	96.97	44 岡文面	(0.8) / - / -	外露は柱状ミガリ。内地部は柱状(2.0°±1°)傾きを有す。	良好	石英・角閃石・白雲母・透閃石(近)～黑雲母(遠)・35%	ドット			
岡之原	96.98	44 上原山	(4.4) / - / -	外露は柱状ミガリ。内地部は柱状(2.0°±1°)傾きを有す。	良好	石英・角閃石・白雲母・透閃石(近)～黑雲母(遠)・35%	ドット			
岡之原	96.99	44 上原山	(底)(4.0) / 剥離(2.2) / < 10	上部は柱状～板状ミガリ。内地部は柱状(2.0°±1°)傾きを有す。幅約1.2m。	良好	石英・角閃石・白雲母・透閃石(近)～黑雲母(遠)・35%	ドット			
岡之原	96.100	44 上原山	(1.9) / - / -	外露は柱状ミガリ。内地部は柱状(2.0°±1°)傾きを有す。	良好	石英・角閃石・白雲母・透閃石(近)～黑雲母(遠)・35%	ドット			
河原	96.101	44 河原面	(2.0) / - / -	ロクロは板状。(中面ともロクロナガ)。	良好	石英・角閃石・白雲母・透閃石(近)～黑雲母(遠)・35%	ドット			
河原	96.102	44 河原面	(3.7) / - / -	ロクロは板状。(中面ともロクロナガ)。	良好	石英・角閃石・白雲母・透閃石(近)～黑雲母(遠)・35%	ドット			
河原	96.103	44 河原面	(3.2) / - / -	河原・口ノ原山地帯が1.5km程前進する間に、内地部は柱状まで崩壊。	良好	石英・角閃石・白雲母・透閃石(近)～黑雲母(遠)・35%	ドット			
河原	96.104	44 河原面	(3.5) / - / -	河原・口ノ原山地帯が1.5km程前進する間に、内地部は柱状まで崩壊。	良好	石英・角閃石・白雲母・透閃石(近)～黑雲母(遠)・35%	ドット			
河原	97.105	44 河原面	長 1.6 / 傾 1.1 / 厚 0.3	河原・口ノ原山地帯が1.5km程前進する間に、内地部は柱状まで崩壊。	良好	石英・角閃石・白雲母・透閃石(近)～黑雲母(遠)・35%	ドット			
河原	97.106	44 河原木製品	長 1.5 / 傾 1.7 / 厚 0.8	河原・口ノ原山地帯が1.5km程前進する間に、内地部は柱状まで崩壊。	良好	石英・角閃石・白雲母・透閃石(近)～黑雲母(遠)・35%	ドット			
河原	97.107	44 河原石	長 1.6 / 傾 4.8 / 厚 1.9	河原・口ノ原山地帯が1.5km程前進する間に、内地部は柱状まで崩壊。	良好	石英・角閃石・白雲母・透閃石(近)～黑雲母(遠)・35%	ドット			
河原	98.108	44 河原木製品	長 1.2 / 傾 6.0 / 厚 3.7	河原・口ノ原山地帯が1.5km程前進する間に、内地部は柱状まで崩壊。	良好	石英・角閃石・白雲母・透閃石(近)～黑雲母(遠)・35%	ドット			
河原	98.109	44 河原石	(長 5.1) / 傾 7.9 / 厚 3.5	河原・口ノ原山地帯が1.5km程前進する間に、内地部は柱状まで崩壊。	良好	石英・角閃石・白雲母・透閃石(近)～黑雲母(遠)・35%	ドット			
河原	98.110	44 河原木製品	(長 9.0) / 傾 6.6 / 厚 2.8	河原・口ノ原山地帯が1.5km程前進する間に、内地部は柱状まで崩壊。	良好	石英・角閃石・白雲母・透閃石(近)～黑雲母(遠)・35%	ドット			
河原	98.111	44 河原石	(長 5.0) / 傾 5.5 / 厚 2.8	河原・口ノ原山地帯が1.5km程前進する間に、内地部は柱状まで崩壊。	良好	石英・角閃石・白雲母・透閃石(近)～黑雲母(遠)・35%	ドット			
河原	98.112	44 河原石	長 10.1 / 傾 8.3 / 厚 5.7	河原・口ノ原山地帯が1.5km程前進する間に、内地部は柱状まで崩壊。	良好	石英・角閃石・白雲母・透閃石(近)～黑雲母(遠)・35%	ドット			

# 写 真 図 版





1. 林中原 I 遺跡IX<3地区>（東から）



2. 林字宮原<2地区>（東から）



1. 1号トレンチ（南東から）



2. 1号トレンチ土層（南西から）



3. 3号トレンチ（南東から）



4. 4号トレンチ（南から）



5. 東原Ⅲ遺跡II&lt;7地区&gt;（北東から）



1. 1号トレンチ（南から）



2. 2号トレンチ（南から）



3. 2号トレンチ土層（西から）



4. 上原Ⅰ遺跡&lt;5地区&gt;（南から）



1. 1号トレンチ（南西から）



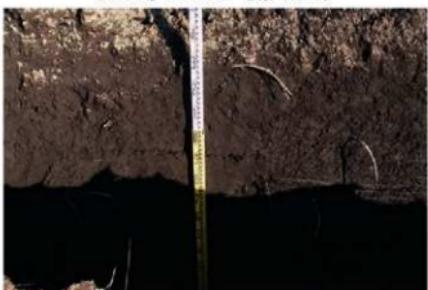
2. 2号トレンチ（南西から）



3. 3号トレンチ（南西から）



4. 4号トレンチ（南西から）



5. 4号トレンチ土層（北西から）



6. 5号トレンチ（南西から）



7. 6号トレンチ（南西から）



8. 6号トレンチ土層（北西から）



1. 林中原Ⅱ遺跡VIII&lt;6地区&gt;（東から）



2. 1号トレンチ（南東から）



3. 2号トレンチ（南東から）



4. 3号トレンチ（南東から）



5. 3号トレンチ土層（南西から）



1. 林字中原&lt;8地区&gt; (南東から)



2. 林中原 I 遺跡 X&lt;4地区&gt; (南西から)



1. 1号トレンチ（南から）



2. 1号トレンチ土層（東から）



3. 2号トレンチ（南から）



4. 3号トレンチ（南から）



5. 4号トレンチ（南から）



6. 4号トレンチ土層（西から）



1



2

7. 林中原 I 遺跡X出土遺物



1. 林宮原遺跡V&lt;1地区&gt; (北西から)



2. 1号トレンチ (南から)



3. 2号トレンチ (南から)



4. 3号トレンチ (西から)



5. 3号トレンチ土層 (南から)



1. 幸神遺跡&lt;1区&gt;（北から）



2. 1号トレンチ（南西から）



3. 1号トレンチ土層（南東から）



4. 1号トレンチ縄文包含層（南西から）



5. 1号トレンチ縄文包含層断ち割り（南西から）



1. 2号トレンチ（南西から）



2. 2号トレンチ土層1（南東から）



3. 2号トレンチ土層2（南東から）



4. 2号トレンチ北側拡張（南西から）



5. 2号トレンチ北側拡張土層（南東から）



6. 3号トレンチ（南西から）



7. 3号トレンチ土層1（南東から）



8. 3号トレンチ土層2（南東から）



1. 3号トレンチ畝サク検出状況（南西から）



2. 4号トレンチ（南西から）



3. 4号トレンチ土層1（南東から）



4. 4号トレンチ土層2（南東から）



5. 幸神遺跡 2区（北から）



1. 5号トレンチ（南西から）



2. 5号トレンチ土層 1（南東から）



3. 5号トレンチ土層 2（南東から）



4. 調査前風景（西から）



5. 幸神遺跡出土遺物



1. 調査区遠景①（東上から）



2. 調査区遠景②（南真上から）



1. 調査区全景 (南東上から)



1. 調査区東側（南上から）



2. 調査区西側（南上から）



1. 調査区近景①（東から）



2. 調査区近景②（西から）



1. SI01 (北東から)



2. SI01 (南西から)



1. SI01 東西セクション（北から）



2. SI01 炉跡（北から）



3. SI01 炉体土器出土状況①（北から）



4. SI01 炉体土器出土状況②（北から）



5. SI01 炉体土器出土状況③（北から）



6. SI01 遺物出土状況①&lt;第 26 図 8&gt;



7. SI01 遺物出土状況②&lt;第 26 図 9&gt;



8. SI01 遺物出土状況③&lt;第 31 図 100&gt;



1. SI02 (南から)



2. SK01 (南西から)



3. SK01 半截 (南西から)



4. SK02・03 (北東から)



5. SK02・03 半截 (南西から)



1. SK04 (北東から)



2. SK04 半截 (北東から)



3. SK05 (東から)



4. SK05 半截 (南東から)



5. SK06 (南から)



6. SK06 半截 (東から)



7. SK07 (南西から)



8. SK07 半截 (南から)



1. SK08（南から）



2. SK09（北東から）



3. SK09 半截（南西から）



4. SK10（東から）



5. SK10 半截（東から）



6. 作業風景（東から）



7. 空撮風景



8. 調査前風景（東から）



1. 調査区東側配石遺構群（北西から）



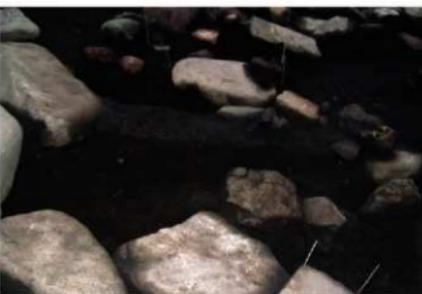
2. SS01（東から）



3. SS01 検出状況（東から）



4. SS02（南東から）



5. SS02 断ち割り状況（西から）



1. SS03 ① (南西から)



2. SS03 ② (南東から)



3. SS04 (南から)



4. SS04 断ち割り状況 (西から)



5. SS05 (南東から)



6. SS05 検出状況 (南東から)



7. SS06 (南から)



8. SS06 検出状況 (南から)



1. SS07 (南から)



2. SS08 (東から)



3. SS09 (南から)



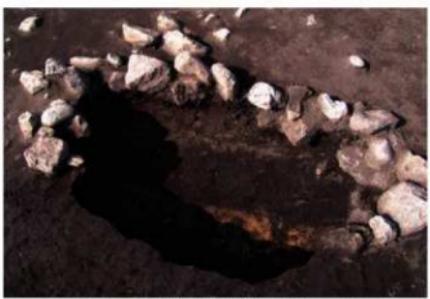
4. SS10・SS11 (南西から)



5. SS10 (南西から)



6. SS12 (南から)



7. SS12 断ち割り状況 (南東から)



8. SS12 検出状況 (南から)



1. SS12 遺物出土状況①（南西から）



2. SS12 遺物出土状況② &lt;第 64 図 3&gt;



3. SS13 ① (西から)



4. SS13 ② (南から)



5. SS14～SS17 (南から)



1. SS14 (南西から)



2. SS14 断ち割り状況 (南東から)



3. SS15 (南西から)



4. SS17 (南西から)



5. SS16 (南西から)



6. SS16 遺物出土状況 &lt;第 73 図 1&gt;



7. SS18 (南西から)



1. SS18 断ち割り状況（東から）



2. SS18 遺物出土状況 &lt;第 77 図 1&gt;



3. SS19（南から）



4. SS19 断ち割り状況（南から）



5. SS20（南から）



6. SS20 断ち割り状況（東から）



7. SS20 土層（東から）



8. SS20 掘り方（東から）



1. SS21 ~ SS23 号（南西から）



2. SS21 (北から)



3. SS22 (北から)

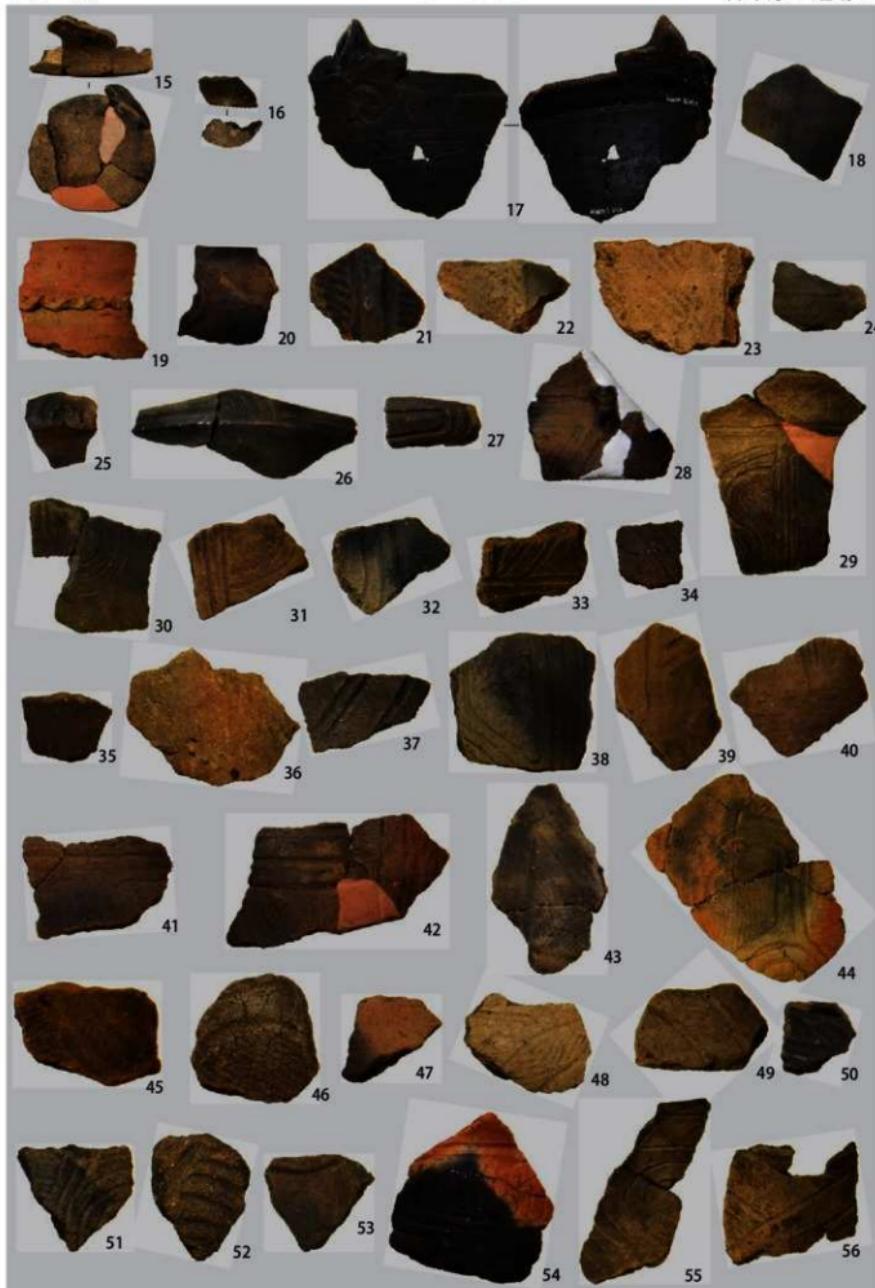


4. SS23 (北西から)



5. SS24 (北から)









## SI02



## SK01



1

## SK07



2



3



4



5



8



9



6



7



10

## SK10



11



12



13



14



15



16



18



19



20



17



21

## SS01



1



2



3



4



5



6

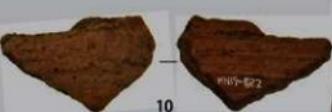


7

## SS01



## SS02

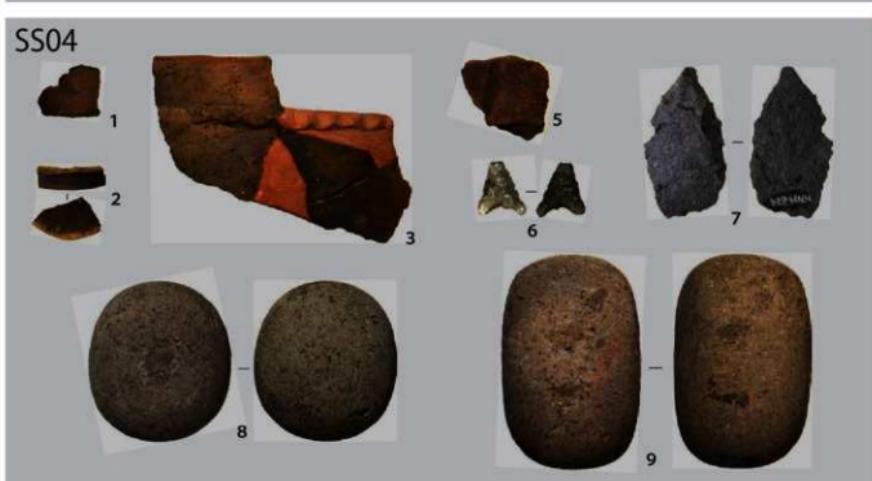


12

## SS03



## SS04



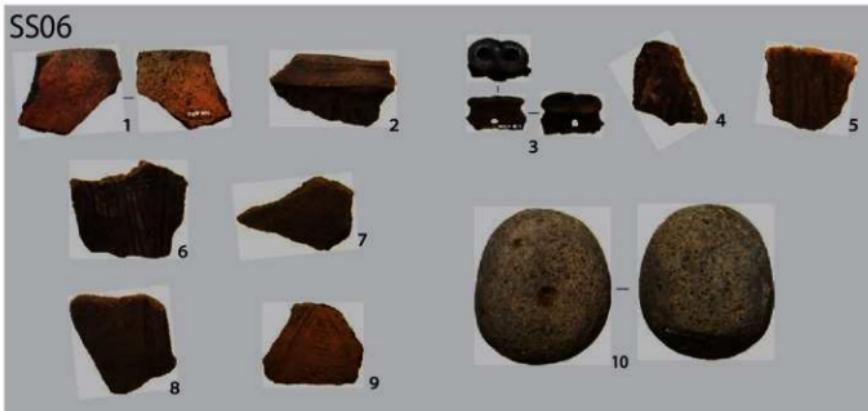
## SS04



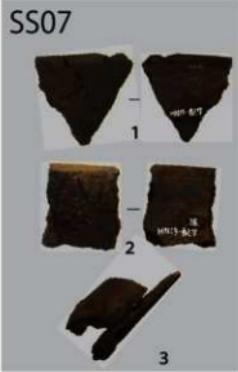
## SS05



## SS06



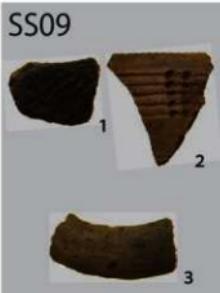
SS07



SS08



SS09



SS11



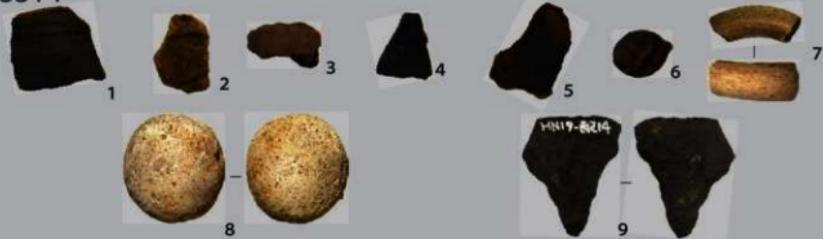
SS12



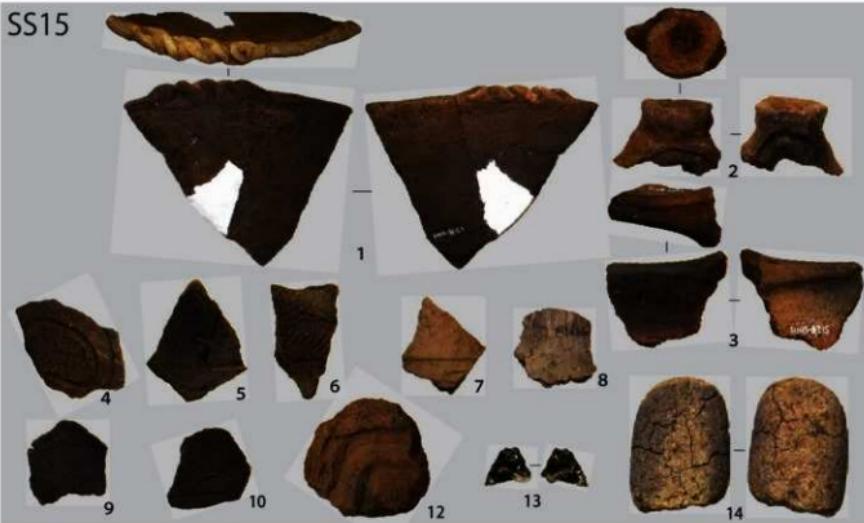
SS13



## SS14



## SS15



## SS16



## SS17

同一個体

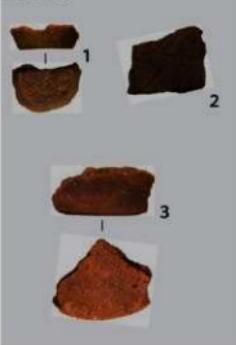


## SS18



## SS19



**SS20****SS21****SS22****SS23**

## SS23



## SS24



## 遺構外









# 報 告 書 抄 錄

ふりがな	はやしなかはらいちいせききゅう							
書名	林中原Ⅰ遺跡Ⅲ							
副書名	水源地域整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
卷次	第10集							
シリーズ名	長野原町埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第48集							
編著者名	富田孝彦							
編集機関	長野原町教育委員会							
所在地	〒 377-1392 群馬県吾妻郡長野原町大字長野原 1340-1 電：0279-82-4517							
連絡先	〒 377-1309 群馬県吾妻郡長野原町大字林 1464-3 やんば天明泥流ミュージアム内 電：0279-82-5150 fax：0279-82-5152 mail：bunkazai@town.naganohara.gunma.jp							
発行年月日	西暦 2022年3月29日							
ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード 市町村	北緯 (世界測地系)	東経 (世界測地系)	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因	
はやしなかはらいちいせき 林中原Ⅰ遺跡	群馬県吾妻 郡長野原町 大字林	10424	45	363242	1384036 ～ 20061025	20060919 190	林地区園芸施設 整備事業	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
林中原Ⅰ遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居 土坑 配石遺構	2軒 10基 24基	繩文土器・土製品(土 製円盤・土偶) 石器・ 陶磁器	縄文時代後期前半遺構 群の検出		
要約	本遺跡は町域北部の吾妻川流域常に所在し、吾妻川の左岸段丘上に立地する。調査地点の標高は 632m 位である。調査区東端は途切れるものほぼ全面から縄文後期の竪穴住居跡(敷石住居跡) 2軒、土坑 10 期、配石遺構 24 基が検出された。土坑は調査区中央の谷地形に集中して分布する傾向が看取された。出土遺物に関しては、縄文時代後期前半(称名寺式期から加曾利 B1 式期)が大部分を占めるが、その中でも S101 出土土器は堀之内 1 式新段階の一括資料として特筆される。本遺跡は縄文中期後半から後期前葉にかけての拠点集落であることが判明しており、本調査地点はその北端の一様相を示していると考えられる。							
ふりがな 所収遺跡名	所在地	市町村コード 遺跡番号	北緯 (世界測地系) 東経 (世界測地系)	調査期間	調査面積 開発面積	調査原因	発見遺構 保護措置	
はやしあざみやはら 林字宮原	長野原町大字林字宮原 507外4筆	10424 —	363253 1384010	20060921	27m <sup>2</sup> 2,633m <sup>2</sup>	林地区園芸施設(2地区)	遺構なし —	
ひがしさらさんいせきに 東原Ⅲ遺跡Ⅱ	〃 1469外2筆	あざみやはら 字東原	10424 40	363247 1384036	20060928	8 m <sup>2</sup> 1,219m <sup>2</sup>	林地区園芸施設(7地区)	遺構なし —
うえはらいちいせき 上原Ⅰ遺跡	〃 1036外1筆	あざみやはら 字上原	10424 41	363257 1384033	20061010	37m <sup>2</sup> 1,130m <sup>2</sup>	林地区園芸施設(5地区)	遺構なし —
はやしなかはらにいせきは 林中原Ⅱ遺跡Ⅳ	〃 973外1筆	あざみやはら 字中原	10424 46	363253 1384032	20061010	36m <sup>2</sup> 1,456m <sup>2</sup>	林地区園芸施設(6地区)	遺構なし —
はやしあざなかはら 林字中原	〃 1026	あざみやはら 字中原	10424 —	363251 1384034	20061013	36m <sup>2</sup> 622m <sup>2</sup>	林地区園芸施設(8地区)	遺構なし —

ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	市町村コード 遺跡番号	北緯 (世界測地系)	調査期間	調査面積 開発面積	調査原因	発見遺構
			東経 (世界測地系)				保護措置
はやしなかほらいちいせきじゆう 林中原 I 遺跡 X	〃 868外2筆	あづなかほら 字中原	10424 363250	20061019	42m <sup>2</sup>	林地区園芸施設 (4地区)	遺構なし
			45 1384027		789m <sup>2</sup>		—
はやしみやはらいせきご 林宮原遺跡 V	〃 574-1外1筆	字宮原	10424 363248	20061013	21m <sup>2</sup>	林地区園芸施設 (1地区)	遺構なし
			48 1384008		1,331m <sup>2</sup>		—
さいのかみいせき 幸神遺跡	〃 大字長野原字幸神 1140-1,1149-1外	さがのほらあざさいのかみ 幸神	10424 363300	20061028	245m <sup>2</sup>	長野原地区園 芸施設	遺構なし
			62 1383909～ 1383915	～ 20061101	500m <sup>2</sup>		—

### 林中原 I 遺跡 IX

— 水源地域整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第10集 —

令和4年3月22日 印刷

令和4年3月29日 発行

発行 群馬県吾妻郡長野原町教育委員会

〒377-1392 群馬県吾妻郡長野原町大字長野原1340-1

TEL 0279(82)4517 FAX 0279(82)3115

印刷 朝日印刷工業株式会社